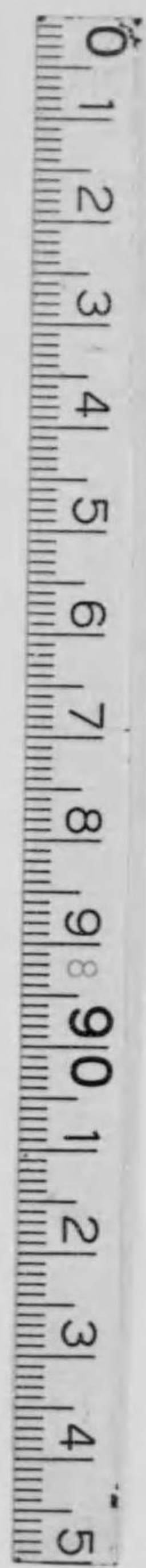
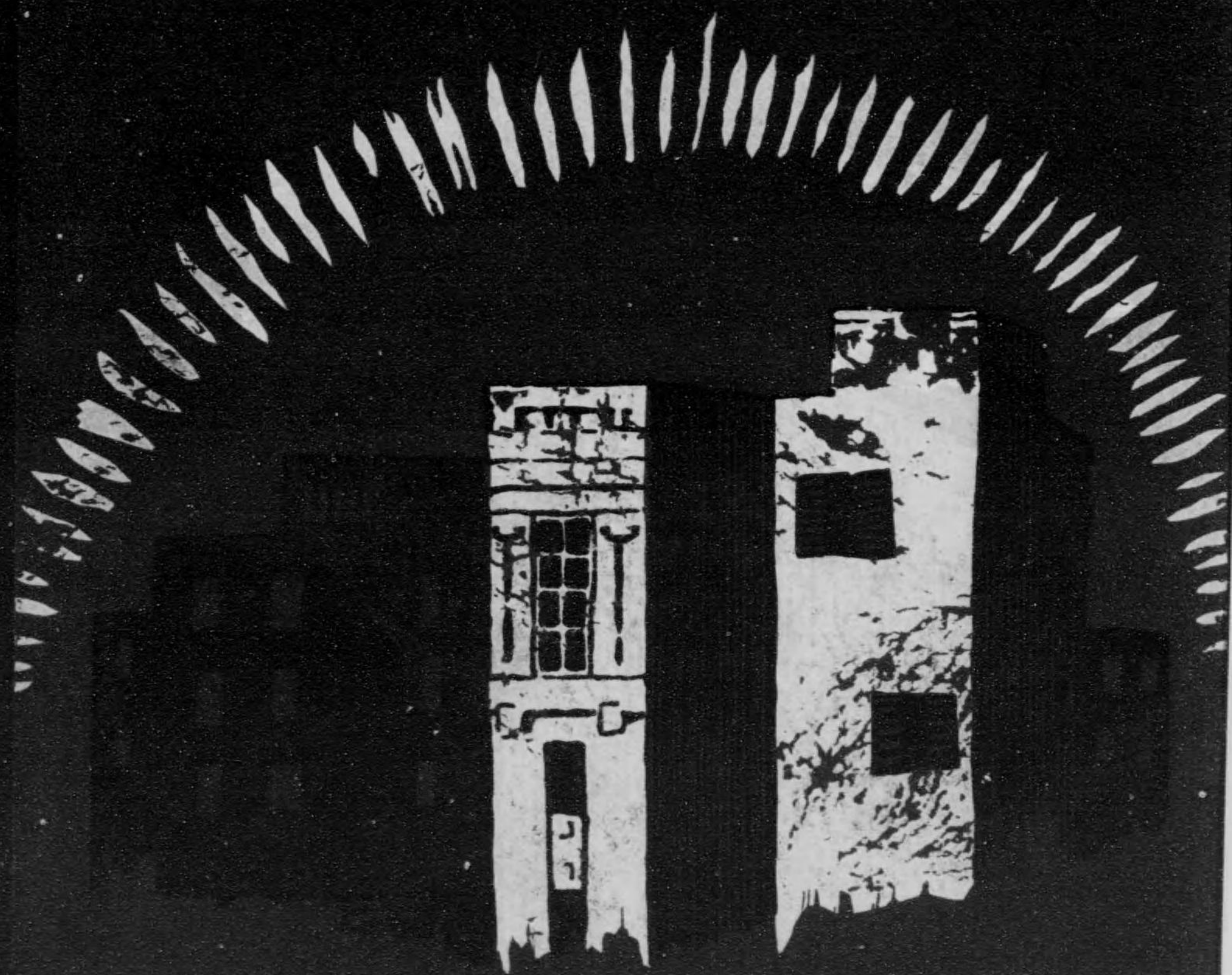


423

434

錄

圖



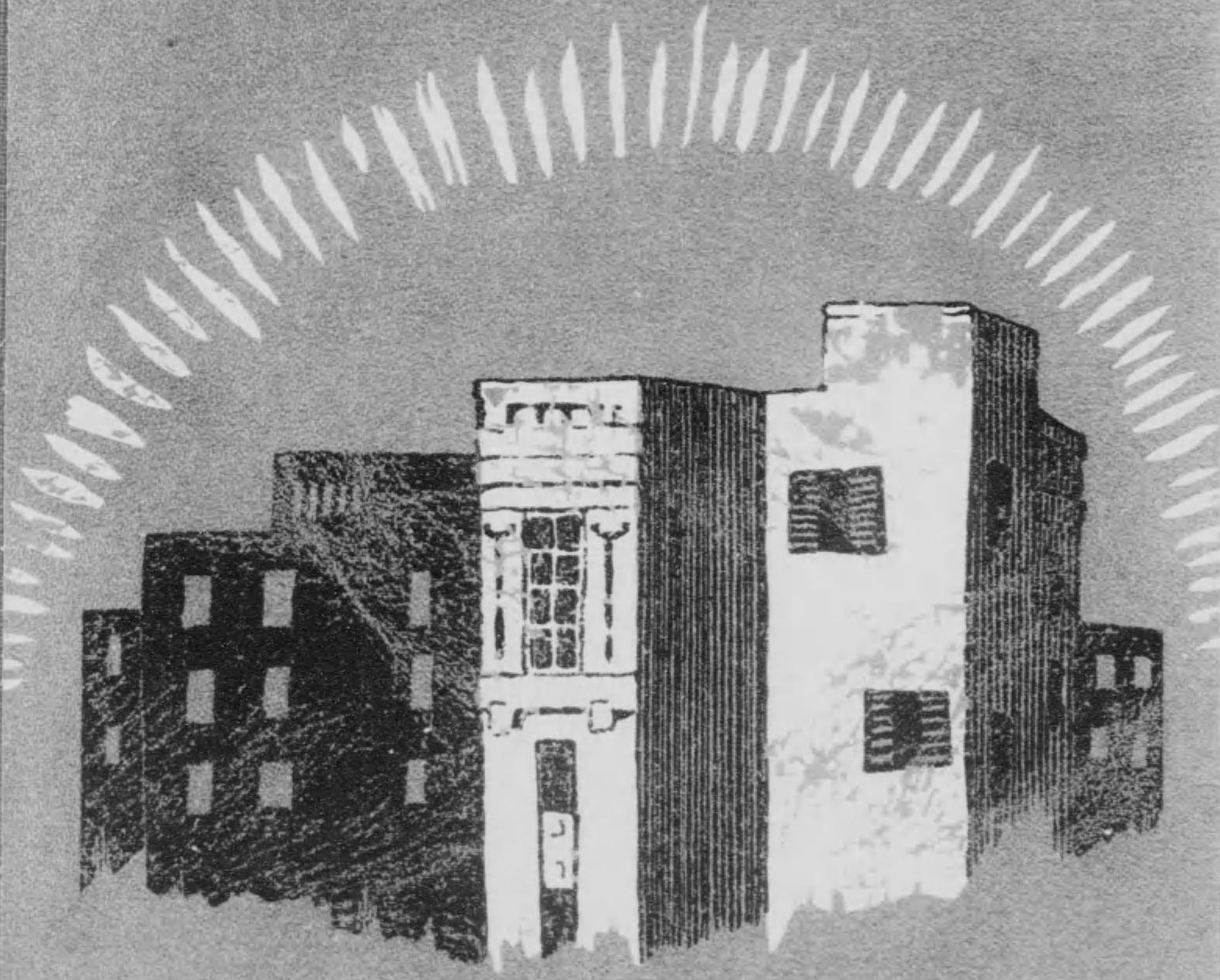
始



423
434

圖 錄

大震から復興への實況



行 政 研 究 所

ト工2B-24

中外商業新報社編纂
 圖錄
 大震から復興への實狀

大正
 14. 2. 16
 寄贈

〃
 社寄贈本

423-434

序

大正十二年九月一日午前十一時五十八分の關東大地震は、瞬く間に猛火と姿を變へて、あらん限りの兇暴を逞ふし、文化の象徴たる大都會を、一夜にして荒涼たる焦土と化し了つた、この光景に直面した人々は、だゞ茫然として自失し、一時は前後を考ふる餘裕もなく、驚駭と悲嘆とに心の全部を占領されてしまつたのである。

しかし、その驚駭を沈勇に、その悲嘆を發憤に轉換して、この未曾有の大事變に打勝ち、前途に光明を認むべく敢然として再起することにおいて、彼等は甚だ素早かつた、しかして空拳を揮つて自己の運命を絶望の底から開拓せんとするの努力は涙ぐましいほごであつた。かくて忽ちにして罹災地の隨所に、勃然として起つた復興の意氣は、火焰の天に冲する勢ひにも似て、眞にめざましいものがあつた。この旺盛なる復興の意氣で帝都を始め大震に見舞はれた罹災地は、今や着々復活蘇生し、前にも増した文化的施設に向つて歩一步一步を運んでゐるのである。自然の惡戯たる大震災の慘禍を全く征服一掃して、人の力が凱歌を奏するの、さまで遠き將來ではなからう。

さて、この未曾有の大震災と、之れに續いて起つた旺盛なる復興の力と、その功程とは、眞に稀に見る警異的の一大事實であつた。従つて、この一大事實にはまた必ず一大記録が伴はなければならぬのである。

もちろん、これまでに、震災ならびに復興に關する書物の出版されたものも少くない。しかし、或は事實の正確において、或は觀察の公正において、或は材料の豊富において、或は理解し易い點において必ずしも完璧とはいへないのである。

本圖録はこの欠陥を補ひ、歴史的大事變たる大震災の始終から、最後の復興に至るまでの事實に關し、各種の有益貴重なる資料を集積し、總括し、且つ分類して、完き震災の記録、整へる復興の記録として世間の渴望を醫すると共に、聊か我國今後の復興發展に資せんとしたのである。

大正十三年七月

中外商業新報社

例言

- 一、大震災後の第一段的の復舊復興は大體に於て大正十三年三月末を以て終りを告げた、これを機會にわが中外商業新報社主催となつて「復興の實狀」展覽會を四月十四日から二十九日まで社の新築建物二、三、四階及び別館の一、二、階を會場として開催した、その際の來觀者實に十七萬九千餘人であつたが、その來觀者の多數が此の有益なる出品をこれさらにするはまことに惜しい、之を一つ出版して貰へまいかと切なる希望を發せられた、これが本書刊行の第一の動機である、従つて本書に收載する統計、圖表、繪畫その他は主としてその際出品物から適宜選擇したものである、しかし一卷の記録として完からしむる爲にその後更に官廳その他その向き／＼を煩して原稿の作製を乞ひ又わが社に於ても特に調査作製してこれに附加したものが尠くない、しかし全體の統一を破らない爲に大部分大正十三年三月末を以て劃期とした。
- 一、各篇の篇首に載せた記述はその篇中の統計、圖表其他を見るに當つてその綜合的概念を得るの便宜に供したものである、従つて統計、圖表その他を見る前に是非ともこの記述を一讀せられたい。
- 一、統計圖表その他の配列に就て時に他の篇にも取入れて然るべき二重の意味を持つたものがあつたが之はすべて篇次の前後に従つてその順位を定めた。
- 一、統計、圖表その他にはその性質上成るべく餘計な説明を省くに努めた、熟覽を乞ふ所以である。

目次

復興ぶりを御展望の久邇宮殿下

大震災火災より復興完成記念祭まで

△その夜△大地はまだ動く△ブラ〜時代△すいとん屋時代△變態交通時代△暴利懲罰時代△バラック
 建て始め時代△街路商人極盛時代△電車部分開通時代△マーケット萬能時代△山の手花柳界一時繁昌時
 代△復歸開店仕り候時代△一と落ち付き時代△區劃整理時代△本建築新歩時代△復興完成記念祭

(巻頭畫) 原色版
 原色版 圖の一から四

第壹篇

大震災火災は東京横濱をどう破壊したか

本篇記述

大火災の爲にできたスカーフ雲(中央氣象臺)

大地震及び餘震の主なる記象圖(東京帝國大學地震學教室)

同 上
 同 上
 同 上

圖の四から圖の五の間

寫真版 圖の五

寫真版 圖の五

同 圖の六

同 圖の七

同 圖の八

大震當日から三日に至る東京大火災の氣象圖(中央氣象臺)	石	版	圖の九
同上火事附近溫度曲線(同上)	凸	版	圖の十
東京附近震害情況概見圖(關東戒嚴司令部)	石	版	圖の十一
震災地域地盤變動要圖(陸地測量部)	石版二頁大	圖	圖の十二
大震後相模灘附近水深變化調查圖(水路部)	石版二頁大	圖	圖の十三
東京市罹災程度(内務省警保局)	寫真	版	圖の十四
大震災殘存建物坪數比較の圖(内務省都市計劃局)	同	圖	圖の十五
大震災に起因する焼失區域の殘存建物調査(同上)	記	事	圖の十六
同上	同	圖	圖の十七
大震災と無線電信―通報レコード(逓信省)	凸	版	圖の十八
大震災と電報取扱高レコード(同上)	同	圖	圖の十九
九月中旬無線電信系統(關東戒嚴司令部)	同	圖	圖の十九
軍用鳩通信網(同上)	同	圖	圖の二十
大震災と電信(逓信省)	記	事	圖の二十
大震火災と電話(同上)	寫真	版	圖の二十一
東京市内加入電話局々別被害調(同上)	記	事	圖の二十一

關東大震災郵便局被害狀況圖(同上)	寫真	版	圖の二十二
大震災と郵便(同上)	同	圖	圖の二十三
大震災による東京附近送電系統被害狀況圖(同上)	凸	版	圖の二十三
被害停車場數(鐵道省)	寫真	版	圖の二十四
被害線路延長哩(同上)	同	圖	圖の二十四
車輛被害數(同上)	同	圖	圖の二十四
國有鐵道被害及復舊狀況(同上)	凸	版	圖の二十五
鐵道聯隊鐵道復舊工事經過概況要圖(關東戒嚴司令部)	同	圖	圖の二十六
旅客無賃輸送人員―同五割引輸送人員(鐵道省)	寫真	版	圖の二十七
貨物無賃輸送噸數―同上五割引輸送噸數(同上)	同	圖	圖の二十七
關東戒嚴地域内警備配置要圖(關東戒嚴司令部)	石	版	圖の二十八
戒嚴地域内警備兵力並警察官増減一覽表(關東戒嚴司令部)	凸	版	圖の二十九
横濱岸壁突出の圖(内務省土木局横濱出張所)	同	圖	圖の三十
横須賀市罹災要圖(關東戒嚴司令部)	石	版	圖の三十一
東京市の罹災―人―家―その他(中外商業新報社)	同	圖	圖の三十二
大震災に因る失業者職業紹介所取扱數(中央職業紹介事務局)	同	圖	圖の三十三

罹災求職者取扱成績地方別表(同上)	石	版	圖の三十三
關東地方の大震災による被害及救護狀況(内務省社會局)	石	版二頁分	圖の三十四
震災罹災者散在狀況(同上)	石	版二頁分	圖の三十五
震災による失業者—東京—神奈川—業務別(同上)	石	版	圖の三十六
震災義捐金高—日本全國よりの(同上)	石	版	圖の三十七
震災による被害工場調(警視廳工場課)	寫	真	版
震災に因る自動車焼失車輛數(警視廳保安部)	凸	版	圖の三十八
適用工場被害種別(警視廳工場課)	寫	真	版
震災前後精神病患者入院比較表(警視廳衛生部)	石	版	圖の三十九
東京府震災前後に於ける腸チブス患者及死者比較表(内務省衛生局)	寫	真	版
東京府震災前後に於ける赤痢(疫痢ヲ含ム)患者及死亡者比較表(同上)	凸	版	圖の四十
東京市内各診療班取扱患者表(東京市役所衛生課)	寫	真	版
救世軍の事業(救世軍日本々營)	凸	版	圖の四十二
日本赤十字社少年赤十字團の活動(日本赤十字社)	寫	真	版
恩賜財團濟生會直營診療機關別診療人員(恩賜財團濟生會)	同		圖の四十三
愛國婦人會震災救護品配給略圖(愛國婦人會)	同		圖の四十四
	同		圖の四十五

託兒所婦人宿泊所及隣保館設計畫(愛國婦人會)	寫	真	版
泉橋慈善病院震災救護狀況圖(泉橋慈善病院)	同		圖の四十六
蠅の増殖表(東京市衛生課)	記	述	圖の四十六
東京聯合婦人會の震災活躍(東京聯合婦人會)	凸	版	圖の四十七
横濱市の罹災程度(中外商業新報社)	石	版	圖の四十八
震災で失はれた富(同上)	同		圖の四十九

第一篇

帝都は如何に復舊復興しつつあるか

本篇記述	圖の四十九から五十の間		
東京市焼跡復歸狀況(内務省警保局)	寫	真	版
復興につかはれる金(中外商業新報社)	石	版	圖の五十一
大工業復興資金貸出事業別(日本興業銀行)	凸	版	圖の五十二
小工業復興資金貸出事業別(同上)	同		圖の五十二

復興大黒(日本勸業銀行)	寫真版	圖の五十三
復興資金貸出高(同上)	凸版	圖の五十三
震災後發行債券(同上)	同	圖の五十三
銀行融通資金貸出表(同上)	石版	圖の五十四
復興資金貸出擔保別表(同上)	同	圖の五十四
建築資金貸出表(自家建築)(同上)	凸版	圖の五十五
同 上(貸家建築)(同上)	同	圖の五十五
同 上(家屋修繕)(同上)	同	圖の五十五
産業資金貸出表(同上)	同	圖の五十五
焼けた債券と新らしい債券及株券(小池銀行)	寫真版	圖の五十六
復興の社債界附利廻と割引歩合との對照(同上)	石版	圖の五十七
貯金非常確認拂取扱高一覽表(逓信省貯金局)	凸版	圖の五十八
震災後の郵便貯金預入高及拂戻高(同上)	寫真版	圖の五十八
復興の簡易保險(逓信省簡易保險局)	同	圖の五十九
震災當時及び其後の東洋生命保險會社(同上)	同	圖の五十九
震災に因る死亡及震災地域内に於ける返戻金及貸付金(生命保險會社協會)	同	圖の六十

同上震災地へ支拂金表(同上)	記述	圖の六十
胞衣取扱月別表(警視廳衛生部)	石版	圖の六十一
私立病院復活狀況表(同上)	同	圖の六十一
災前災後に於ける硝子の内地生産高と輸入高並に價格の變動狀態(中外商業新報社)	同	圖の六十二
災後帝都に於けるバラック建築増加の實狀—罹災戸數—		
バラック建築戸數との各區別比較(農商務省山林局)	同	圖の六十三
災後四ヶ月に於ける木材入荷量(同上)	同	圖の六十三
重要復興材料の輸入對照表(中外商業新報社)	同 二頁大	圖の六十四
災後外國材輸入の趨勢(農商務省山林局)	寫真版	圖の六十五
復興事務局調達の木材及薪炭數(同上)	同	圖の六十五
木材商の復活狀況と製材工場の復活及新設狀況(同上)	同	圖の六十六
復興に要する建築用材概數(越中島製材所)	同	圖の六十七
東京市中配電線路統計(柱上變壓器容量、同上簡數、電線路延長、同巨長、電柱本數)(東京電燈株式會社)	石版	圖の六十七
東京横濱に供給の最高電力、電燈、同戸數等(同上)	凸版	圖の六十八
震災後の瓦斯復舊地域(東京瓦斯株式會社)	石版二頁大	圖の六十九

瓦斯引用家復舊狀態一覽表(同上)

震災後瓦斯供給量對前年比較表(同上)

復興に伴ふ市内電燈の増加率(東京電氣株式會社)

震災後に於ける東京市の電球需要概況(同上)

水道栓復興狀態(東京市水道局)

水道専用共用特別栓各區復興狀態(同上)

震災當時臨時市場活躍の圖(東京實業組合聯合會)

同臨時市場取扱高(同上)

同上詳細數字記述(同上)

東京府下の工業界復興率(東京府商工獎勵館)

同上

各種工場復興の狀態(東京商業會議所)

震災後に於ける適用工場復興狀況調(警視廳工場課)

震災後に於ける新設工場調(同上)

寺院の復興(佛教聯合會)

東京に於ける震災倉庫應急施設狀況(農商務省商事課)

寫真版 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

同 圖の七十

横濱に於ける震火災應急施設狀況(同上)

震災後の倉庫比較の圖—東京と横濱(京濱倉庫聯合會)

同上貨物保管高の圖—東京と横濱(同上)

復興と亞鉛引平浪板需給概覽の圖(秋田直吉商店)

大震火災を中心にした我が國重要輸出品の消長(中外商業新報社)

大震火災を中心にした我が國重要輸入品の消長(同上)

帝都復興の半面—對米爲替異常の暴落(中外商業新報社)

對米爲替暴落の原因は(同上)

九月を中心とした我が復興材料輸入の狀勢(同上)

震後の東株と鐘紡株とはどう復興したか(中外商業新報社)

同じく淺野セメント・日本郵船・東京電燈・日本石油(同上)

同じく大日本製糖・大日本麥酒・王子製紙北海炭礦(同上)

桐生から東京へ(中外商業新報社)

足利から東京へ(同上)

館林から東京へ(同上)

同 圖の八十一

同 圖の八十二

同 圖の八十三

同 圖の八十四

同 圖の八十五

同 圖の八十六

同 圖の八十六

同 圖の八十六

同 圖の八十六

同 圖の八十七

同 圖の八十七

同 圖の八十八

同 圖の八十八

同 圖の八十九

同 圖の八十九

同 圖の八十九

八王子織物統計(久保田商店)	原色版	圖の九十
同上東京方面搬出來客比較表(全國主要生産地産額比較表)	寫真版	圖の九十一
震災後の裏地の値段(澤井藤助商店)	同	圖の九十一
復興と紙(榛原直次郎商店)	同	圖の九十一
大災と東京市内労働賃銀指數(内務省社會局)	石版	圖の九十二
震災前後の勞銀(東京商業會議所)	同	圖の九十三
職業紹介系統圖(中央職業紹介事務局)	同	圖の九十四
大正十二年職業紹介地方別取扱成績表(同上)	同	圖の九十五
大正十一年職業紹介月別取扱成績表(同上)	同	圖の九十五
東京府下職業紹介所分布圖(同上)	同	圖の九十六
社會局木工講習生前職一覽圖(内務省社會局)	寫真版	圖の九十七
同上講習成績一覽表(同上)	同	圖の九十七
壁の出來るまで(權田商店)	同	圖の九十八
セメントの復興ぶり(淺野セメント株式會社)	同	圖の九十八
銅の生産と消費量(古河電氣工業株式會社)	同	圖の九十九
襲ひ寄る火鬼、寄り付けぬ火鬼(シーヤリング東京支店)	同	圖の九十九

鐵で作つた扉(東京建鐵株式會社)	同	圖の百
時計とシャープペンシルの復興(山崎商店)	同	圖の百
都市卸賣物價指數—七大別分類比較(農商務大臣官房統計課)	凸版	圖の百〇一
東京市電車軌道復舊の順序圖(東京市電氣局)	石版	圖の百〇二
同上電車開通の圖(同上)	同	圖の百〇三
大震災前後に於て東京を中心とせる鐵道貨物の増減狀況(中外商業新報社)	同	圖の百〇四
同上鐵道有賃乗客の増減狀況(同上)	同	圖の百〇四
震災當時とその前後に於て市内の普通郵便物はいかに増減したか(同上)	凸版	圖の百〇五
同上郡部に於ていかに増減したか(同上)	凸版	圖の百〇五
震災當時とその前後に於て市内の小包郵便物はいかに増減したか(同上)	凸版	圖の百〇五
同上郡部に於ていかに増減したか(同上)	凸版	圖の百〇五
震災後自動車毎月増加數(警視廳交通課)	同	圖の百〇六
震災前後自動車車輛數比較圖(同上)	同	圖の百〇六

交通事故表(同上)	同	圖の百〇六
劇場活動寫眞館入場人員増減表(同上保安課)	石	版 圖の百〇七
浴場の狀況(同上)	同	圖の百〇七
新聞紙現在數圖表(内務省警保局)	同	圖の百〇八
雜誌と單行本の震災前と後の勢差(中外商業新報社)	寫眞	版 圖の百〇九
出版物發行數對照表(内務省警保局)	凸	版 圖の百〇九
震災前洋紙製造高販賣高(王子製紙株式會社)	石	版 圖の百十
洋紙内地供給高年別表(同上)	同	圖の百十
東京市内に於ける震災前後の推定製粉消費量(日清製糖株式會社)	寫眞	版 圖の百十一
震災前後過隣駿製造高比較圖(大日本人造肥料株式會社)	凸	版 圖の百十一
復興に働いたガソリンとその世界の消費量(日本石油株式會社)	寫眞	版 圖の百十二
モスリン生産力の消長(東洋モスリン株式會社)	同	圖の百十三
毛織物の復興(東京毛織株式會社)	同	圖の百十三
復興につかはれた麻製品(帝國製麻株式會社)	同	圖の百十四
東京地方メリヤス業復興現狀(永田メリヤス機械製造株式會社)	同	圖の百十五
メリヤス製品輸出國別統計表(同上)	同	圖の百十五

災後子供の述びも變つて(日本蓄音器商會)	同	圖の百十六
帽子の復興(吉安商店)	同	圖の百十六
他の復興と共に(三越呉服店)	同	圖の百十七
震災以降買った戴いた品はこんなに變つて参りました(白木屋呉服店)	同	圖の百十八
新興の服飾美(高島屋呉服店)	同	圖の百十九
需要品復興の道程(松坂屋呉服店)	同	圖の百二十
表現派式の復興の色調(松屋呉服店)	同	圖の百二十一
震災後最もよく賣れたモリスン友禪(村田商店)	同	圖の百二十二

第三篇

政府及市にて實行する復興計劃の要綱

同上記述	同	圖の百二十二から百二十三の間
不規則極に區劃と行き當りばつたりの路地(内務省復興局)	寫眞	版 圖の百二十三
整理されない敷地割と整理された敷地割(同上)	同	圖の百二十三

火事が整理されない區劃に起つた時(同上)	同	圖の百二十四
土地區劃整理の一例(同上)	同	圖の百二十四
道さがし	同	圖の百二十五
區劃整理されない處に火事の起つた時(同上)	同	圖の百二十五
復興後の帝都消防(警視廳消防本部)	同	圖の百二十六
區劃整理地區別圖(内務省復興局)	石版二頁大	圖の百二十七
道路のいろく(同上)	凸版二頁大	圖の百二十八
東京土地區劃整理詳細大地圖(同上)	石版十六頁大圖	圖の百二十九
横濱土地區劃整理地圖(權濱市役所)	同 八頁大	圖の百三十
新公園分布圖(東京市公園課)	石版二頁大	圖の百三十一
新公園の一例圖(内務省復興局)	凸版	圖の百三十二
新公園面積の圖(東京市公園課)	石版	圖の百三十二
大都市公園面積の比較圖(同上)	同	圖の百三十二
理想工場の設計—高層工場建築—高層建築と平家建と連續せる工場(内務省社會局)	凸版	圖の百三十三
同上中央を平家周圍に小室の二階建工場—平家工場(同上)	同	圖の百三十四

同上平家建に鋸齒狀屋根を有する工場(同上)	同	圖の百三十五
利用し盡したる紐育の地下鐵道(東京地下鐵道株式會社)	寫真版	圖の百三十六
巴里地下鐵道停車場内景(同上)	同	圖の百三十六
伯林地下鐵道高層建築物地下貫通の圖(同上)	同	圖の百三十七
地底深き倫敦の鐵管地下鐵道(同上)	同	圖の百三十七
巴里の大都市計劃の圖(内務省都市計劃局)	同	圖の百三十八
紐育の大都市計劃の圖(同上)	同	圖の百三十八
倫敦の大都市計劃の圖(同上)	同	圖の百三十九
大東京都市計劃の圖(同上)	同	圖の百三十九
大阪都市計劃の圖(同上)	同	圖の百四十
神戸都市計劃の圖(同上)	同	圖の百四十
京都都市計劃の圖(同上)	同	圖の百四十一
名古屋都市計劃の圖(同上)	同	圖の百四十一
秋葉原外四驛着發貨物倉庫出入系統圖(鐵道省運輸局)	凸版	圖の百四十二
東京附近鐵道改良計劃圖(鐵道省工務局)	石版二頁大	圖の百四十三
上野廣場の圖(内務省復興局)	凸版	圖の百四十四

新装せる九段坂(同上)

寫真版 圖の百四十五

第四篇

前例が示せる災後や戦後の復興の實跡

本篇記述

圖の百四十四から圖の百四十五の間

倫敦の大火とその復興(中外商業新報社)

記述 圖の百四十五

米國桑港震災の紐育への反映(同上)

石版 圖の百四十六

米國桑港大震災火災後の復興圖(渡邊儀作)

寫真版 圖の百四十七

同上大震災火災の跡(同上)

同 圖の百四十七

桑港の大震災火災(中外商業新報社)

記述 圖の百四十八

歐洲大戰後英國の貿易は如何に復興して來たか(同上)

石版 圖の百四十九

歐洲大戰後佛國の貿易は如何に復興して來たか(同上)

同 圖の百四十九

歐洲大戰後伊太利の貿易は如何に復興して來たか(同上)

同 圖の百四十九

歐洲大戰後米國の貿易は如何に復興して來たか(同上)

同 圖の百四十九

歐洲大戰後各國の國富がどう變化してゐるか(同上)

原色版二頁大 圖の百五十

歐洲の大戰を中心として歐米金利の變動狀態(同上)

石版 圖の百五十一

勞農ロシヤの國民經濟はいかなる復興を示したか(同上)

同 圖の百五十二

(△輸入と輸出の國別割合△商品の輸入及輸出額)

ロシヤの石炭及無煙炭の總收穫高—鐵道運輸の狀況—石油の採取高—

染色工業生産高—農産物の準備—農産物の供給高—等

同 圖の百五十三

米英爲替は歐洲大戰争後どういふ風に回復したか(中外商業新報社)

同 圖の百五十四

第五篇

三大戦後のわが財界發展と經濟復興

本篇記述

圖の百五十四から圖の百五十五の間

通貨はどうなつたか(中外商業新報社)

石版 圖の百五十五

外國貿易はどうなつたか(同上)

同 圖の百五十五

銀行預金及貸出高はどうなつたか(同上)

石版 圖の百五十六

金利はどうなつたか(同上)

同 圖の百五十六

全國の手形交換高はどうなつたか(同上)

同 圖の百五十七

精算賣買はどうなつたか(同上)	同	圖の百五十七
東株相場はどう變動したか(同上)	同	圖の百五十八
鐘紡相場はどう變動したか(同上)	同	圖の百五十八
物價はごうなつたか(同上)	同	圖の百五十九
正貨はごうなつたか(同上)	同	圖の百五十九
安全の基礎に帝都を復興し(内務省社會局)	寫真版	圖の百六十

第六篇

近づきつゝある經濟復興

本篇記述

圖の百六十から圖の百六十一の間

▲大震災火災の損失と我國の經濟との關係▼災後の我國は果して悲觀すべきか▼復舊復興に幾何の資金を要すべきか▼復興景氣なるもの現はるや否や▼政府の復興計畫と經濟界▼復舊復興の實行果して可能なりや▼復舊復興の資金は如何にして調達せらるゝか▼復舊復興の爲めに幾何の金が動くか▲復舊復興に依つての一大消費▼補充物生産の旺盛▼經濟復興は果して實現するや▲

我國の財界は前途悲觀か樂觀か▼わが經濟界の大勢と色めき來る歐米の財界▼復興の完成と外資の問題▼わが國全般の經濟復興▼前途有望のわが財界▼財界發展の根元

ビジネス・サククル(中外商業新報社) 寫真版二頁大圖の百六十一
同 上 同 圖の百六十二

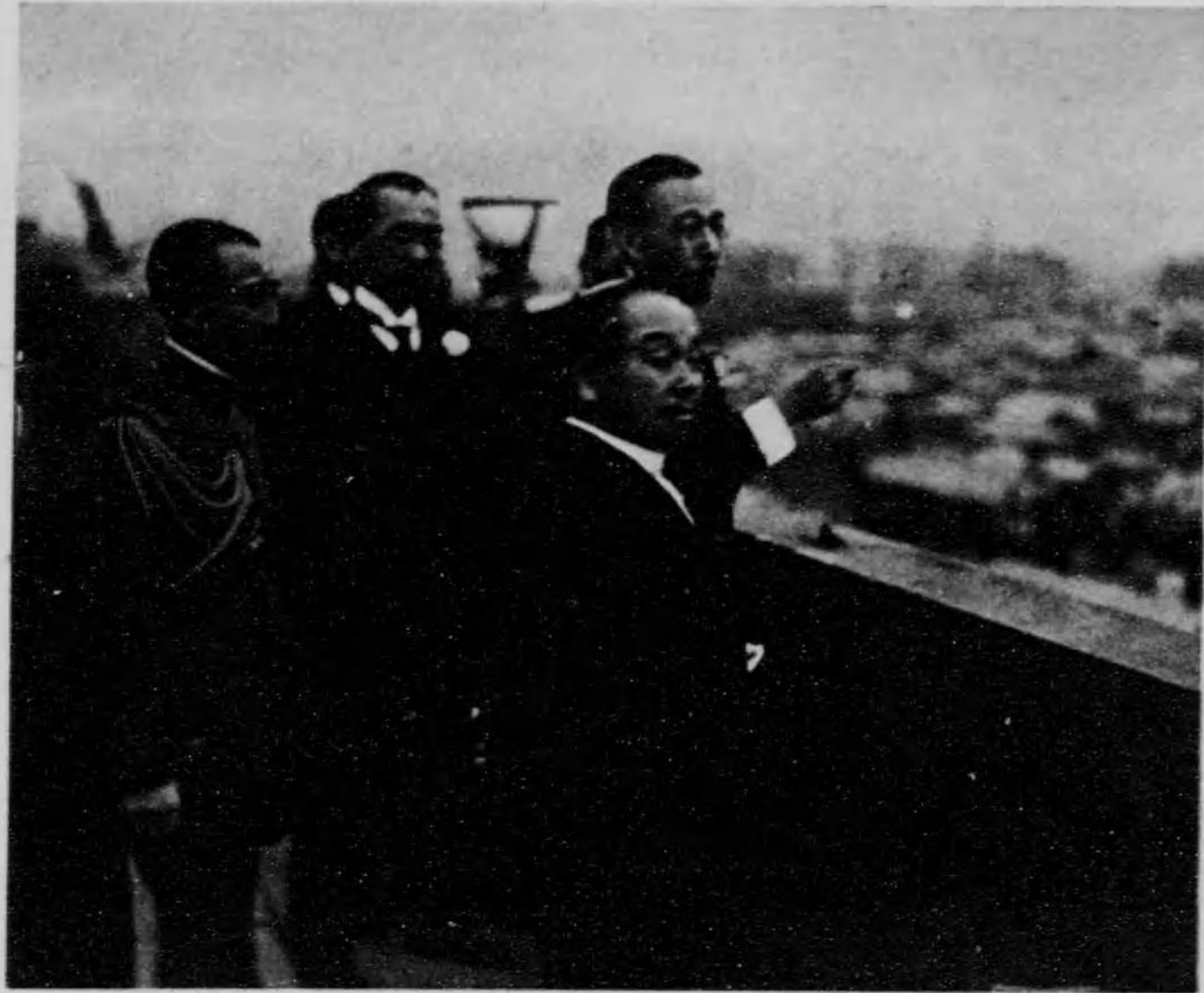
第七篇(雜纂)

歐州戦後の失業状態から見た恐慌のスタート(東京府職業紹介所)	石版二頁大	圖の百六十三
列強軍勢一覽圖(陸軍省)	同	圖の百六十四
帝國領土に對する爆撃機活動圈要圖(帝國飛行協會)	凸版	圖の百六十五
歐米市場めぐり(農商務省商務局市場課)	寫真版	圖の百六十六
同上―續き	同	圖の百六十七
不良少年調(内務省社會局)	石版	圖の百六十八
婦人相三段變化の圖(中外商業新報社)	寫真版	圖の百六十九
同上―續き	同	圖の百七十
同上―續き	同	圖の百七十一

東京の復興ぶりを

御展望の久瀨宮殿下

久瀨宮殿下には四月二十五日中外商業新報社に成らせられ五層樓上の展望臺に立たせ給ひ藤田事務理事の説明を受けさせられつゝ眼下にひろげられた市中の復興ぶりを御展望遊ばされた。



中外商業新報社を中心にして見たその附近の復興の状

(1) その當夜



(2) 大地はまだ動く



岡の…… 1

大震火災より復興完成記念祭まで

中外商業新報社

(5) 變態交通時代



(3) ぶらぶら時代



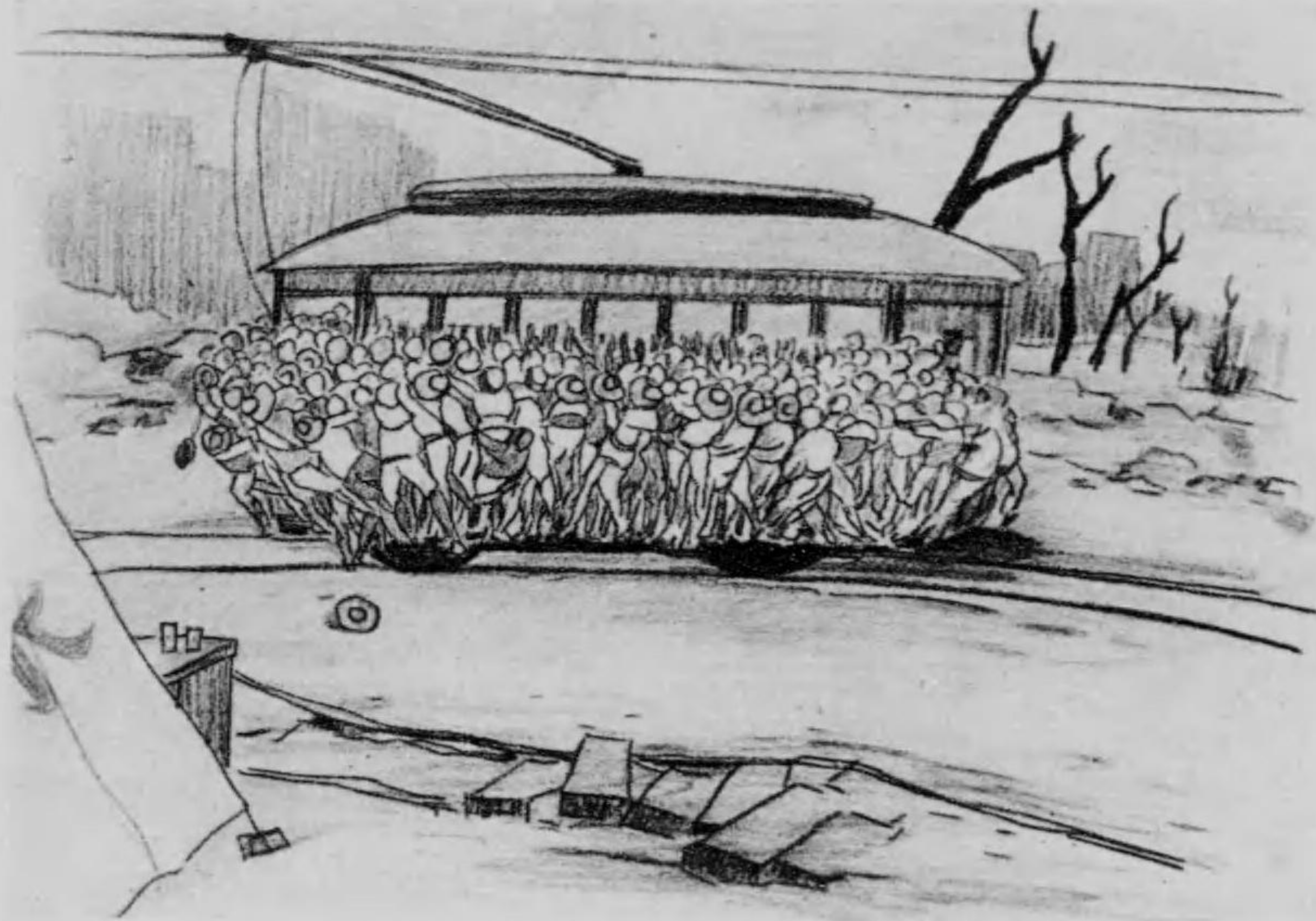
(6) 暴利懲罰時代



(4) すいとん屋時代



(9) 電車部分開通時代



(7) バラック建て初め時代



(10) マーケット萬能時代



(8) 街路商人出盛り時代



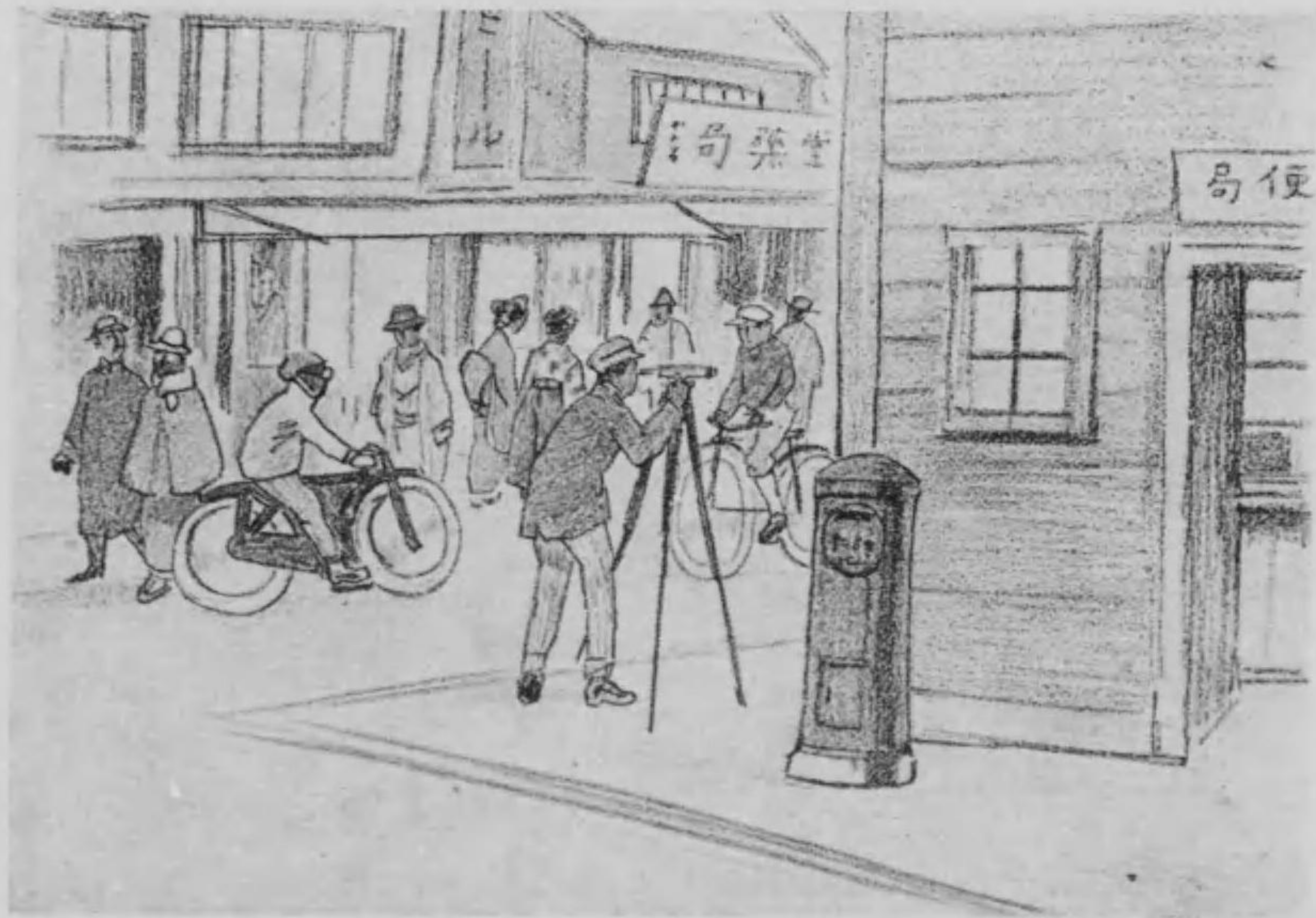
(13) 一と落付き時代



(11) 山の手花柳界全盛時代



(14) 區劃整理時代



(12) 復歸開店仕り候時代



第一編

(15) 本建築進捗時代



(16) 復興完成記念祭



大震火災は東京横濱をごとく破壊したか

大正十二年九月一日午前十一時五十八分、關東地方に突如として起つた大地震は各地において多數の倒壊家屋と死傷者を出した、特に東京および横濱においては、これがために諸所に火災を起し忽ち人も家も紅蓮の焔に包まれてわが國未曾有の大惨害を呈するに至つた、東京府下で知悉するを得た死者實に七萬一千六百十五人、神奈川縣下の死者二萬九千七百四十人。

この大震火災が齎らした東京および横濱の破壊状態の實際を調べて見ると、大正十二年九月一日現在東京市の世帯数は四十八萬三千個、人口は二百三十萬九千六百人、横濱市の世帯数は九萬八千八百九十個、人口は四十四萬六千六百人であるに對しその罹災者の數は

	東 京	横 濱
世帯數	三〇八、二七三	九三、八四〇
人口數	一、三三三、七八五	四一三、八九六

の多數であつて全體に對する罹災の割合は

東京

横濱

世帯数	六割二分	九割五分
人口数	五割八分	九割三分

に當る。すなはち横濱はほとんどその全體、東京は半分以上の罹災者を出したのである。

然らばこれに依つて如何なる損害を生じたか、今その損害の内有形的の直接損害額、すなはち家屋家財、工場、商品類の滅失高は總計四十八億圓に上るのである、その内政府の損害が十億圓、民間の損害が三十八億圓であつて、この民間損害を地方別にすれば

東京府下 二十七億圓、神奈川県下 十億圓、埼玉、千葉、静岡の三縣下を合して一億圓の割合となり、またこれを品種別に見ると

焼失家屋 十八億圓 什器(書畫を除く) 九億圓 商品 五億圓 倒壊破損家屋 四億圓
焼失機械 二億圓

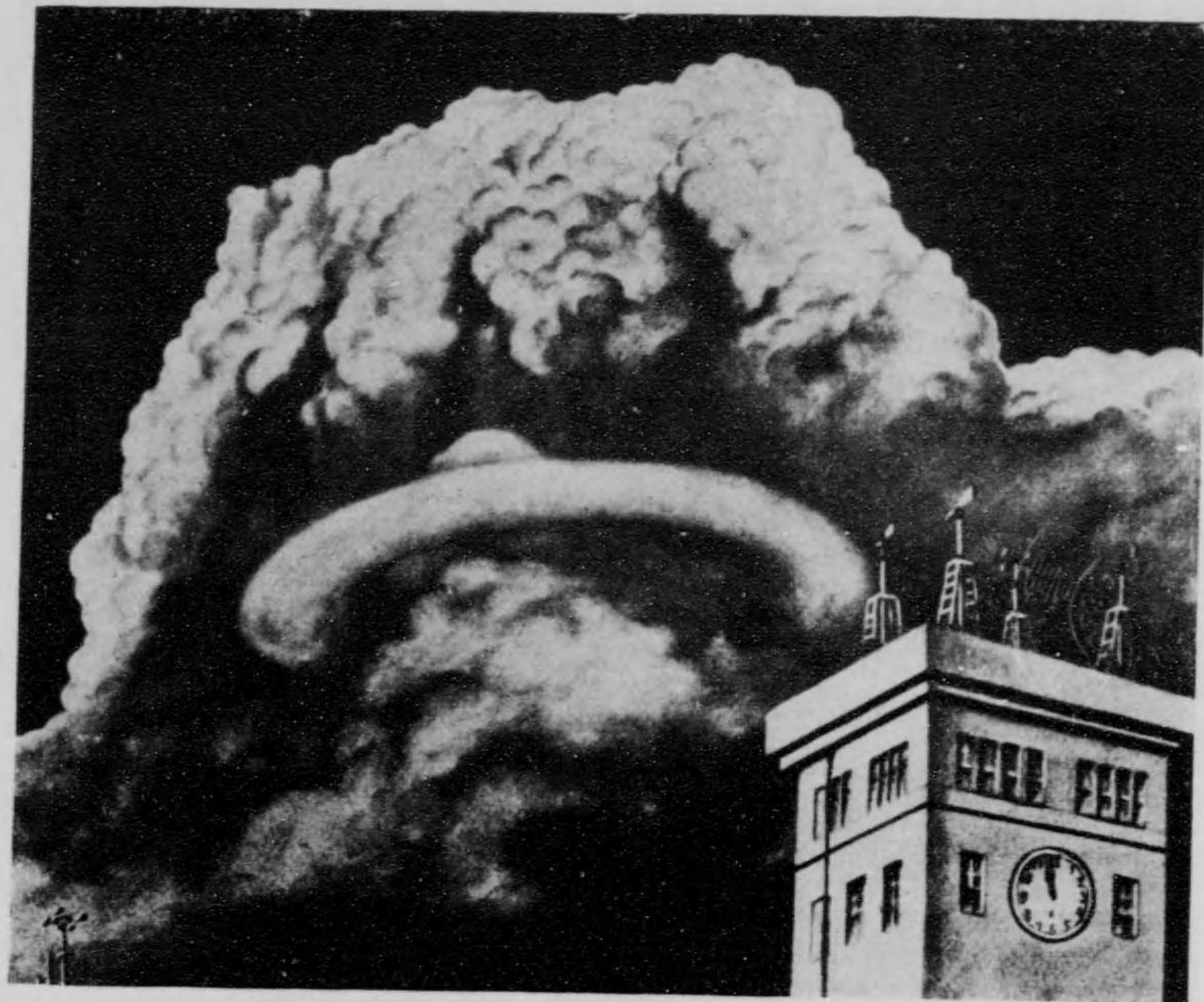
ごなるのである、この外になほ人命を失つたことやその他金額に見積り得べき損害が相當にあるのであるから右の四十八億圓は損害の總體と見るのは當を得ないであらうが、直接有形の富の滅失高は大體右の如きものである(信すべき大銀行筋の調査に據る)

震災直後、東京市の精神病者發生數が急速度をもつて増加せる有様を見ると如何に當時の慘狀が甚しかつたかを最も雄辯に物語るであらう、すなはち東京市で震災前の八月には狂人を九十餘人

出したが震災直後の九月には百三十人、十月には百六十人近くといふやうに俄に激増してゐるのである。あの凄慘なる大災害と對比して、このやうに發狂者の増加を來したのは毫も怪しむに足らない、思ひ起してさへ物凄い九月一日の地震後強風に煽られた呪ひの焰に市民は彼方此方へと追ひ廻され、わづかに身をもつて免れた揚句の果は、全財産を灰燼に歸し、その上家族近親を失つたものも多かつたのである。當時、木造家屋の焼失しつゝ、ある際の中心温度は攝氏九百五十度に昇り、鐵、銅、金は侵されないが眞鍮は焼け銀は軟かになり、その上それが煉瓦か石造の洋館ならば更に百度内外を増し火事のある場所から七間半を離れて能く木を焦がすといふ、それ程の熱によつて東京や横濱の人々は實にこの世にまたと再びあるまじき火の洗禮を受けたのである。

〔以下圖表をか、げ以て示す〕

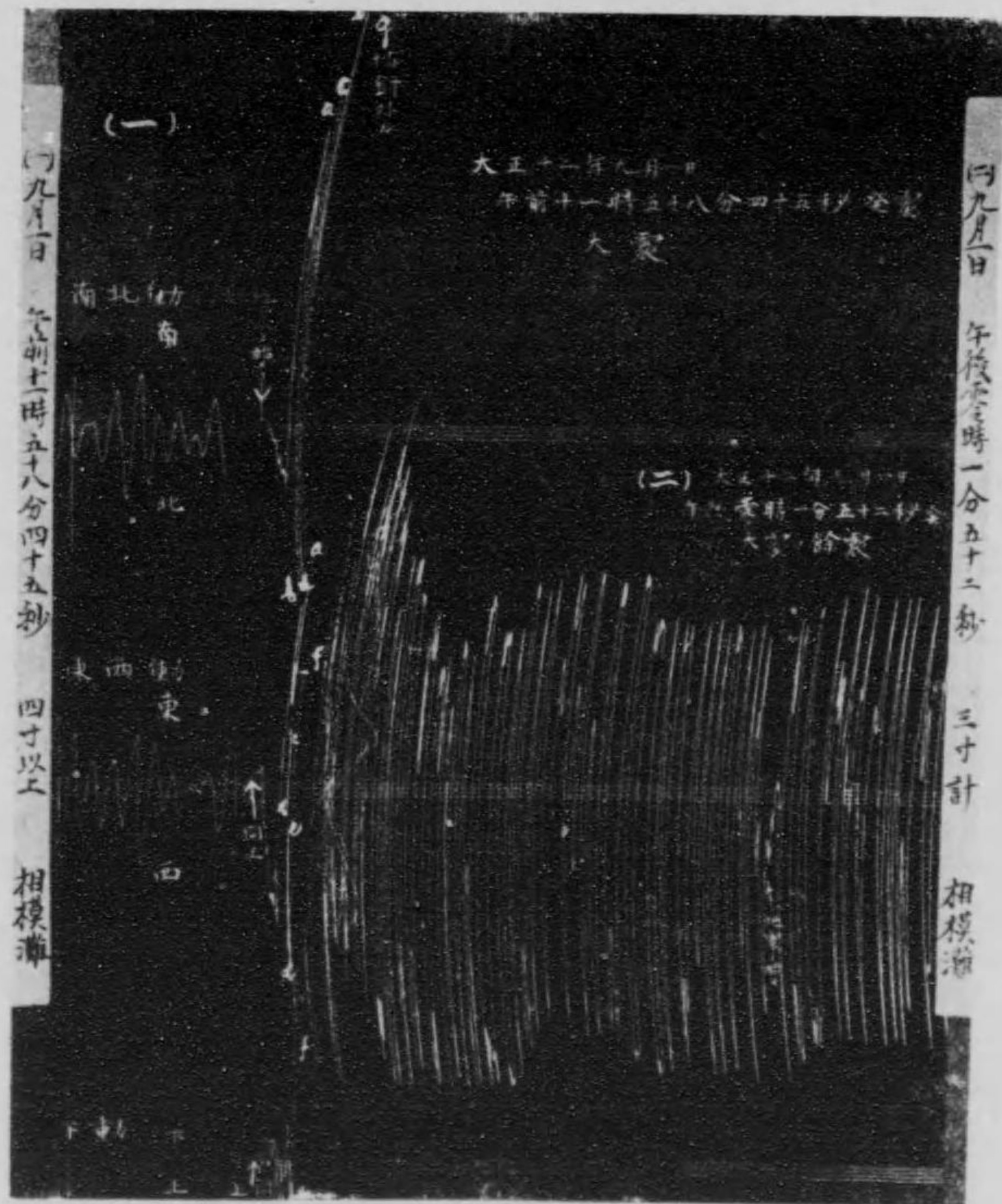
領布雲 (スカーフ雲)



大正十二年九月二日午前六時頃火事の爲めに出来た領布雲 (スカーフ雲)と立ち雲 (積亂雲)

大正十二年九月一日大震及餘震の記象

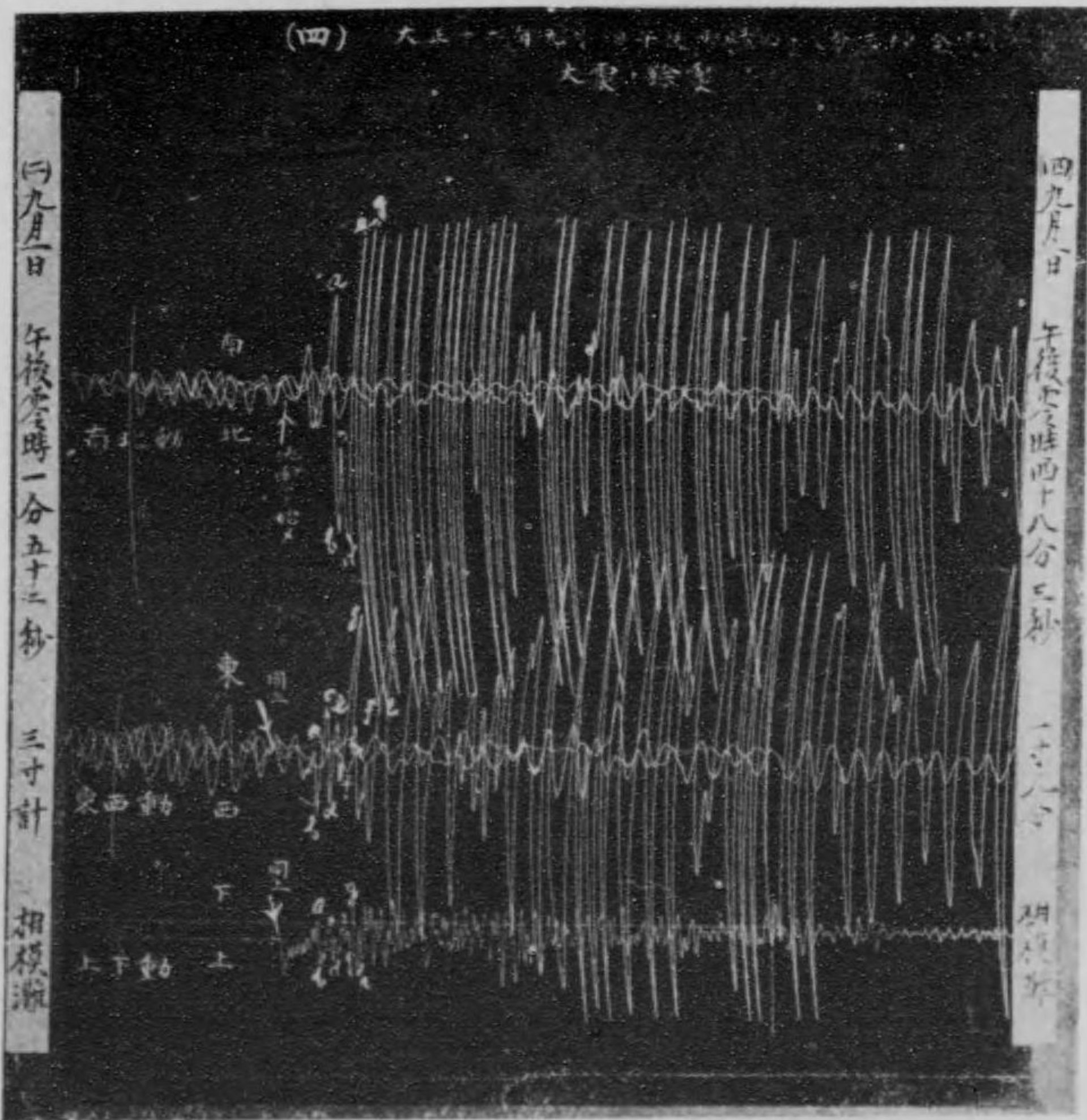
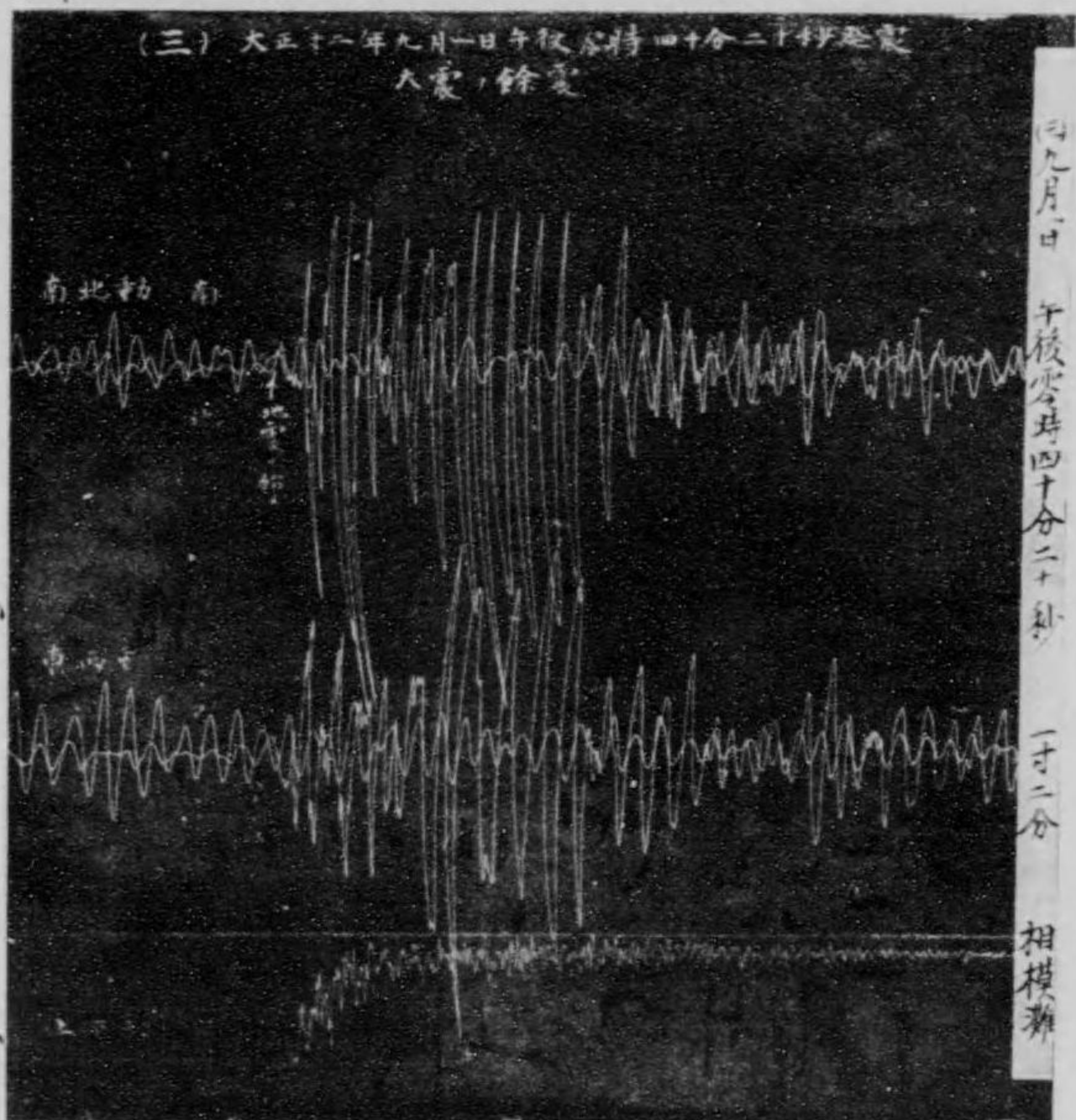
(東京帝國大學地震學教室)

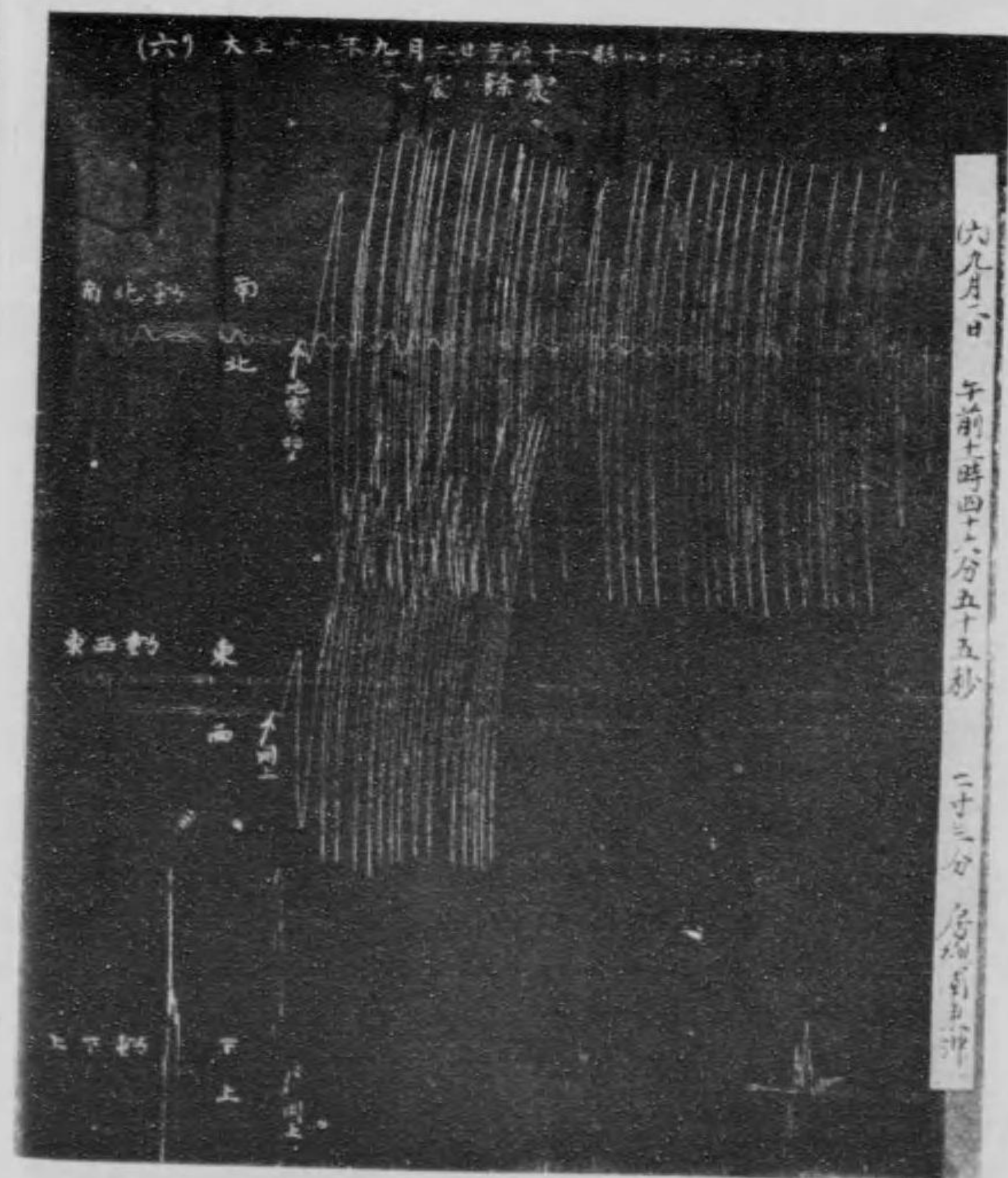
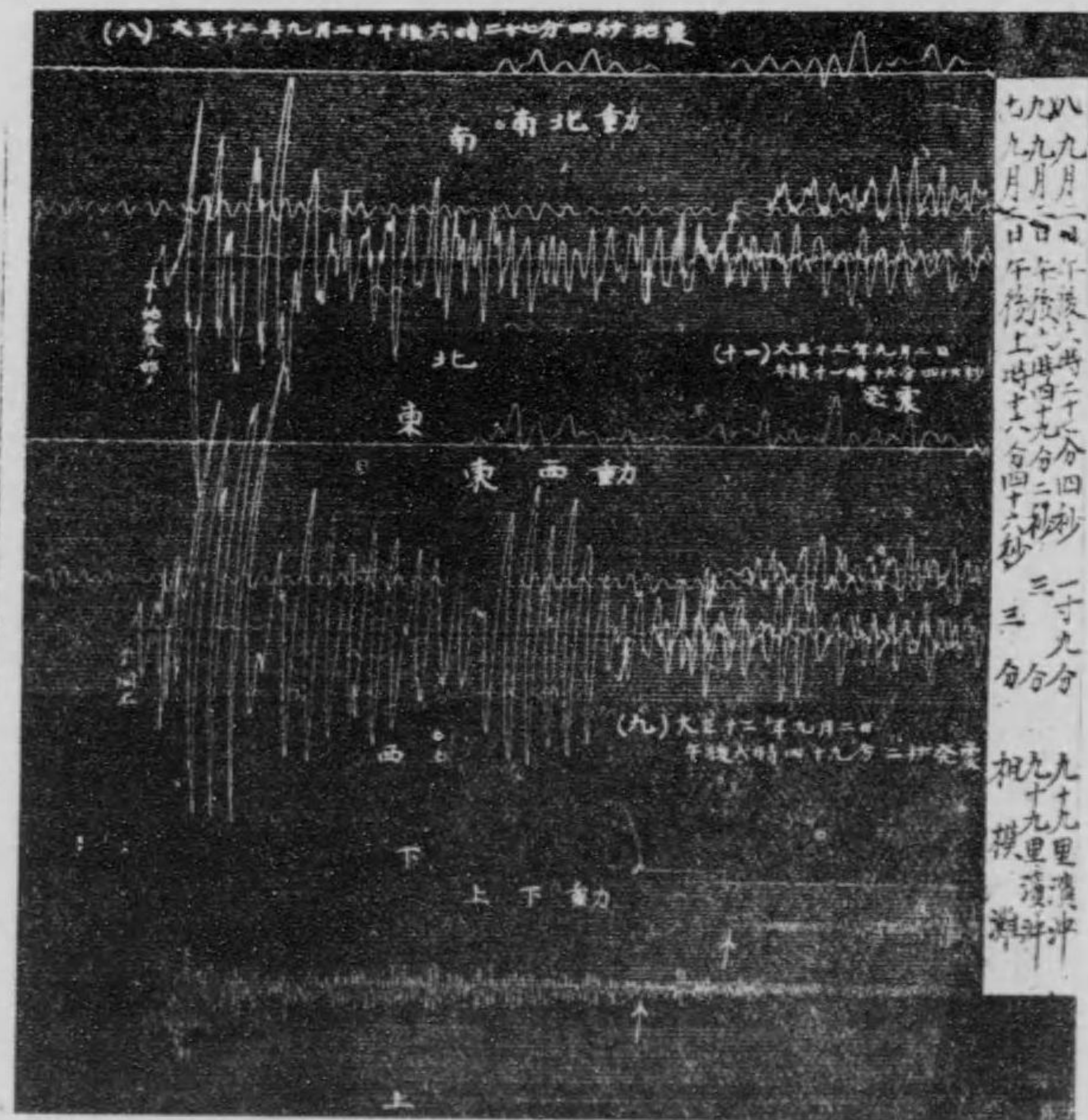
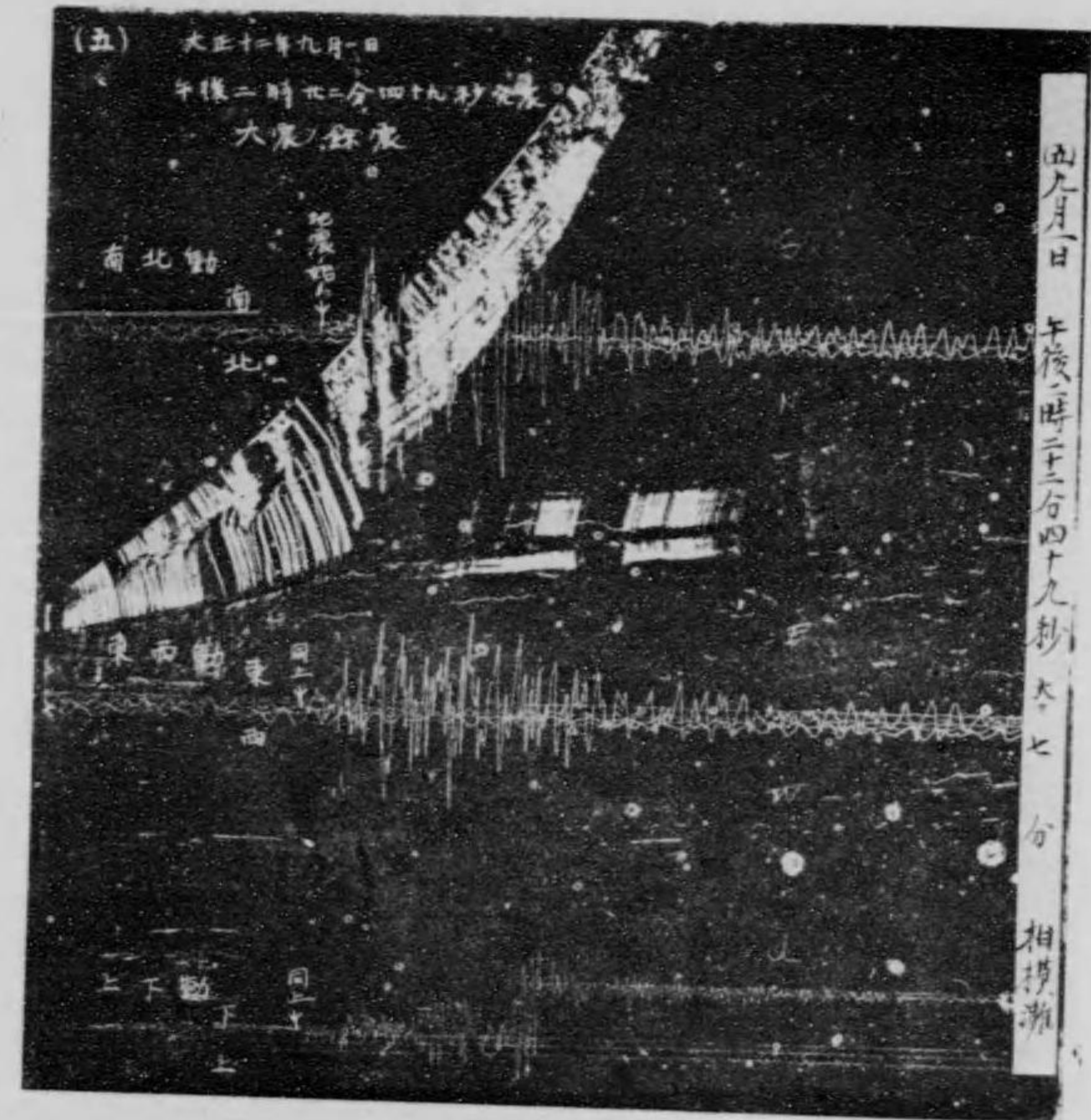
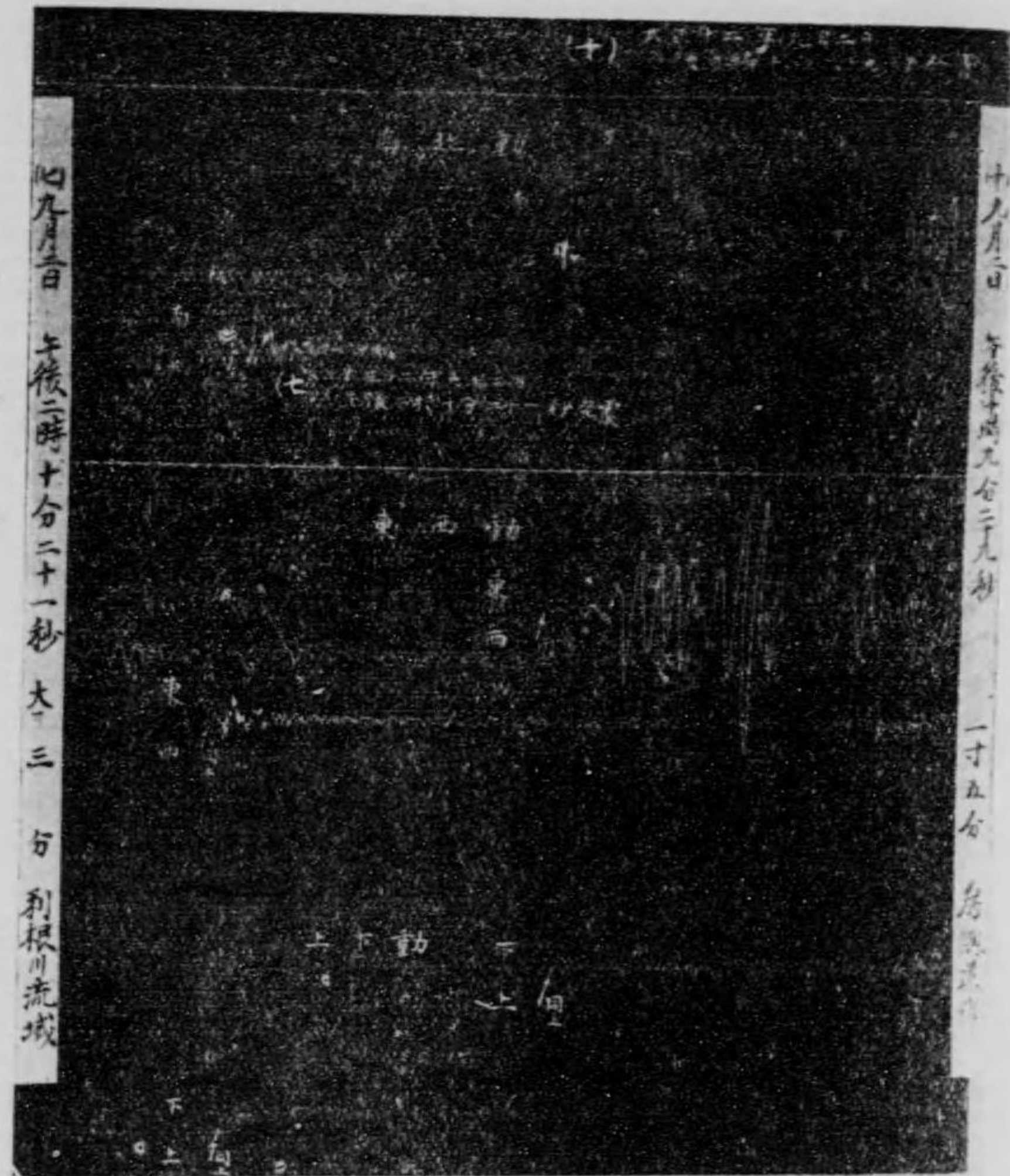


大正十二年九月一日午前十一時五十八分の大地震は地震計に震幅實に八寸以上を示すと同時に肝心の地震計をはつしてしまつた。

編者註 〓あの大地震をこの寫眞の如くに記象した今村、式地震計はもと東京帝國大學地震學教室に据ゑられてあつたが構内の火災が同教室を一同なめにせんとしたので職員は必死の勇を鼓してこれを一丁程離れた煉瓦造りの耐震家屋に移し、殆んど間斷なくゆり續く地震に對抗してゐた、その夕方(一日)火が又もその隣りの度量衡室の屋根をなめ始めた、その時である職員達は

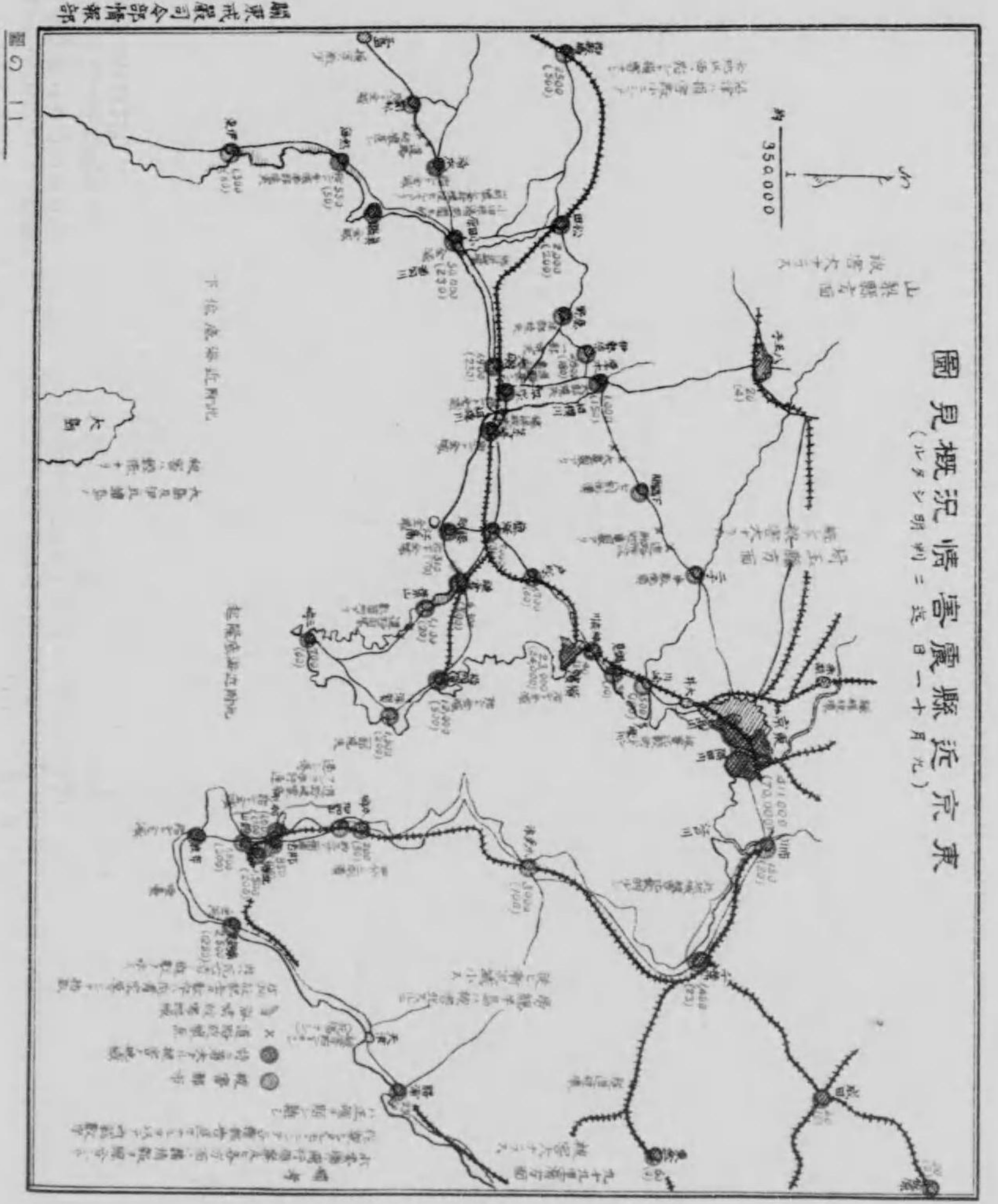
近くの人々の應援を得て、その火を消しかゝつて美事目的を達した、絶對絶命の火であつたのであるが……さうした混亂の中にもこの地震計は騒ぎをよそに正直に克明に刻々の地震の氣象を續けてゐた、この氣象圖に見えてゐる汚點や「カスレ」はその際に出来た尊い紀念のそれである。





圖の..... 8

圖の.....7



東京近郊震害概況見聞圖
(北緯三十度、東經一百三十度)

陸地測量部司令部編製

圖の11

備考

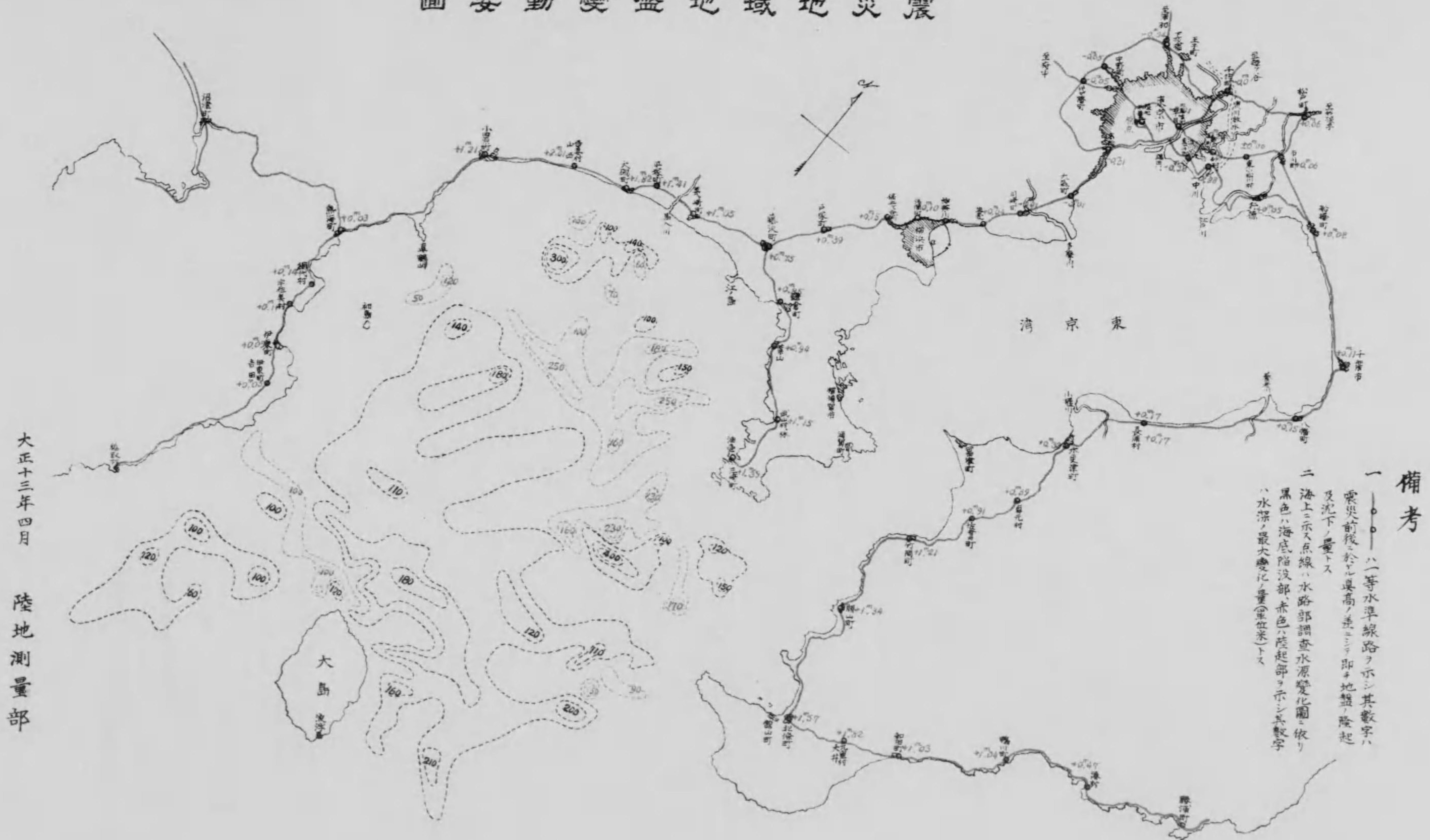
- 一 〇〇〇ハ一等水準線路ヲ示シ其數字ハ震災前後ニ於テ其高低ノ差ミヲ即チ地盤ノ隆起及沈下ノ量トス
- 二 海上ニ示ス点線ハ水路部調査水源變化圖ニ依リ黒色ハ海底陥没部、赤色ハ隆起部ヲ示シ其數字



大正十三年四月 陸地測量部

圖の12

震災地域地盤變動要圖



備考

- 一 〇〇〇 一〇 等水準線路ヲ示シ其數字ハ震災前後於テ最高ノ差ニシテ即チ地盤ノ隆起及沈下ノ量トス
- 二 海上ニ示ス点線ハ水路部調査水源變化圖ニ依リ黒色ハ海底陥没部、赤色ハ陸起部ヲ示シ其數字ハ水深ノ最大變化ノ量(單位米)トス

大正十三年四月 陸地測量部

—(陸地測量部)—

東京市罹災程度

九月一日現在
世帯数 四八三〇〇
人口 二三〇九六〇



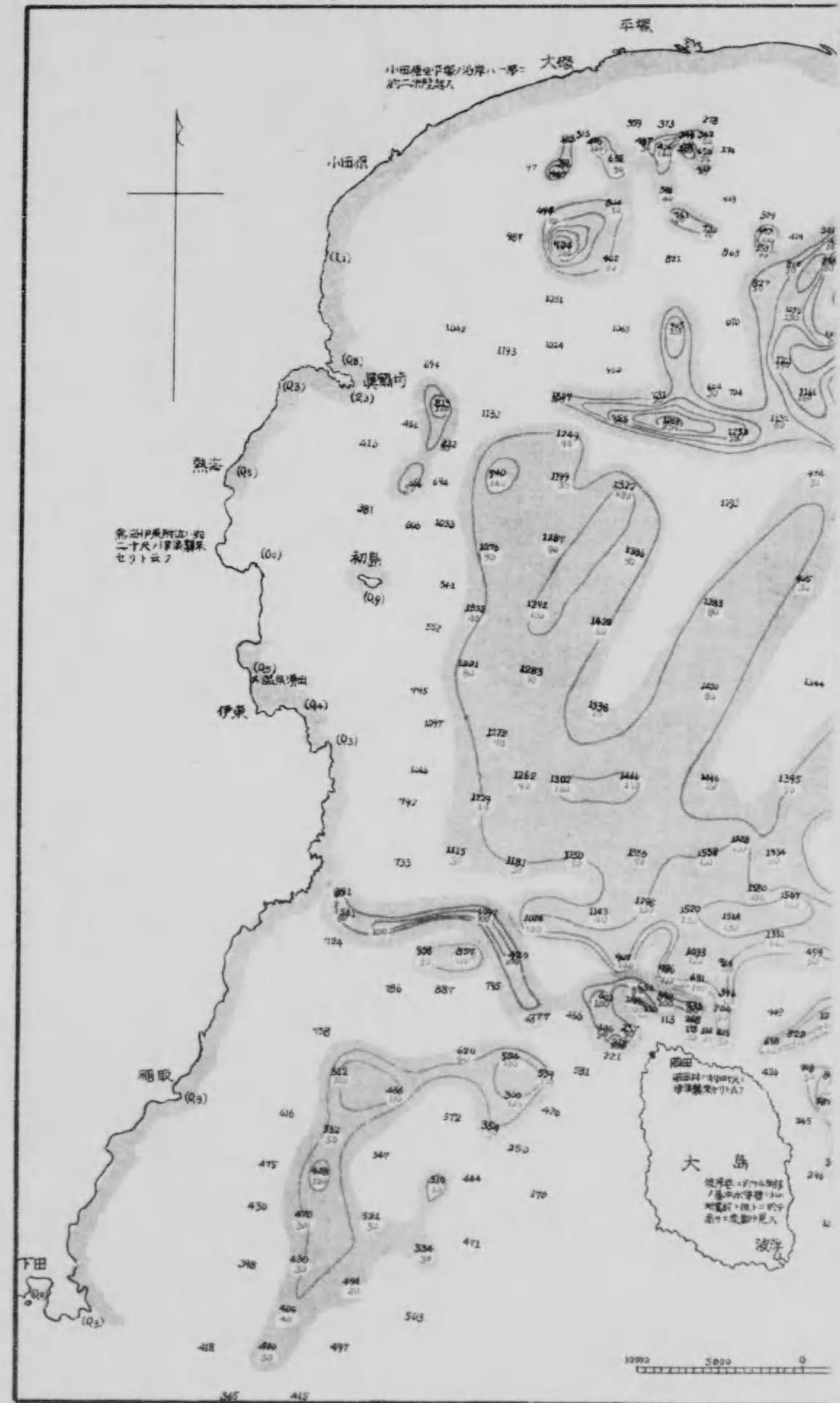
震災前

罹災世帯数 三〇八二七三
人口 一三三二七八五

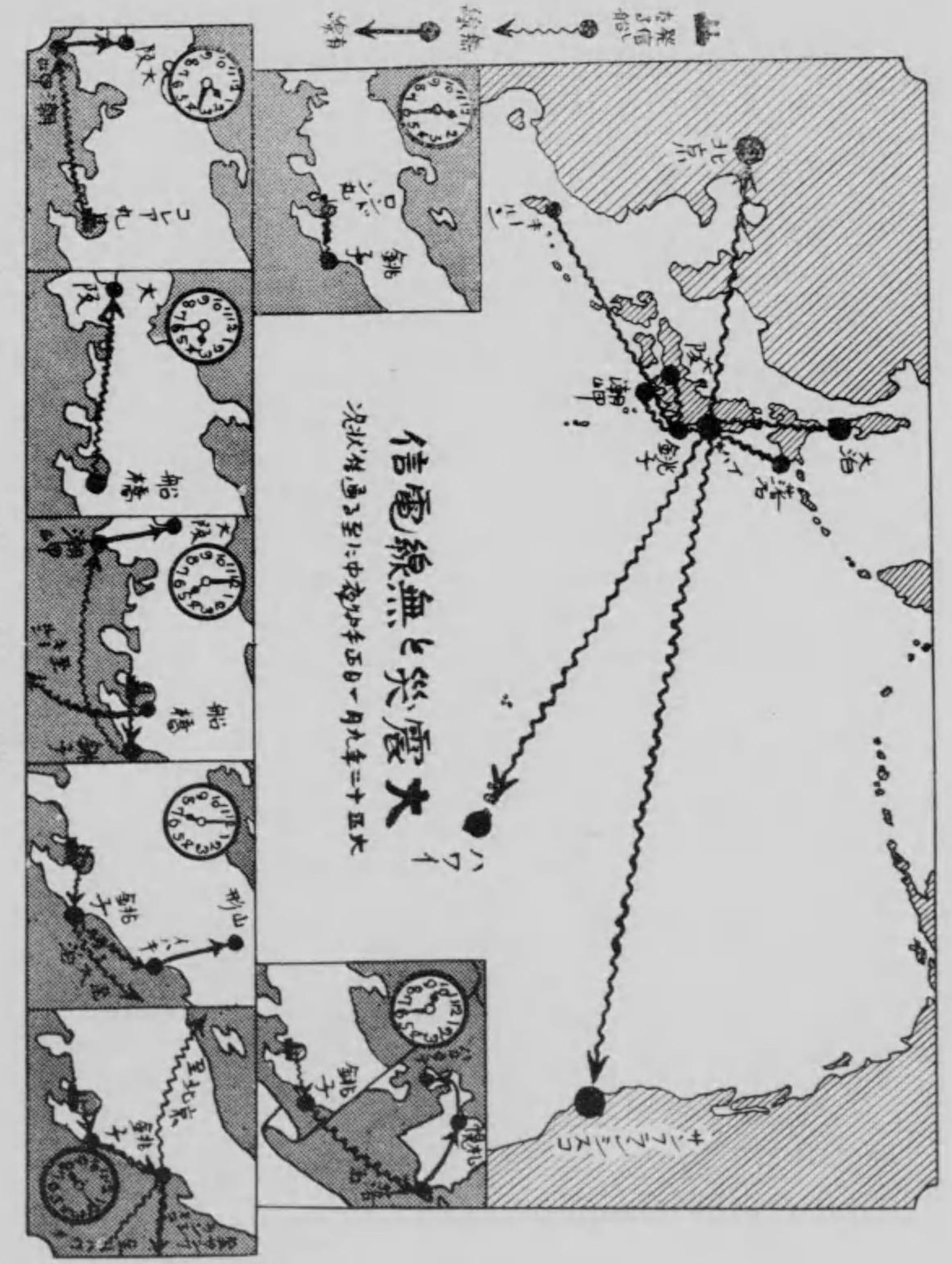


震災後

（内務省警保局）



図の 13



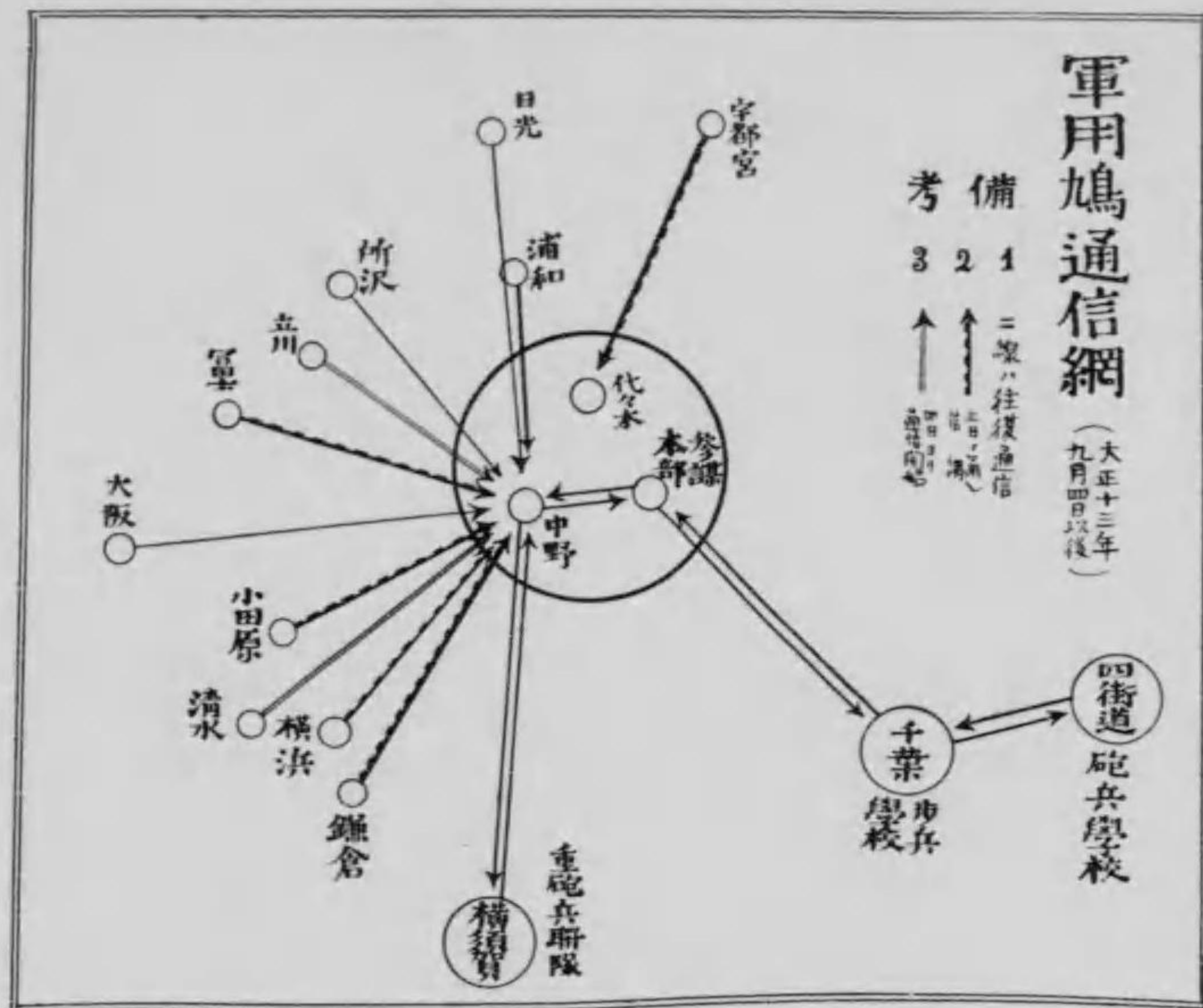
郡	南葛飾郡	日暮里	三河島	王子	吾妻	龜戸	大島	砂島
部	計	計	計	計	計	計	計	計
個數	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五	一、七、七、五
階	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇	〇〇〇〇〇〇〇〇
用途	倉庫	銀行	商店	事務所	倉庫	銀行	商店	事務所
計	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇	一、二、〇、〇

横濱市焼失区域調

種別	第一種構造	第二種構造	第三種構造	計	
焼失全面積	二、九五七、〇〇〇坪	市內全面積	一一、四三五、一〇〇坪	焼失面積百分比	二六、〇
個數	一、三、四、〇〇	延坪	二、三、八、〇〇	階	一、四、三、二、一
延坪	一、三、四、〇〇	階	一、四、三、二、一	用途	倉庫
階	一、四、三、二、一	用途	倉庫	計	三、四、四
用途	倉庫	計	三、四、四	他	一、三、〇
計	三、四、四	他	一、三、〇	計	六、〇、七、五
他	一、三、〇	計	六、〇、七、五	計	七、八、六、八、〇

備考 第一種構造 木構造(土藏ヲ含ム)木骨石造、木骨煉瓦造等
 第二種構造 石造煉瓦造「コンクリート」造等
 第三種構造 鐵造鐵骨造鐵筋「コンクリート」造等

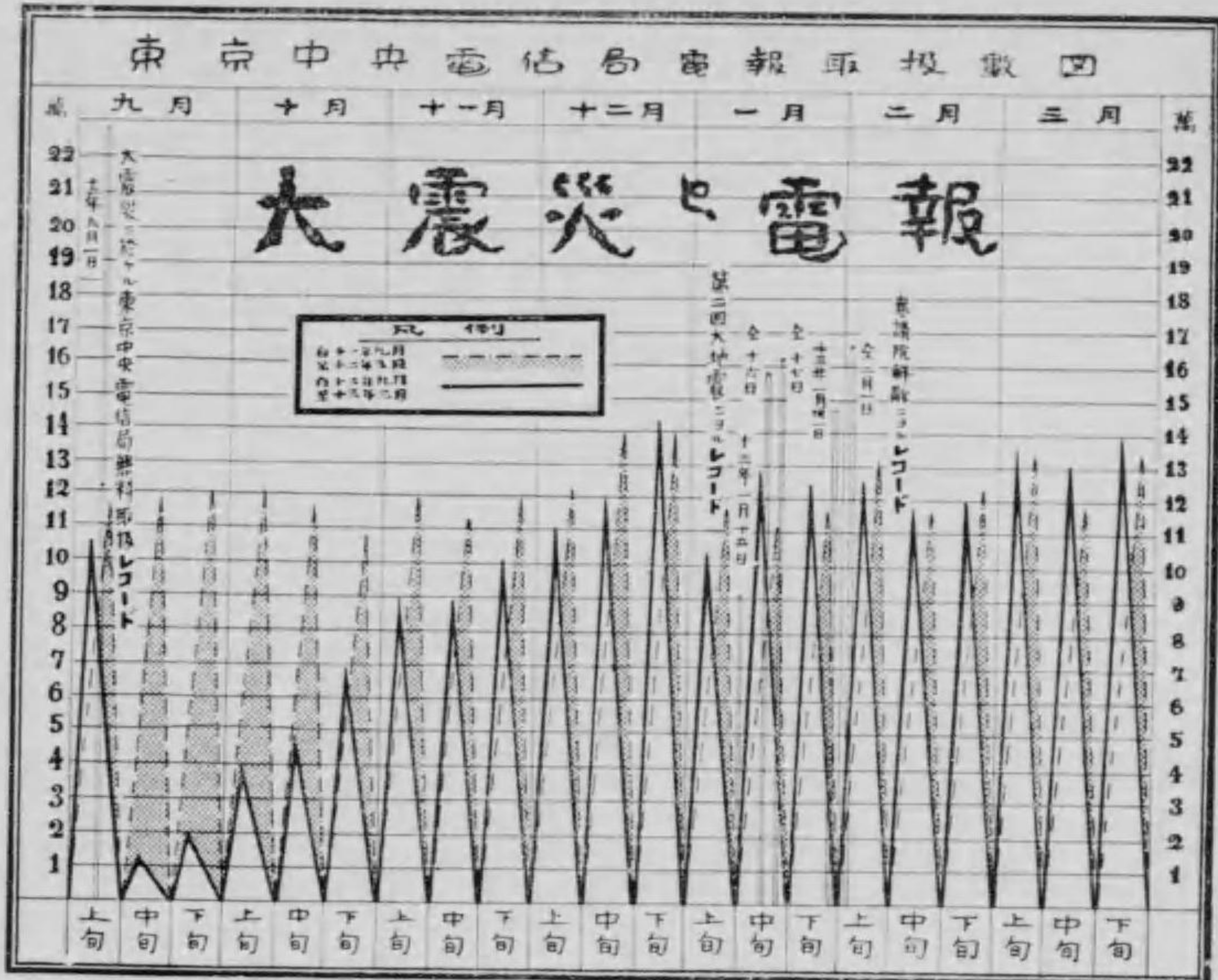
〔關東戒嚴司令部〕



軍用鳩通信網 (大正十三年九月四日以後)

備考
1 二線ハ往復通信
2 一線ハ片側通信
3 通信不能

〔遞信省〕



圖の.....19

大震災と電信

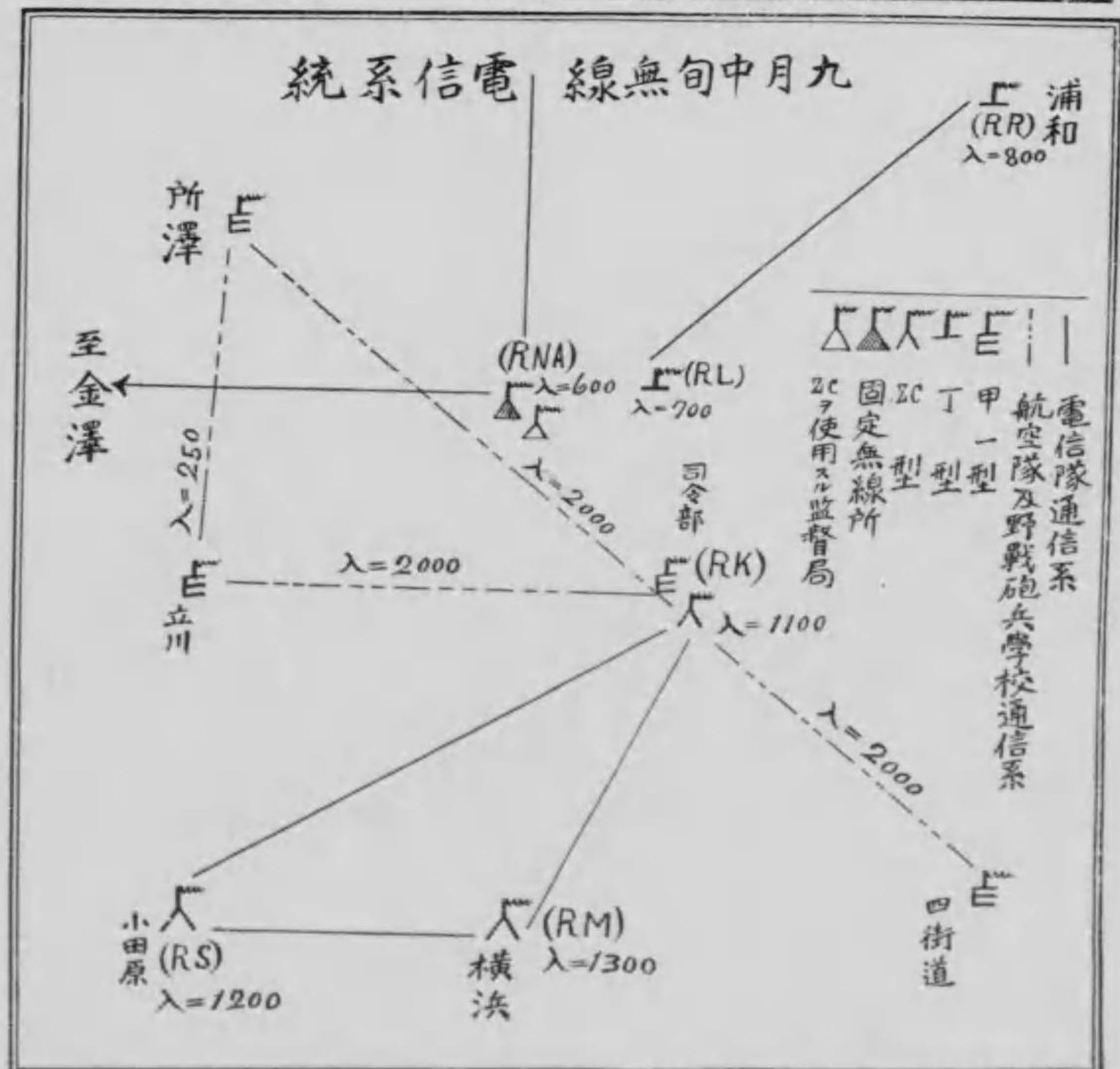
大震の一瞬から無線電信、有線電信がどう活躍したか、またどう連絡したか(九月一日正午から夜半の實況は大震と無線電信の圖参照)

無線電信		有線電信	
二日開通	船橋、銚子、下津井、大瀨崎	千住、大宮	千住、大宮
三日開通	下津井、潮崎	千住、大宮	千住、大宮
四日開通	銚子、金、津	千住、大宮	千住、大宮
五日開通	中野、野水、銚子、津	千住、大宮	千住、大宮
六日開通	磐城、大連	千住、大宮	千住、大宮
七日開通	下津井、角島	千住、大宮	千住、大宮
八日開通	銚子、父島	千住、大宮	千住、大宮
九日開通	中野、野橋、銚子	千住、大宮	千住、大宮

—(省 信 遞)—

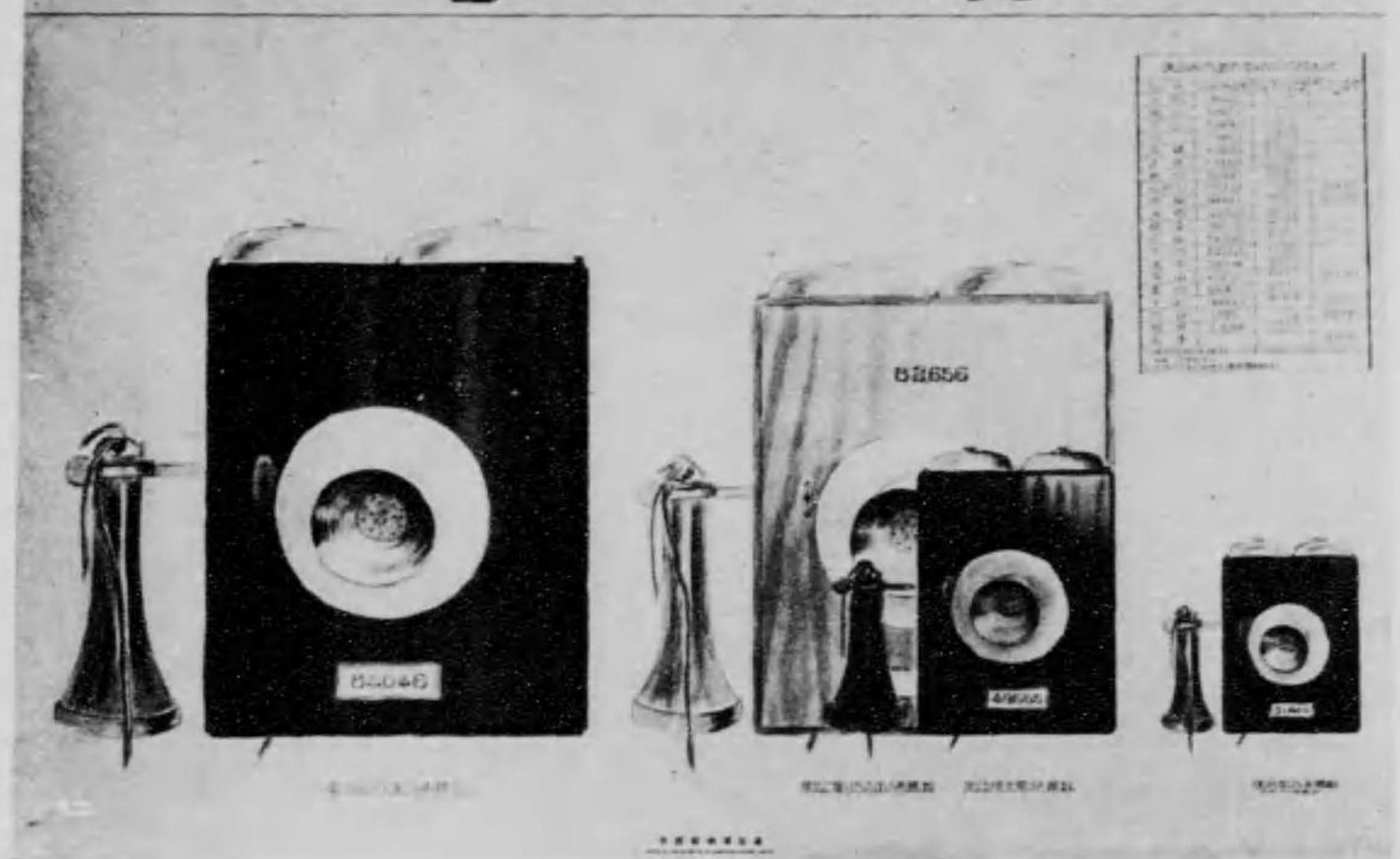
圖の.....20

〔關東戒嚴司令部〕



圖の.....19

東京大震災と電話市内



一(遞信省)

……む讀を字數の圖上……
 數總者入加の前災震
 數總者入加災罹
 數總話電失燒
 數總者入加舊復

局名	震災前加入者數	震災ニ罹リタル加入者數	燒失電話數	大正十二年底實復舊加入者
本局	三、六四五	三、五七二	三、五二四	〇
浪花	一、八二一	一、八〇七	一、八〇七	〇
下谷	六、五八六	六、四〇一	四、三四七	〇
芝橋	七、四八三	七、四〇五	二、八三七	〇
京橋	六、三八五	六、三五五	六、三五五	〇
本所	六、九四八	六、七九八	六、〇九五	〇
神田	五、二九八	五、二八一	五、二八一	〇
小石川	七、一六三	六、九八九	六、〇一	七、三七五
高輪	四、六九一	四、六七一	二九五	五、七三五
濱町	四、六五〇	四、六四三	四、六四二	〇
銀座	四、二七二	四、二二八	三、三八一	〇
九段	五、〇一六	四、九二七	一、九〇〇	〇
丸の内	二、五一二	二、三二七	六二八	〇
浅草	五、六六四	五、五二八	四、九八七	〇
墨田	二、四七六	二、四一八	〇	五、一六〇
牛込	二、〇六一	二、〇一五	一、六〇七	〇
四谷	四、二六〇	四、一八八	〇	七、一四〇
手留	一、八八一	一、七八一	五六	二、〇〇〇
大塚	一、三三四	一、三二六	一、三二六	四、〇〇〇

東京市内加入電話局々別被害調

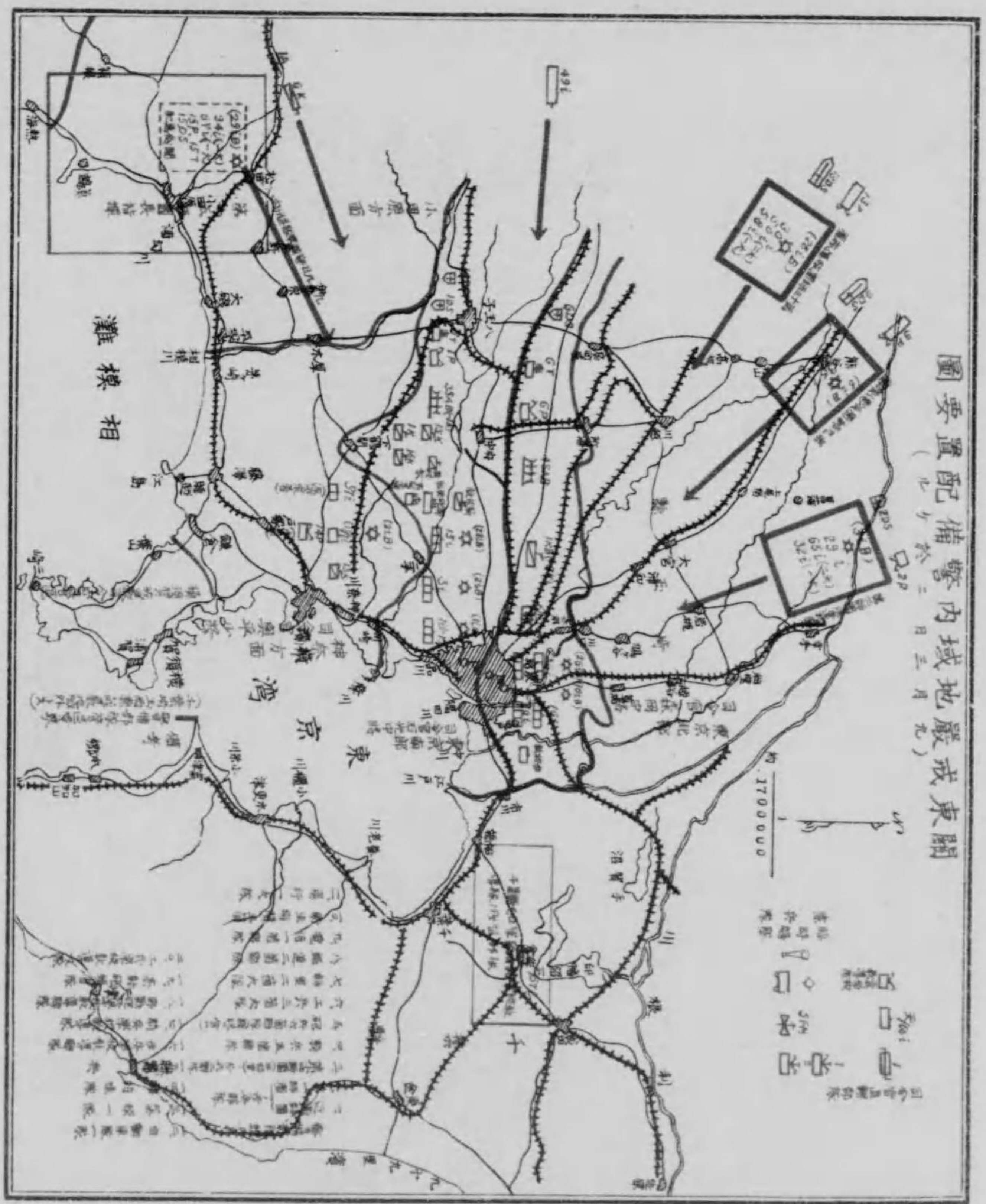


一(省 信 遞)



編者註 上圖の黒星は燒失又は全潰の局、半白の星は半潰の局を示す。△下圖は鐵道開通に伴ふ郵便の連絡を示す。白の點線は即ちその不連絡の處、それを當局は陸に海にあらゆる臨機の處置を講じて鐵道をよらざる他のものにての連絡を計つたのである。

關東大震災郵便局被害状況圖



關東嚴戒地域配備要圖

28

旅客

無貨輸送人員
二,四五一,七〇〇人

自九月四日
至九月十日

五割引輸送人員
九六,四〇二人

自九月十四日
至九月二十日

貨物

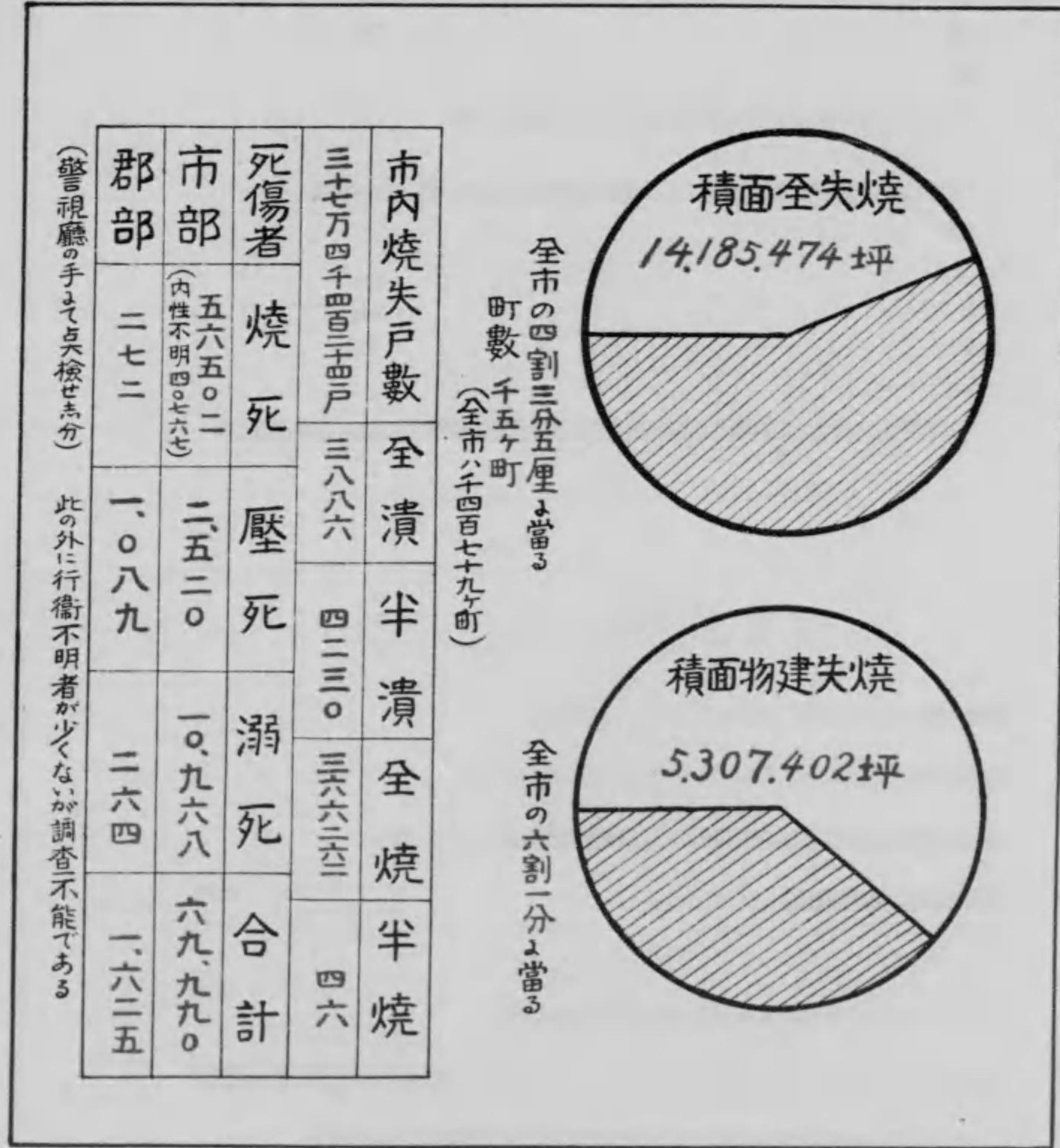
無貨輸送噸數
一六九,九九三噸

五割引輸送噸數
六一五,五九三噸

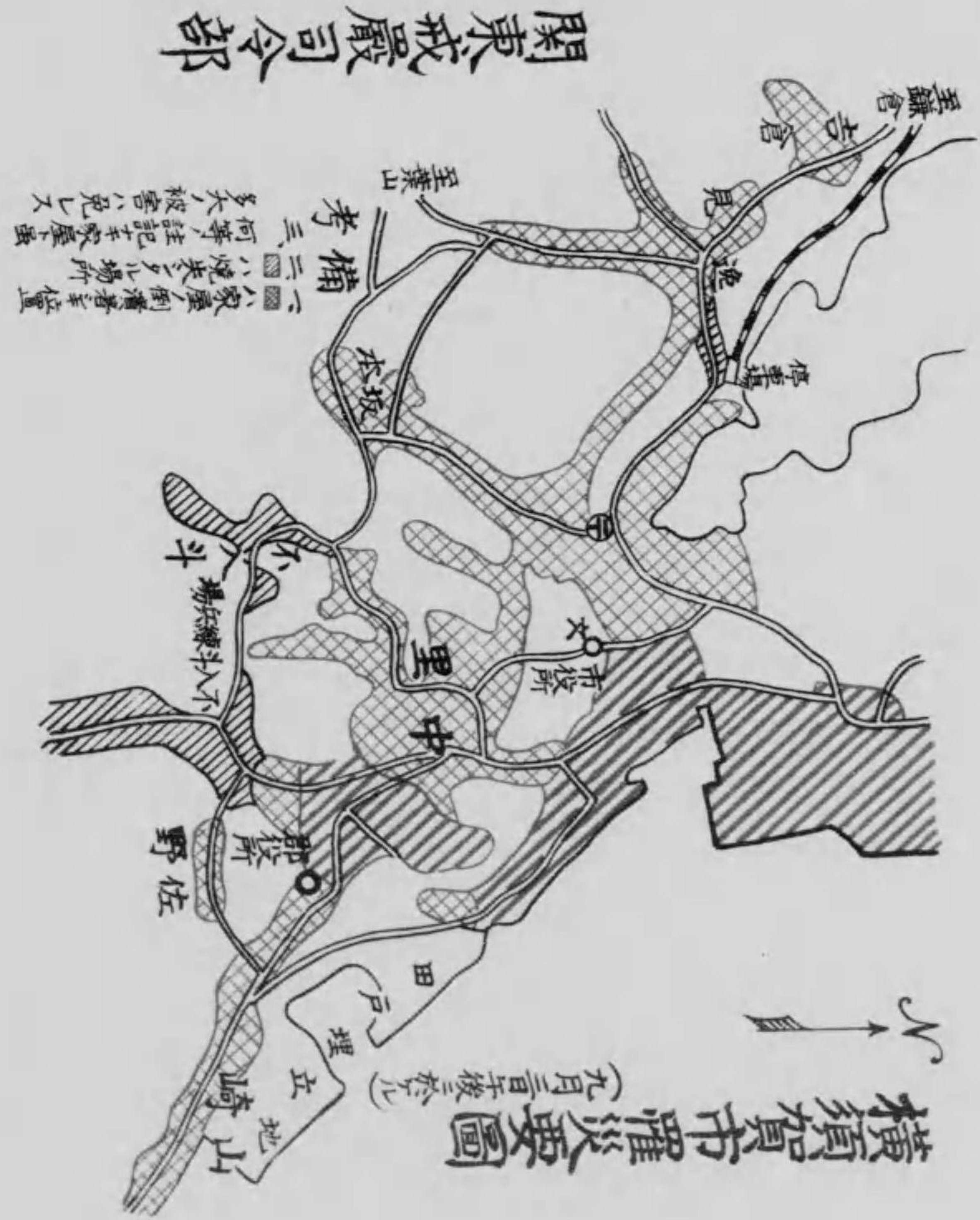
自九月三日
至十月三十日

—(省 道 鐵)—

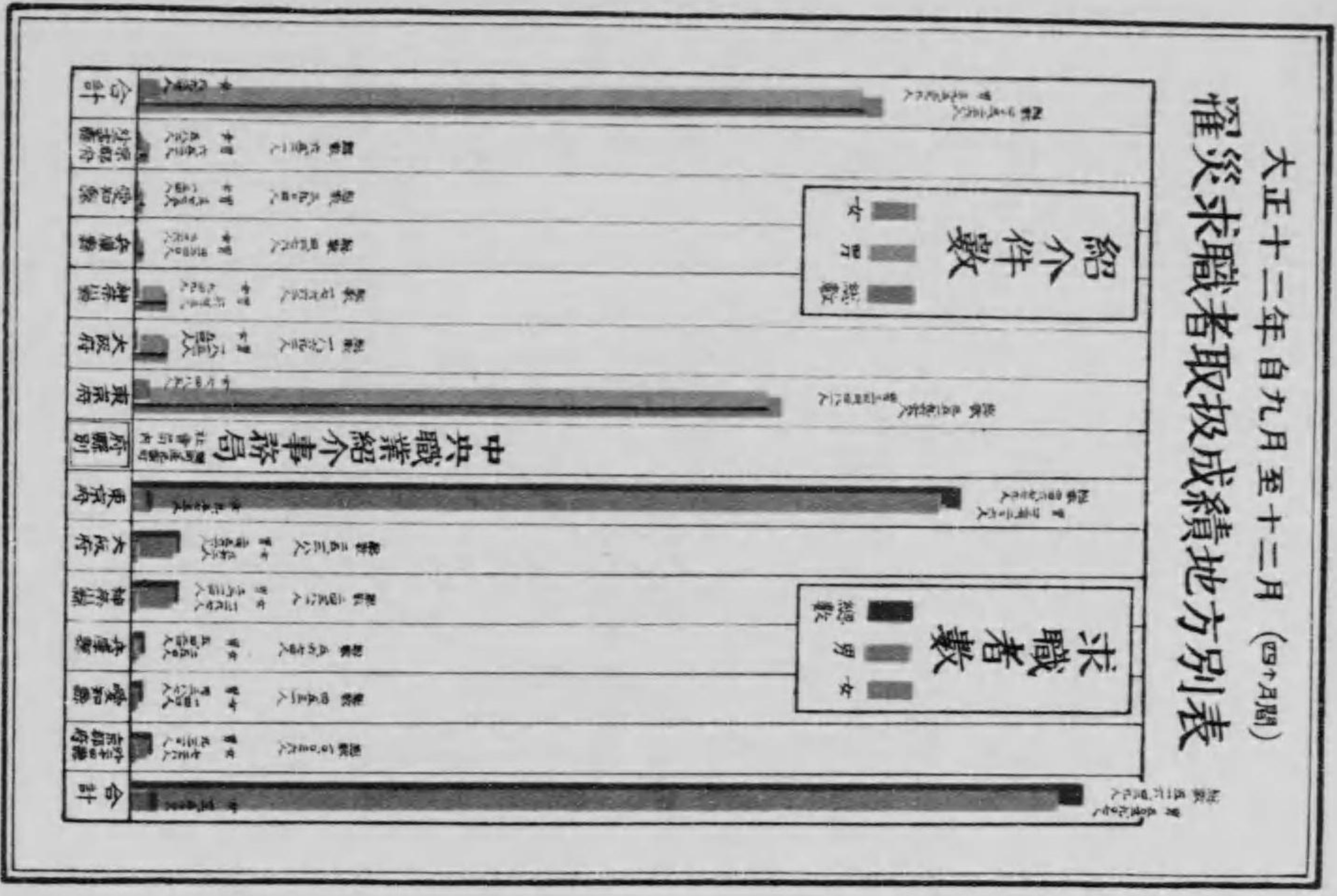
災 罹 の 京 東



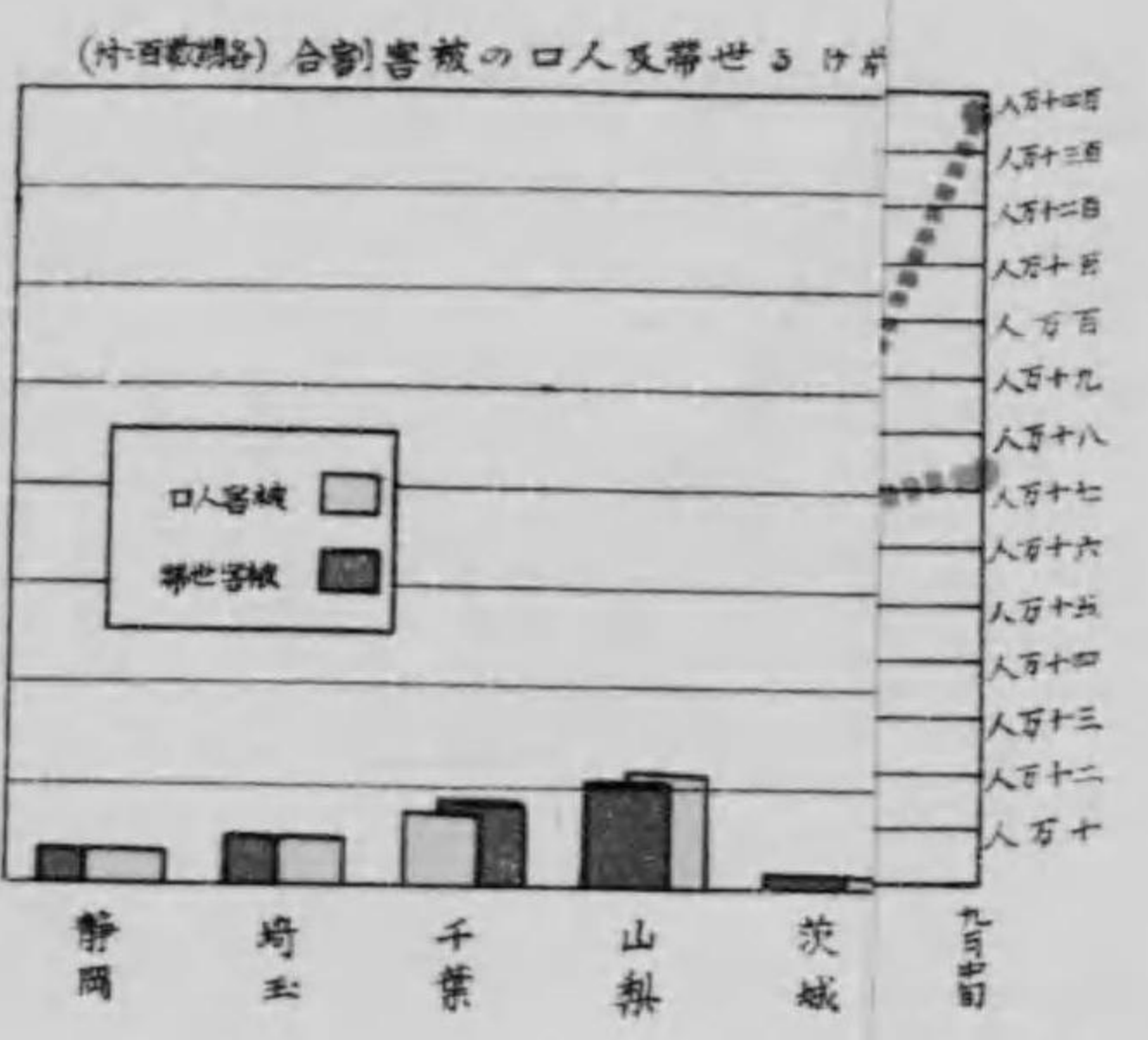
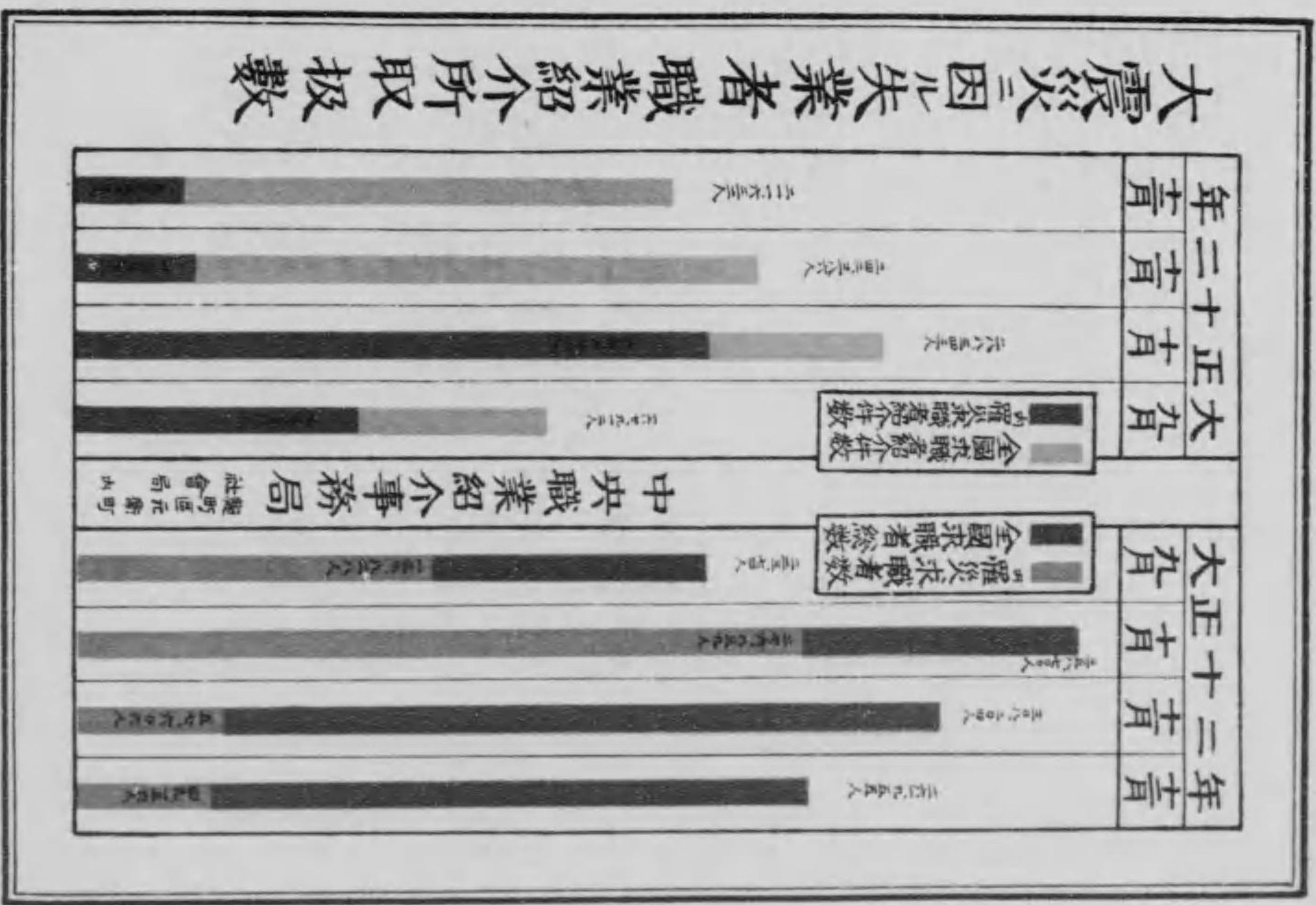
—(社報新業商外中)—



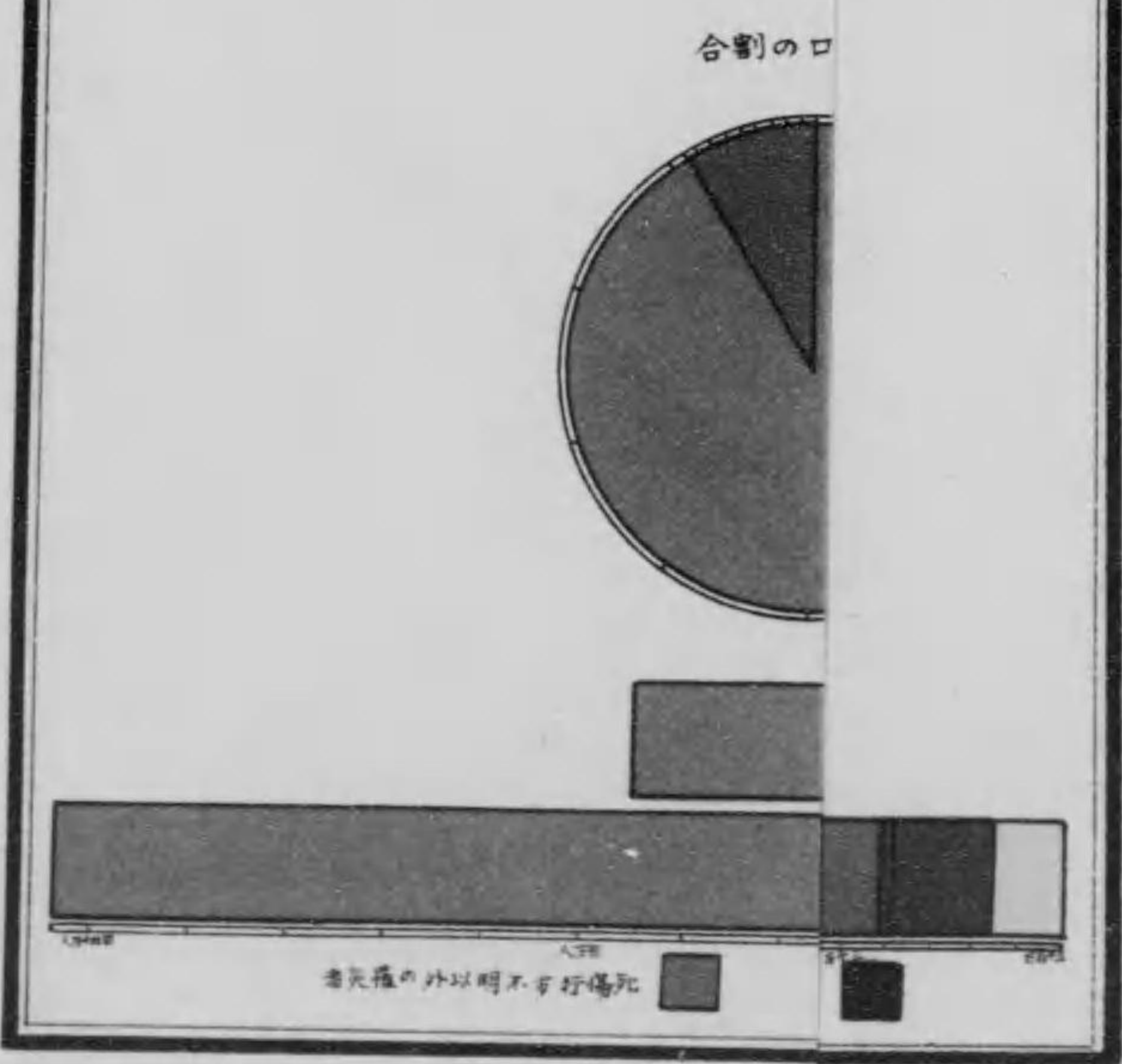
大正十二年自九月至十二月 (四ヶ月間)
罹災求職者取扱成績地方別表



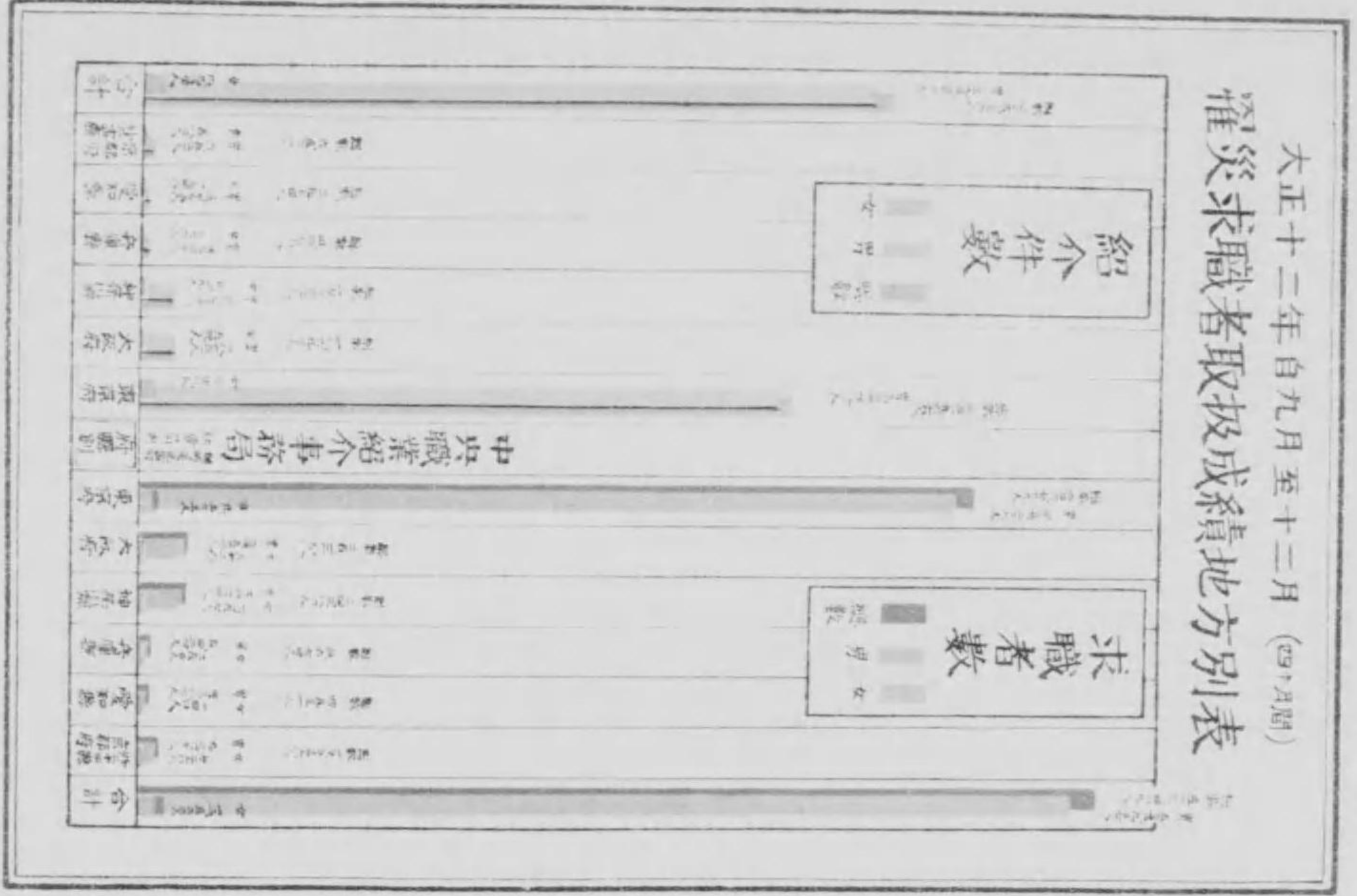
大震災に因り失業者職業紹介所取扱数



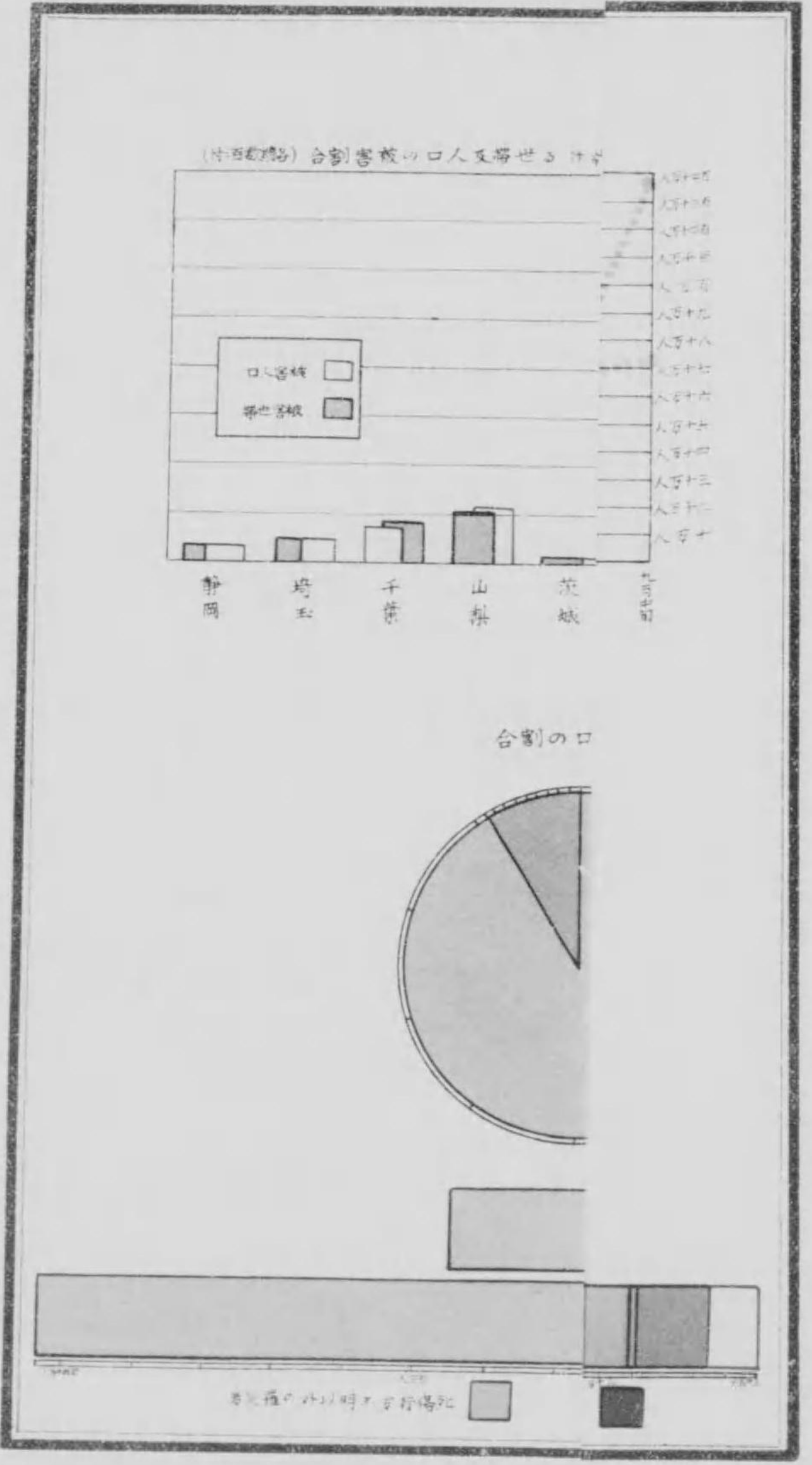
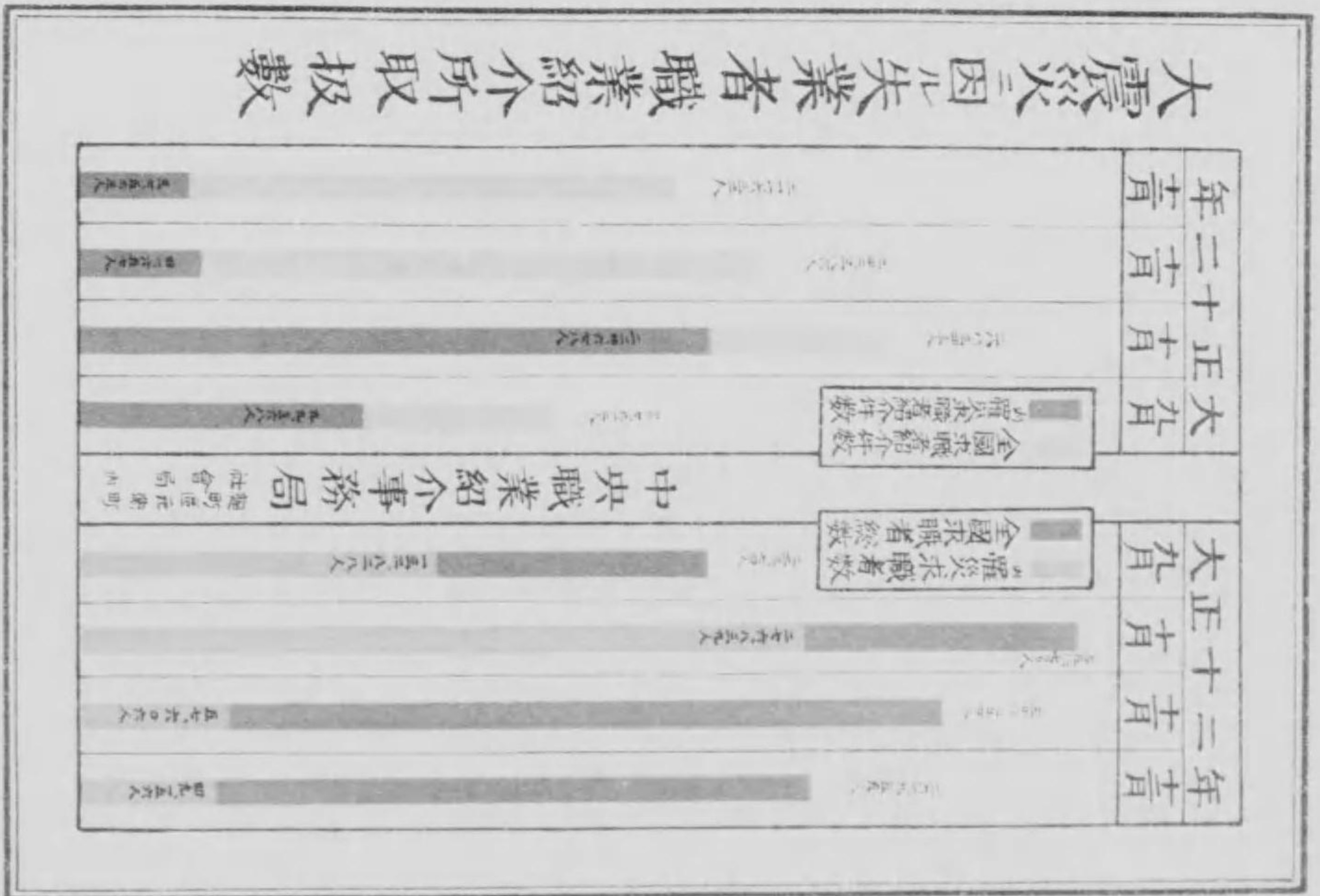
合割の口



大正十二年自九月至十二月 (四ヶ月)
罹災求職者取扱成績地方別表

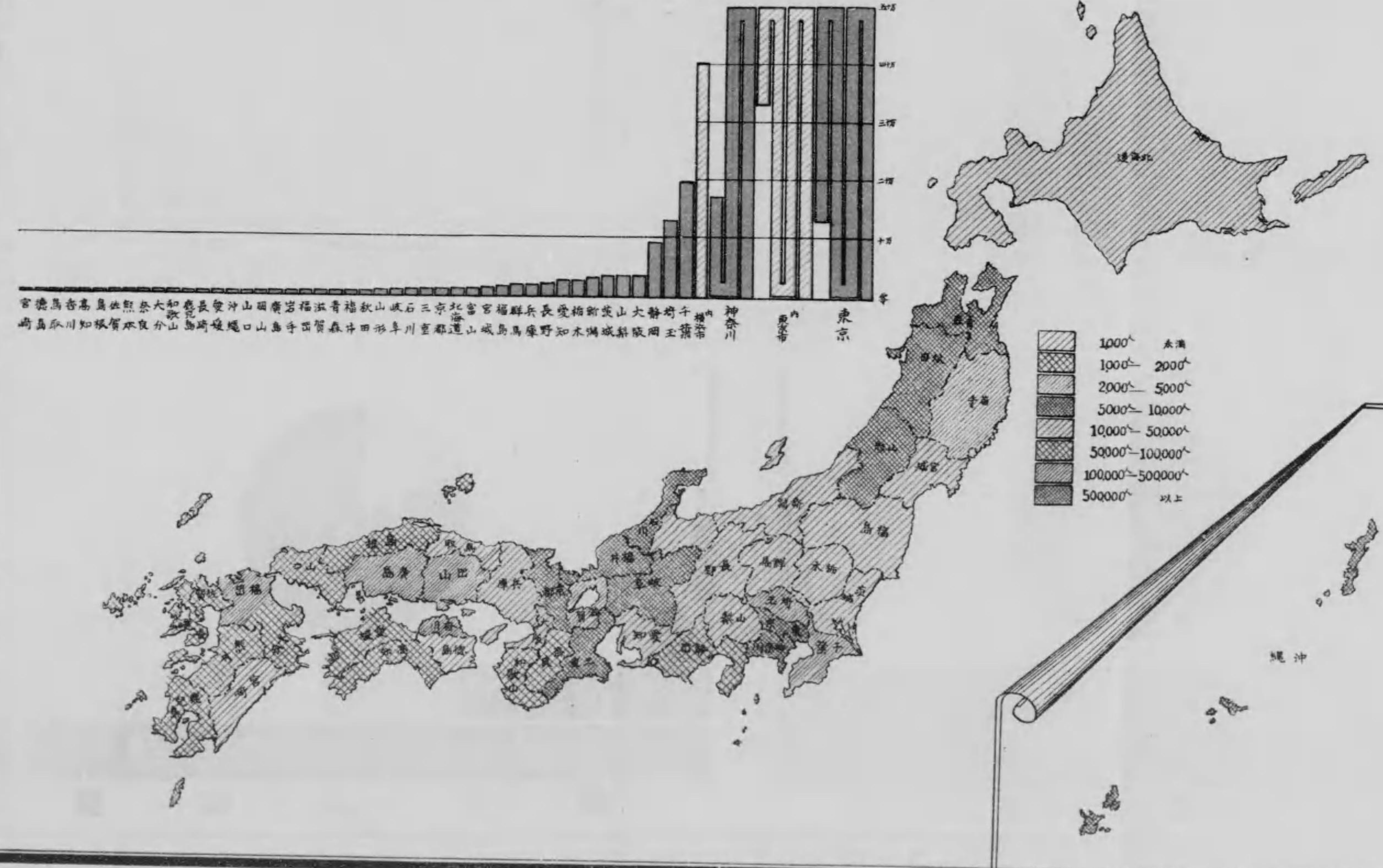


大震災に因り失業者職業紹介所取扱数



震災罹災者散在狀況

大正二十一年十一月十五日現在



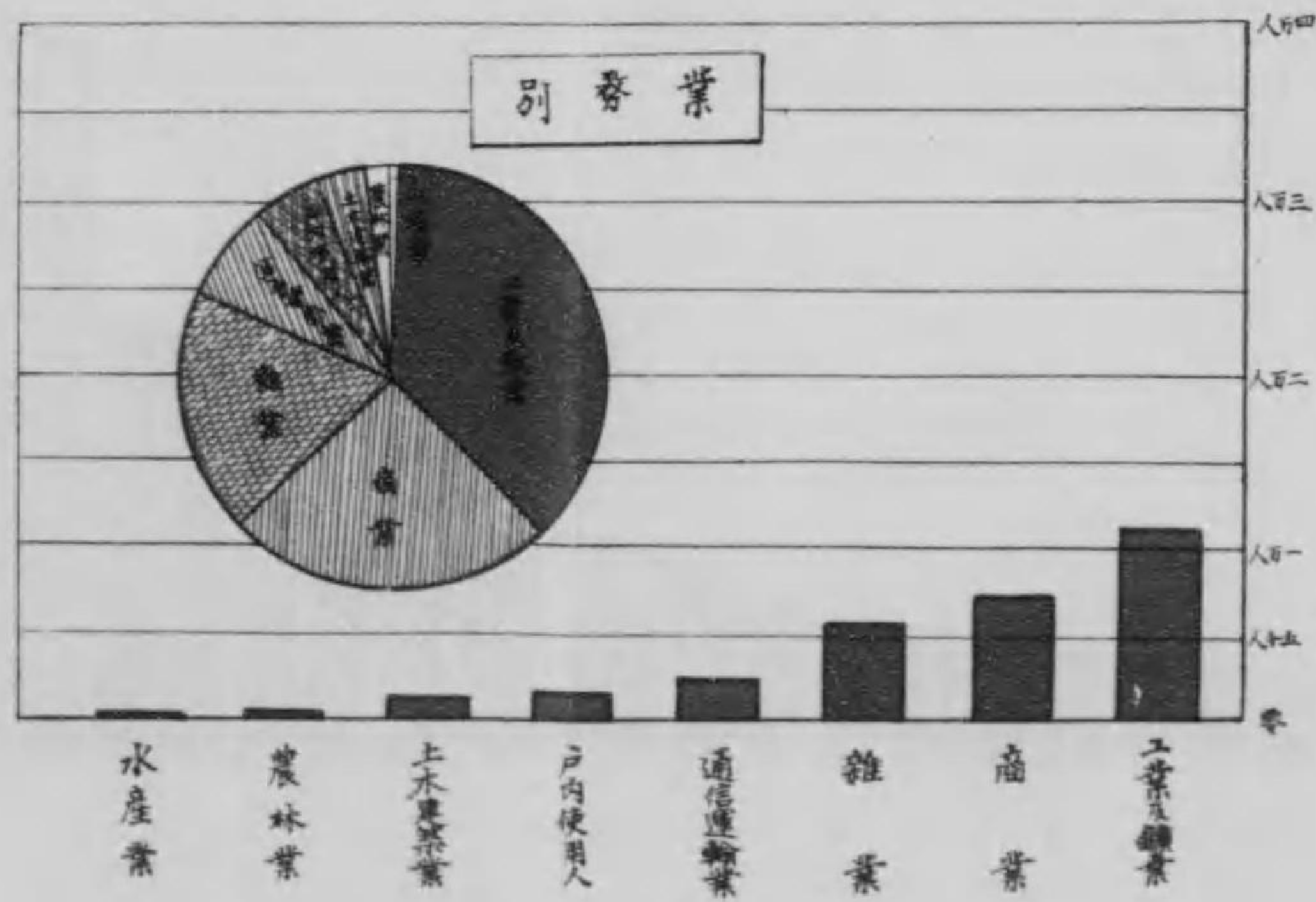
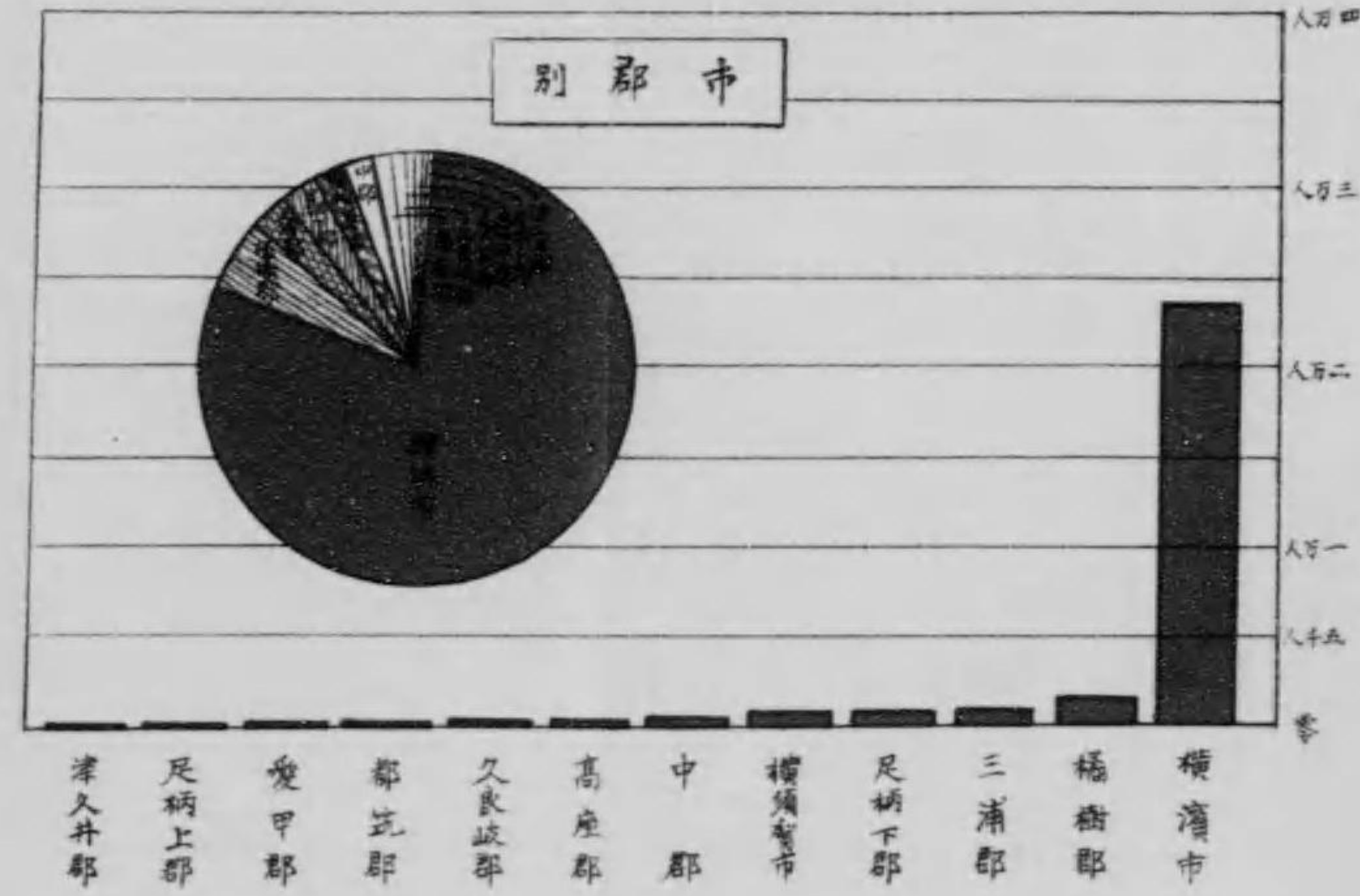
1000 ^人	未満
1000 ^人 - 2000 ^人	
2000 ^人 - 5000 ^人	
5000 ^人 - 10000 ^人	
10000 ^人 - 50000 ^人	
50000 ^人 - 100000 ^人	
100000 ^人 - 500000 ^人	
500000 ^人 以上	

内務省社会局

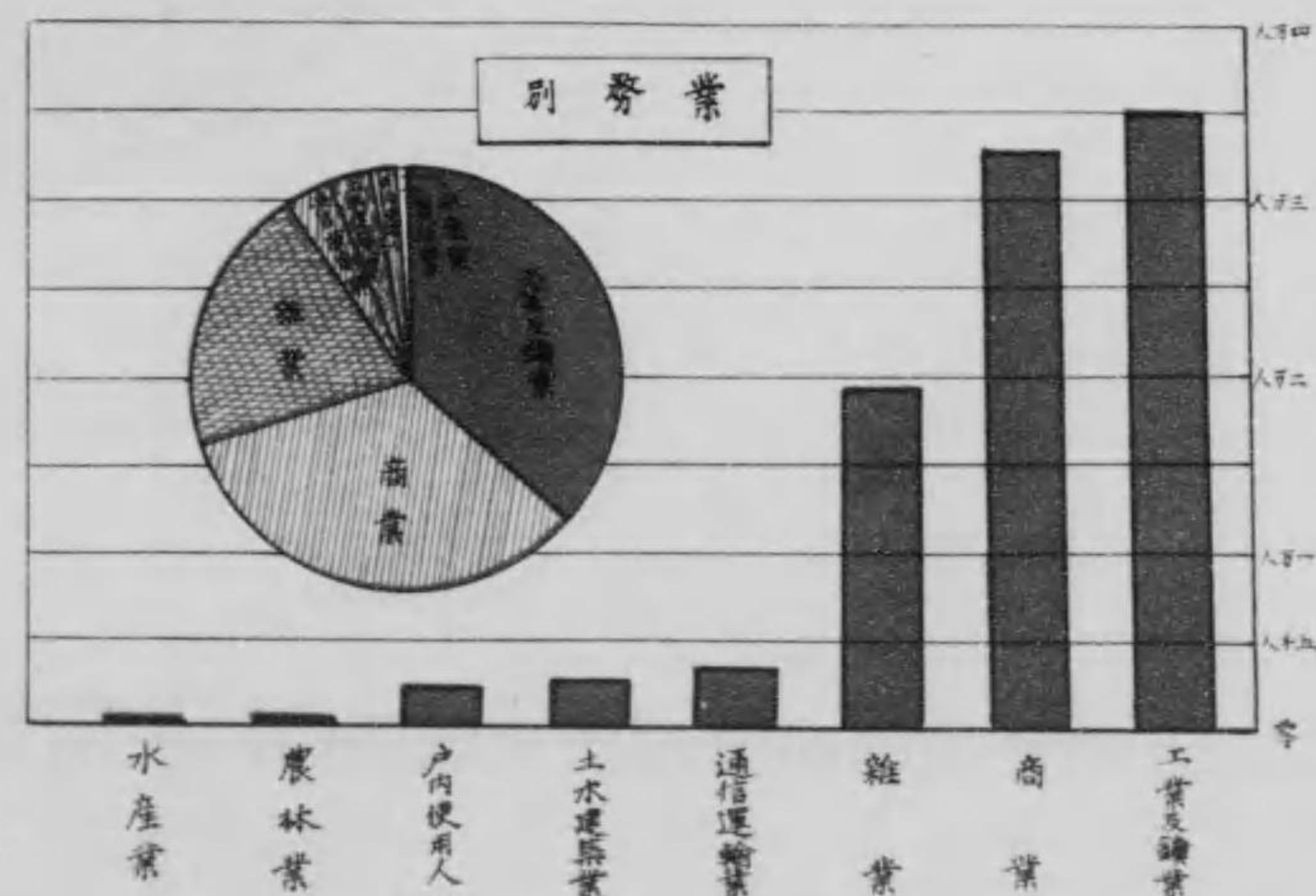
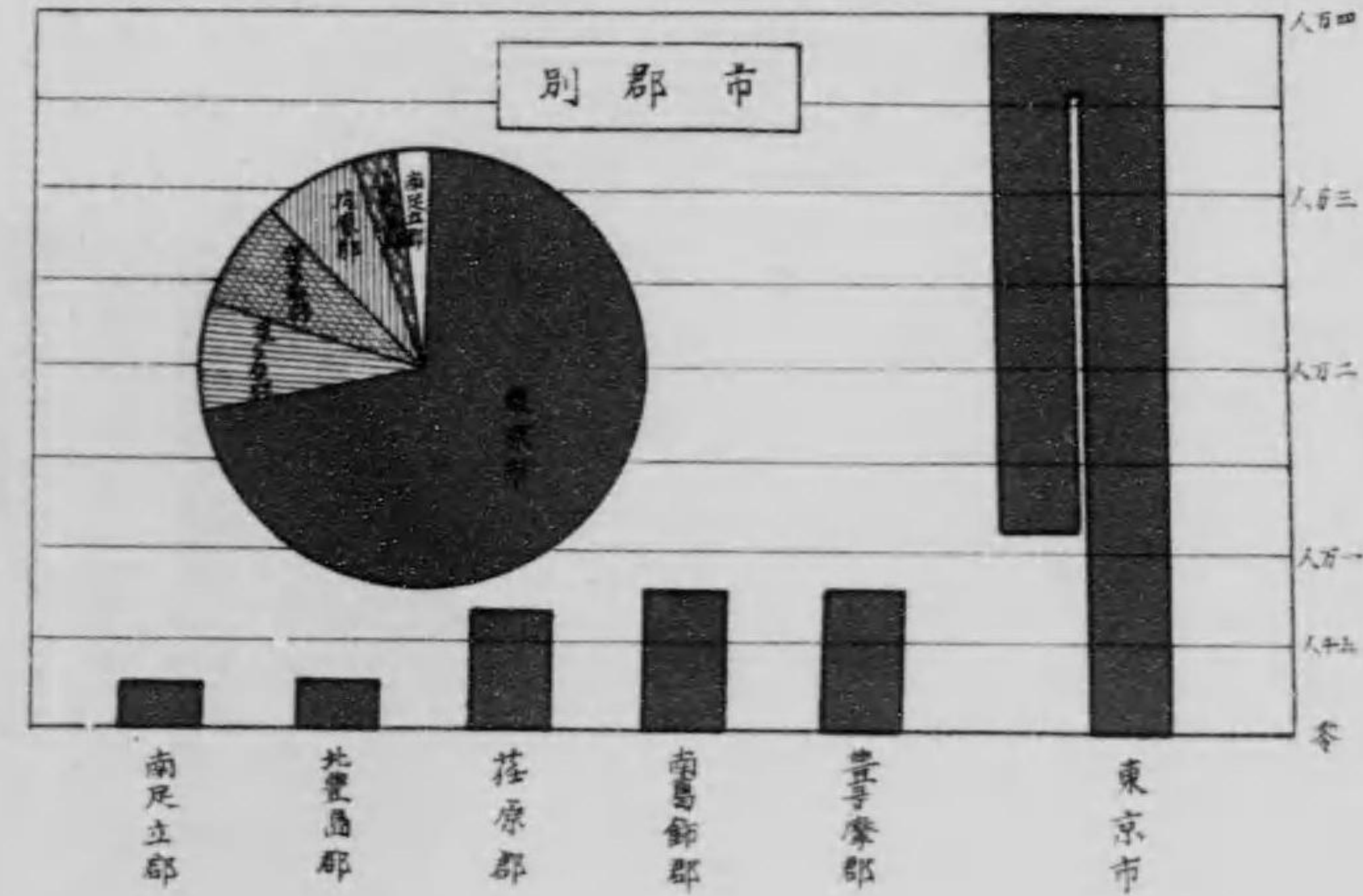
者業失る因に災震

在現日五十月一十年二十六年

川 奈 神



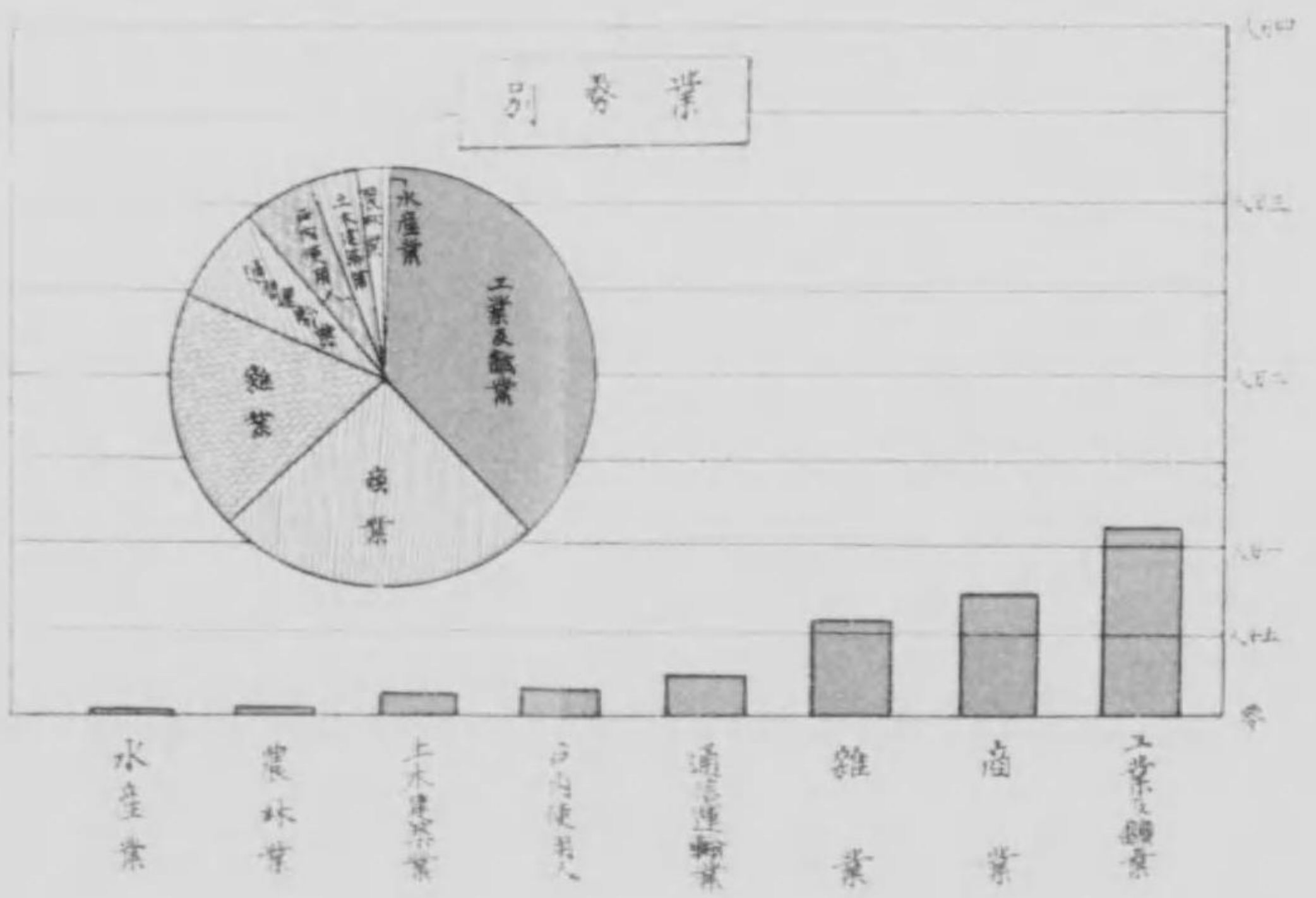
京 東



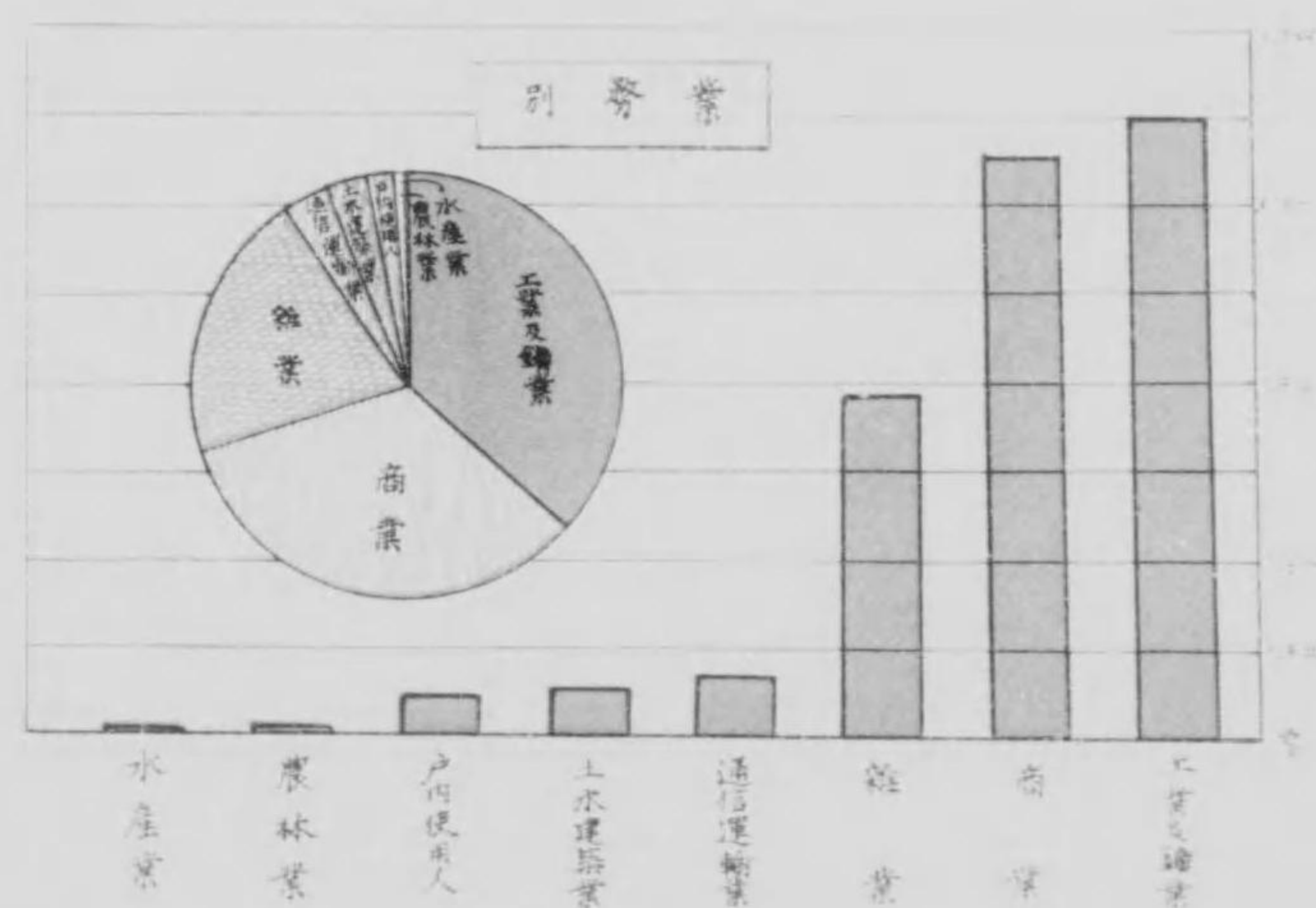
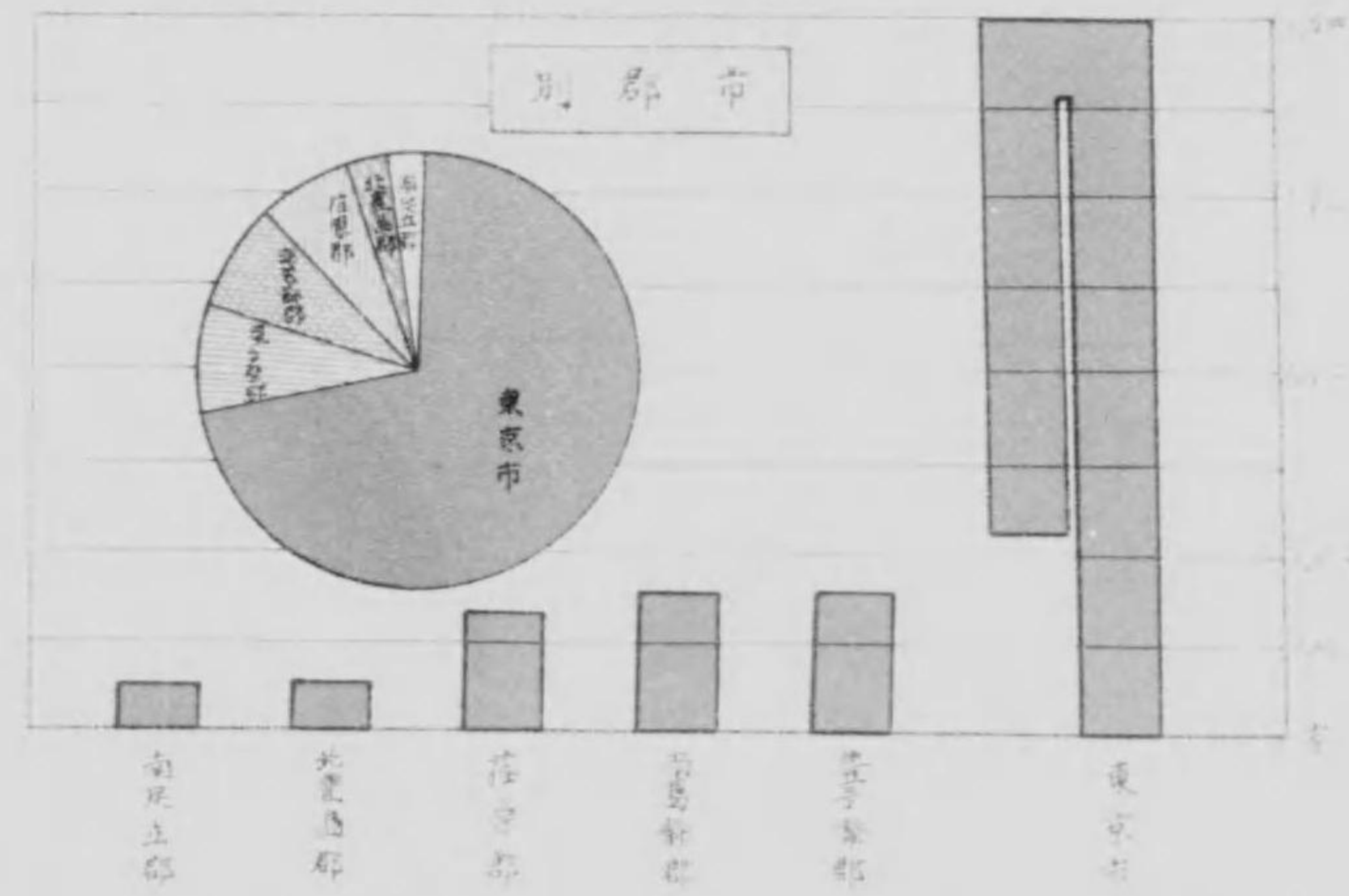
者業失る因に災震

在現日五十月一十年二十公大

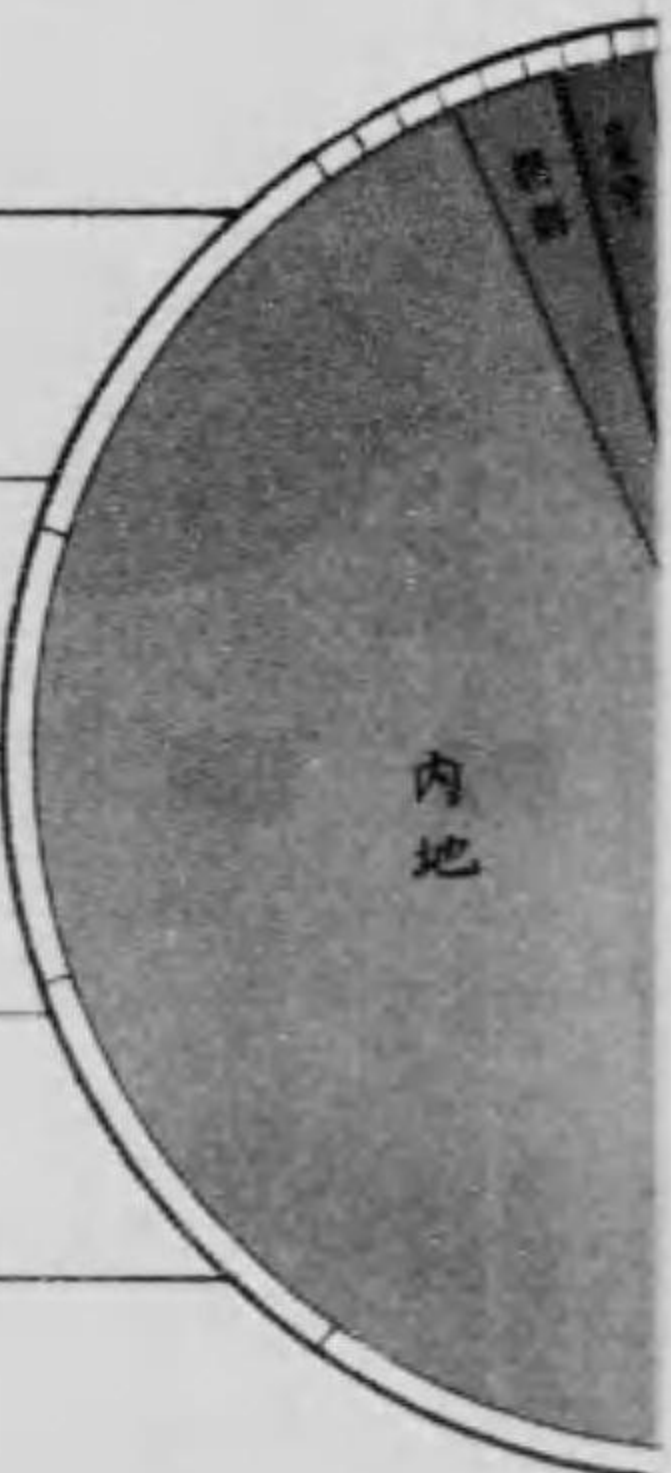
川 奈 神



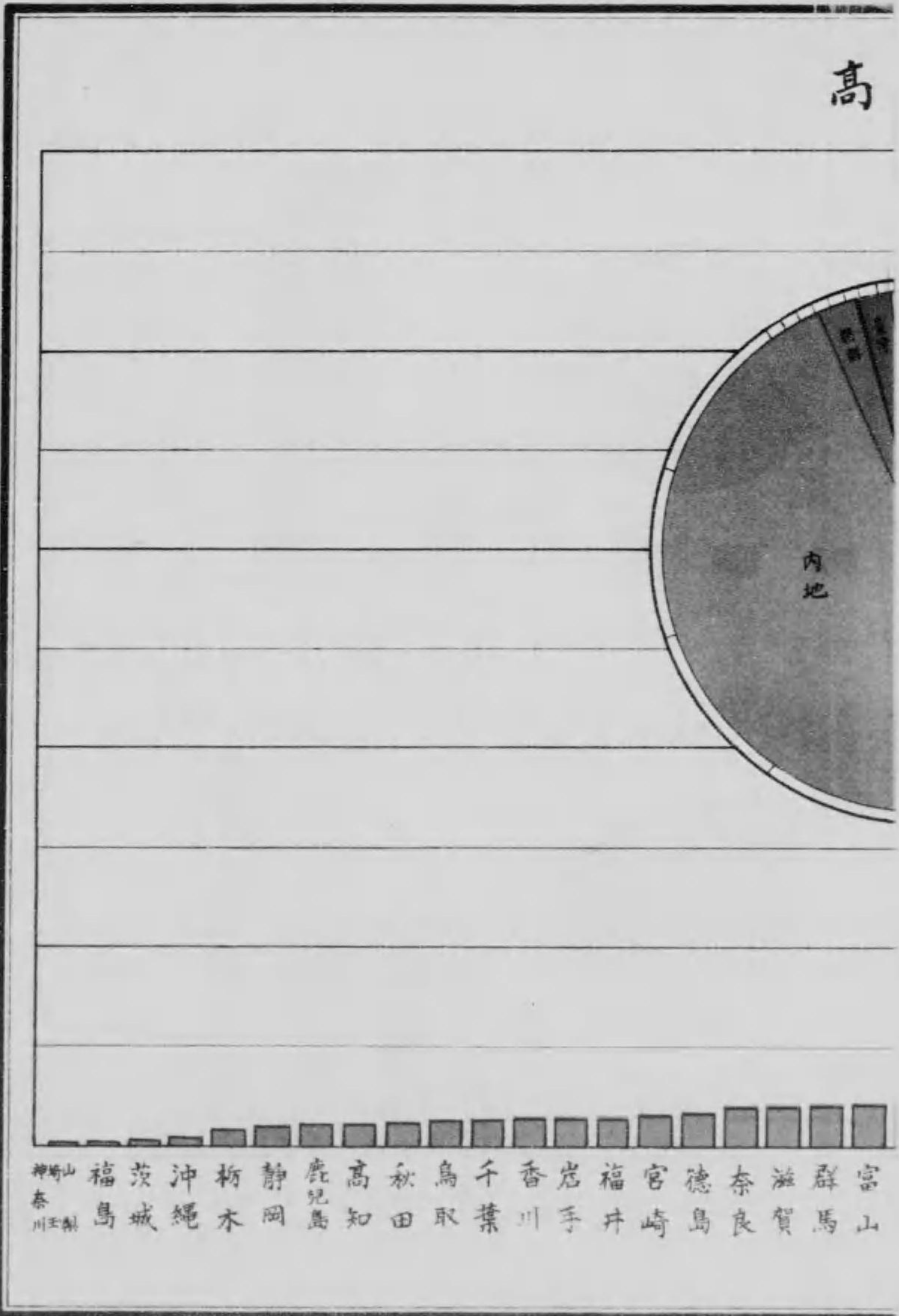
京 東



高

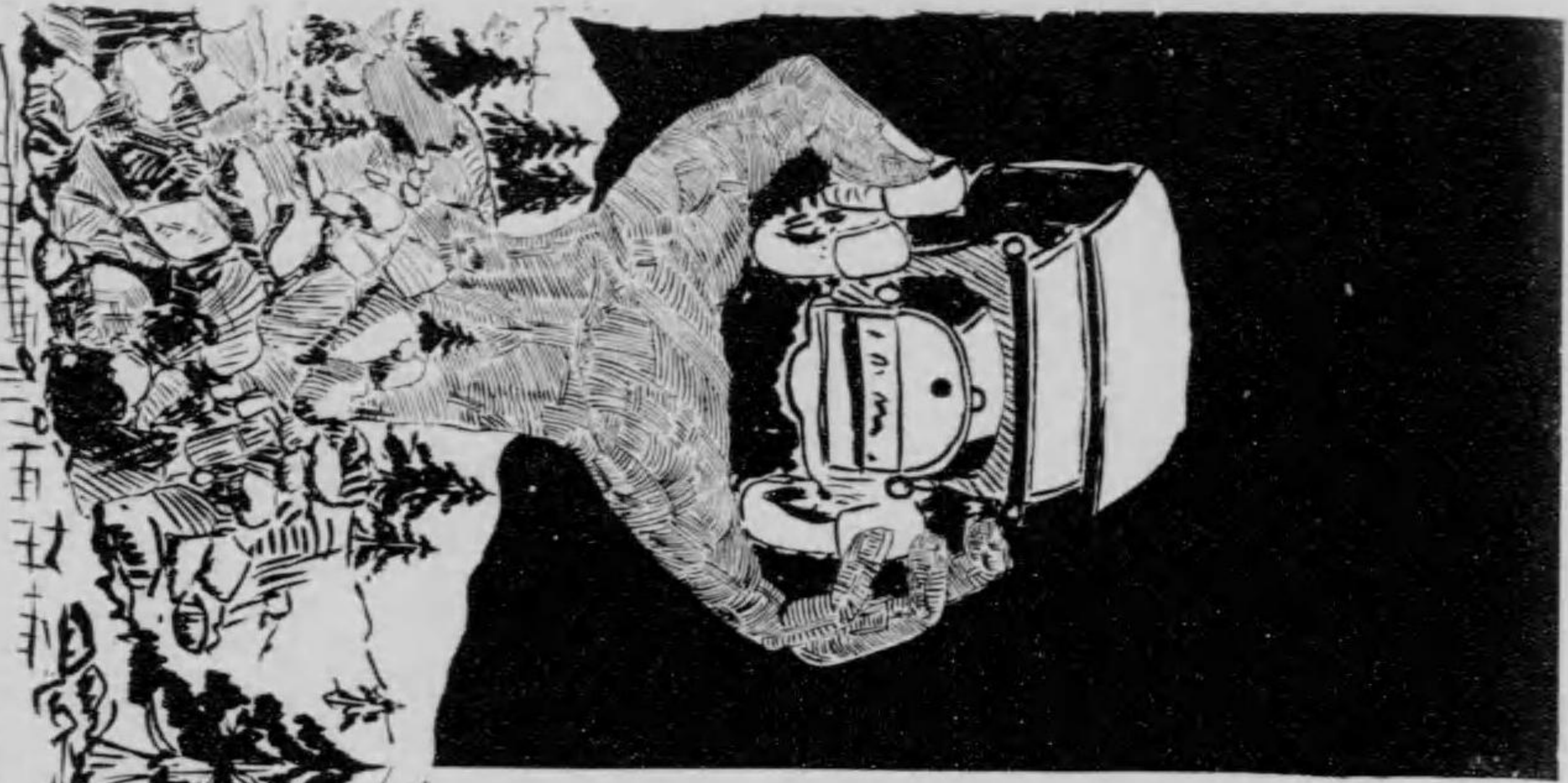


宮山 群馬 滋賀 奈良 徳島 宮崎 福井 岩手 香川 千葉 鳥取 秋田 高知 鹿兒島 静岡 新潟 沖繩 茨城 福島 山形



局

—警視廳交通課—



震災にともなふ焼失車輦數

自家用二六
營業用三二計五九

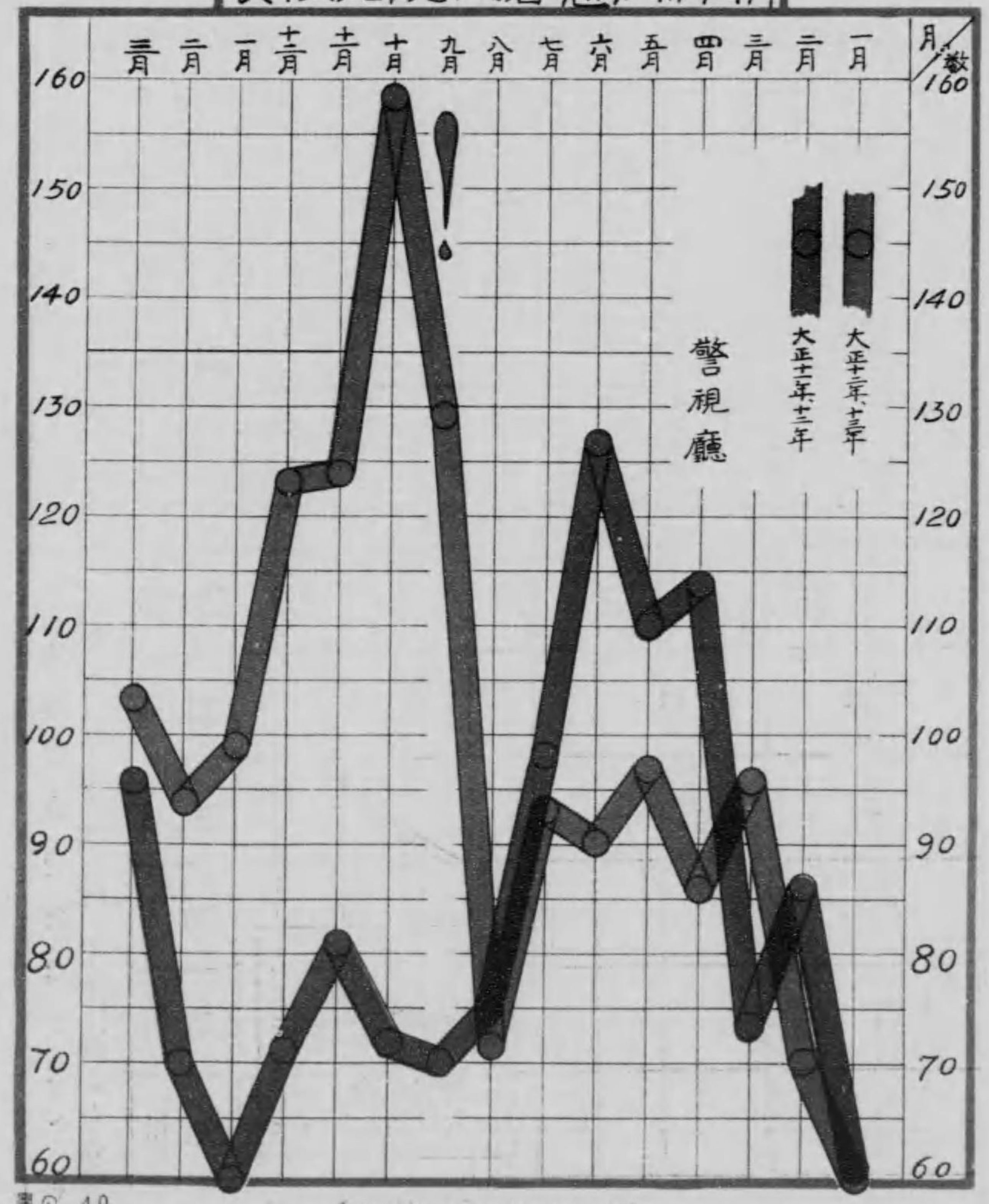
震災にともなふ焼失車輦數調査報告

(25125)



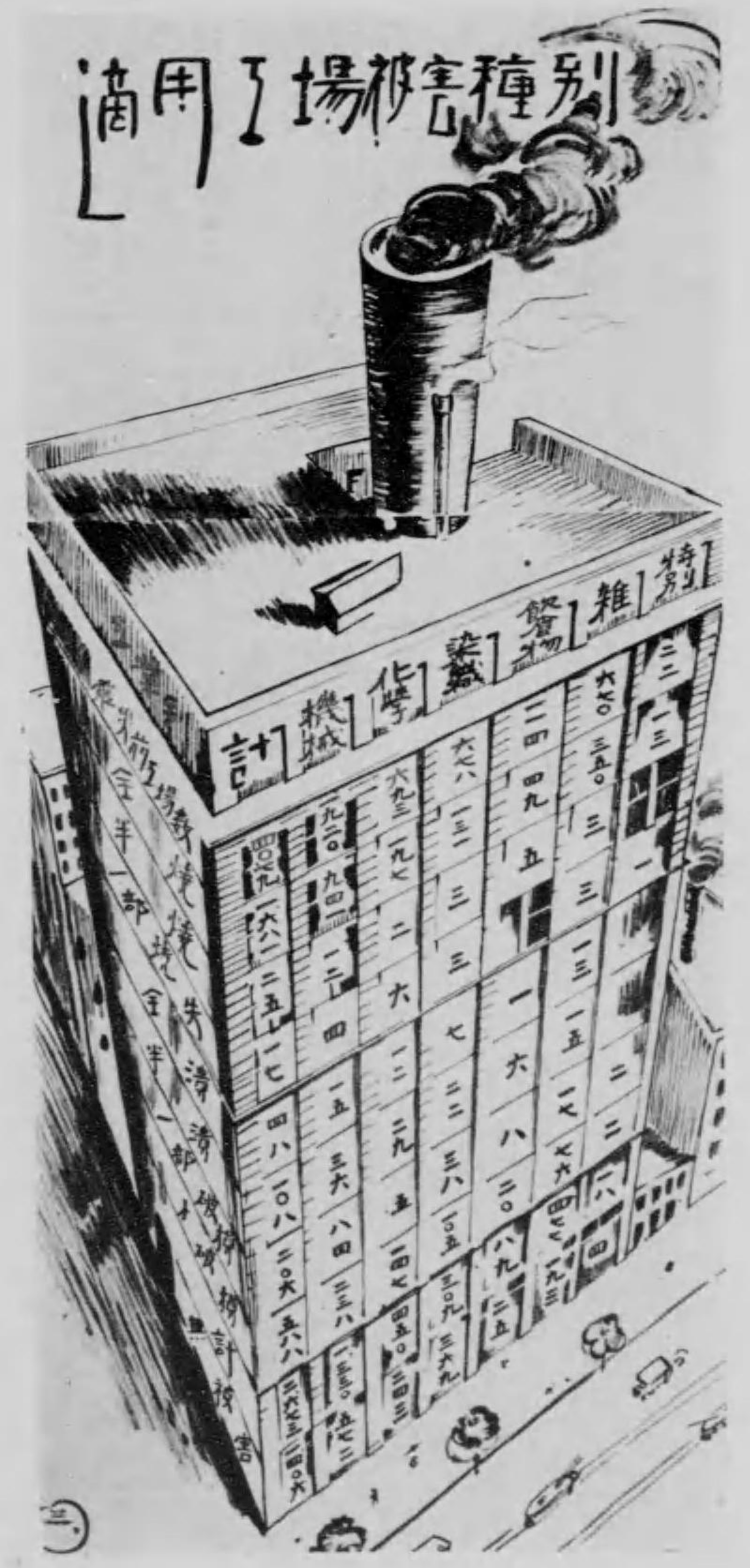
—警視廳工場課—

震災前後
精神病患者入院比較表



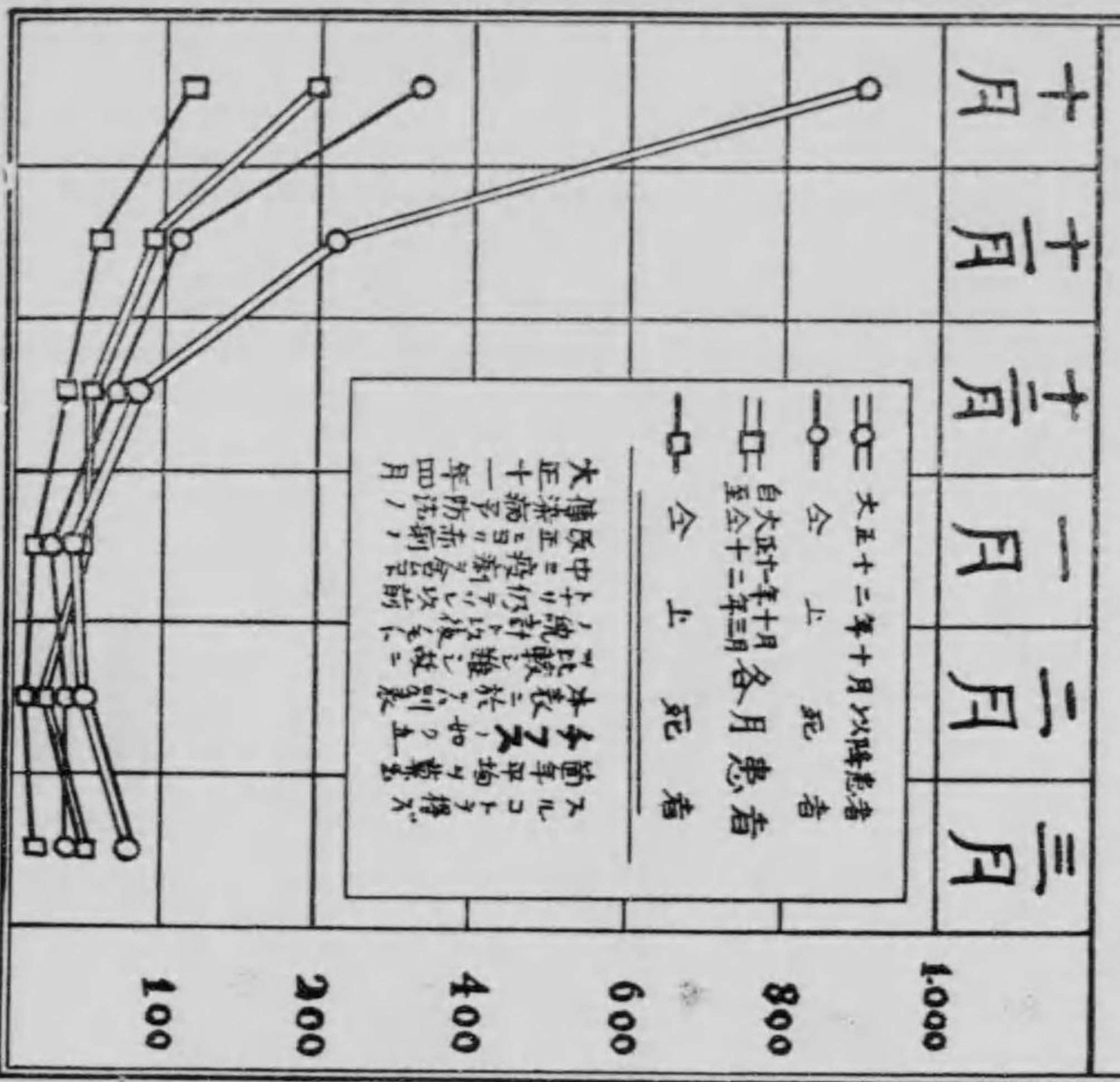
—(警視廳衛生部)—

圖の 40



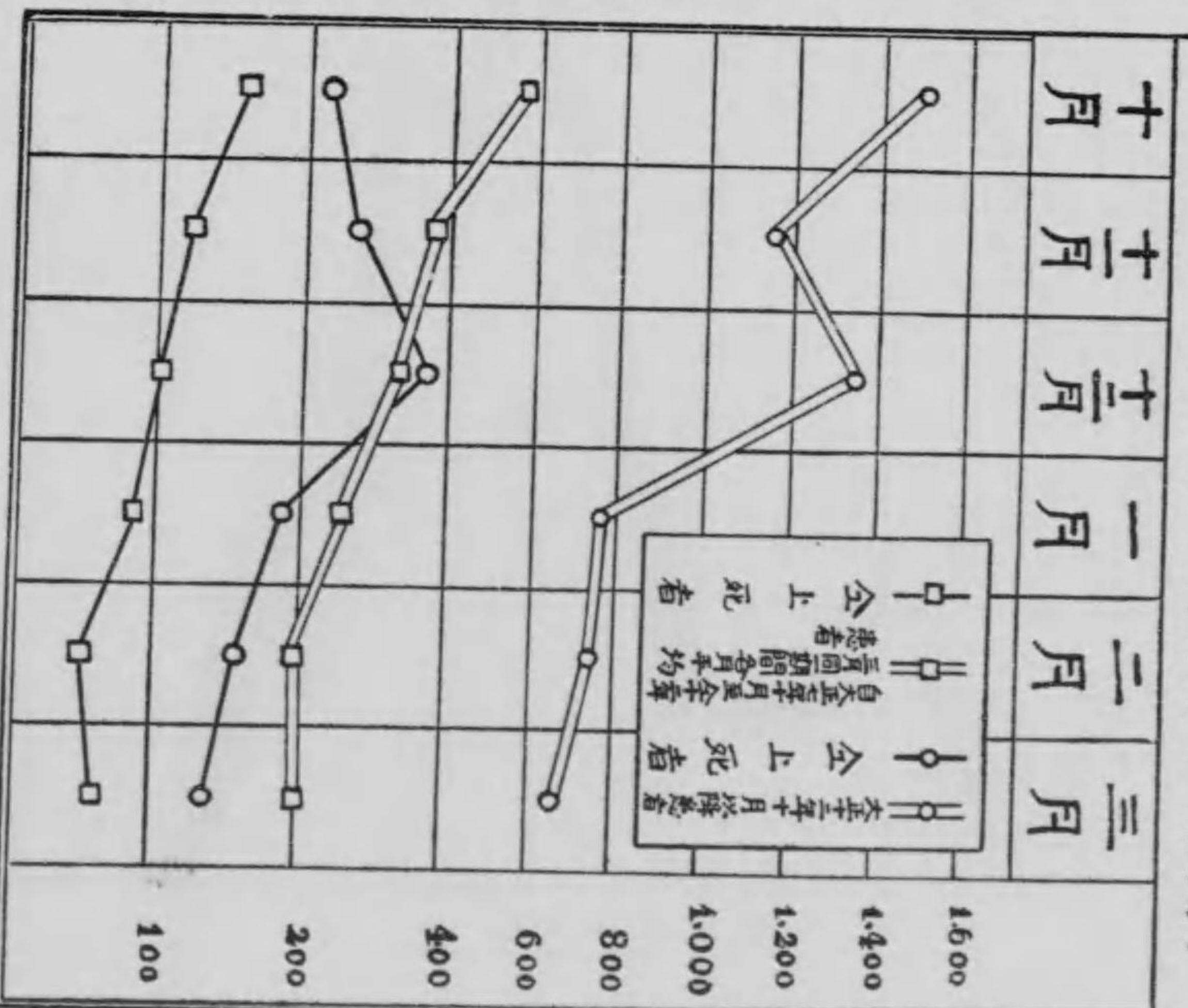
—(警視廳工場課)—

赤痢(疫痢)患者及死亡者比較表



一(局生衛省務内)一

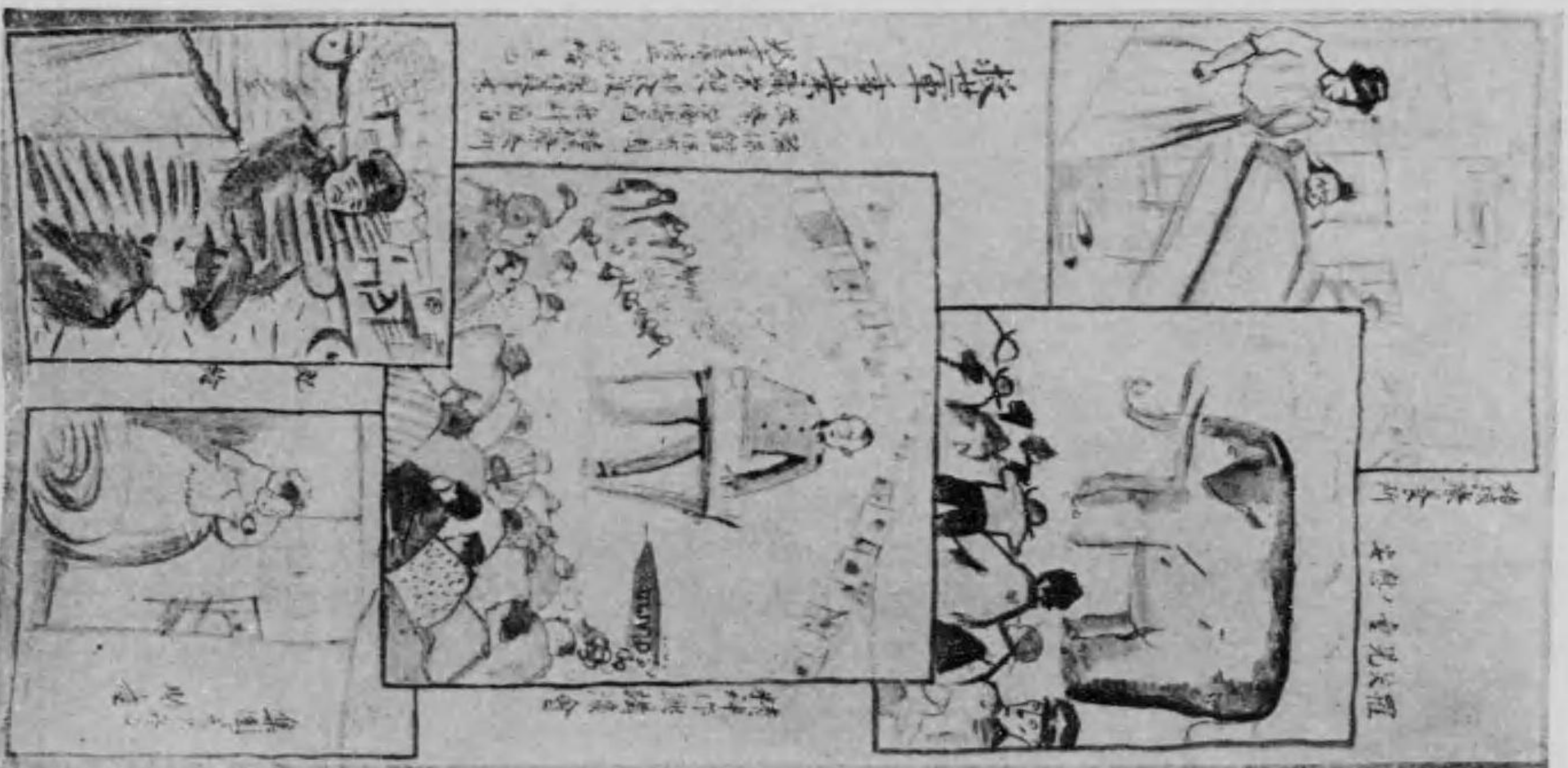
東京府 従前及死亡者比較表



一(局生衛省務内)一

救世軍日本管では結核療養所、罹災児童慰安、精神作興講演會、集團ダンスに於ける助産、物品配給等にとつてあつた。

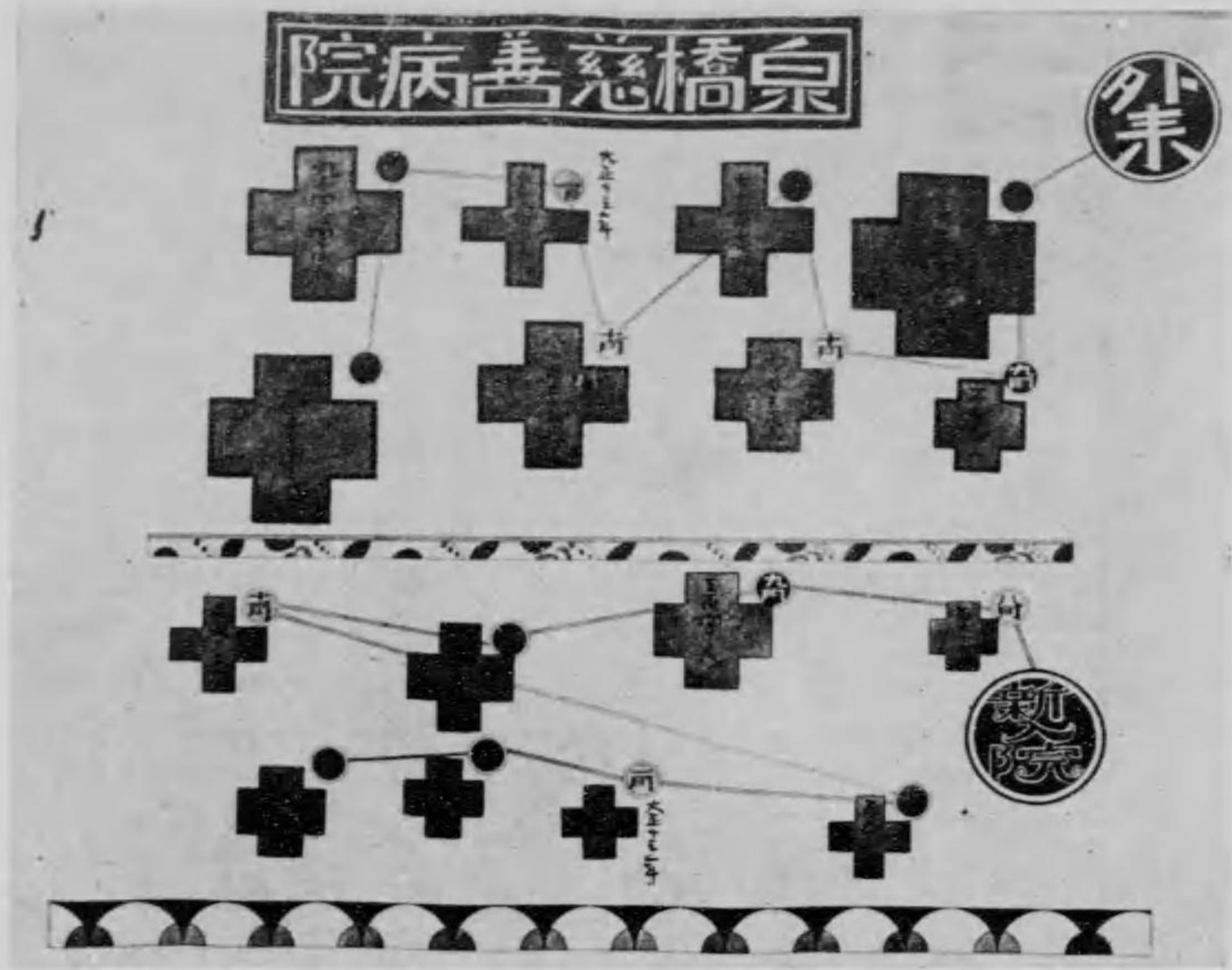
一救世軍日本管一



表者患扱取班療診各内市京東

区別	九	十	十一	十二	一月	二月	三月	四月	五月	六月	七月	八月	九月	十月	十一月	十二月	合計
麹町区	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	1000
神田区	12	18	22	28	32	38	42	48	52	58	62	68	72	78	82	90	1100
日本橋区	8	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	40	42	45	600
芝罘区	5	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	35	38	40	450
赤坂区	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	30	32	350
麻布区	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	30	300
四谷区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	250
小石川区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	200
下谷区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	150
浅草区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	100
本所区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	50
深川区	1	2	3	4	5	6	7	8	10	12	15	18	20	22	25	28	20
合計	10	15	20	25	30	35	40	45	50	55	60	65	70	75	80	85	5000

東京市役所衛生課

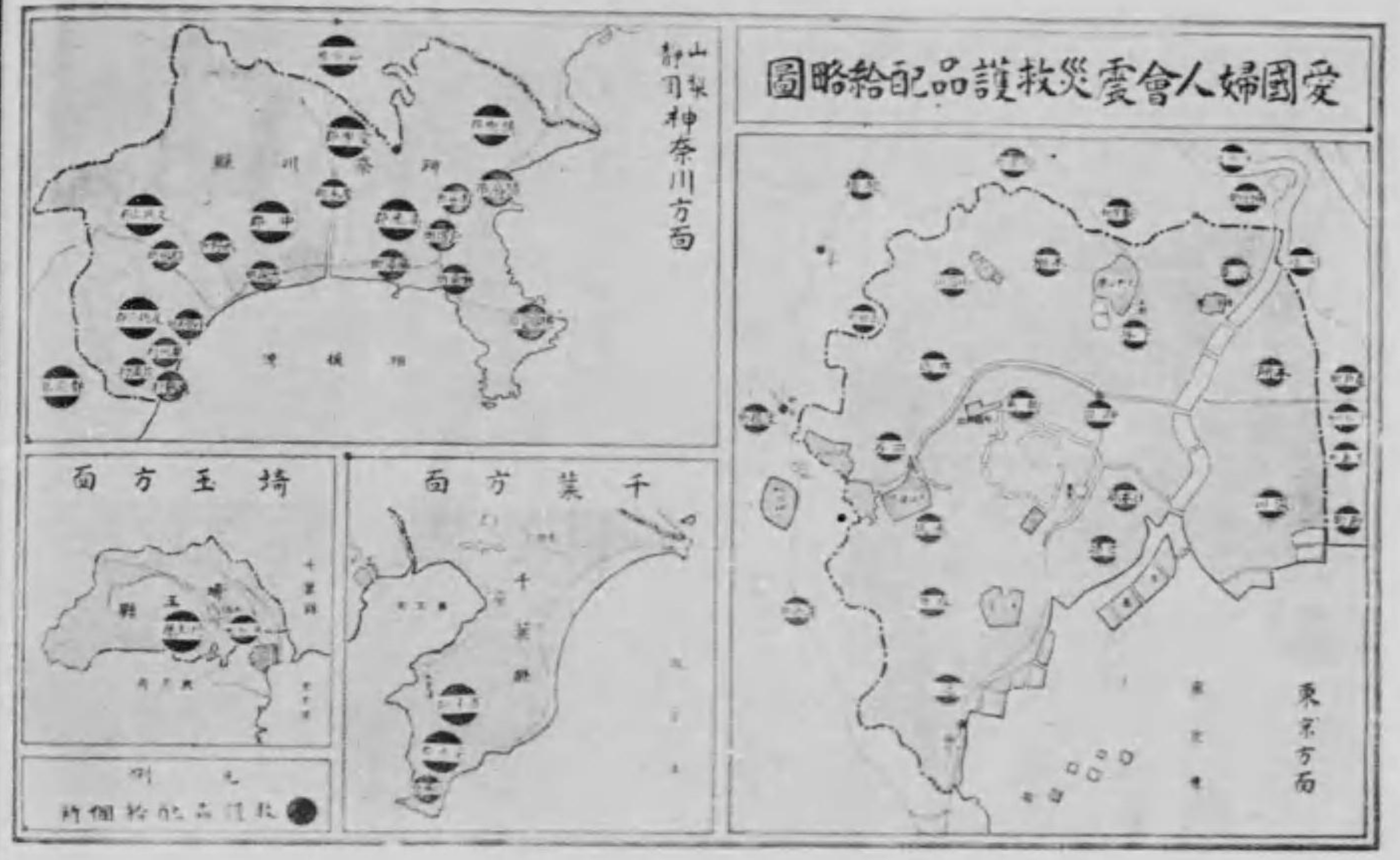


—(院病善慈橋泉)—

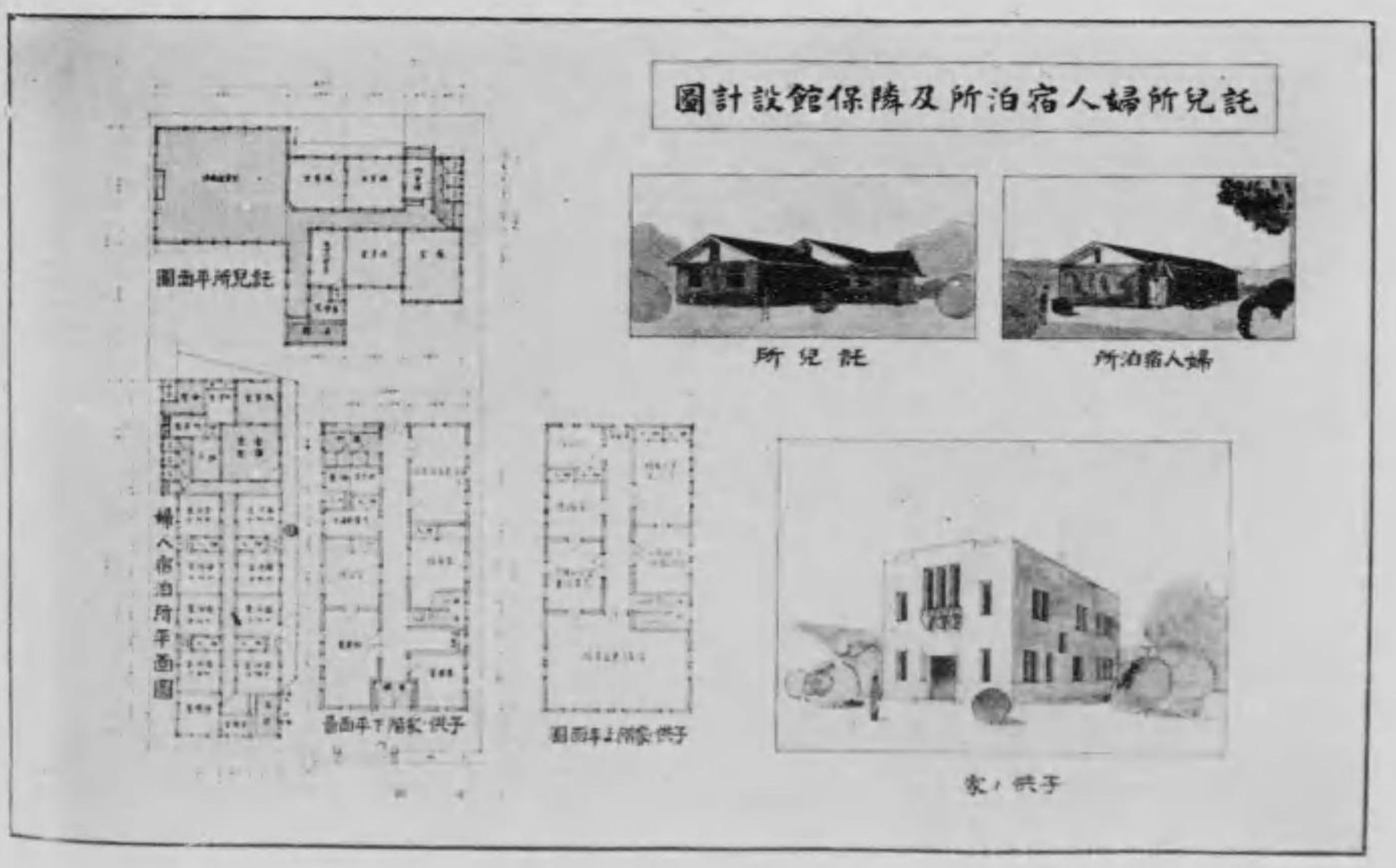
◆白色小卵——一日——蛆(白色の小蟲に成長す、徑一分長五分位)——七日——蛹(俵形徑一分五厘位) 蛹五月乃至七月——蠅

一回百二十個産卵す(雄雌半數短) 一夏の中に十三回代々替をなす、其總數は 72,559,411,200,000百個

(東京市衛生課)



—(會人婦國愛)—



上圖の説明

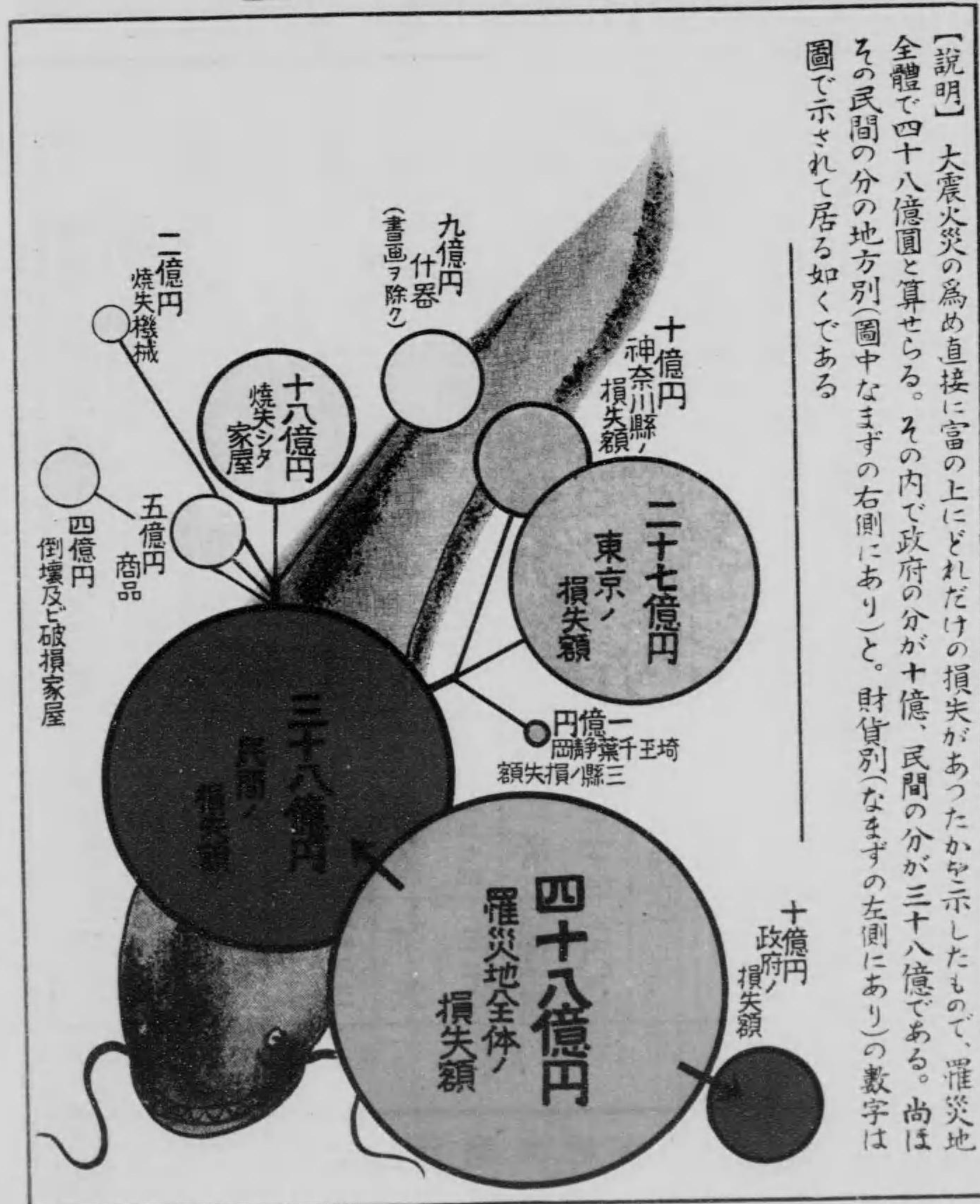
明治四十二年三月開院以來大正十三年三月まで滿十五ヶ年間に外來患者二百三十三萬一千七百四十人、施療延人員五百六萬一千七十五人、内新來二十九萬七千四百六十六人、再來二百三萬四千二百七十四人、入院患者二萬二千四百四十人、延日數五十三萬九千五百二十三日が數へられる

大正十二年二月より本年三月までの外來及新入院患者の月別數は舊慣の如くであるが、十二年九月中に外來患者の減少したのは震災のため市民が郡部其他遠方に避難したものが多く、殊に當時は交通不便であつたが爲めわざ／＼和泉町の同院まで足を運ぶにくかつたものによる、一方入院患者の増加は震災の傷病者を收容したる爲めである、元來同病院の入院患者に對しては七月頃より新入院患者を手控へ極力退院させる方針を取り、九月までには過半数に減少させ、そして職員看護婦の休暇をさせるのが常であつた、處が十二年の九月は震災の結果前記の如く異例を示したのである。

蠅の増殖表

富たれば失で災震

【説明】大震火災の爲め直接に富の上にとりだけの損失があつたかを示したもので、罹災地全體で四十八億圓と算せらる。その内で政府の分が十億、民間の分が三十八億である。尚ほその民間の分の地方別(圖中なまの右側にあり)と、財貨別(なまの左側にあり)の數字は圖で示されて居る如くである

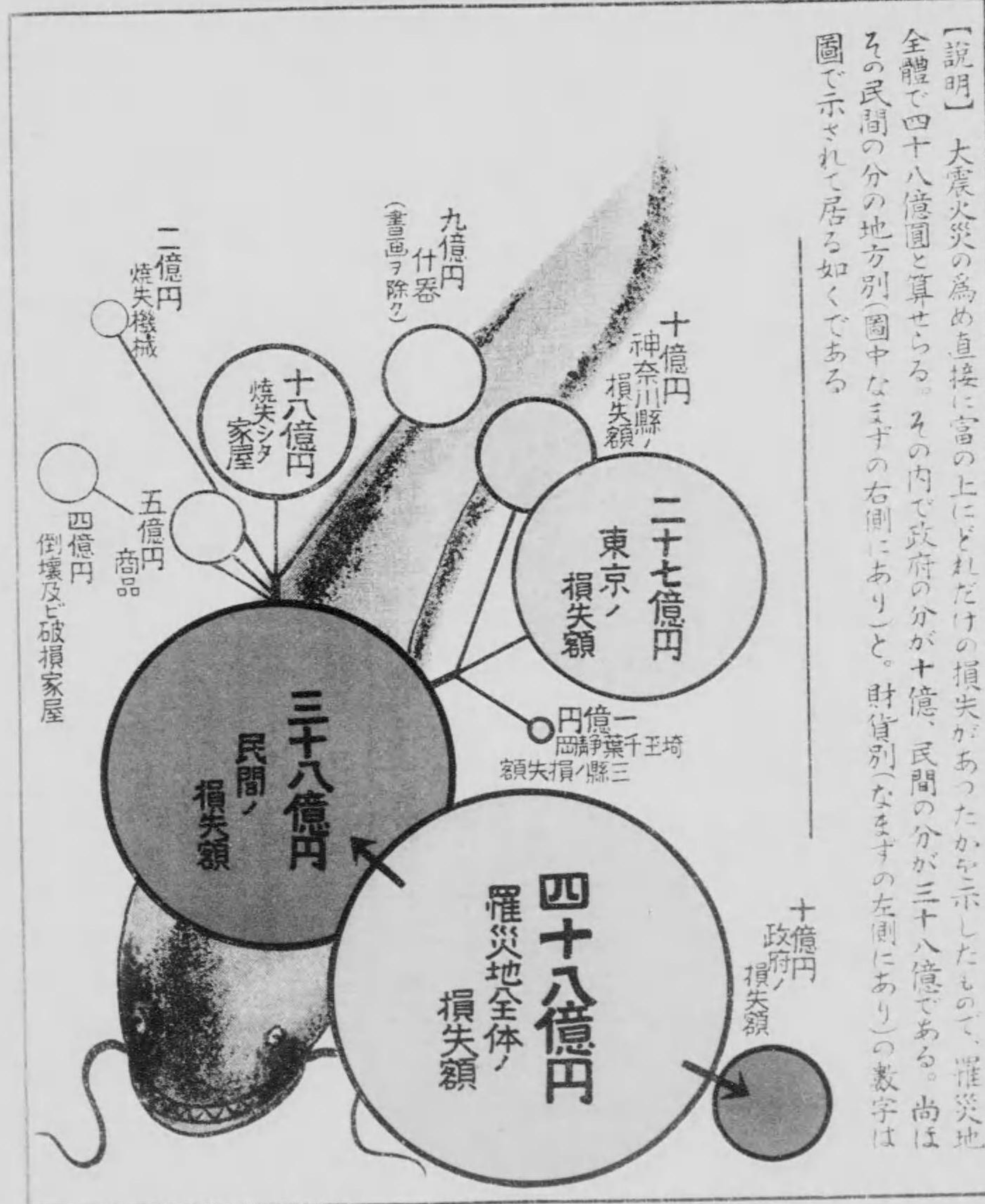


(社報新業商外中)

第二編

富たれば失で災震

〔説明〕大震災火災の爲め直接に富の上にとれだけの損失があつたかを示したもので、罹災地全體で四十八億圓と算せらる。その内で政府の分が十億、民間の分が三十八億である。尚ほその民間の分の地方別(圖中なますの右側にあり)と。財貨別(なますの左側にあり)の数字は圖で示されて居る如くである



(社報新業商外中)

第二編

帝都は如何に復舊復興しつゝあるか

復興の鐘は絶えず強い響きを傳へて、東京横濱兩市民の復興への勵みに強い力を添へてゐる。そして、かれらは復興の一日早ければ一日の利益があると應急的ながらも復興の一路へ、ひた馳せて馳せて災後僅に六ヶ月ばかりで早くも復興の第一期を終へた。すなはち東京市の罹災者（百三十三萬餘人）にして十三年二月末までに焼け跡の舊住所へバラツクを急造して復歸したものが七十二萬一千四百餘人に及んでゐる、そして縁故をたどり市内の普通民家へ身を寄せてゐるもの六万七千二百餘人、救護バラツクに收容されてゐるもの七萬一千四百餘人、その他バラツク以外の建物に集團せるものが二千百餘人、單に雨露を凌ぐに過ぎない場所に避難せるものは千餘人に過ぎないのである。

かゝる状態で、市内における製造業の復興も目覺ましいものがあるが、中にも日常必需品の生産はほとんど災前の状態に復舊したものとさへあり、特に遅れたものとしては、蒲團、蚊帳、理科學機械の如き目先き（當時に於て）必ずしも必要でないものゝ類である、各種製造業復舊状態の割合（東京府調査に據る）を見ると次の通りである。（數字は百分率を示す）

麻真田	九〇	袋物煙草具	八〇	玻璃類	八〇
靴	八〇	履物	七五	洋服	七〇
靴	七〇	毛糸	七〇	菓子	七〇
石 鹼	七〇	金物	七〇	鉛筆	六五
鐵工機械	六五	貴金屬	六〇	足袋	六〇
化粧品	六〇	蒲團蚊帳	二五	ヤスリ	六〇
文房具	六〇	自轉車	六〇	金屬玩具	五〇
機械金物	五〇	賣藥	五〇	玩具	四五
洋傘	三三	萬年筆	三〇	理科學機械	二五

右の表を玩味すると、ごういふ風に復舊しつゝあるかゞ判り、しかもこれにより人間慾望の増進なるものが、社會状態の安定するに伴うて如何なる方面によく起るかを知り得るのである。これら製造業の復舊せる他面には輸入税を減免された海外の物資が復舊復興のため續々と輸入せられ、その重なる品について大正十二年九月から十三年二月までの輸入高を見ると二億六千九百餘萬圓で、これをその前年同期のそれと比較して見ると一億二千四百餘萬圓の増加で、これだけがすなはち大地震のために十三年二月までに前年分より餘計に輸入された金額である、中には二倍乃至八倍になつたものも少くない、すなはち次の如くである(單位千圓)

小 麥	四五、三〇〇	自十一年九月 至十二年二月	一三、八〇〇
鐵 材	七五、六〇〇		三三、七〇〇
鐵 釘	六、八〇〇		一、四〇〇
建築材料	二、五〇〇		一、六〇〇
自動車部分品	八、〇〇〇		一、〇〇〇
木 材	四、九〇〇		一、八〇〇
硝子板	四、七三〇		一、六四〇

その他罹災地以外からの内地物資が、東京市を中心とした罹災地へ移入せられた數量は莫大である。これらの材料によりて復興を早められたのである。(以上は大藏省調査に據る)復興途上の一挿話として、大正の紀文を夢み、亞鉛板や材木の買占めや輸入を企てた連中で、思惑はづれに當惑したものゝ多かつたことは人々の記憶に新なところであるが、震災によつてあのやうな大破壊を受けた後であるから當然東京市内の物價は一大暴騰を見る筈であつたものが、その間に政府の緊急暴利取締令の効果があつたとはいへ、漸騰はしたけれど概して突飛高を現はさなかつたことは、せめてもの幸ひである。これは輸入品の豊富であつたこともその一大原因をなしてゐる。東京市の小賣物價の指數を見ると、災前すなはち十二年八月に一七六で

あつたものが十一月に二〇〇に近づき、十二月に多少下落し、十三年二月には二〇〇を超えた、しかし卸賣物價は十二年十月を高直として漸次低落してゐるのであるから、やがて小賣物價も卸賣に追従することゝなるであらう。そしてこの物價が大暴騰しなかつたことは、確に復興を速かならしめた一因とも見られるのである。

またかやうに意外に早く復興の事實が示されてゐるのに對しては先驅としての資金の流出が如何なる状態であつたかといふことを知らねばならぬのであつて、資金の流出によつて復興の状態がまた一層明かにされるのである。先づ日本銀行の貸出高を見るに十二年八月末には三億四千萬圓であつたものが九月末には五億九千萬圓に増し十二月末には更に八億五千萬圓と激増した。年末は例年巨額の増加を示すのであるが、この年に限り特に巨大の増加をなしたのは要するに復興の資金がいろ／＼の形において流出され、その結果各銀行から日本銀行へ融通を求めたため斯の如き激増をなしたのである。そして兌換券はその結果著しき膨脹を示したのである、すなはち災前八月末の日本銀行兌換券發行高十二億八千萬圓が九月末には十四億六千萬圓となり十二月には十七億圓と發行高の新記録を作つた、斯の如き大増加がすなはち復興の先驅たる資金が民間に流出された状態を示したものである。ところで十三年三月末には貸出しは七億圓に減じ、兌換券は十三億四千萬圓に收縮してゐる。これは年末の一時の融通金が回收された結果でもあるが、また復興資金が兎も角順調に廻轉してゐることを示すもので、漸く安定期

に入りつゝある有様を物語つてゐる。

一方東京における手形交換高を見るに災前の八月には三十三億千七百餘萬圓であつたものが罹災月の九月には著減して僅に一億五千萬圓に過ぎなかつた、それが十月には十四億六千萬圓に一躍回復し、十一月二十億圓十二月二十四億一千萬圓、そして十三年二月には二十三億圓と信用取引の復舊の速やかさを示してゐる。そして金利の如きも金融状態が特に緩和せられたといふのではないけれども災後から十三年三四月に至るまでのコールマネー日歩が最高二錢六厘程度で前年の同期に比し却つて安い位であつた。

しかし復興に要する資金は巨額の必要ある大事業の方面は勿論小商工業者方面にもなほ不足がちで、復興の意氣が如何に大であるかの事實を現はしてゐる。大會社が十三年に入り頻りに社債を募集し資金の調達を計つたのも矢張り復興資金を豊富に作らうといふ考へからである、その大會社の社債募集額を見るに十二年と十三年とを比較すると次の如く十三年は十二年の三四倍に上つてゐる。(單位千圓)

	十三年	十二年
一月	四九、六五〇	一一、五〇〇
二月	四一、五〇〇	一五、二五〇
三月	三一、一五〇	一一、〇〇〇

次に復興資金として勸業銀行が災後より最近に至るまで貸出した状況を見ると、その総額は四千四百五十萬圓で内銀行融通資金千三百六十萬圓、建築資金千三百五十萬圓、産業資金千七百四十萬圓である、社會の感覺機關であり都市の目であり耳である鐵道、電信、電話の復舊が速かであつたことは當然であるがそれに劣らざいや寧ろそれよりも早く復興したのは個人の營利職業である。中にも日用品の商店が店を開くことが最も速かであつた、その順序は

薪炭商、酒類仲買、白米商、洋服商、青果小賣商、自轉車商、自動車商、賣藥商

等である、従つてバラツク建築は十三年二月には十七萬六百三十九戸に達し、焼失戸數二十九萬一千四百九十四戸の約六割近くに當り、それに消費した亞鉛引き平浪板は實に五萬七千三百トンである。これに關聯して水道、電燈、ガス等も復舊した、先づ東京市水道専用栓は災前二十二萬九千九百であつたものの内十四萬四千八百を焼失したが十三年三月には四萬五千三百を復舊し、東京電燈會社の電燈數は災前の約二百六十萬個が九月には百三十萬個に減じたけれど、十三年三月には二百十八萬個となつた。次にガスは九月三百九十四口を取付けたものが十二月四千二十九口、十三年二月九千九百口、三月八千三百口と漸増した。

かく市民生活上復興や經濟的な活動のよみがへるにつれて京濱の倉庫は焼失六萬三千九十九坪の内十三年四月まで十三萬百十二坪を復舊しなほ計畫中のもの一萬二千二百二十九坪となつて居る。さて經濟上の資金關係は前に述べた通りであるが、個人的なものとしては生命保險加入

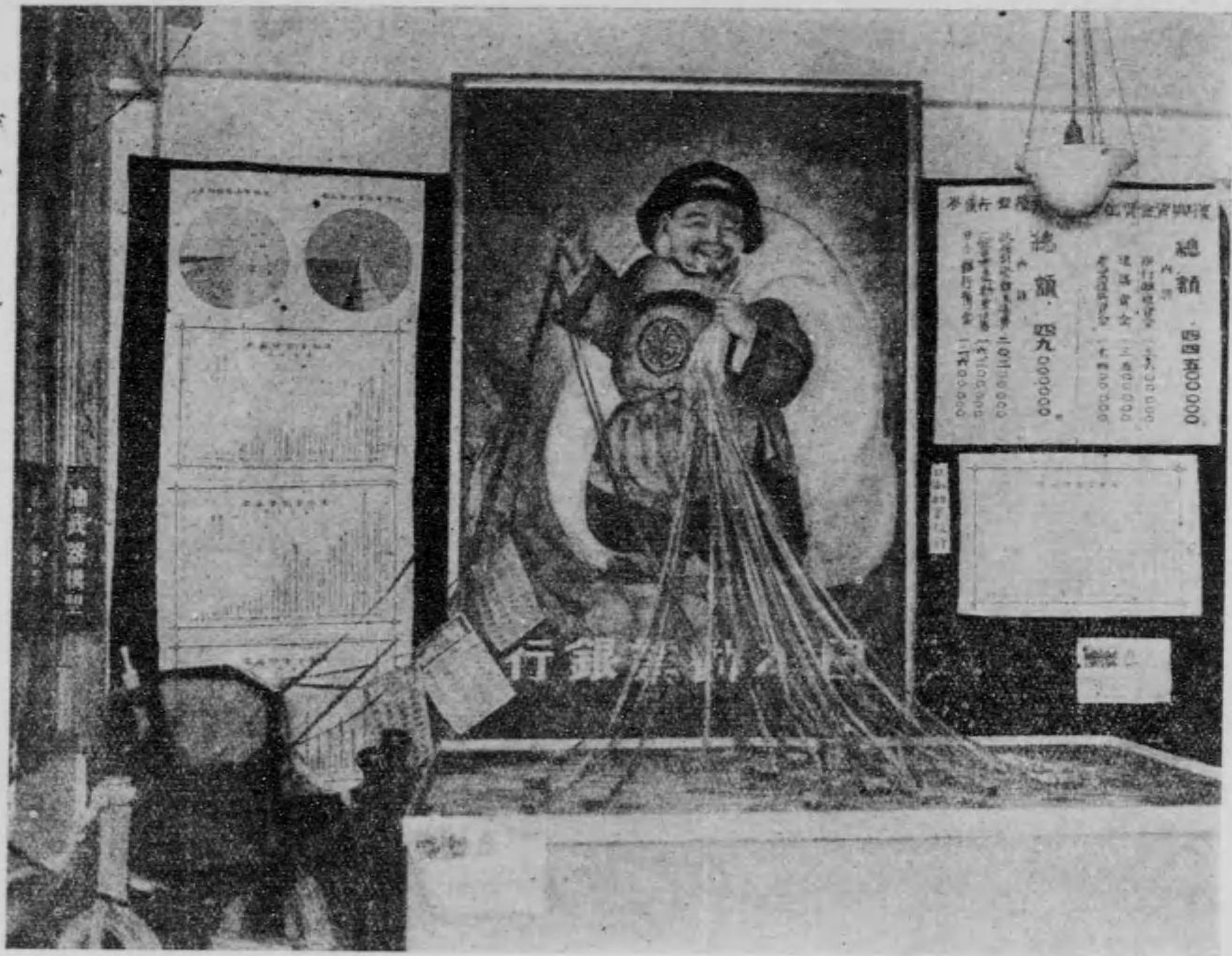
者が震災死亡のため受取つた金額は十三年三月十五日までに六百三十九萬餘圓で、件數は四千九百三十七件であつた。そしてそれ等が預金された譯でもあるまいが郵便貯金は一般的不安と貯蓄心の喚起により十月から十二月へかけて約三千萬圓を増加した。

それから復興上の一大現象として失業者の増加がある、職業紹介所への求職人のみでも震災前の八月に十二萬弱に過ぎなかつたのが

九月 廿二萬弱 十月 卅六萬 十一月 卅一萬弱 十二月 廿六萬

と二三倍となつた。ところが一方には大工の如き最も必要な労働者は非常に不足を來しバラツク建築等にも一大支障となつた、そこで社會局の如きは應急のためと一には失業者救済のため三ヶ月修業の木工講習會を開くなど種々の施設が實現せられた、が機械工業職工は休業工場の續出で一時勞銀の大低落となつた、また一般勞銀は大體に九月以來變動が甚しく十三年二月に入つて漸く安定の傾向を示した。次に忘れてならない震災に對する内外からの救済金總額は約四千萬圓以上にも達した、先づ内地が七割弱、外國が三割強、内地の最高は東京の千五百萬圓、大阪の二百二十萬圓等であつた。勿論それ等は復興よりも救済に費したのであるが、救済はやがて復興の肥料となつたことは今更喋々するまでもない。

〔以下圖表を掲げて以つて示す〕



震災後發行債券

總額 四九〇,〇〇〇,〇〇〇

內譯

- 政府引受勸業債券 二〇,二〇〇,〇〇〇
- 一般募集勸業債券 一六,二〇〇,〇〇〇
- 日本銀行預金 一二,六〇〇,〇〇〇

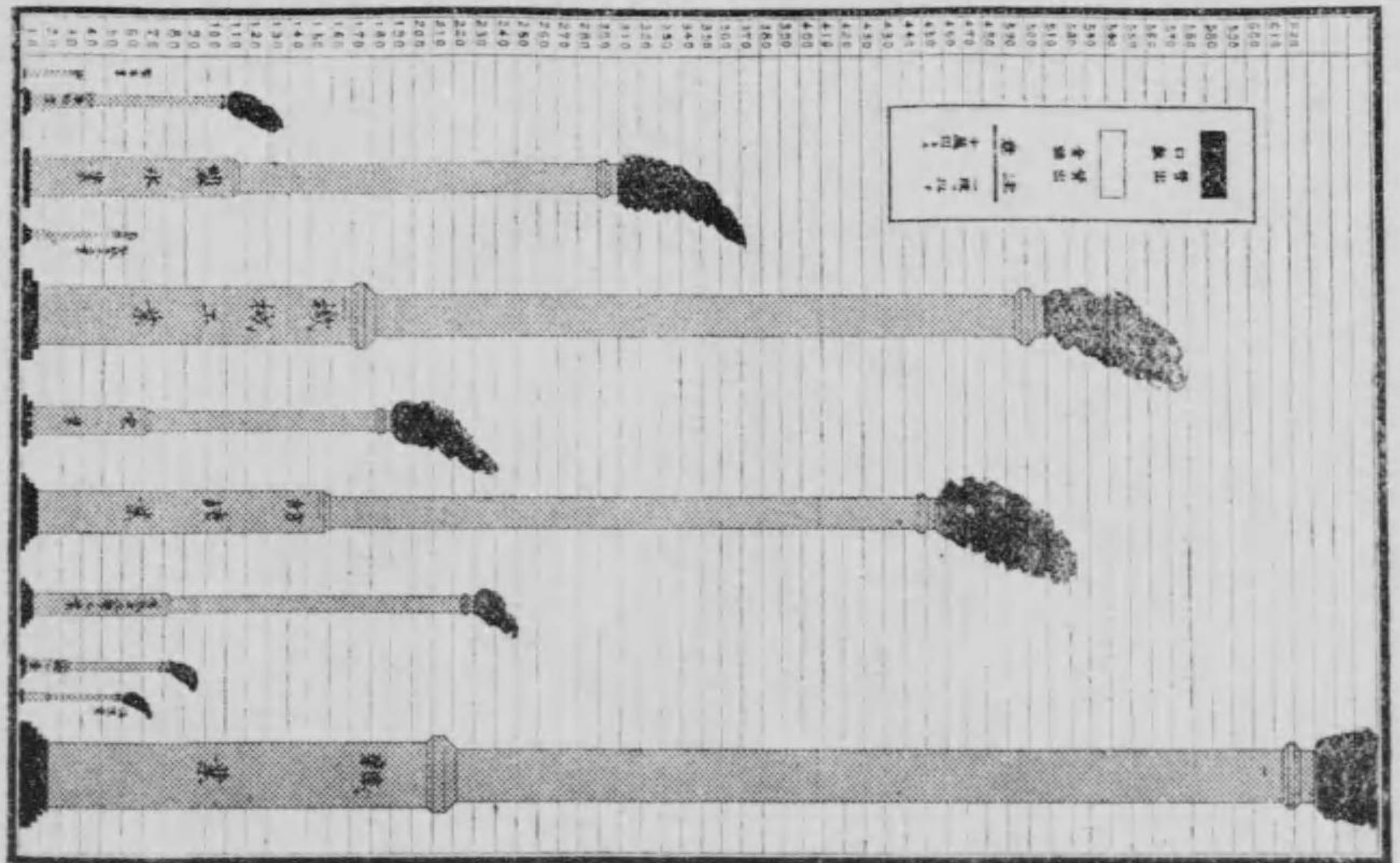
(日本勸業銀行)

復興資金貸出高

總額 四四五〇,〇〇〇,〇〇〇

內譯

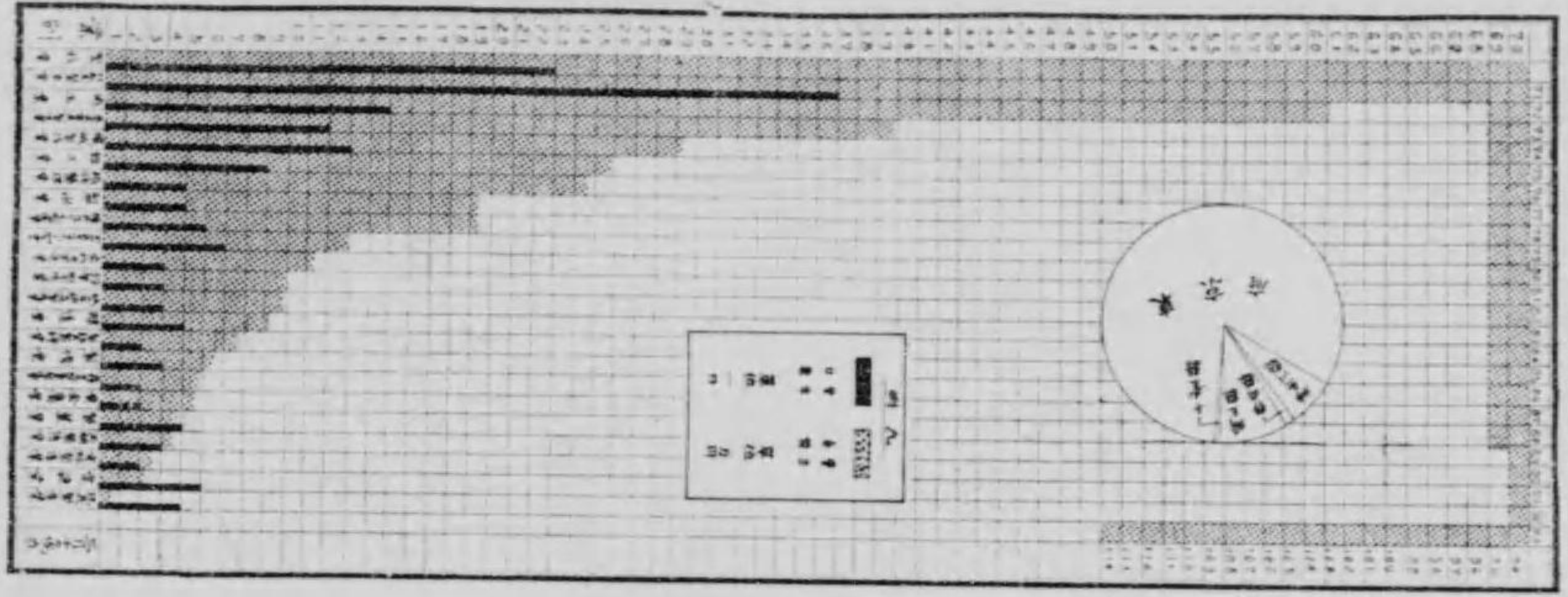
- 銀行融通資金 一三六〇,〇〇〇,〇〇〇
- 建築資金 一三五〇,〇〇〇,〇〇〇
- 産業復興資金 一七四〇,〇〇〇,〇〇〇



大工業復興資金貸出事業別

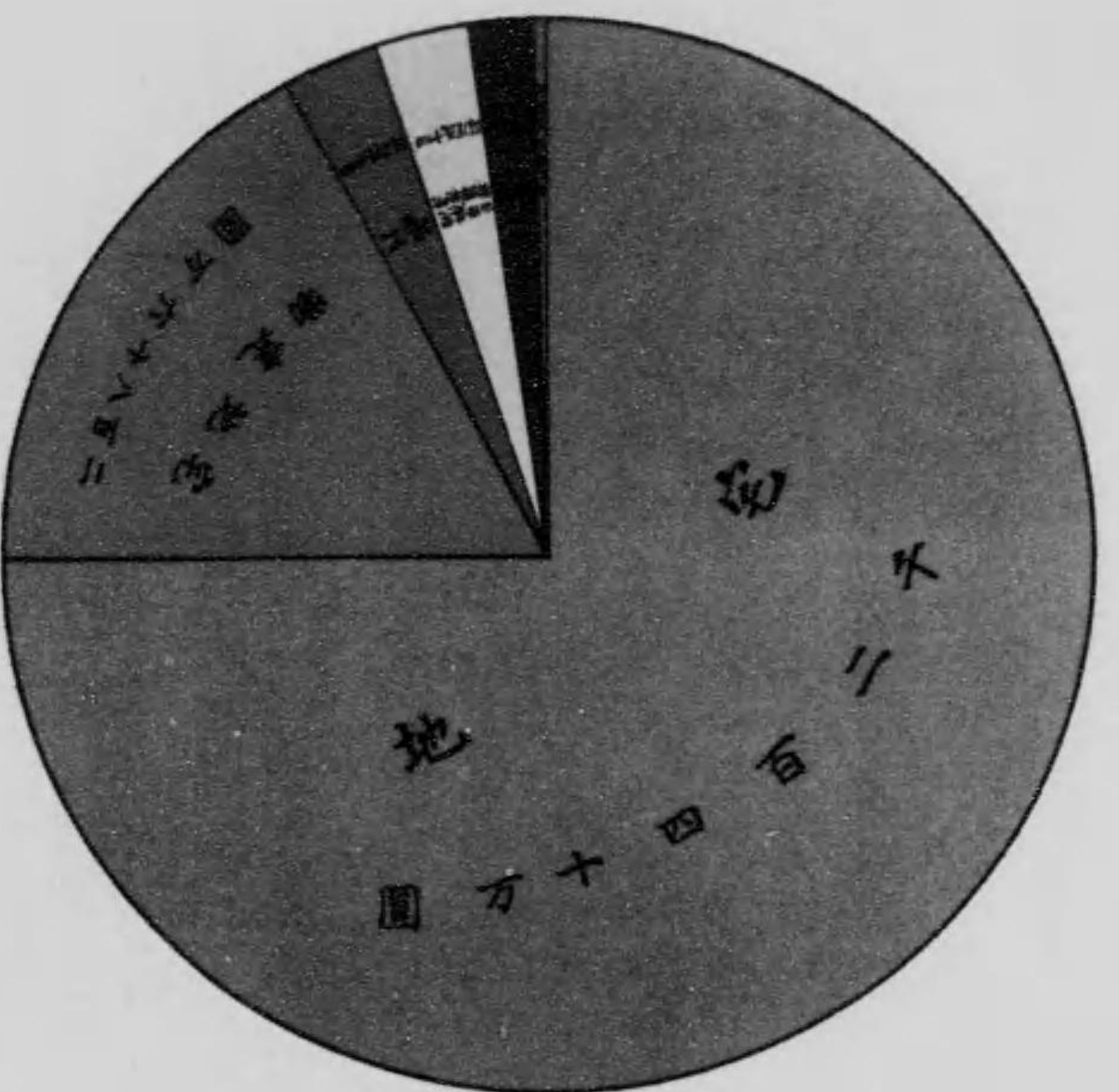
株式会社日本興業銀行

小工業復興資金貸出事業別
将同貸出金額府縣別

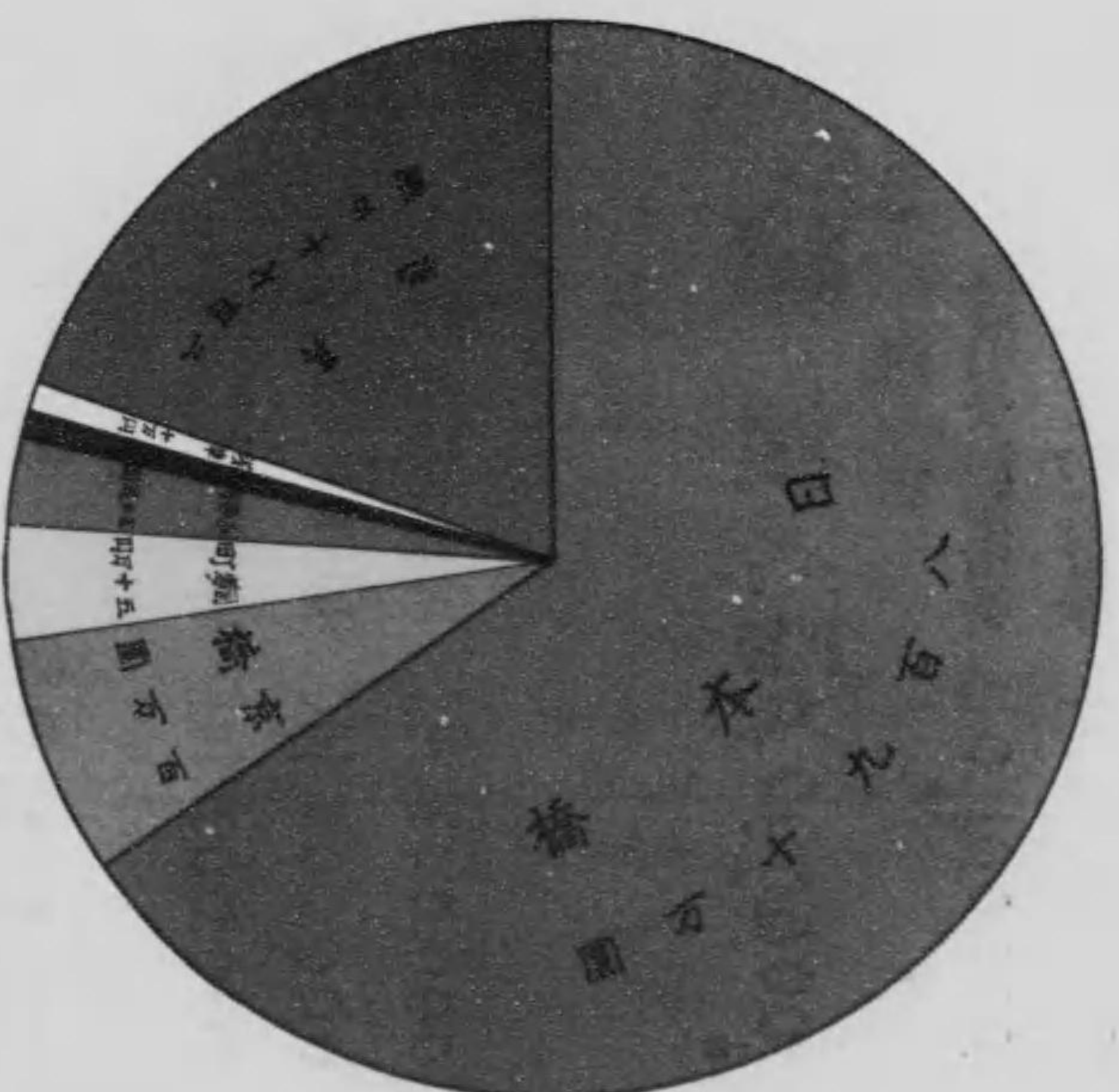


株式会社日本興業銀行

表別保擔出貸興渡



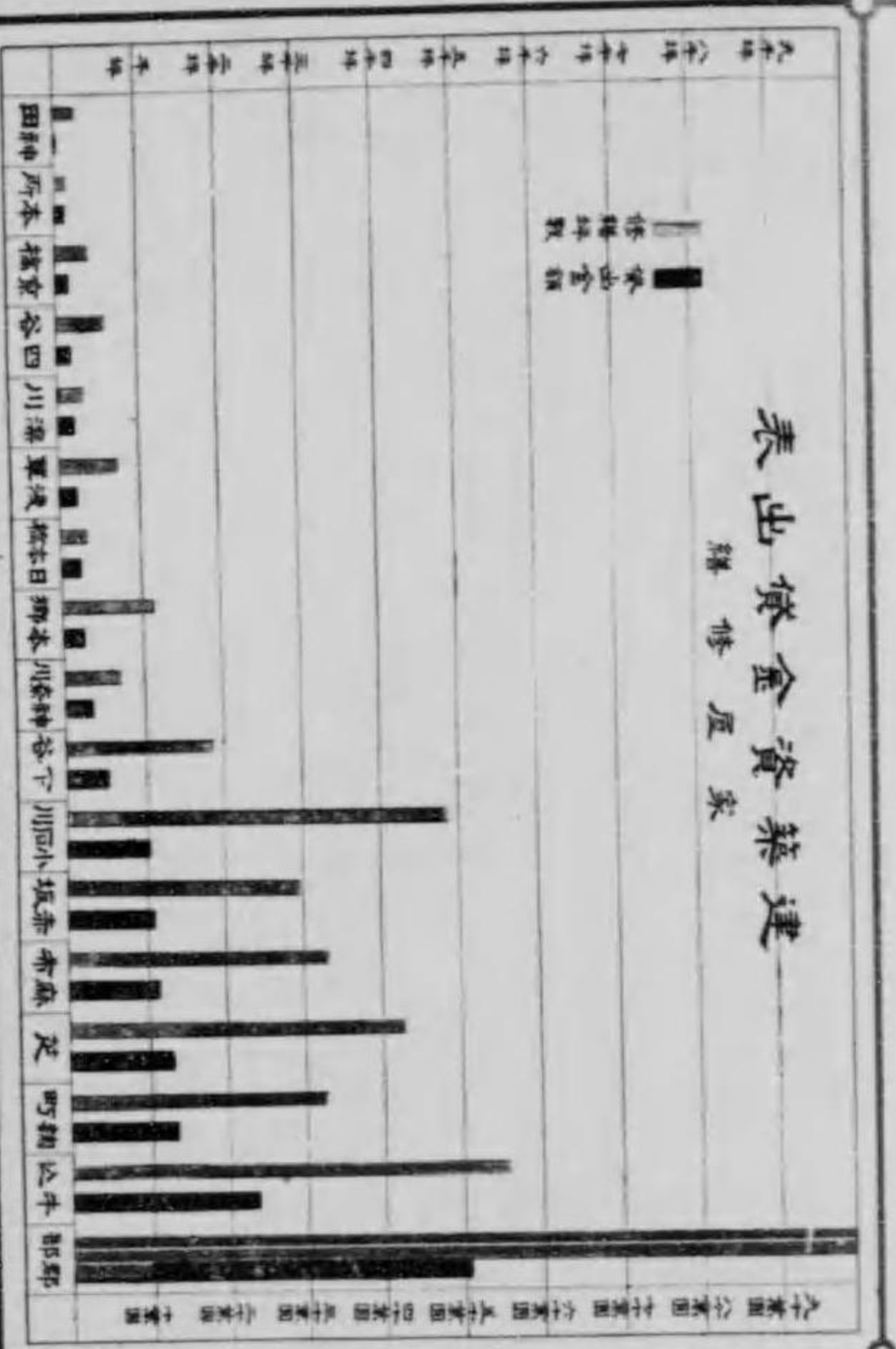
表出貸金資通融行銀



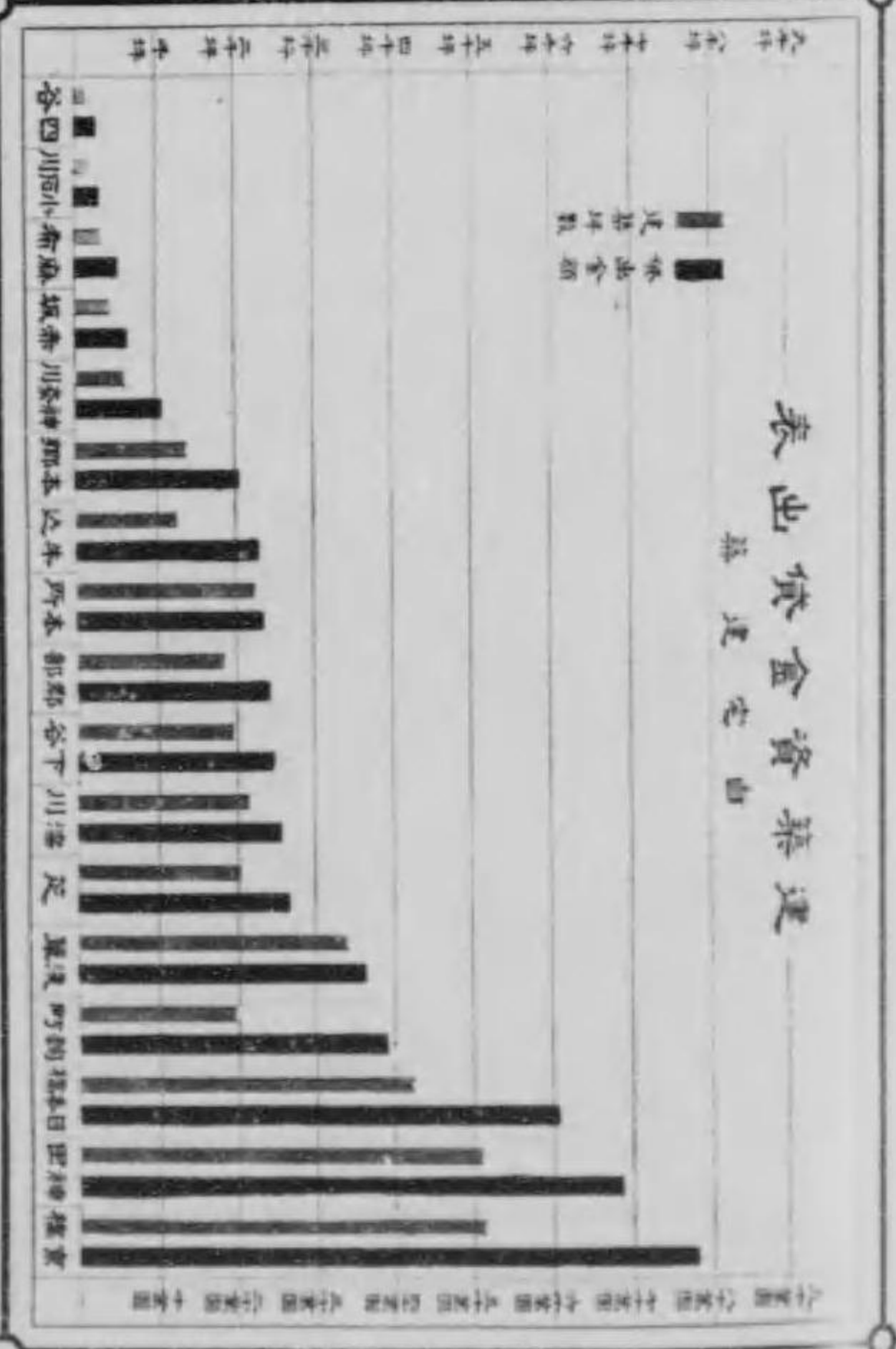
(行銀業勸本日)

露光量違いの為重複撮影

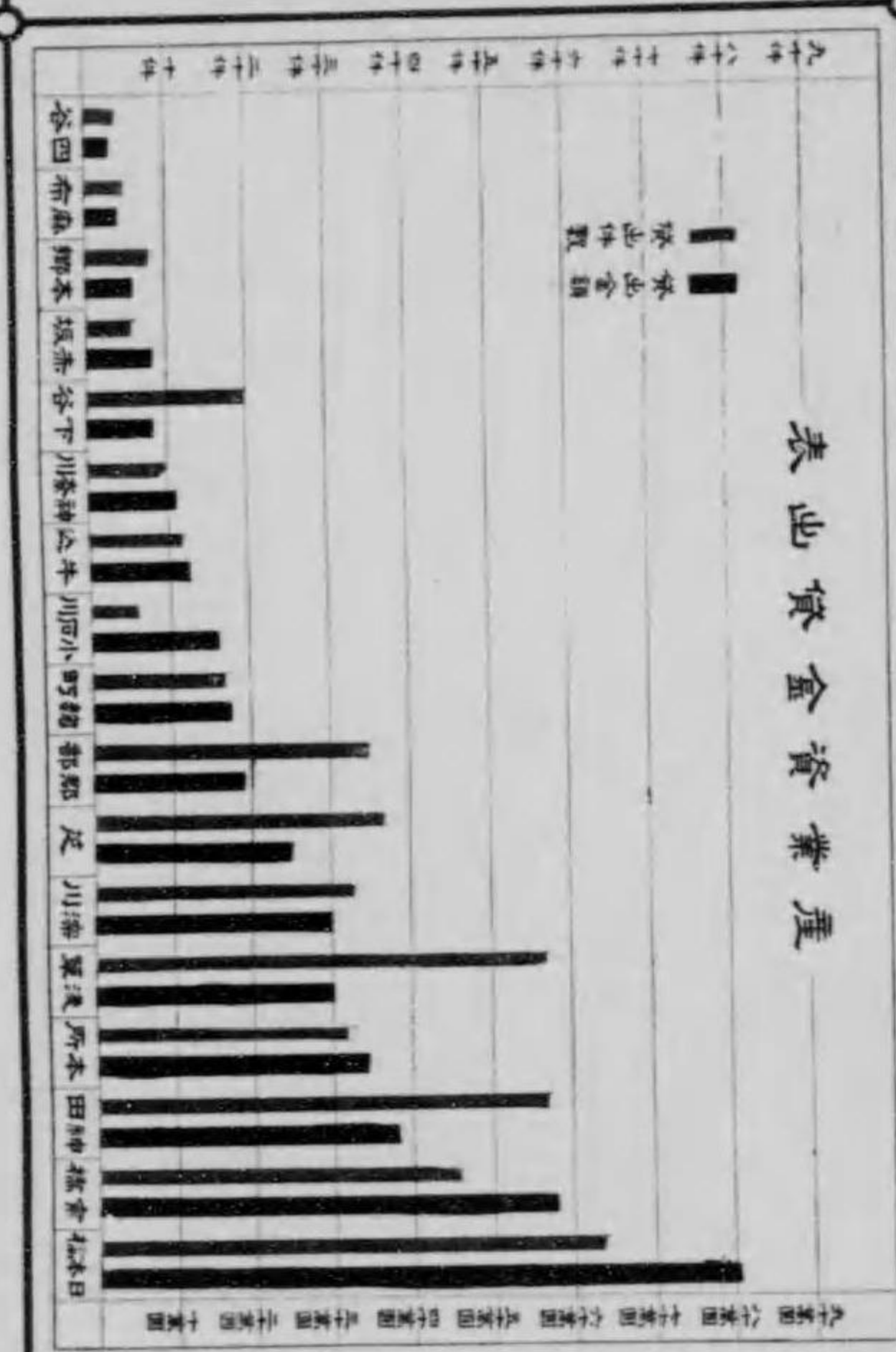
表出貸金資築建



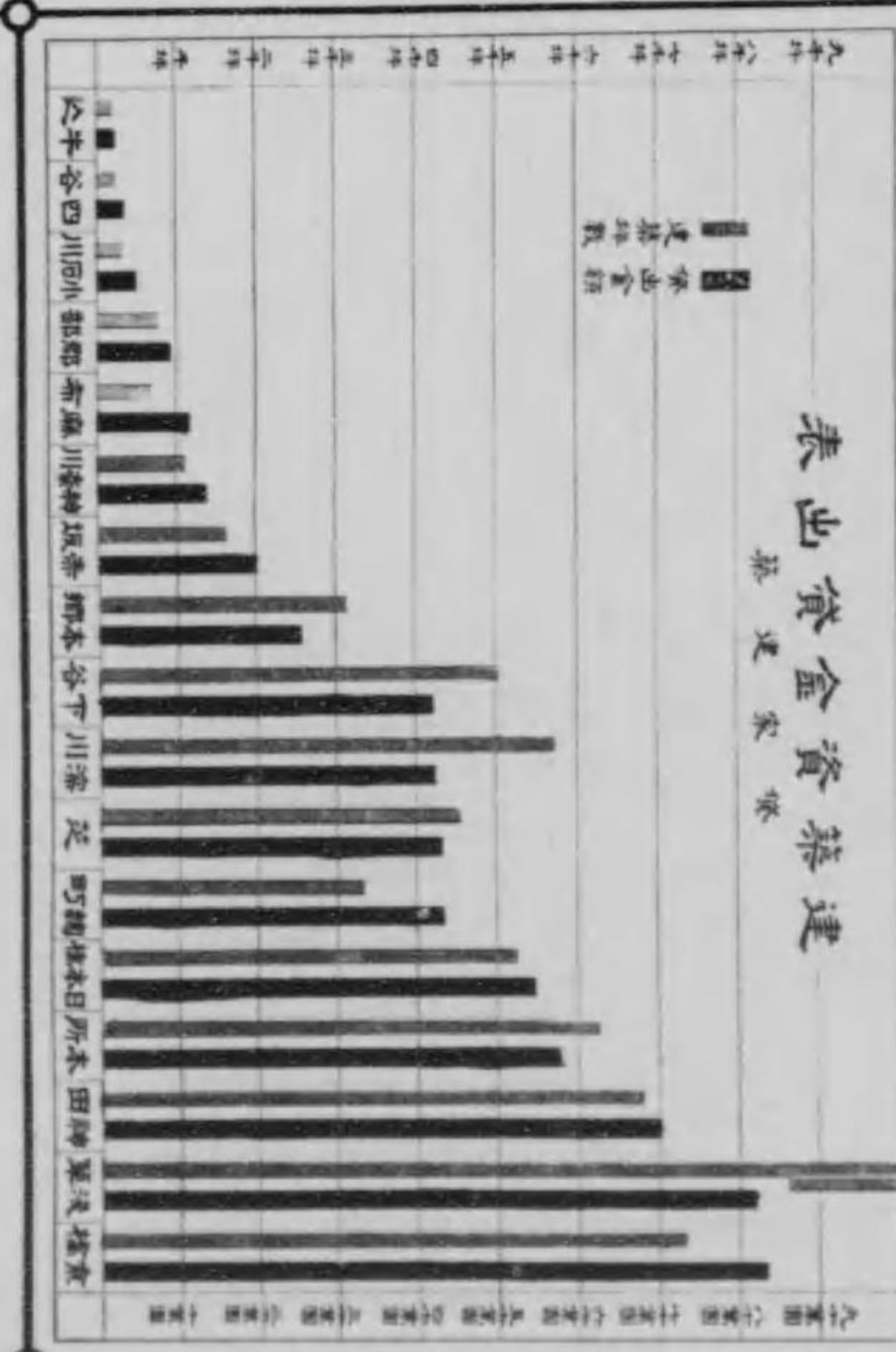
表出貸金資築建



表出貸金資業産

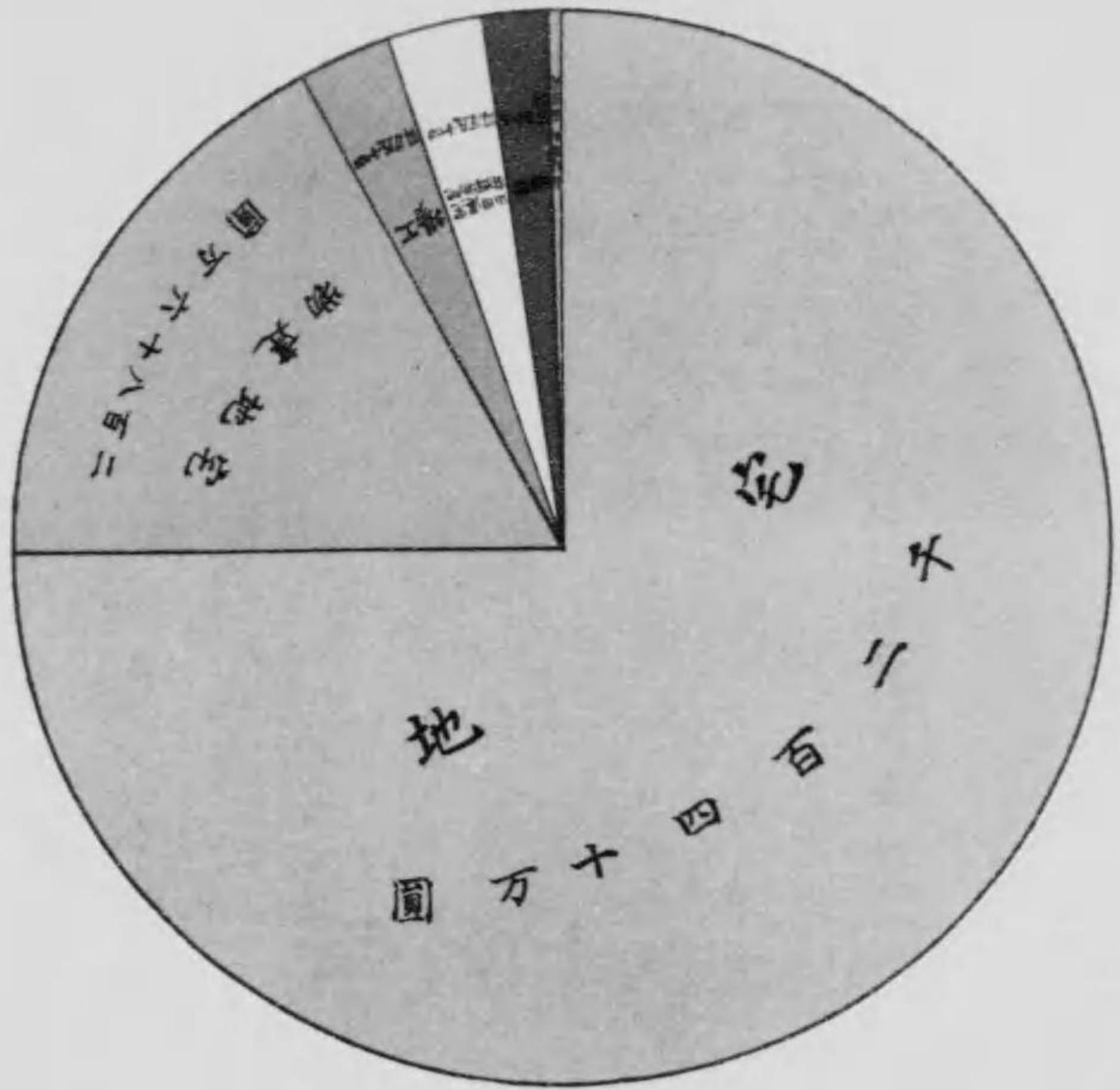


表出貸金資業産

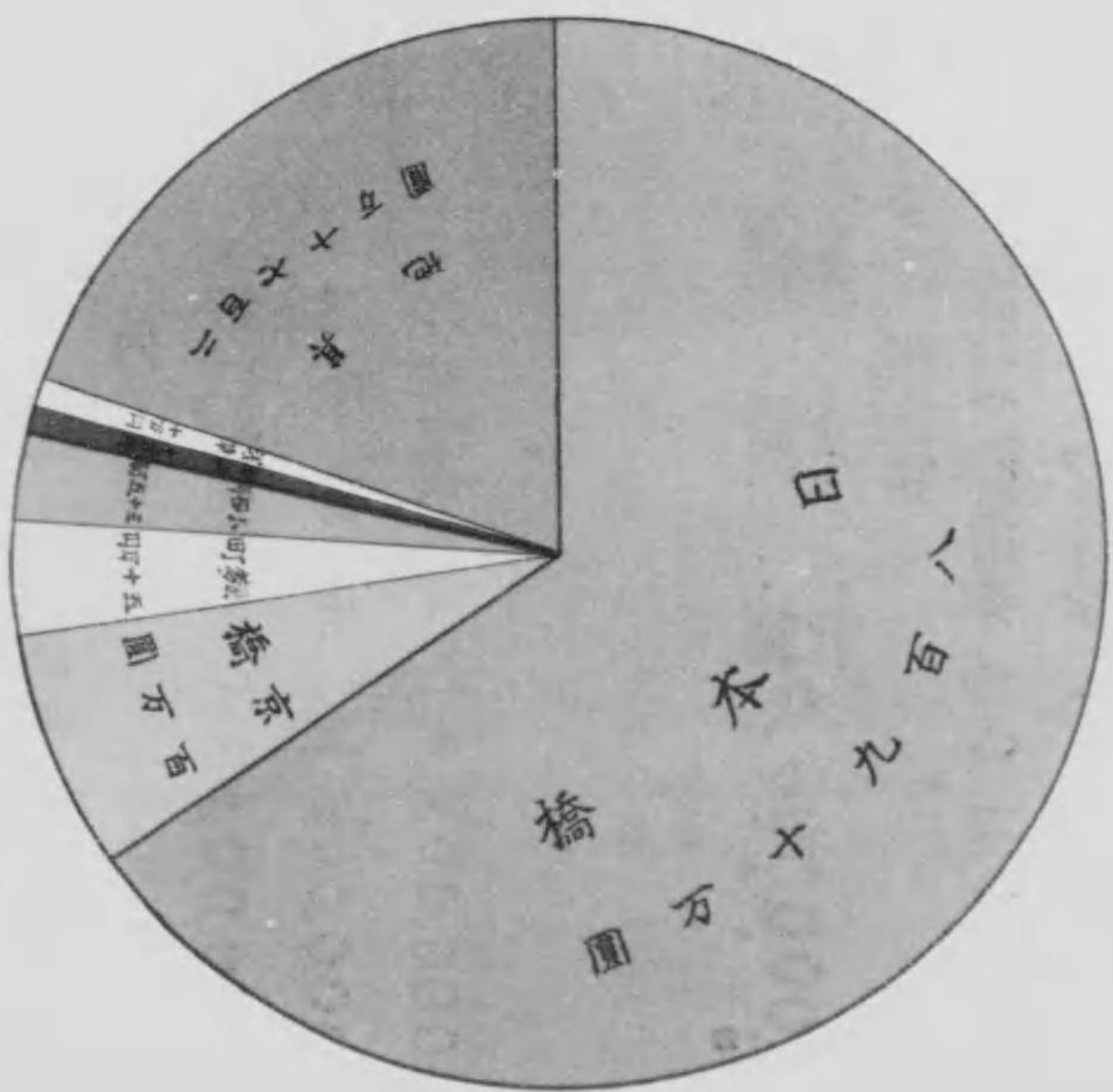


(行銀業勸本日)

表別保擔出貸興渡

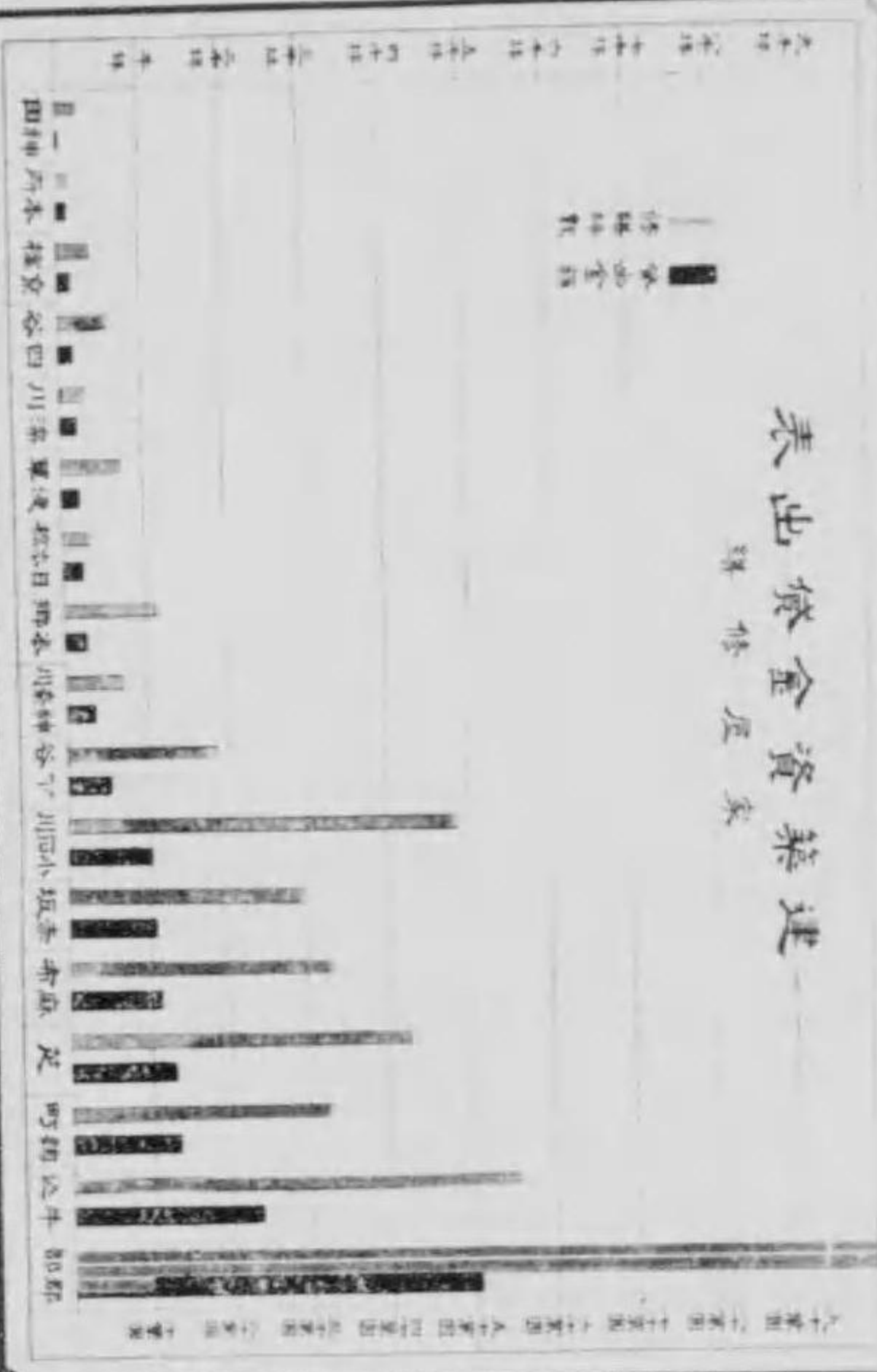


表出貸金資通融行銀

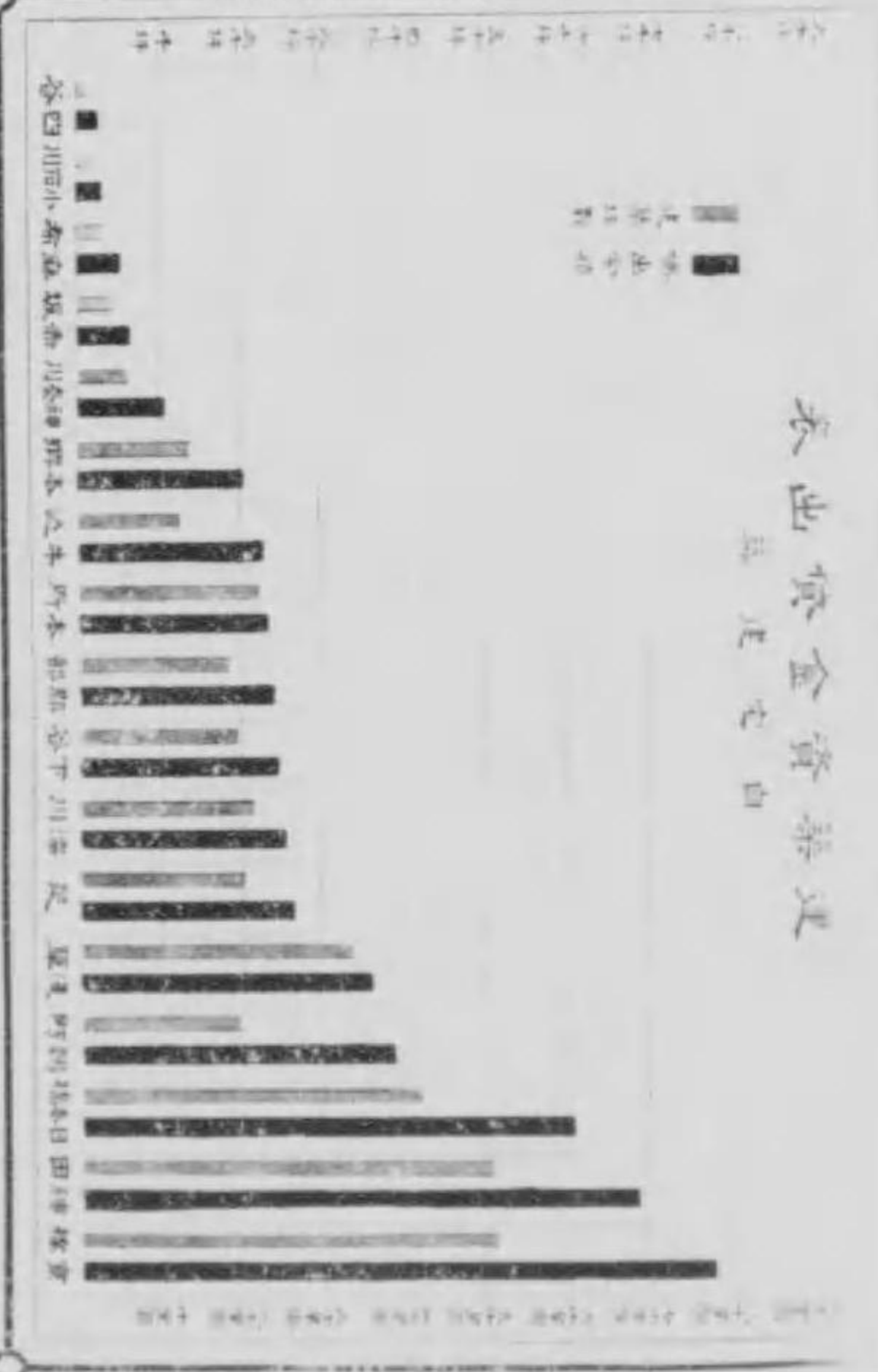


(行銀業勸本日)

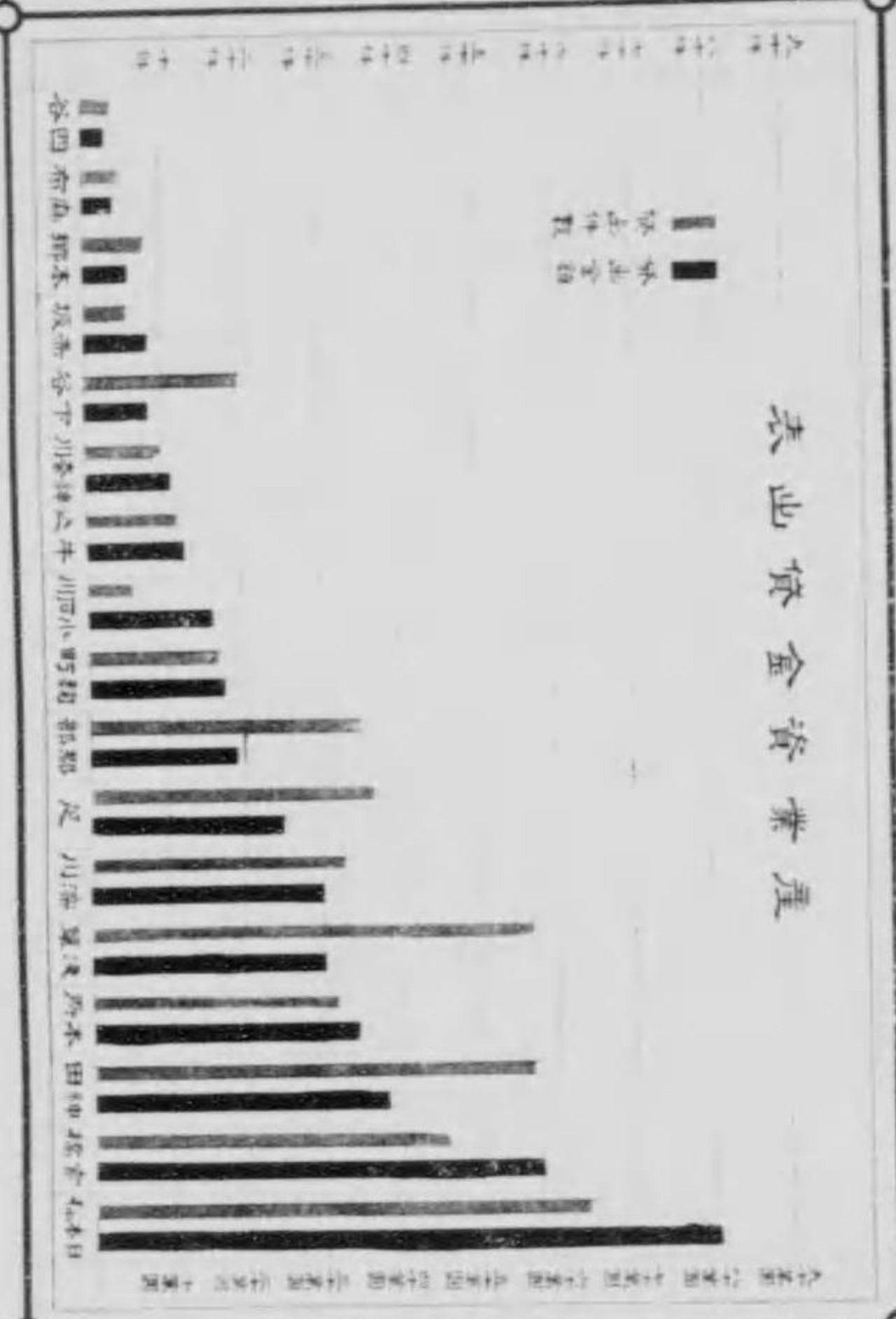
表出貸金資築建



表出貸金資築建



表出貸金資業農



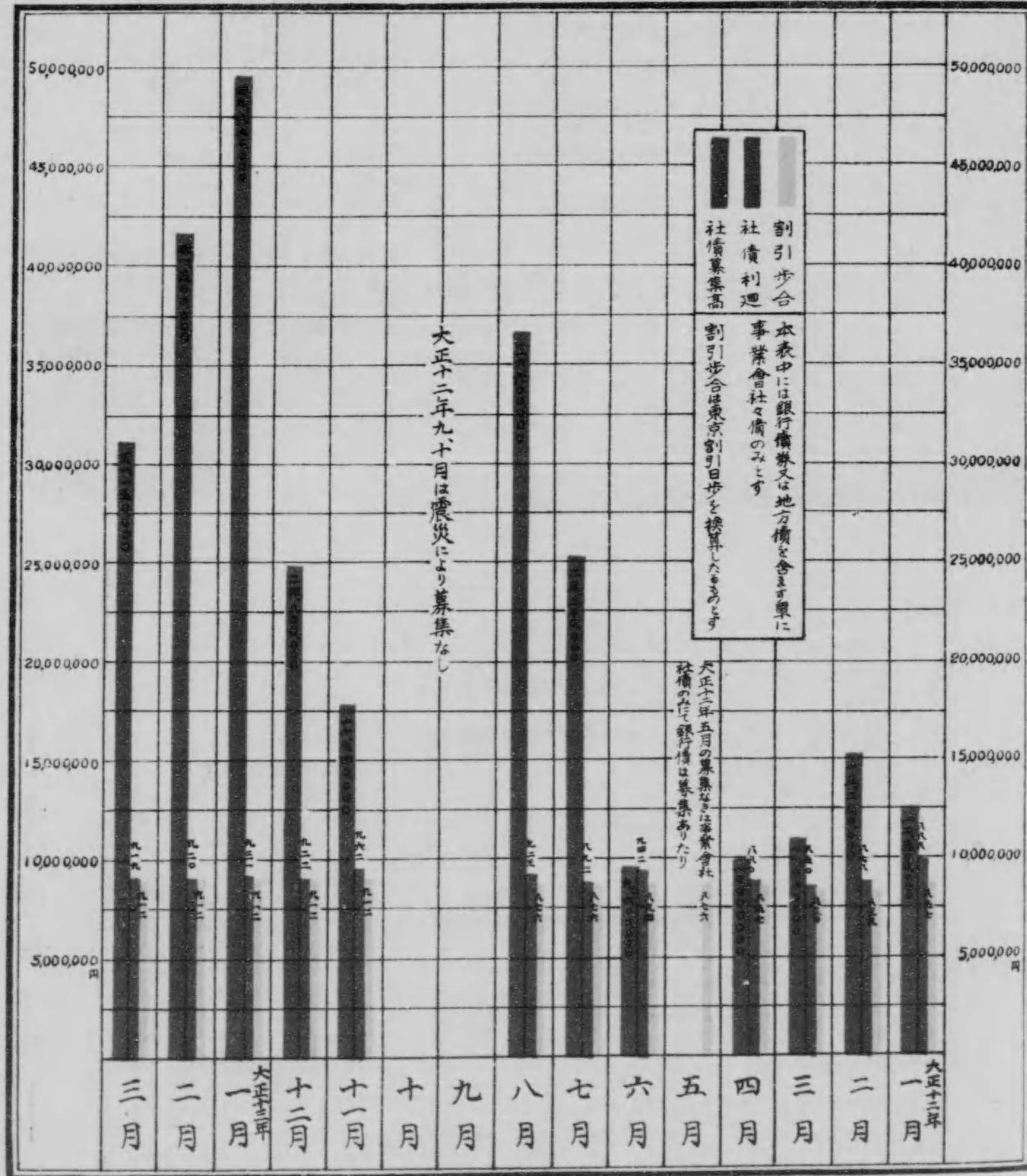
表出貸金資築建



(行銀業勸本日)

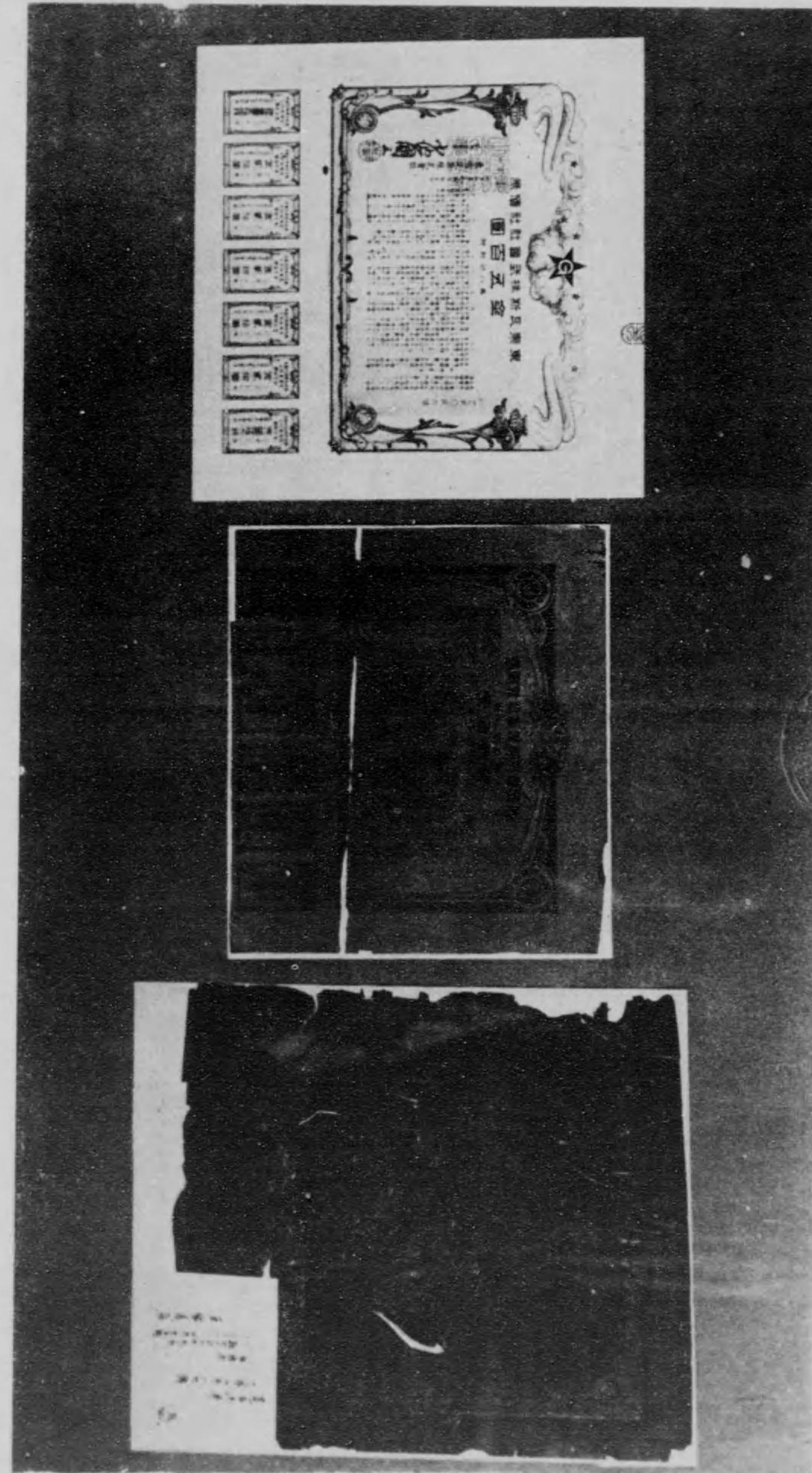
復興債の界

附利廻割歩引との對照



(小池銀行)

—(小池銀行)—



焼けた債券と新しうい債券

復興純簡易保險

—(遞信省簡易保險局)—

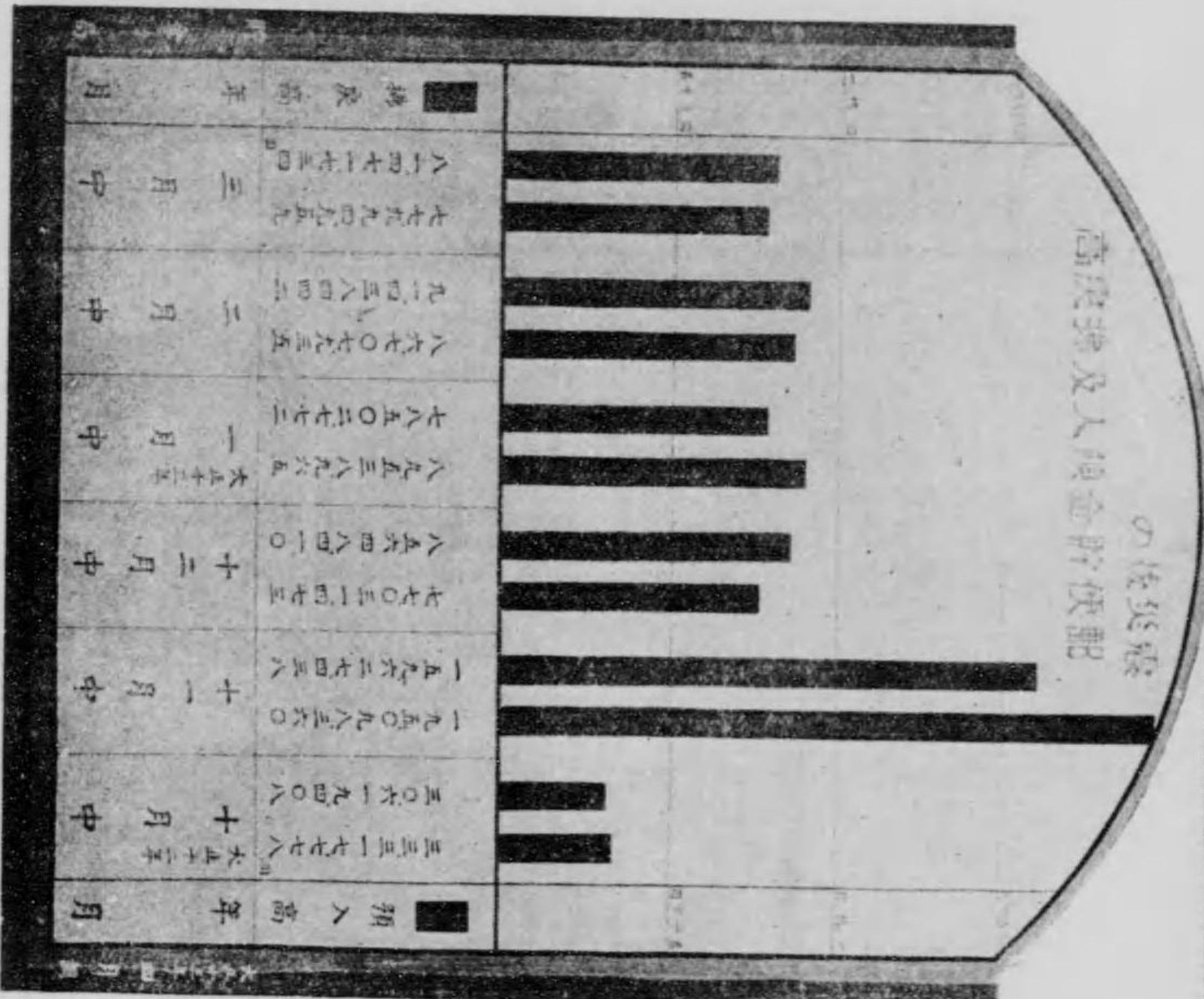
—(社會株式保險生命洋東)—

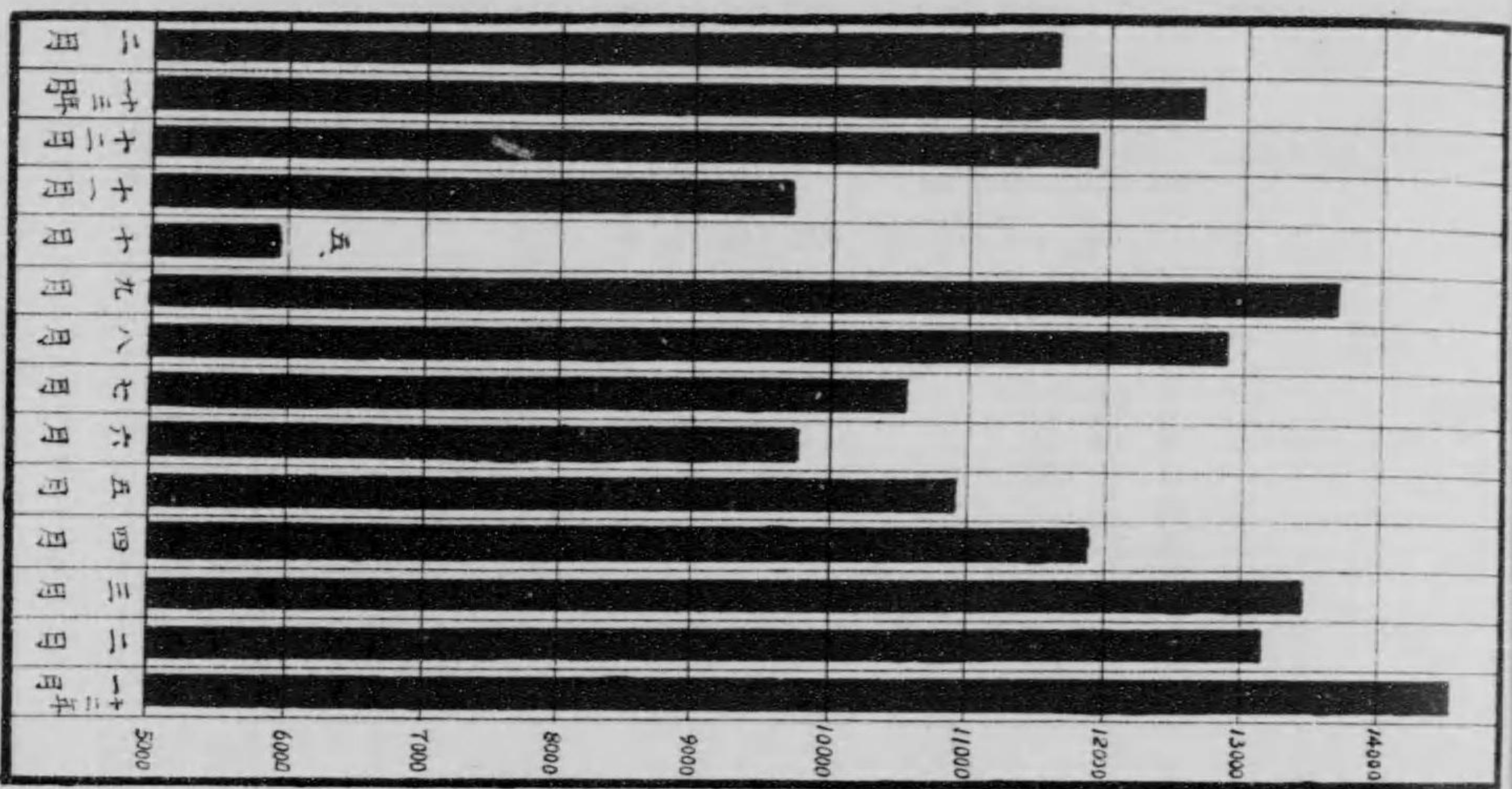
—(遞信省貯金局)—

本非常時局に於て貯蓄の奨励を以て、本貯蓄部は、非常時貯蓄券の發行を決定し、これを九月一日より發行開始し、九月三十日まで發行期間を定め、この期間中に發行した貯蓄券の額は、九月三十日現在、約五百萬圓に達し、これは、前年九月三十日現在に比し、約二倍に増加した。これは、非常時貯蓄券の發行が、國民の貯蓄意欲を喚起し、貯蓄の普及に寄与したことを示している。また、非常時貯蓄券の發行は、國民の貯蓄意欲を喚起し、貯蓄の普及に寄与したことを示している。また、非常時貯蓄券の發行は、國民の貯蓄意欲を喚起し、貯蓄の普及に寄与したことを示している。



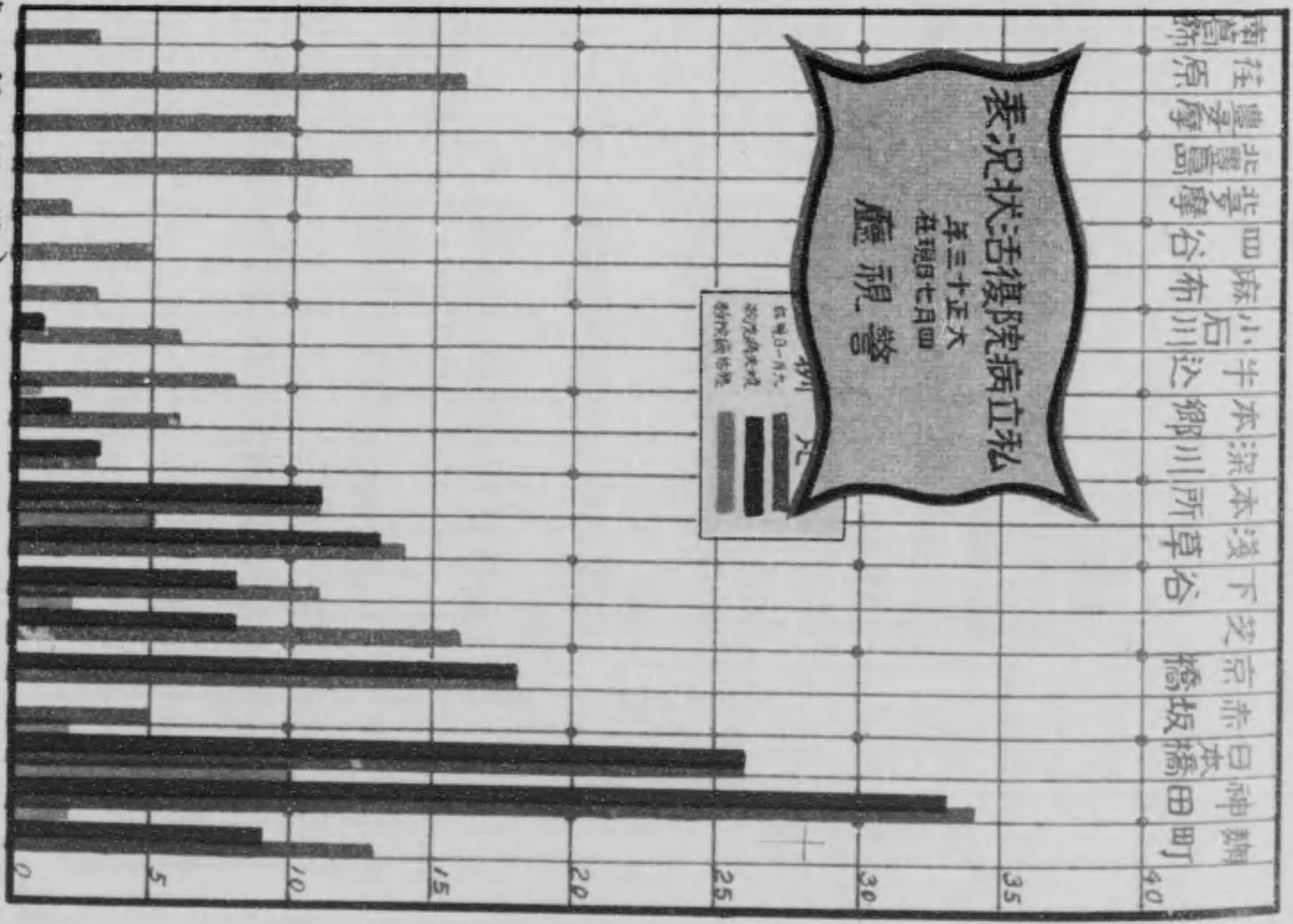
○郵便貯金の例年十一月(八月)末、又二月(正月)三月、各月の収入概算は、郵便貯金の増加に寄与し、一月二、三、四月に於ては、加算の収入が多かりしを、十月以降十二月までの間に減算スレバ、結局約三千萬圓の預金増加を示シ、一月平均約七百萬圓餘の預金増加の割合アルは、莫大の努力ニ因リ、一層費削減の努力ヲ結果スレト





肥衣取扱月別表

衛生廳視察



震災地方への支拂一千万円、復興資金として

十二月以降、新契約高は前年比で増加あり

震災後六ヶ月間、前年同期間、新契約比較

生命保險會社協會

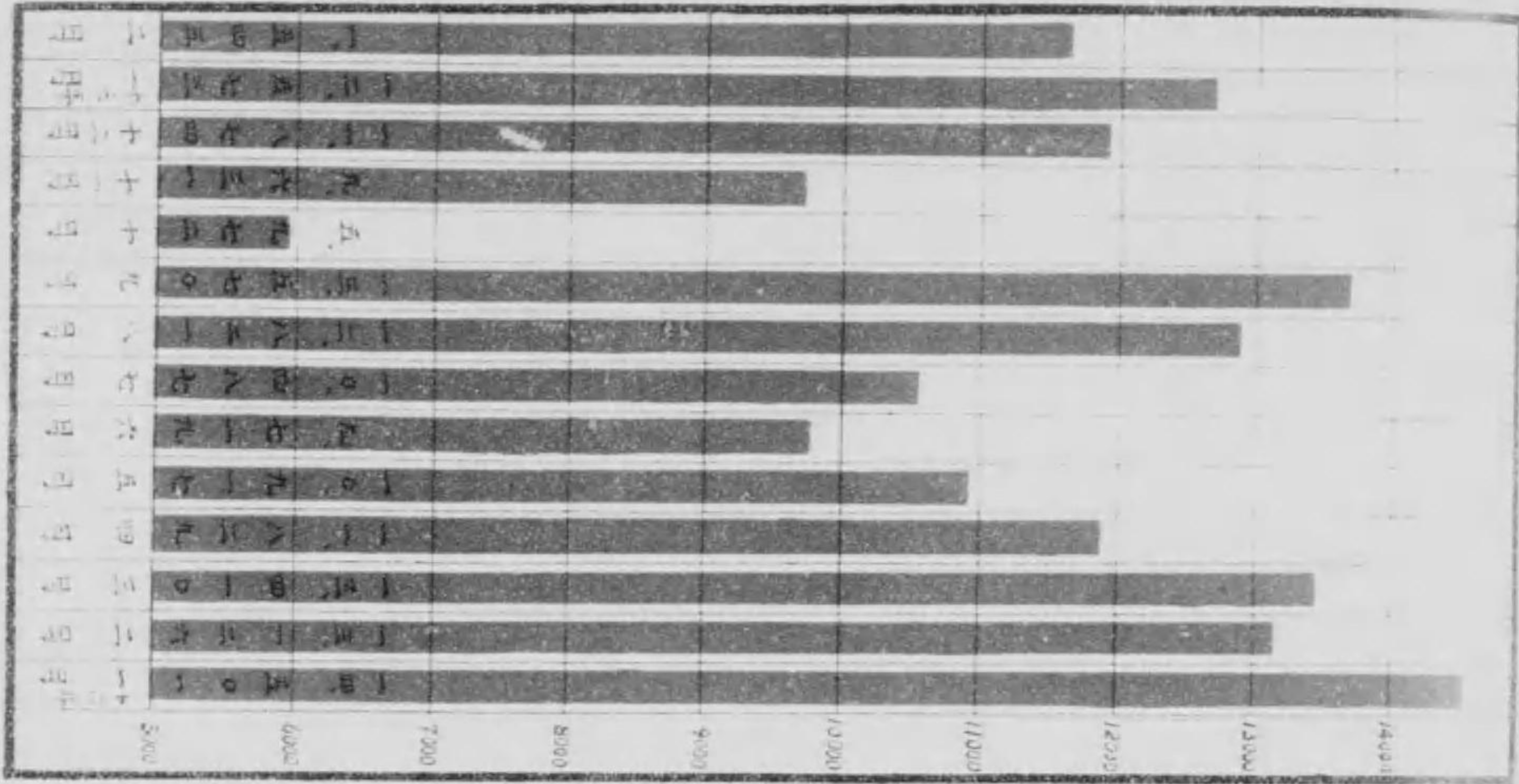
生命保險會社協會出品

震災地への支拂一千万円

震災地方への支拂一千万円は復興資金となつた、その内訳は震災死亡保険支拂の四千九百三十七件六百三十九萬圓、震災地貸付金一萬二千七百七十一件三百四十四萬圓、震災地解約返戻金五千九百七十五件百萬圓である。

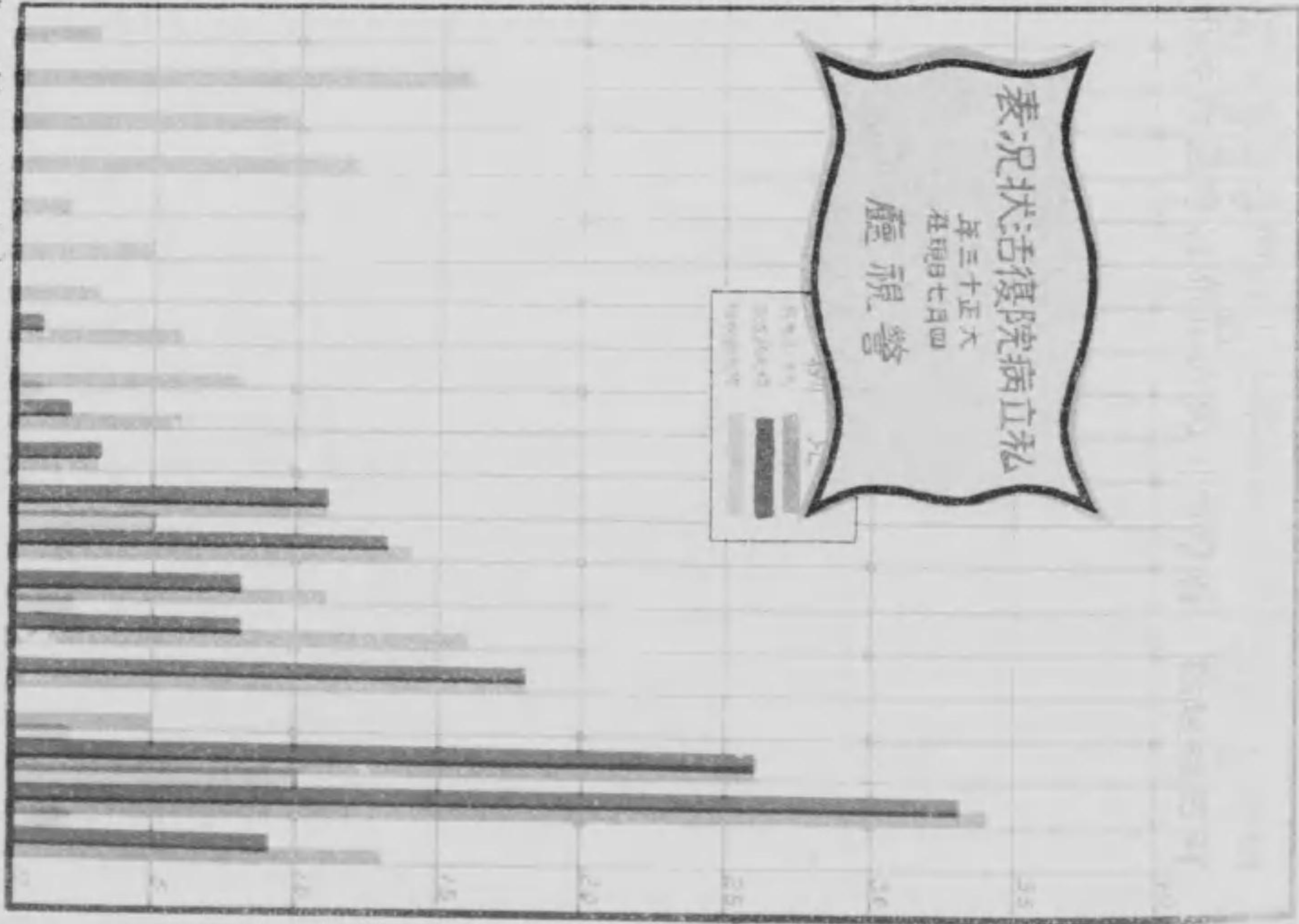
震災後六ヶ月間と前年同期との新契約比較

月次	震災後 (件)	前年同期 (件)	割合 (%)	震災後 (高)	前年同期 (高)	割合 (%)
一月	40,878	40,200	101.1	5,263	4,744	111.3
二月	49,774	44,521	112.1	6,177	5,350	115.1
三月	48,788	40,200	121.4	5,263	4,744	111.3
四月	49,774	44,521	112.1	6,177	5,350	115.1
五月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
六月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
七月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
八月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
九月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
十月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
十一月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6
十二月	51,586	46,577	110.1	6,158	7,199	86.6



肥衣取扱月別表

(部生衛廳視警)



圖の61

十二月以降新契約高、前年比大増加

震災地方へ支拂一千萬圓
後援會

震災地方へ支拂一千萬圓
後援會

生命保險會社協會出品

震災地への支拂一千萬圓

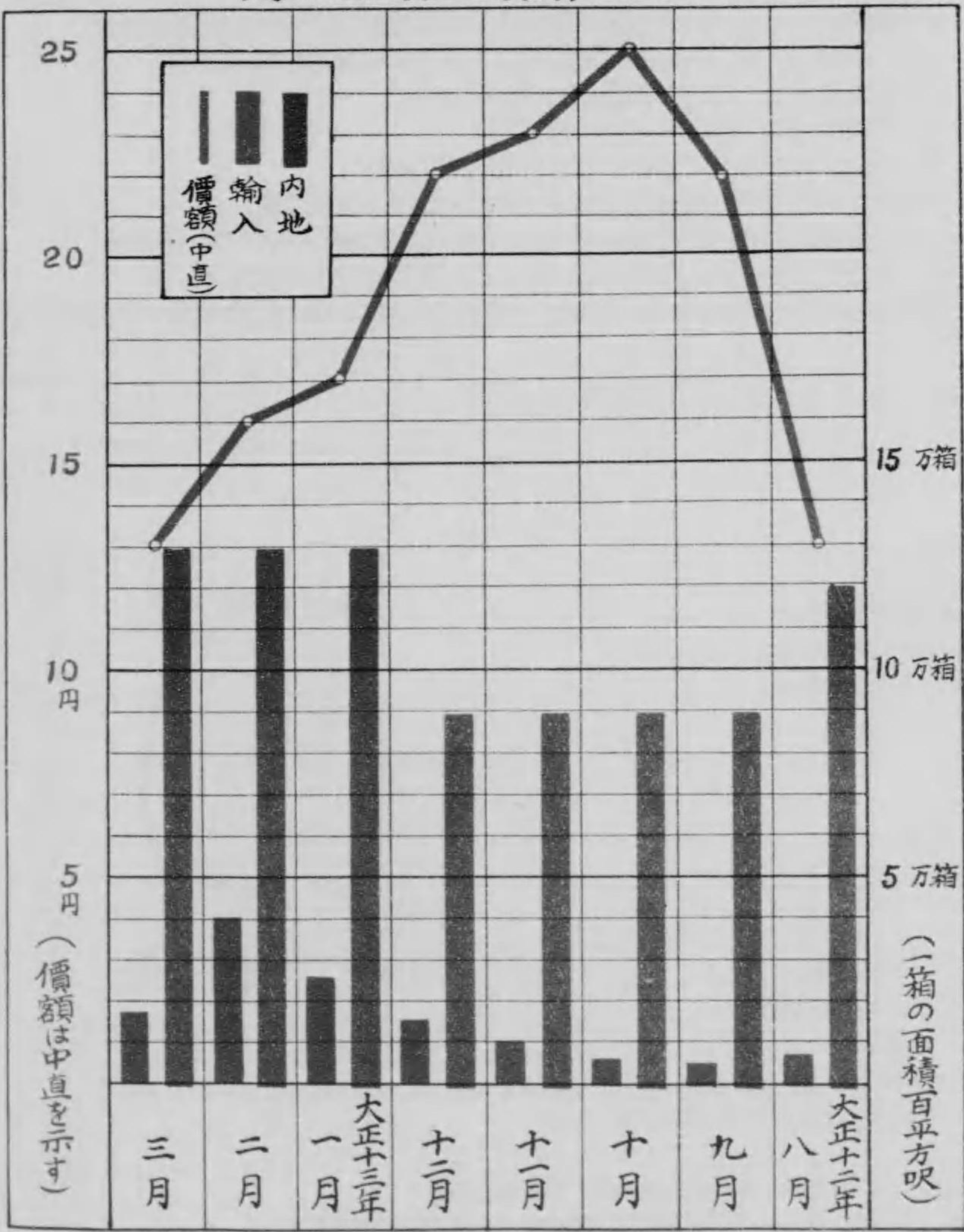
震災地方への支拂一千萬圓は復興資金となつた、その内額は震災死亡保障支拂の四千九百三十七件六百三十九萬圓、震災地貸付金一萬二千七百七十一件三百四十四萬圓、震災地解約返戻金五千九百七十五件百萬圓である。

◆震災後六ヶ月間と前年同期との新契約比較

月次	震災後	前年同期	割合	震災後	前年同期	割合
一月	二六、三四三	五四、七七三	四八	二、九二七	五、九八六	四九
二月	三八、七三〇	五八、六七四	六六	四、二四七	六、三二四	六五
三月	五一、五二八	六一、六五七	八四	六、一五八	七、一九九	八六
四月	七二、七八二	八二、五一六	八七	八、三六二	一〇、二〇七	八二
五月	八七、八四〇	一〇〇、一〇二	八七	一〇、二六三	一四、七四四	六九
六月	九九、七七四	一一一、二二一	八九	一三、一七七	一五、三五〇	八五

大正十三年

高入輸と高産生地内の子硝るけたに後災前災 態狀動変の額價に并



(社報新業商外中) 圖の62

震災ノ加増築建クツラバルケ於ニ都帝後災震

入荷、大正六年以降、漸々減少シツ、アリ
五千五百四十噸ナリ、モ全十二年震災前八箇
月ノ噸數、災後四箇月間、五十一萬八千噸計
八千噸、災後四箇月間、五十一萬八千噸計
此ノ材積、四百二十八萬餘噸ニ達セリ
ノ陸路及小舟ニヨリ入荷、漸々其數量、層ニ
上ル
正十年以降、漸次増加シ、全十二年三分七
厘ニハ達シ、英國寄贈材ヲ併セ、四十七万
噸、圓材ハ北米材ヲ主トシ、震災前約百六十万
噸計、二百三十餘萬噸ニ達セリ

数量比較

建築クツラバルケ於ニ、築造ノ千二百三十餘萬噸

荷入道鐵

入移揚浦芝

入移揚濱横

其地




四百八十三萬八千二十九石

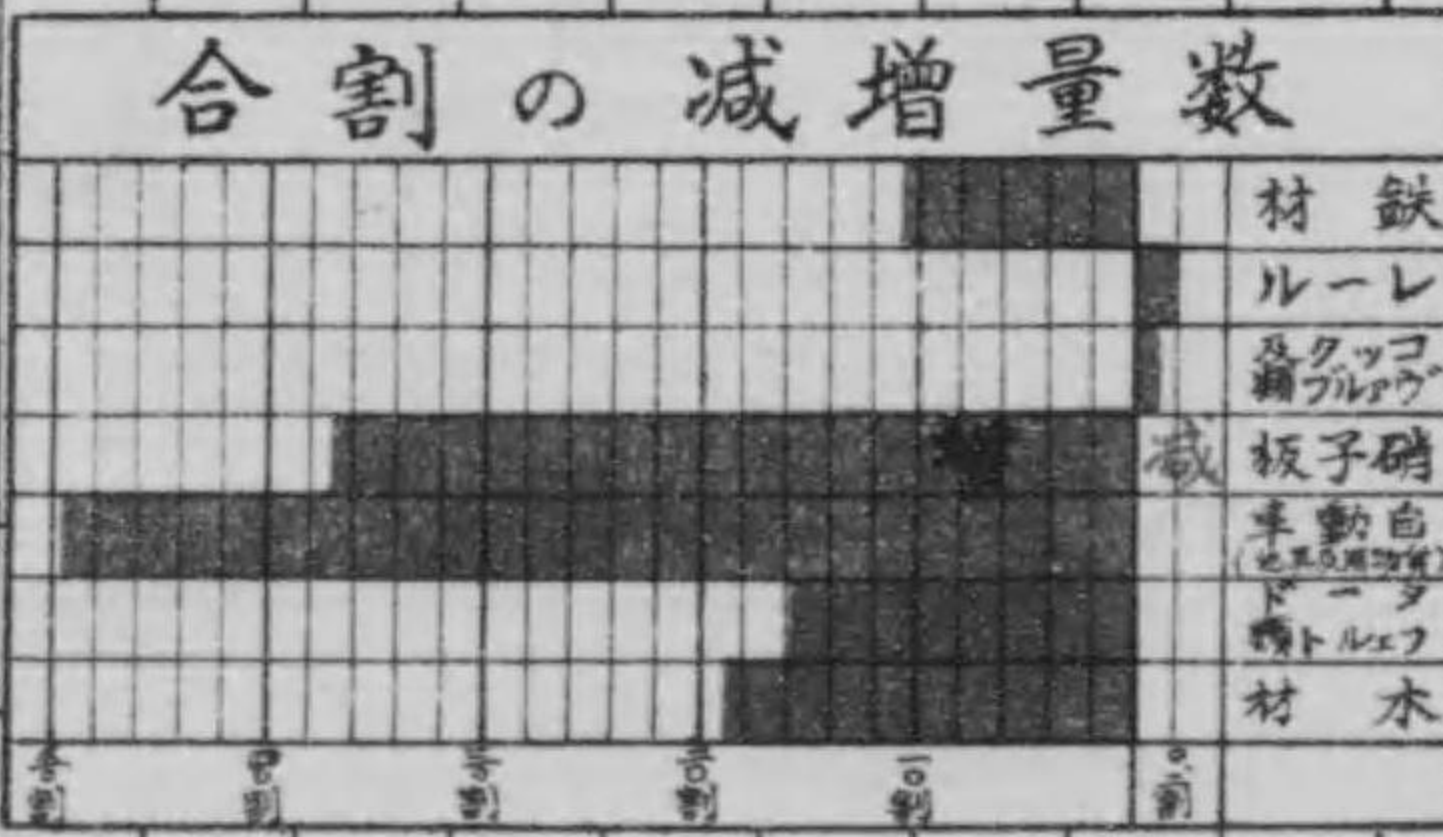
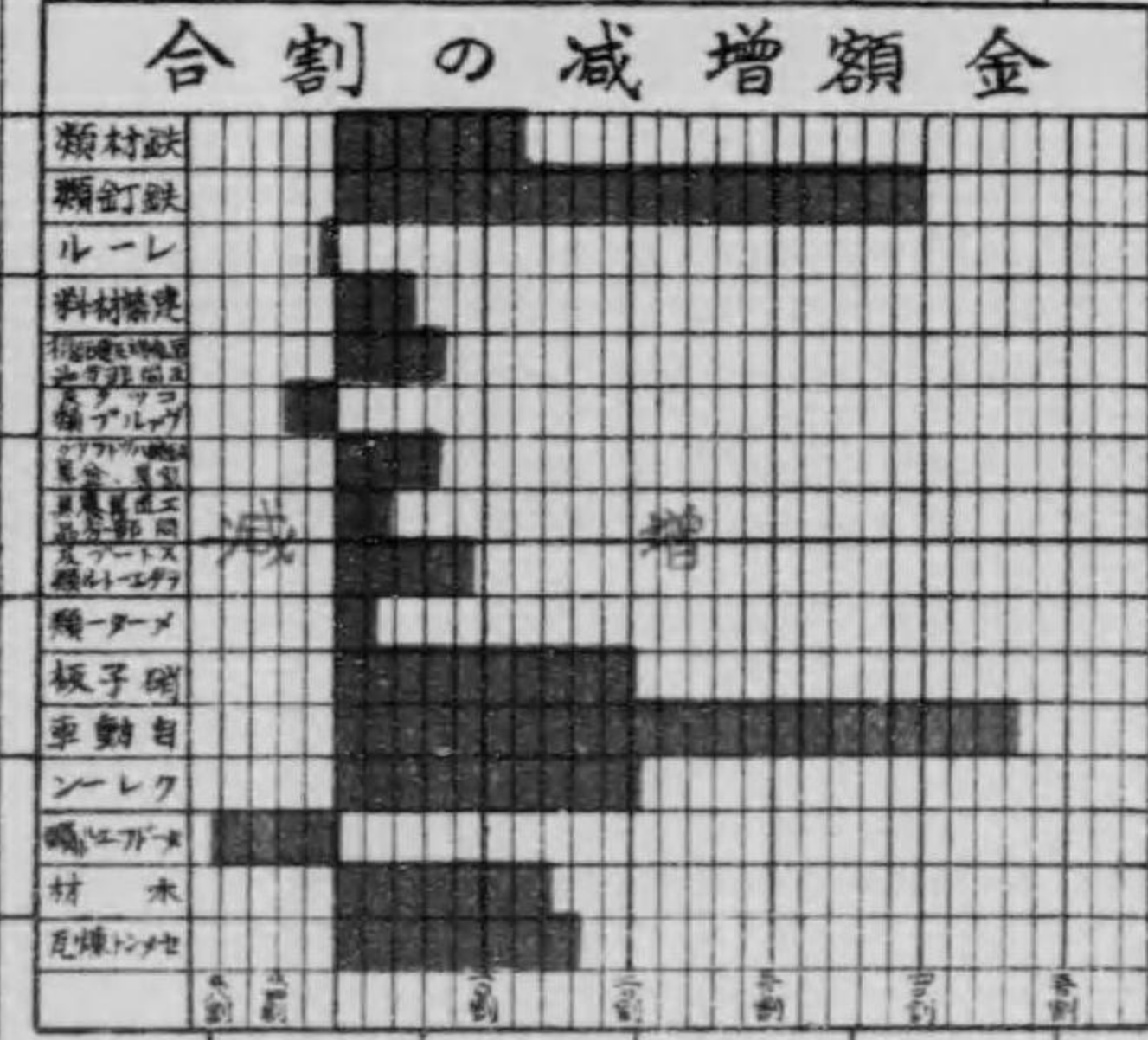
(伊東日本報、大正十二年三月二十一日)

(局林山省務商農)

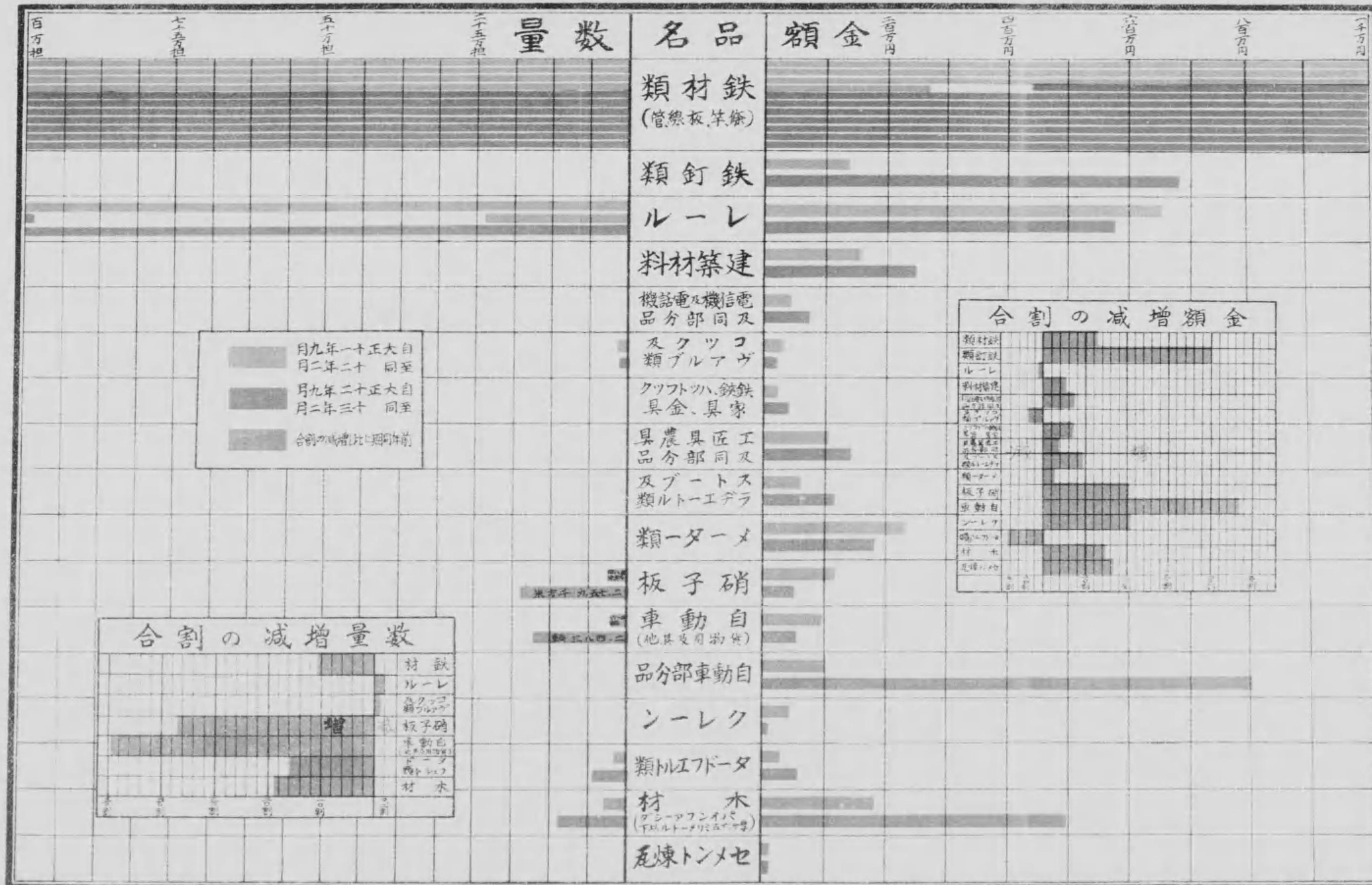
表照對入輸の料材興復要主

百万担	七十五担	五十万担	二十五万担	量数	名品	額金 百万円	四百万円	六百万円	八百万円	一千万円
					類材鉄 (管線板、竿條)					
					類釘鉄					
					ルーレ					
					料材築建					
					機話電及機信電 品分部同及					
					及クツコ 類ブルアヴ					
					クツコ、鉄鉄 具金、具家					
					具農具匠工 品分部同及					
					及ブートス 類ルトーエデラ					
					類ターメ					
					板子硝					
					車動自 (他其及用物貨)					
					品分部車動自					
					ンレーク					
					類トルエボーダ					
					材 木 (ダシニアフンイバ 下トルメリス五六ヤ等)					
					瓦煉トンメセ					

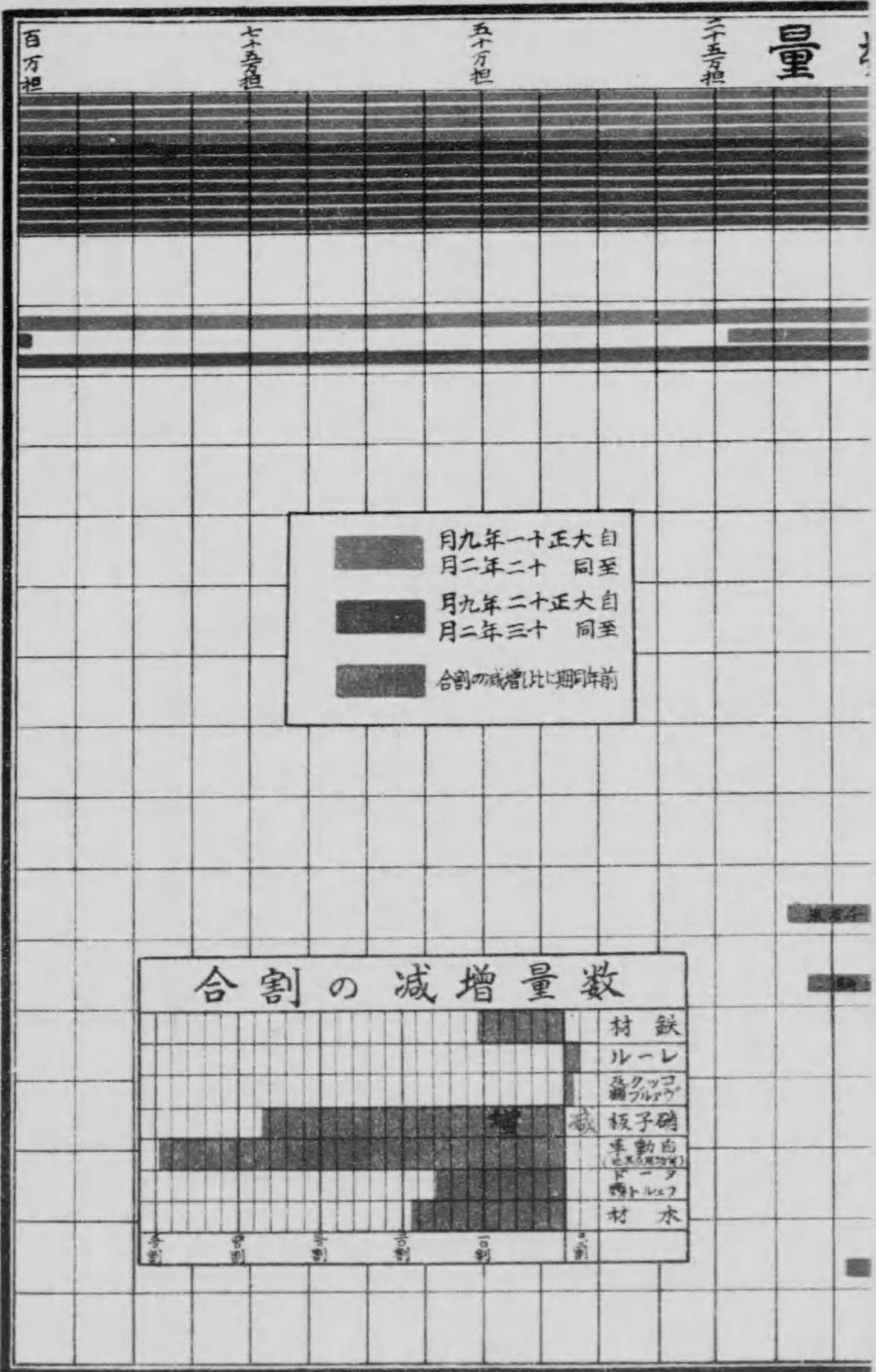
 月九年一十正大自
月二年二十 同至
 月九年二十正大自
月二年三十 同至
 合割の減増比に期同年前



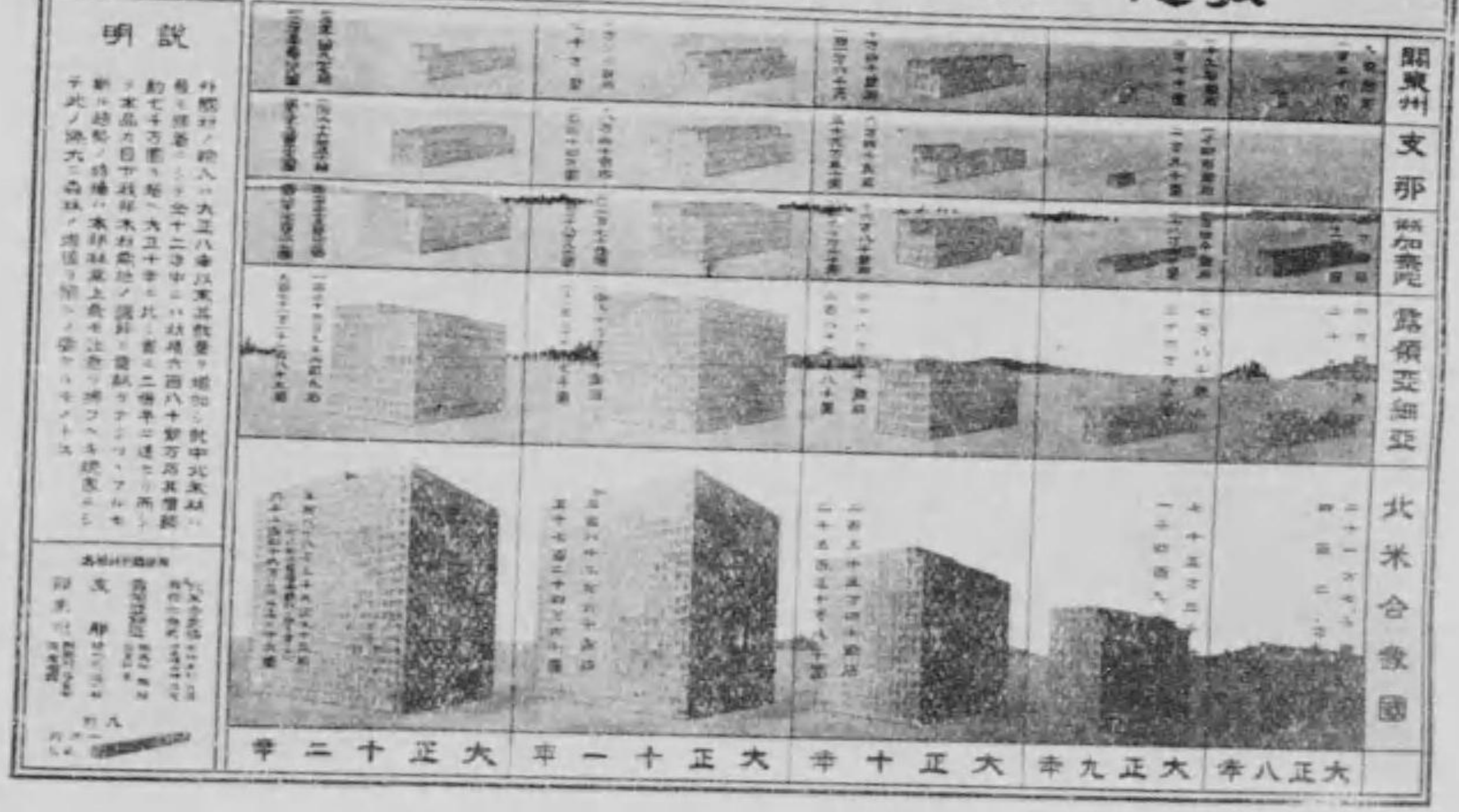
表照對入輸の料材興復要主



輸入對照表

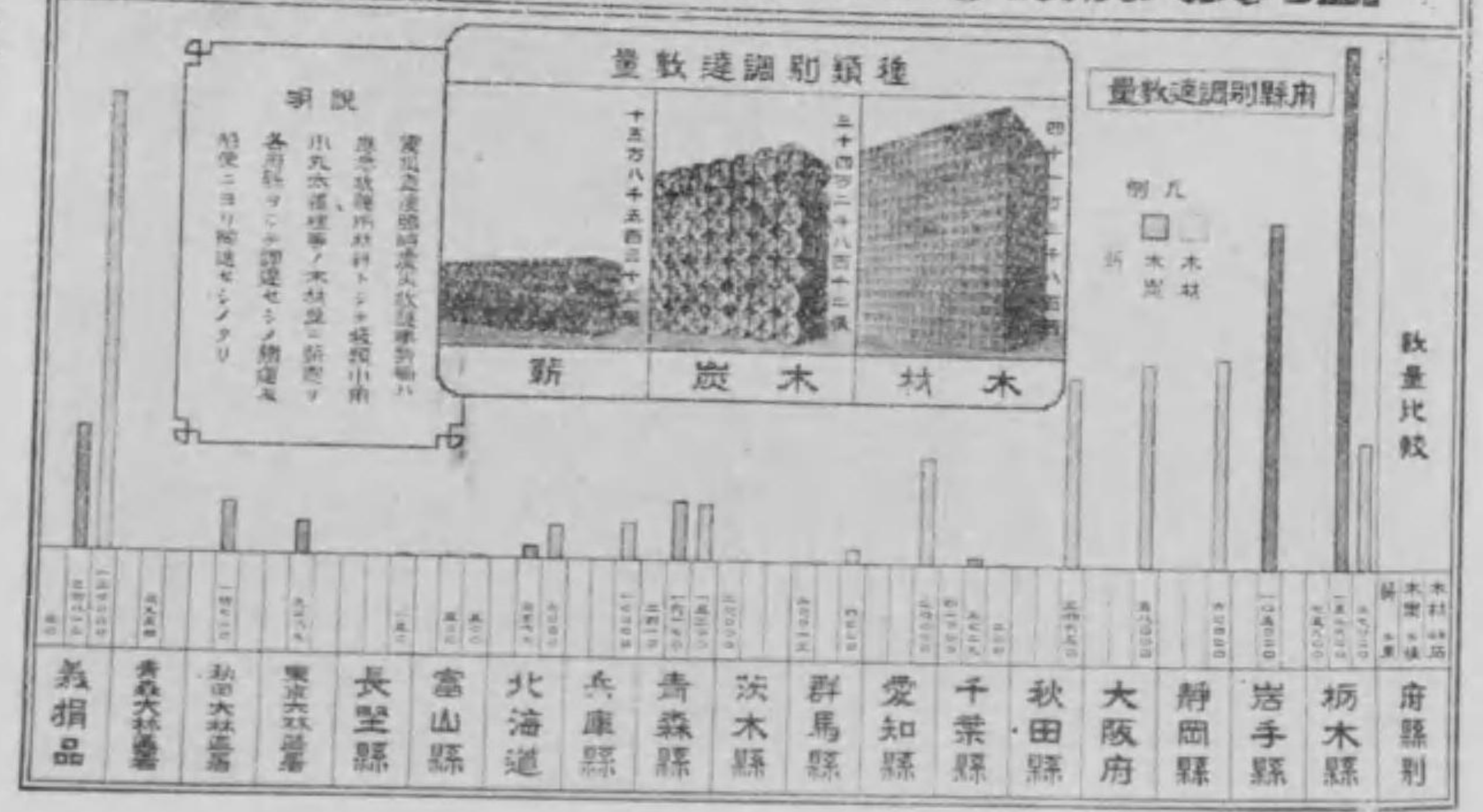


最近ニ於ケル外國材輸入ノ趨勢

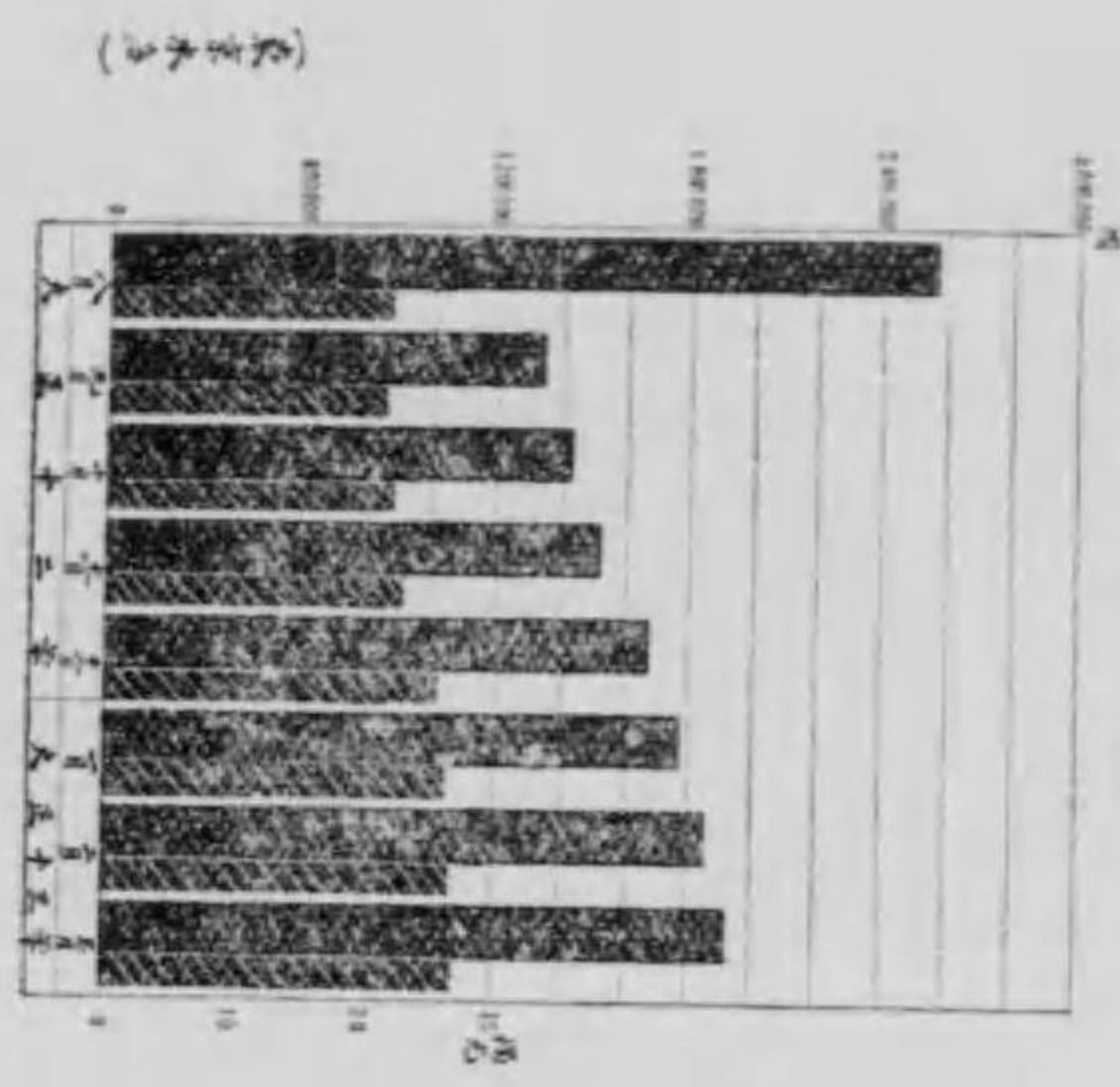


農商務省山林局

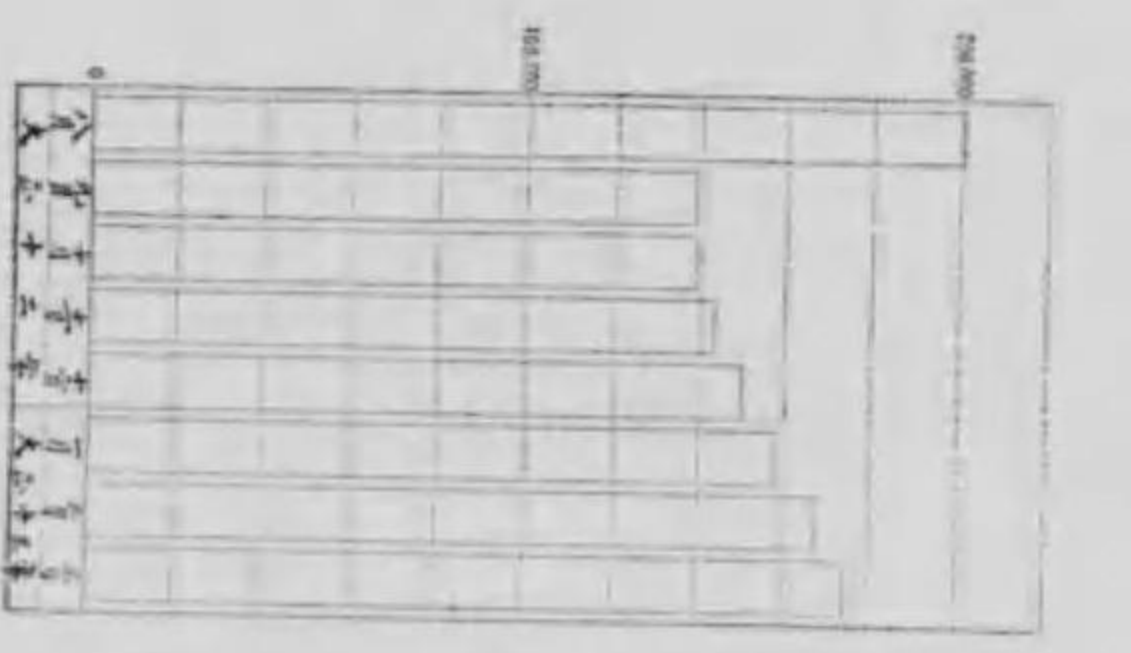
臨時震災救護事務局調査ノ木材及薪炭數量表



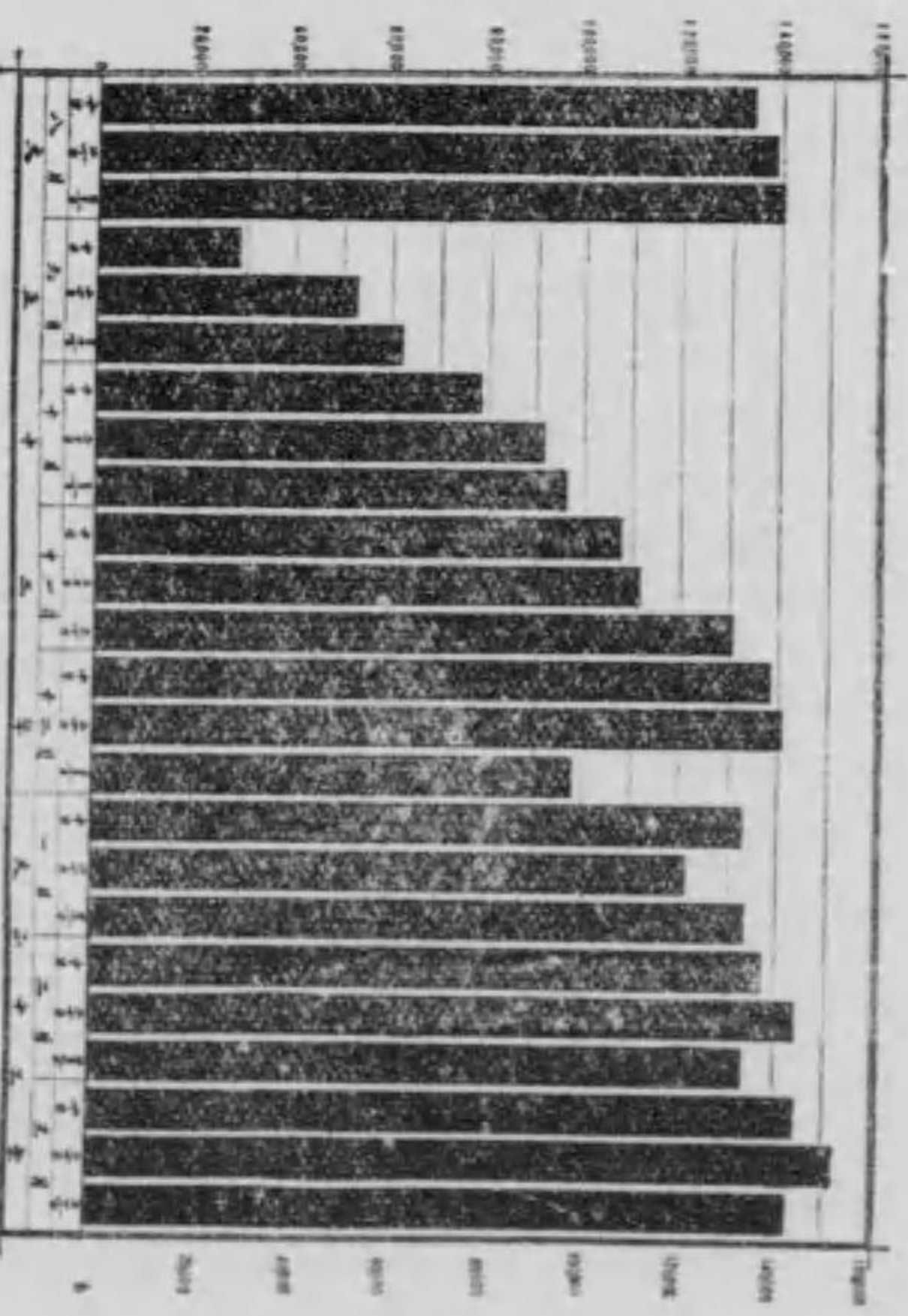
供給電機組數 (單位)
—按新(1)種電機組數(2)



供給電力出力數



最高電力 (千瓦) (東京電力)



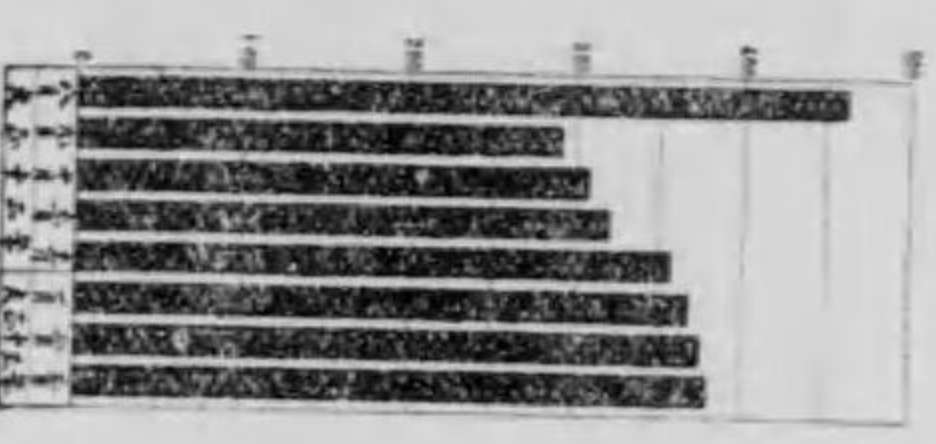
東京電力株式會社

東京電力株式會社

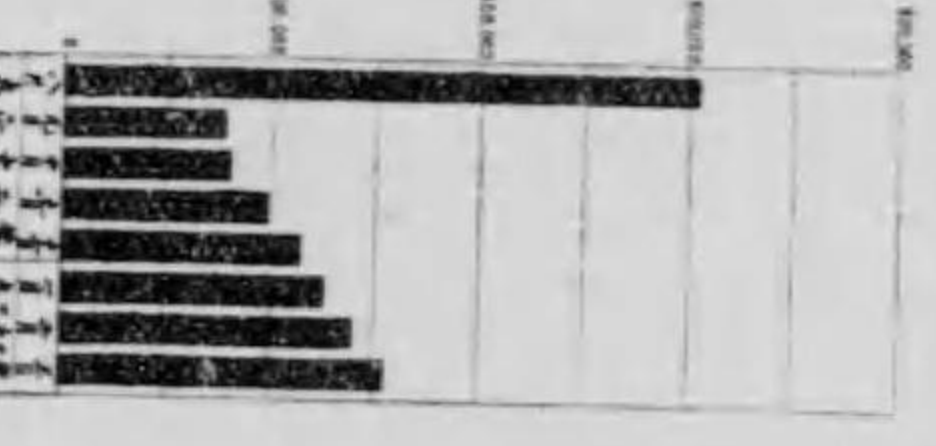
新設電機組數



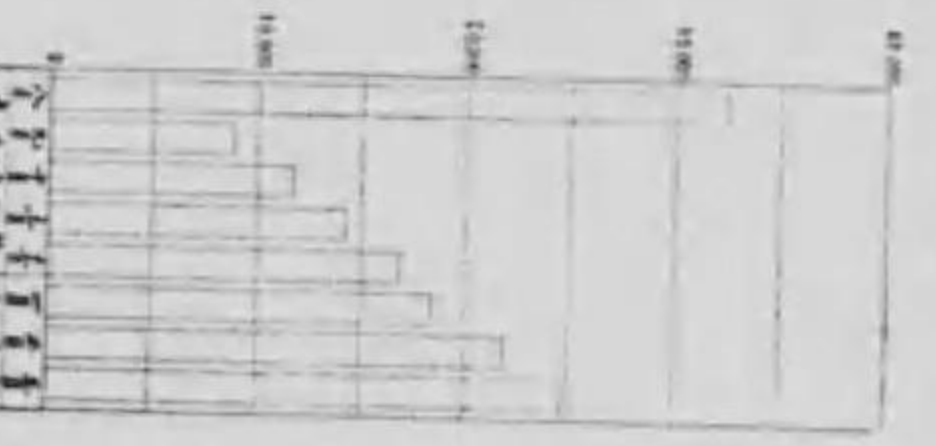
新設電力出力數



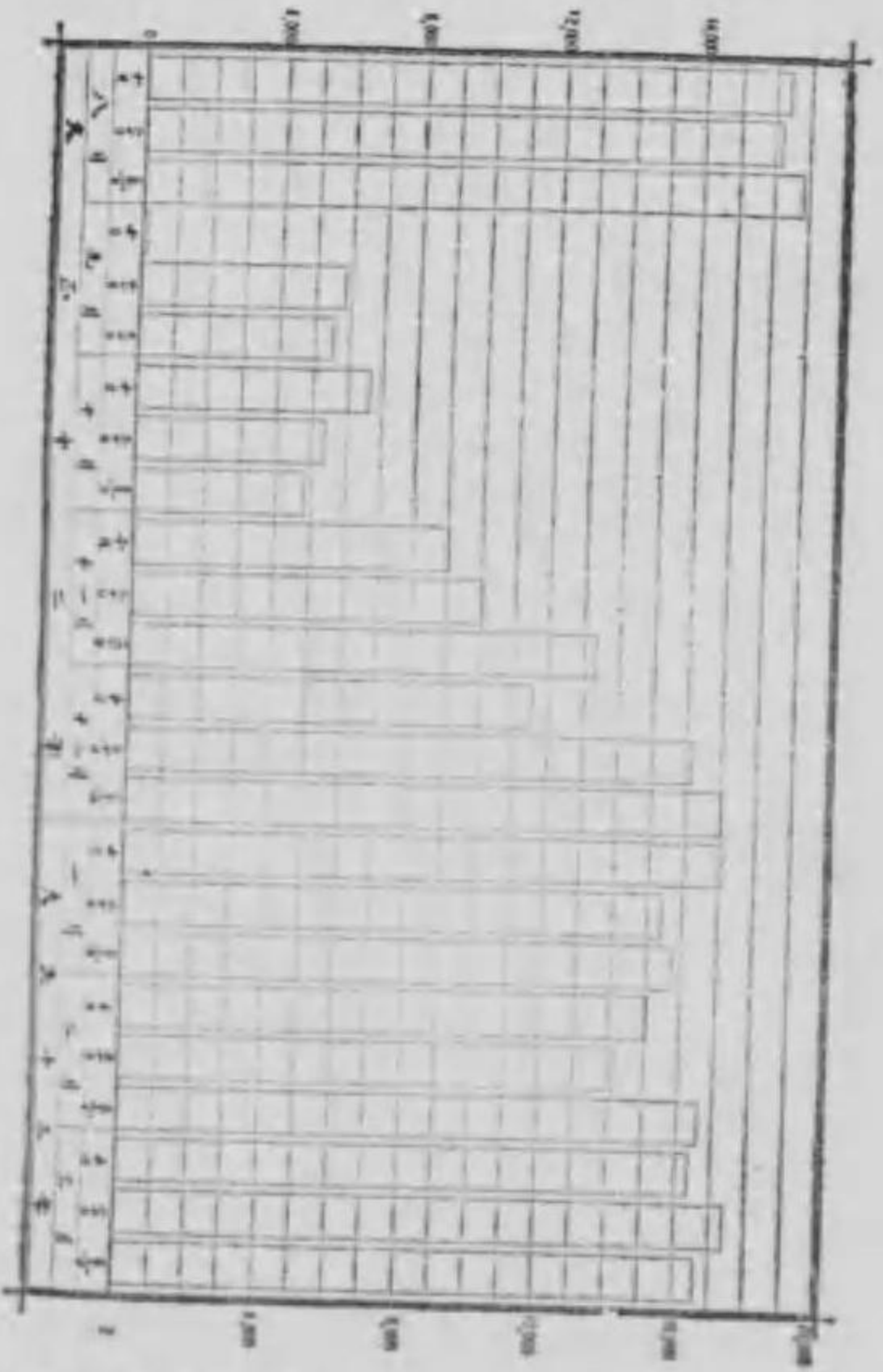
供給電機組數



供給電力出力數



最高電力 (千瓦) (續前表)



東京電力株式會社

東京電力株式會社



繼續供給區域

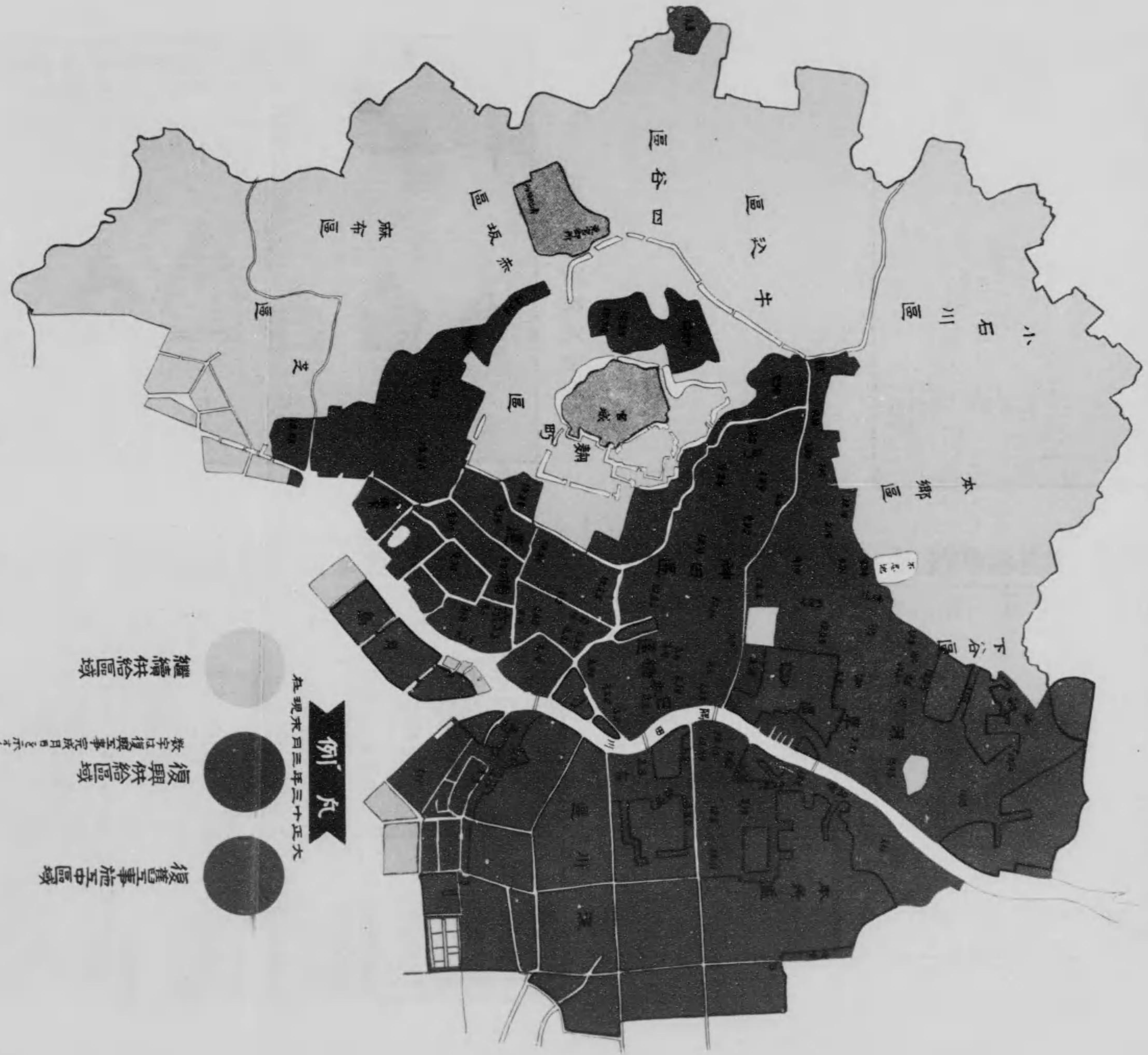
復興供給區域

復舊工事施行中區域

數字以復興工事完成日之示す

——(社會式株斯瓦京東)——

域地興復斯瓦の後災震



——(社會式株斯瓦京東)——

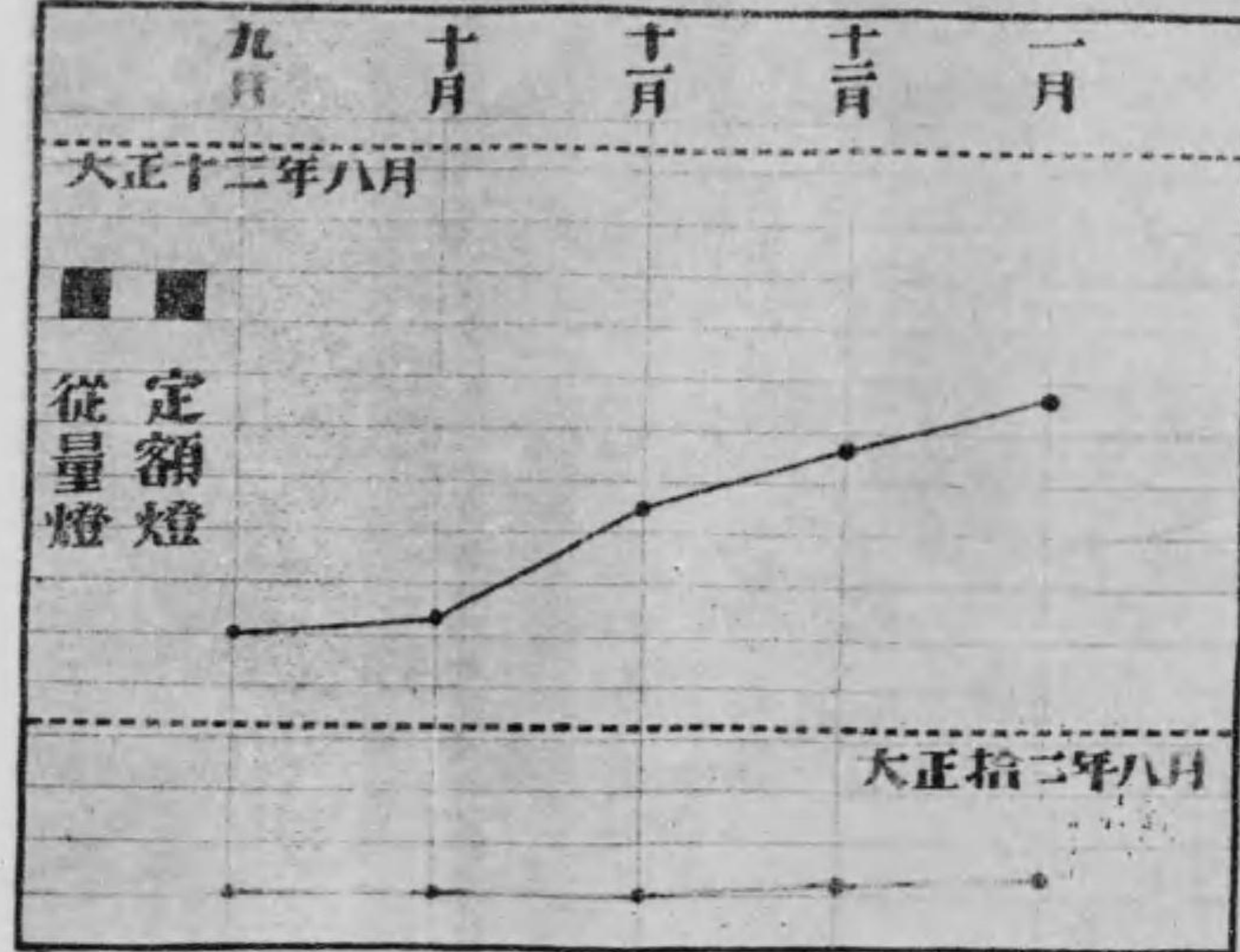
域地興復斯瓦の後災震

露光量違いの為重複撮影

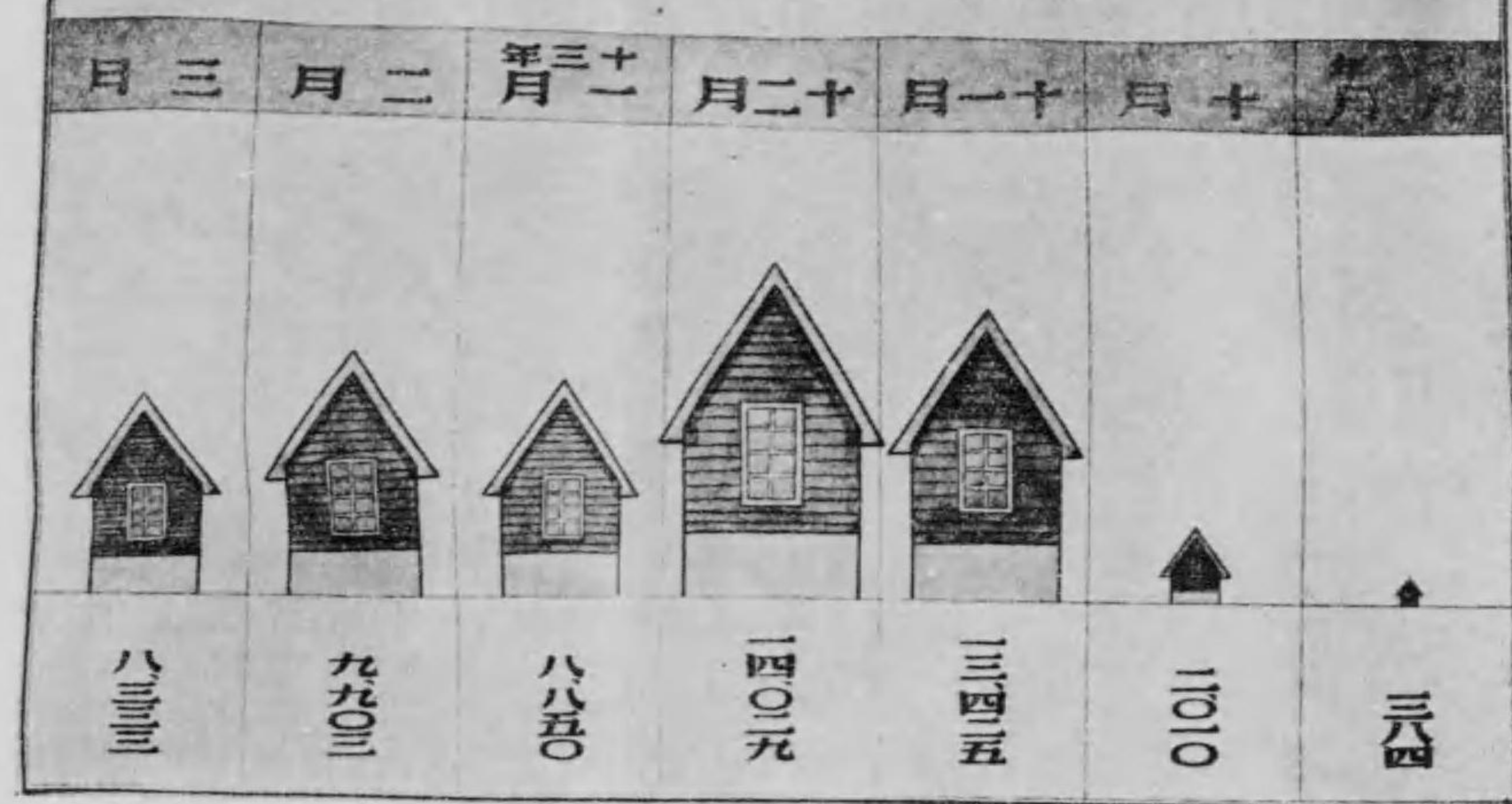


——(社會式株斯瓦京東)——

復興に伴ふ市内電灯の増加率

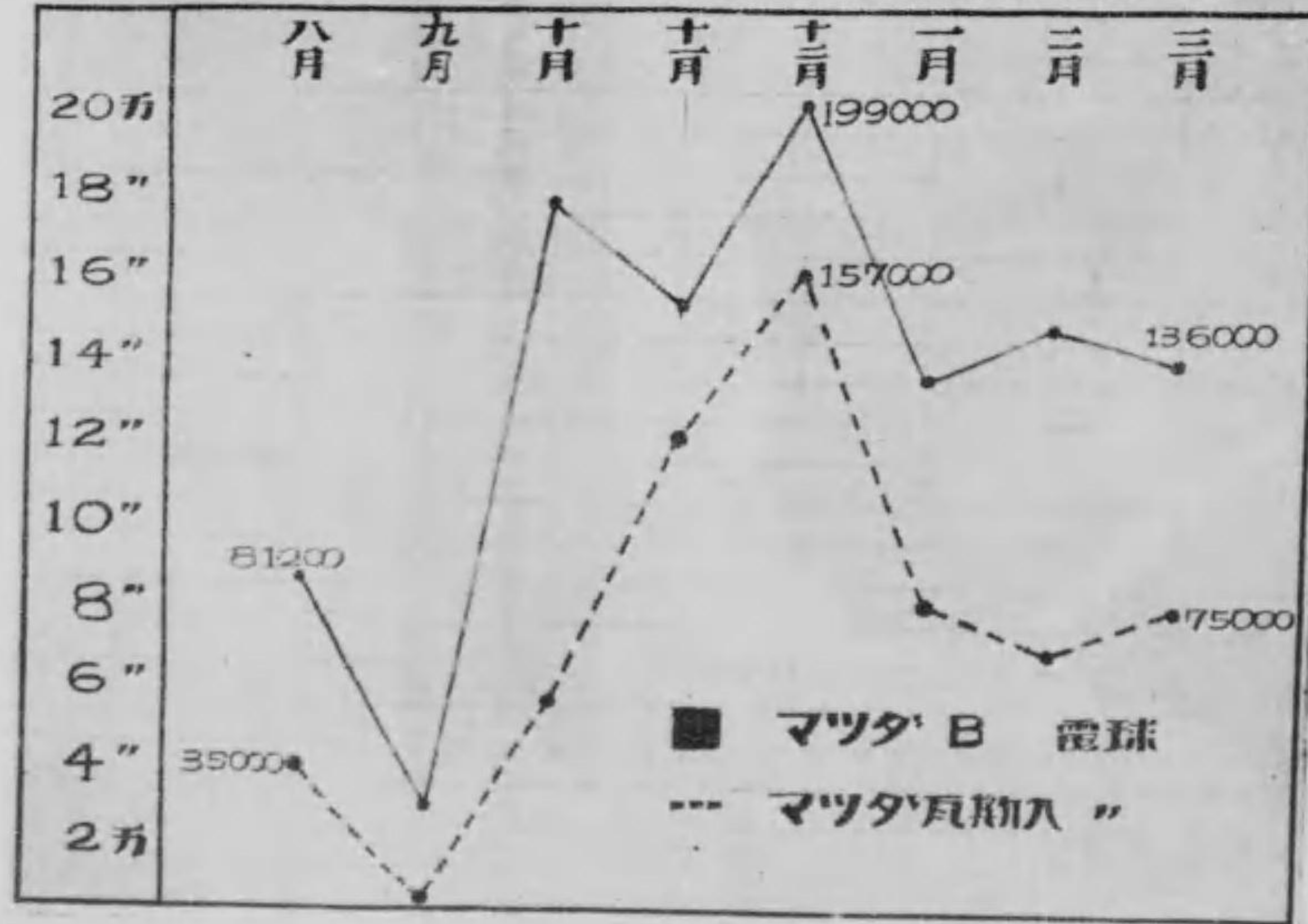


表覧一態狀復家引斯瓦 (数付受込申引斯瓦)



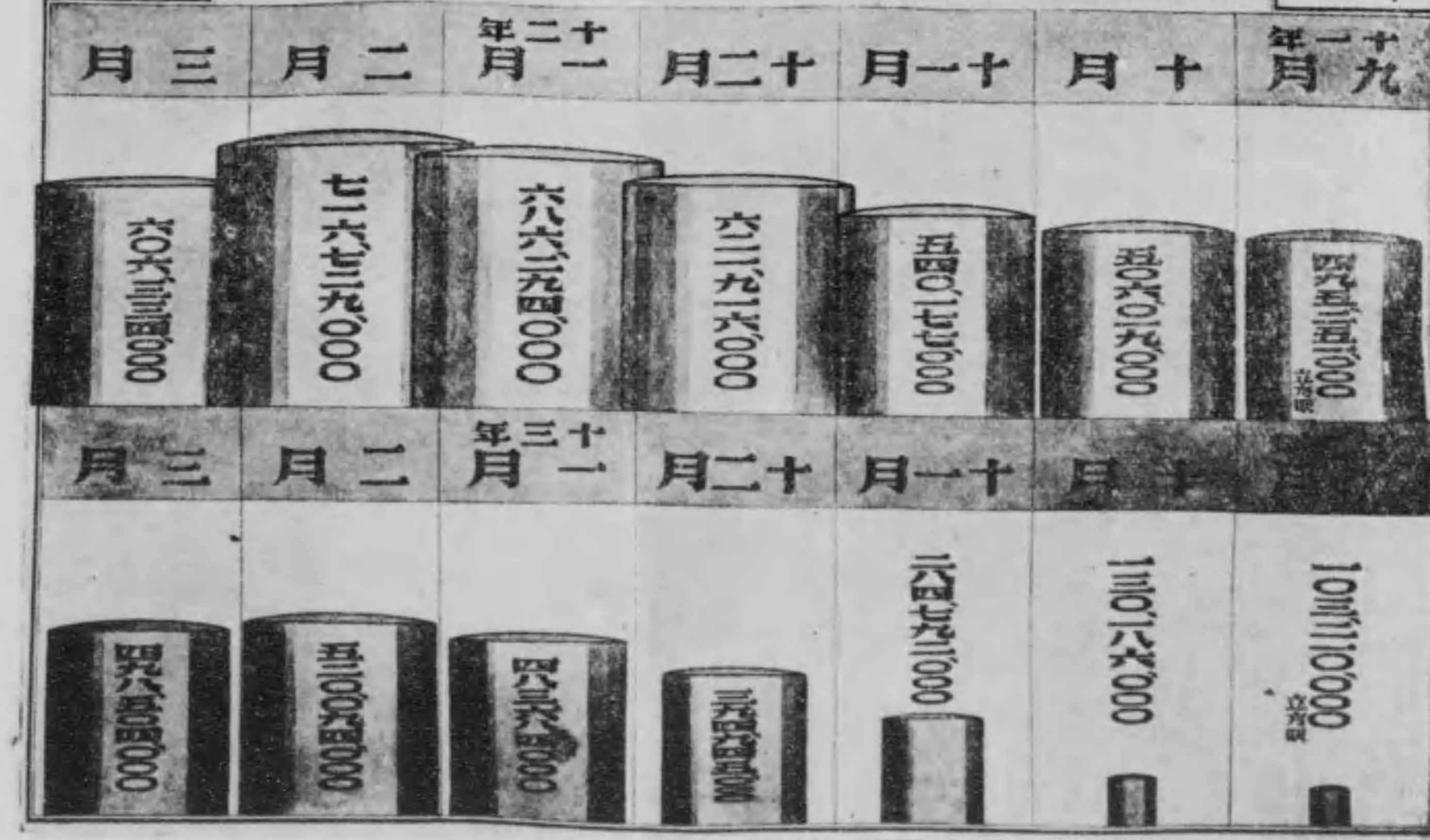
(東京瓦斯株式会社)

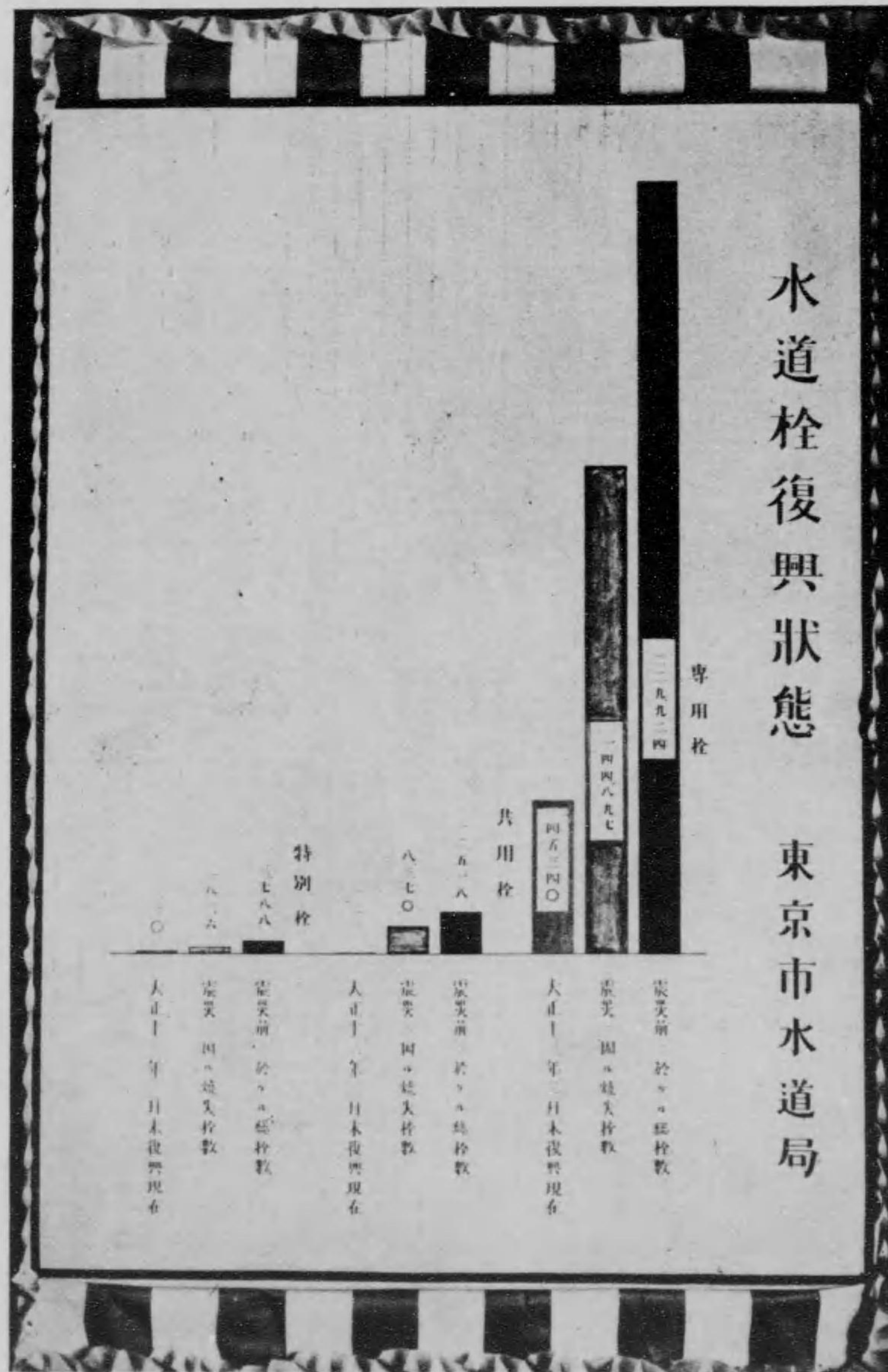
震災後に於ける東京市の電球需要概況



(東京電氣株式会社)

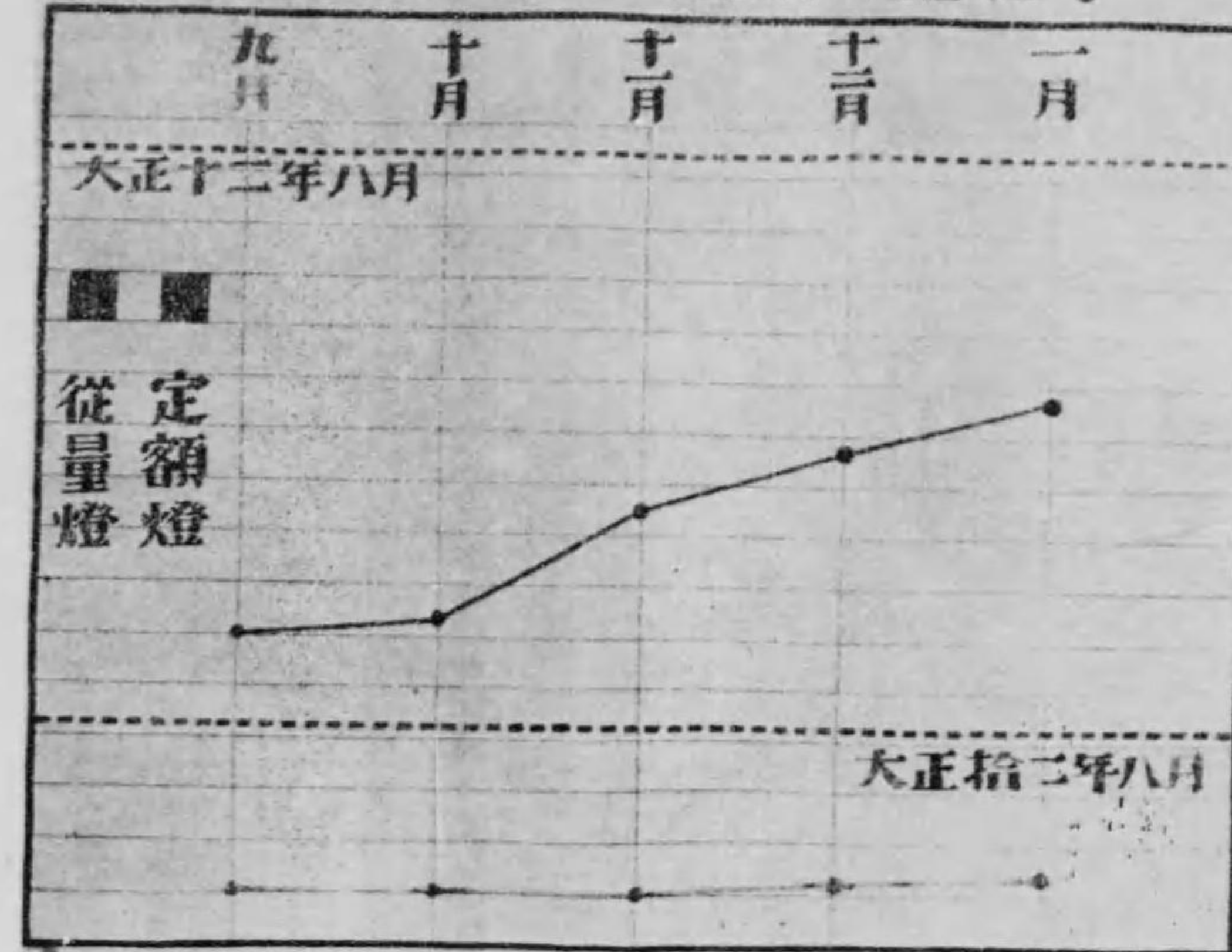
表較比年前對量給供斯瓦 (後災震)



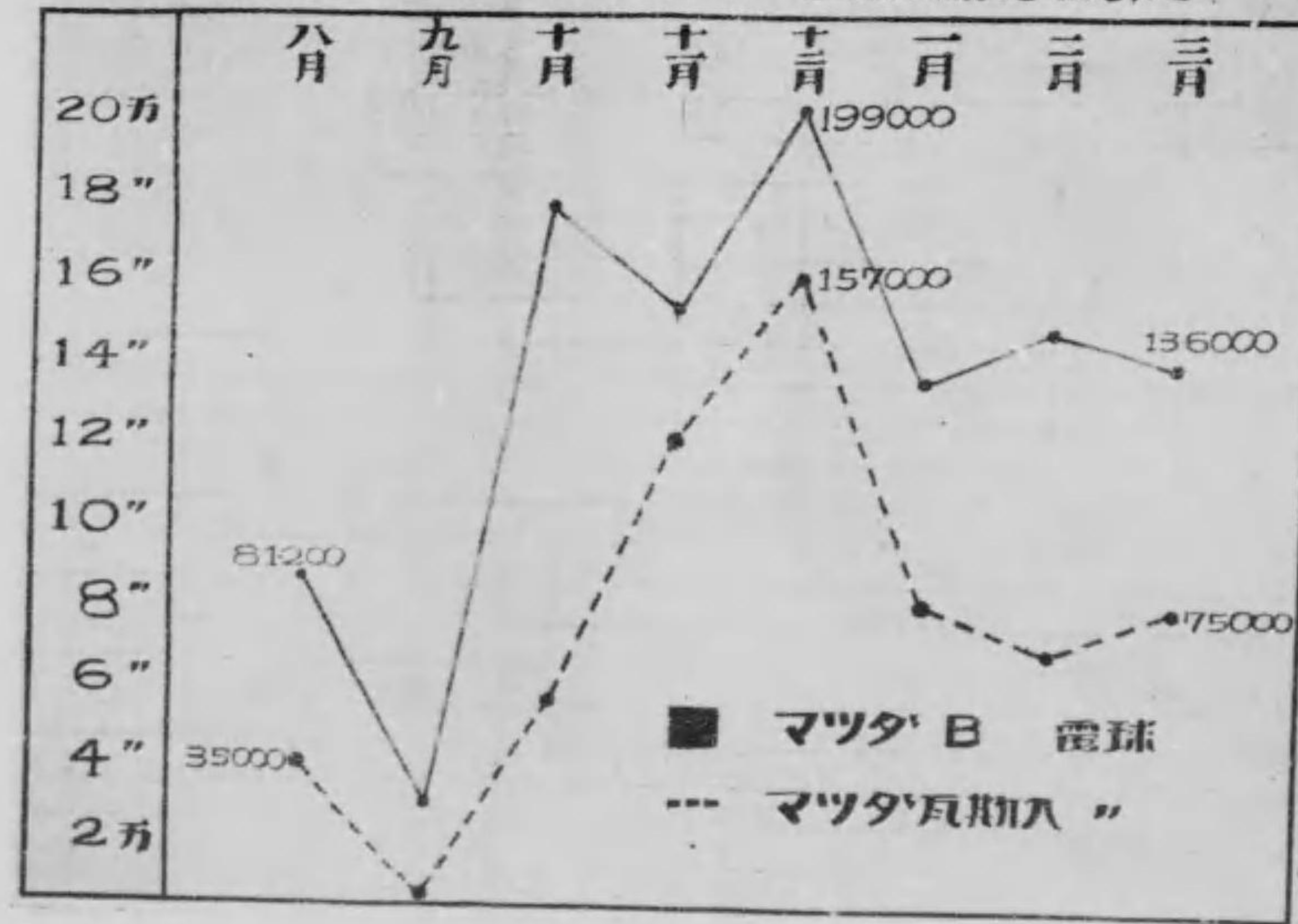


圖の.....71

復興に伴ふ市内電灯の増加率



震災後に於ける東京市の電球需要概況



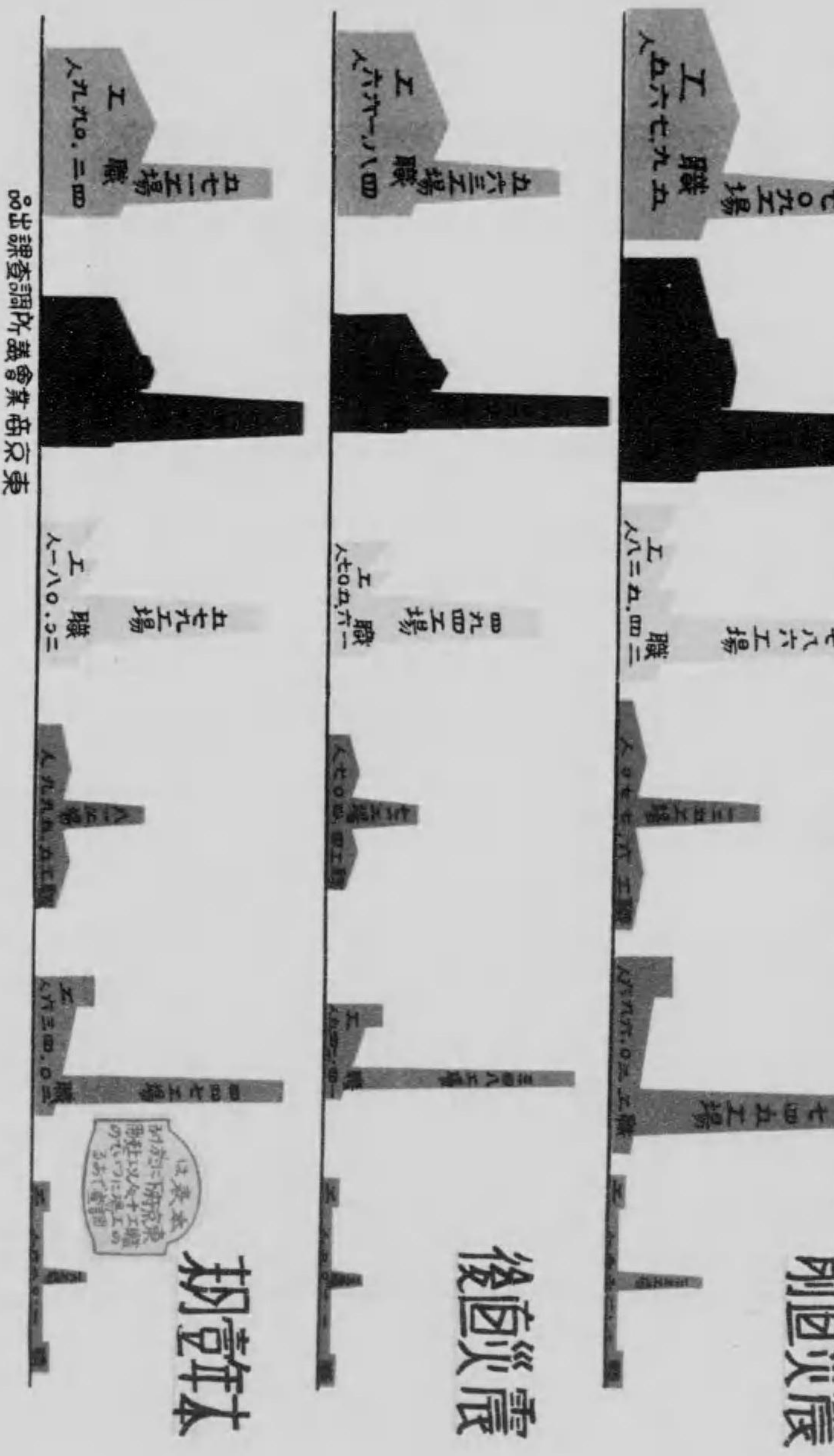
種類	震災前生産力	現在生産力
賣		50%
菓		70%
菓子		70%
具玩屬金		50%
械機學科理		25%

種類	震災前生産力	現在生産力
文具房		60%
鉛筆		65%
筆年萬		30%
具草燭物囊		80%

種類	震災前生産力	現在生産力
靴		70%
物履		75%
傘洋		33%
靴		80%

種類	震災前生産力	現在生産力
洋服		70%
帳蚊圍蒲		25%
糸毛		70%
田真麻		90%

態状の興復場工



露光量違いの為重複撮影

震災後ニ於ケル適用工場復興状況調

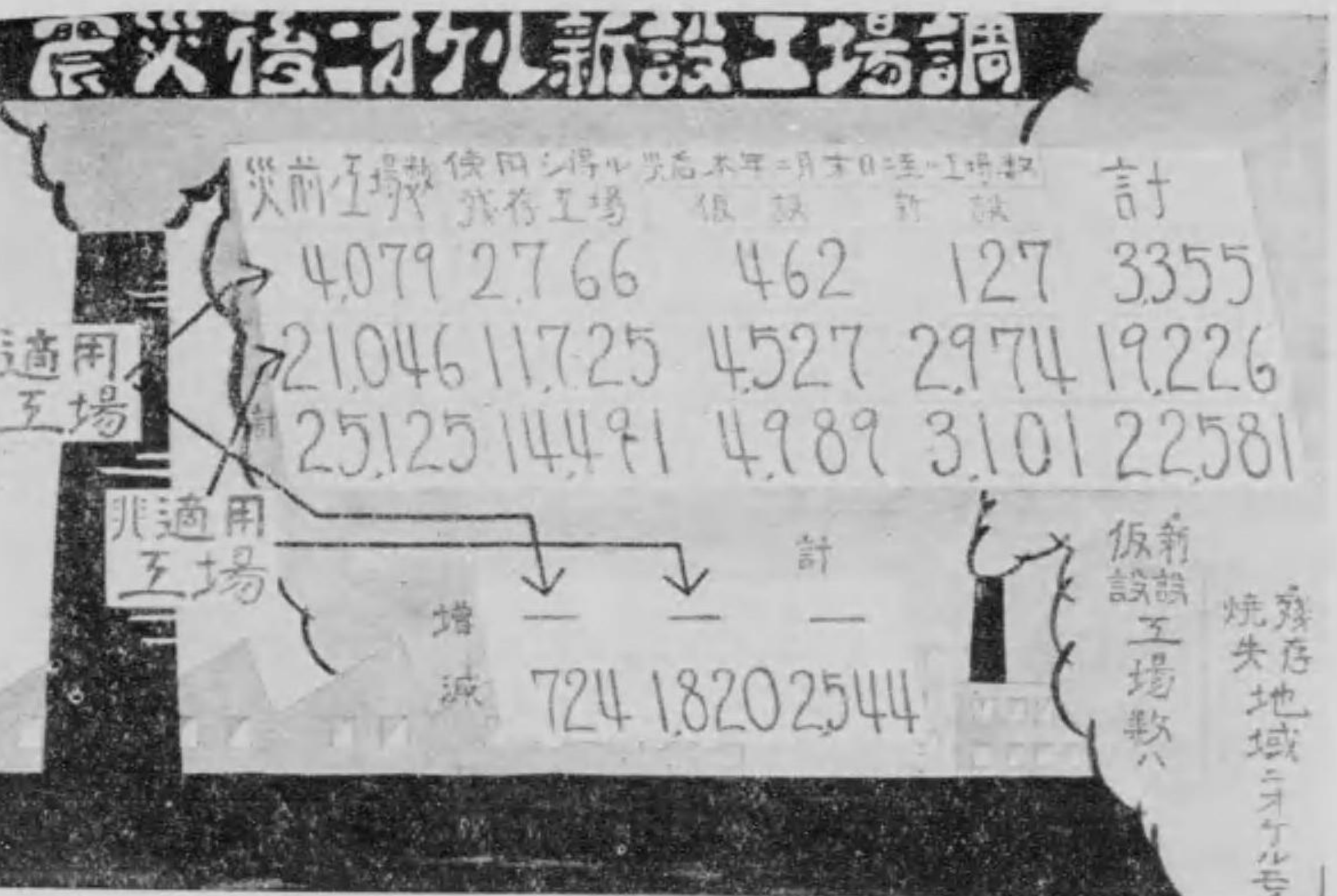
業別	工場		職		計
	男	女	男	女	
工業	4079	22	670	114	693
機械	1902		670	114	693
染織	678				
化学	693				
飲食物	114				
雑	670				
特別	22				
計	4079	22	670	114	693

(警視廳工場課)

寺院の復興

(佛教聯合會)

- 東京市内における寺院一千百九十ヶ寺の中震災の爲に焼失したもの五百三十九ヶ寺これを各宗派別によると、淨土宗一七八、眞言宗一五六、天台宗五〇、曹洞宗四二、日蓮宗四二、眞言宗三六、臨濟宗二六、其他四となる、それをどう復興させるかに就て帝都寺院復興會では左の復興原則を定めた。
- 一、東京市内寺院は帝都の復興を機とし時代に適應する改善を爲すこと
 - 二、寺院の境内地及建物は教化を主として申祭を従とする方針に依り之に適應する設備を爲すこと
 - 三、寺院は之を密集せしめず適當の場所に配置せしむること
 - 四、皇室及國家に特別の由緒を有し又は其宗派の存立に必要な寺院は流りに移動せざるること
 - 五、各宗派は市内及び其接續地に代表的寺院を分布建設し教化本位の道場となし諸種の社會事業の機關を附設すること
 - 六、但寺院の宗派割當數及分布の位置は關係宗各派の協定に依ること
 - 七、前項の代表的寺院は各宗派宗務機關の直接經營若くは其補助に依ること
 - 八、一般寺院は二ヶ寺以上聯合して共有の殿堂又は建築特を營建することを得
 - 九、各宗派は市の接續地にして寺院の小數なる場所に市内寺院を適當に移轉せしむる方法を講ずること
 - 十、但此場合においては其宗派の事情により相當の補助を爲すことを得
 - 九、寺院境内地は各宗派互に交換することを得せしむること
 - 十、寺院所屬墓地は適當に整理すること

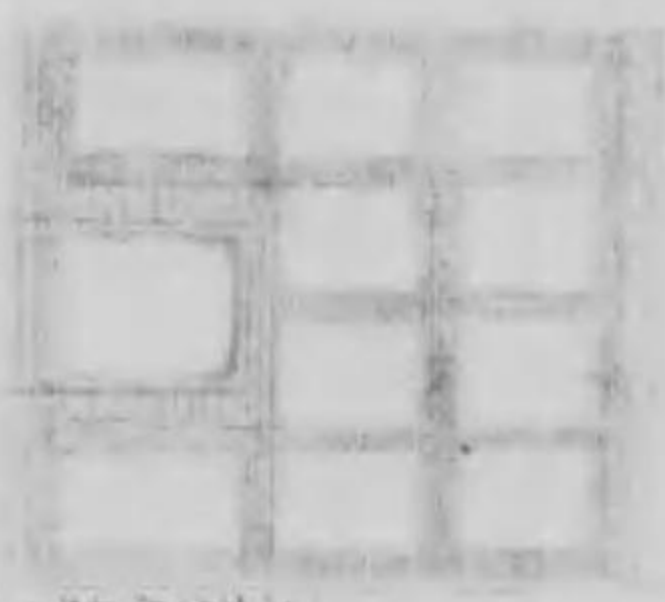


(警視廳工場課)

東京於倉庫震災及應急施設狀況

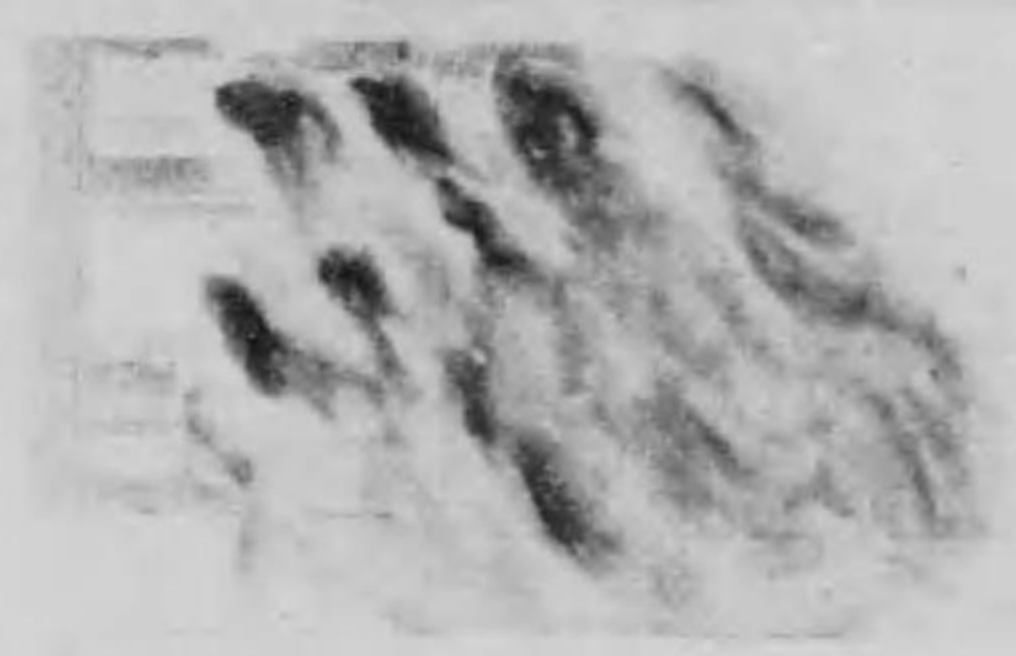
大倉庫棟中、概數坪

一 震災前、總坪數



86.531坪

二 震災災罹り、總坪數



77.659坪

三 倒塌又火災り、免れる總坪數



8.872坪

四 大正十二年、應急施設より免れる總坪數



23.173坪

五 大正十三年中、應急施設豫定、總坪數



19.469坪

六 復旧豫定、總坪數

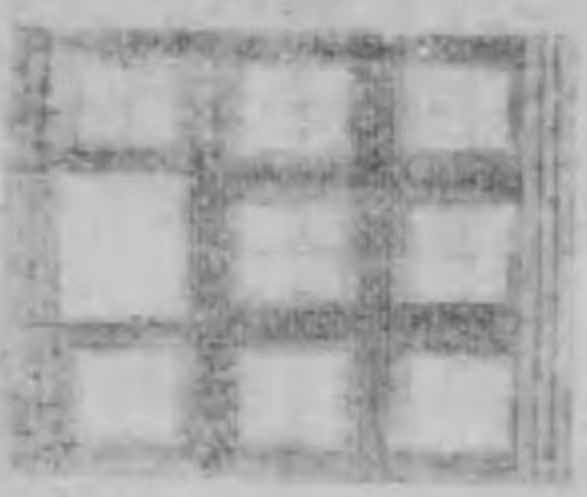


35.017坪

——(課事商局務商省務商農)——

橫濱港於倉庫並屋震災及應急施設狀況

一 震災災前、總坪數



75.136坪

二 震災災罹り、總坪數



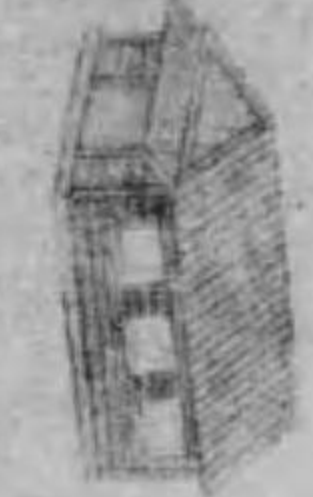
58.055坪

三 倒塌又火災り、免れる總坪數



17.081坪

四 大正十二年、應急施設より免れる總坪數



25.202坪

五 大正十三年、應急施設豫定、總坪數



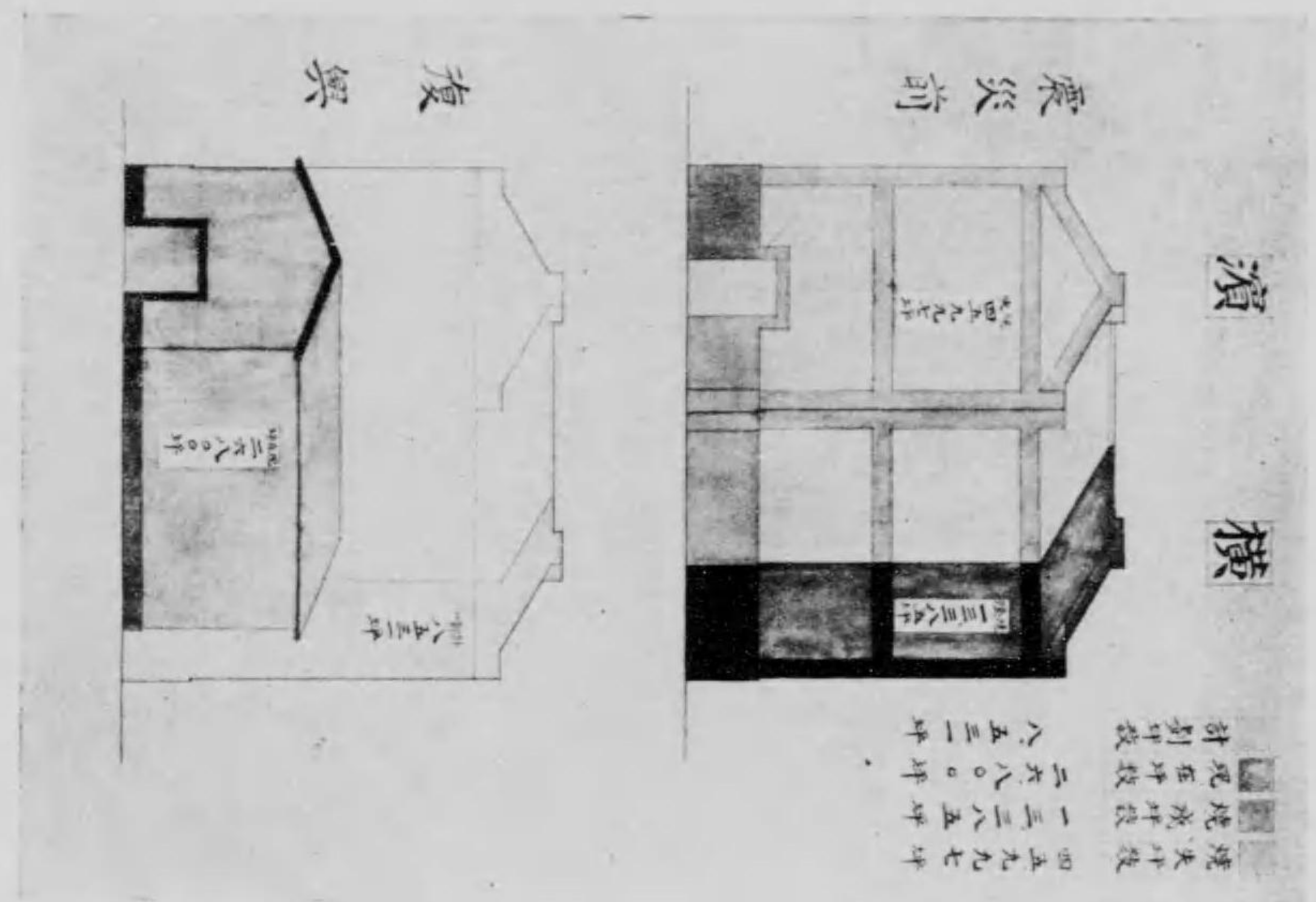
13.166坪

六 復旧未定、總坪數

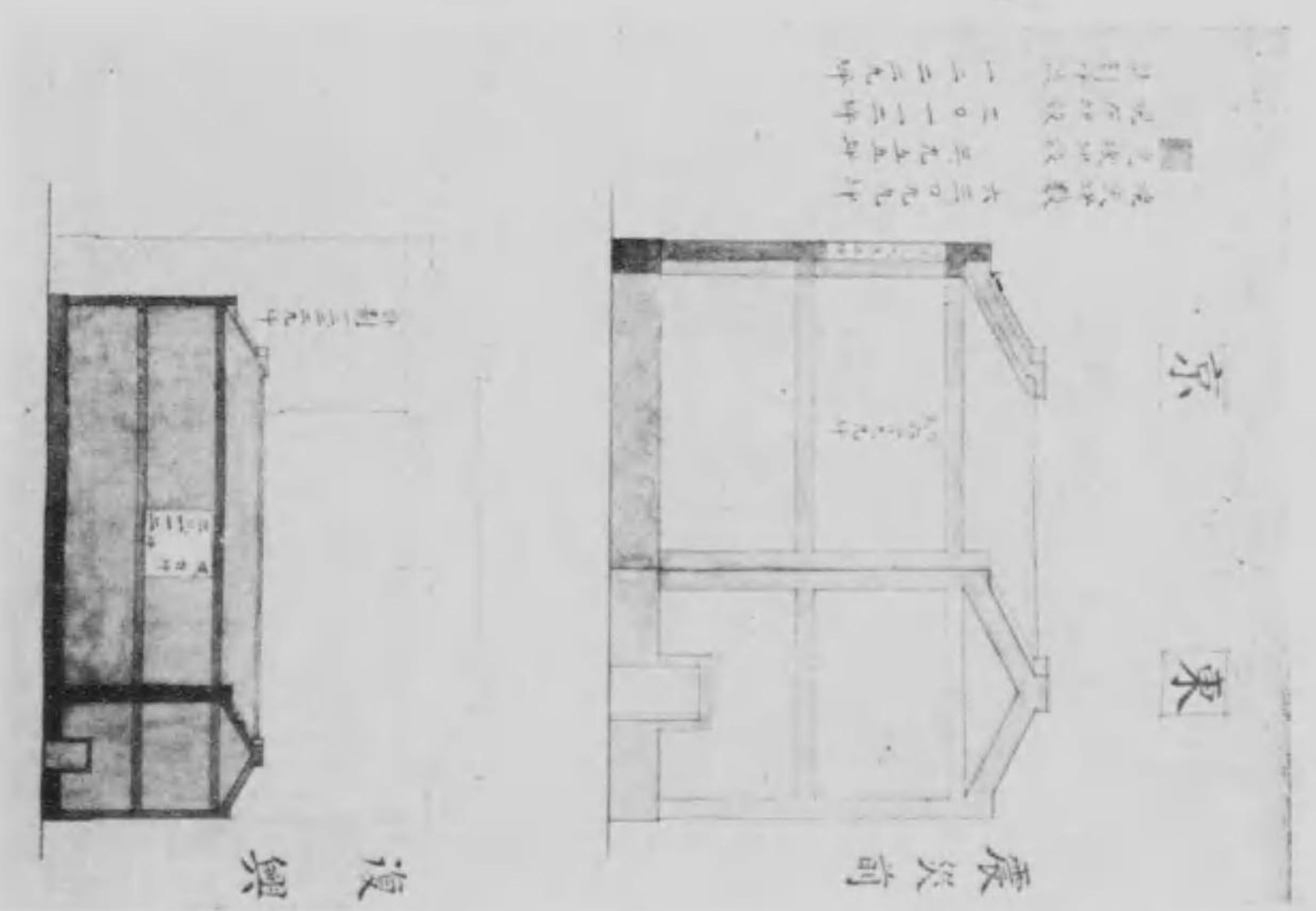


19.687坪

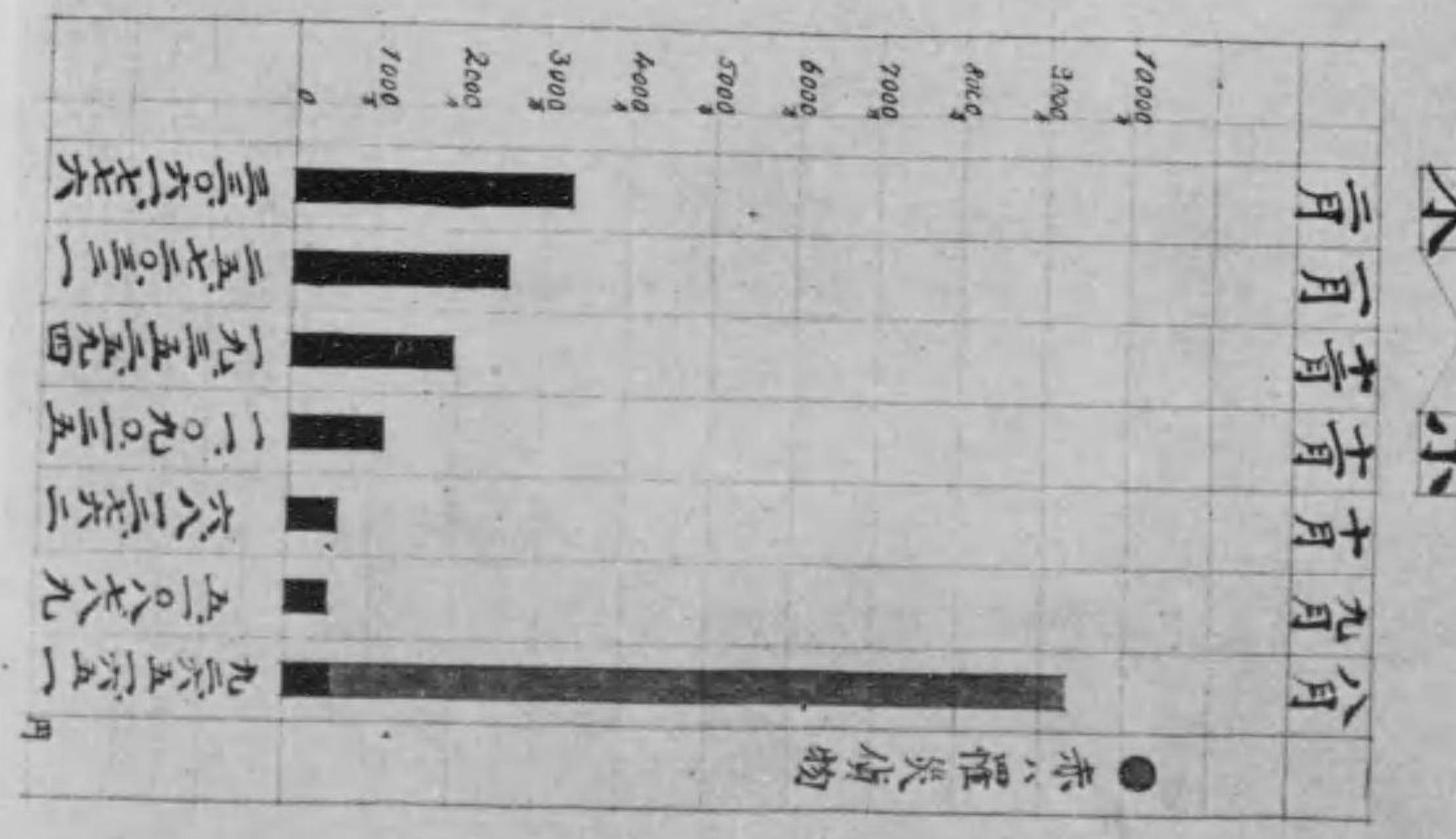
——(課事商局務商省務商農)——



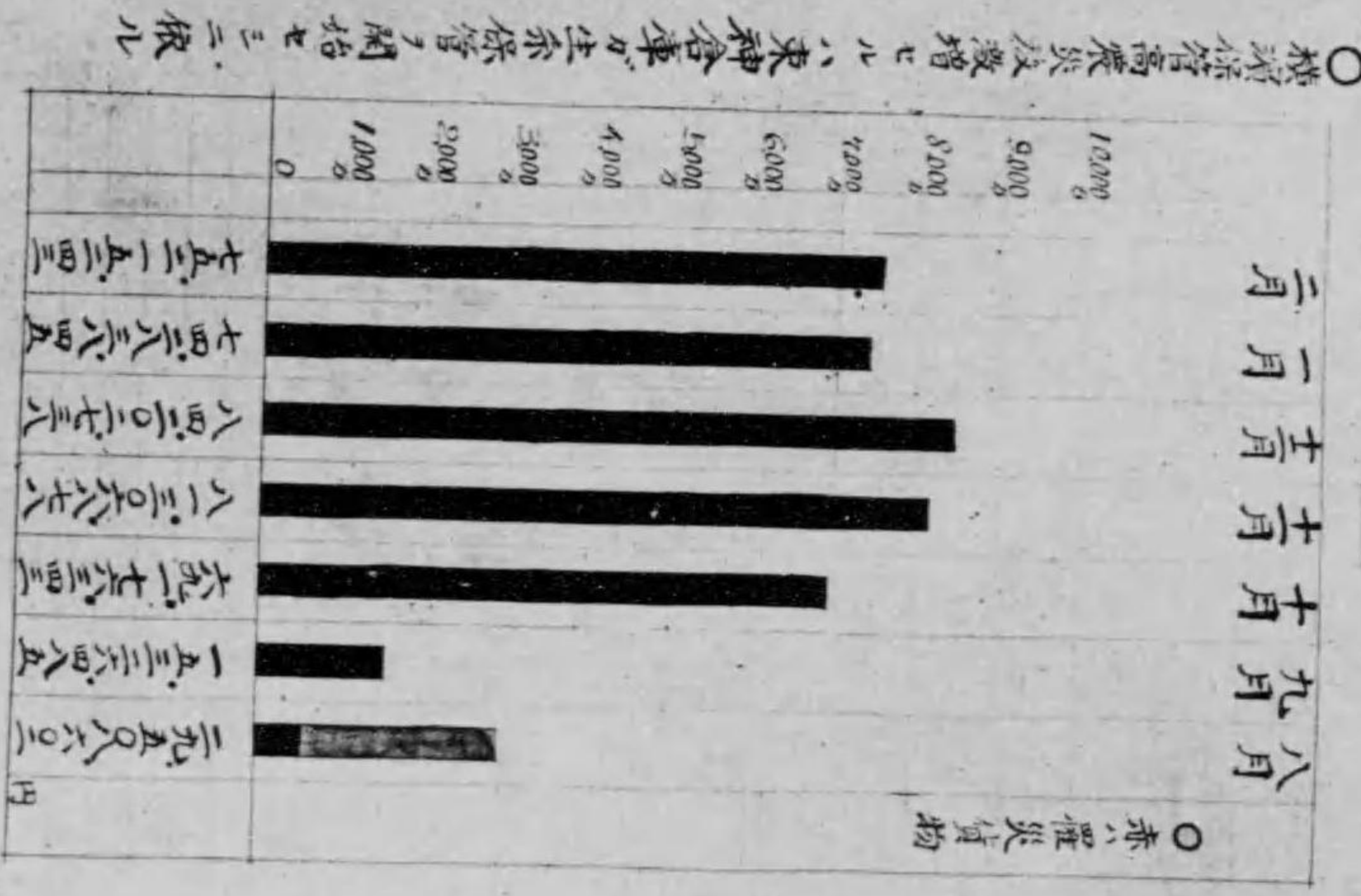
——(會 合 庫 聯 合 會)——



高 管 保 貨 東 京

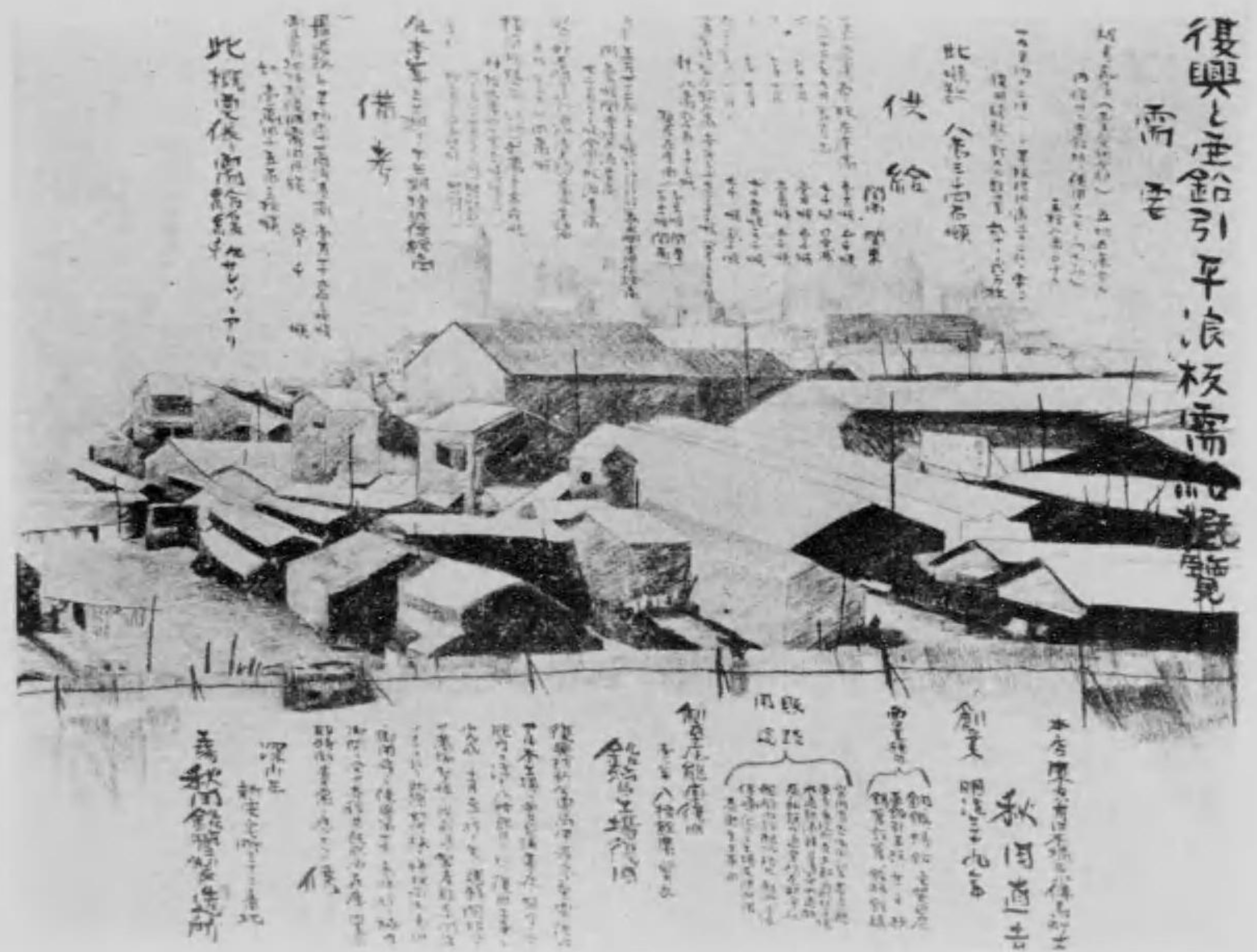


高 管 保 貨 濱 横



○ 横濱管倉震災後増殖ル八東神倉庫方生赤保管ヲ開始セ三二俄ル

復興と鉛引平浪板需給概観



此の復興に必要とする鉛引平浪板の需給概観を、秋田直吉商店の調査結果を基に、大正十三年九月までの状況を、以下に示す。

供給
 秋田直吉商店
 大正十三年九月までの供給実績は、概して需要に追いついていない。特に大正十三年七月以降は、供給不足の状態が続いている。

備考
 大正十三年七月、秋田直吉商店は、被災地の復興に必要とする鉛引平浪板の供給を、大正十三年七月から大正十三年九月まで、毎月平均して、約一萬五千噸を供給している。

秋田直吉商店

復興とタン板需給概観

需要
 被災家屋(震災地全部)五十五萬餘戸、内復舊に亞鉛板を使用するもの(七十パーセント)三十八萬五千戸、一戸平均十五坪として平浪板使用高九十二枚を要し、復舊總數に對する數量貳千貳萬枚、此の噸數八萬三千四百噸

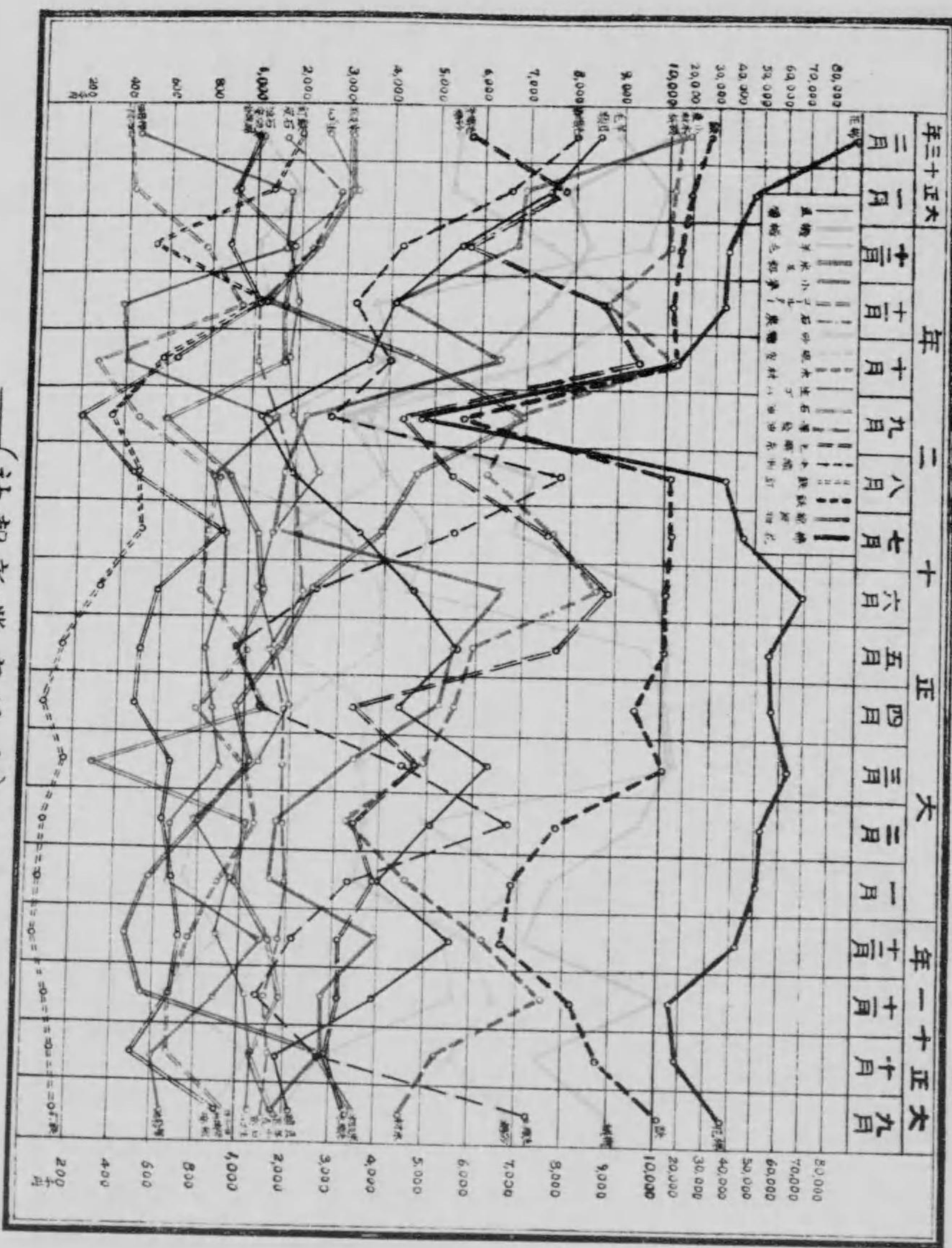
供給
 震災當時原板在庫高關西で一萬噸、關東で五千噸、大正十二年九月製産高關西で七千噸、關東は全減、其の後は

十二年十月生産高	一萬噸	(關西)
同 年十一月同	一萬噸	
同 年十二月同	七千五百噸	
十三年一月同	七千噸	
同 年十一月同	一萬噸	(關東)
同 年十二月同	五千噸	
十三年一月同	三千噸	

と云ふ状態にて、それに震災後製品輸入高一萬三千七百三十三噸(大正十三年一月迄を合すると計八萬貳千百參拾參噸となる、處で現在在庫高は一萬噸が關東、一萬五千噸が關西であるから差引五萬七千二百三十三噸(自大正十二年九月至大正十三年一月)が供給された事になる、しかしこの五ヶ月間の實際供給消費高は關東地方五萬噸、全國一般七千二百三十三噸と見なければならぬ、更に此の外各同屋筋の海外注文約定品や委託品の四萬噸と、復興局の十六萬貳千五百五十噸(本年七月中に輸入せらるゝもの)があるのである。

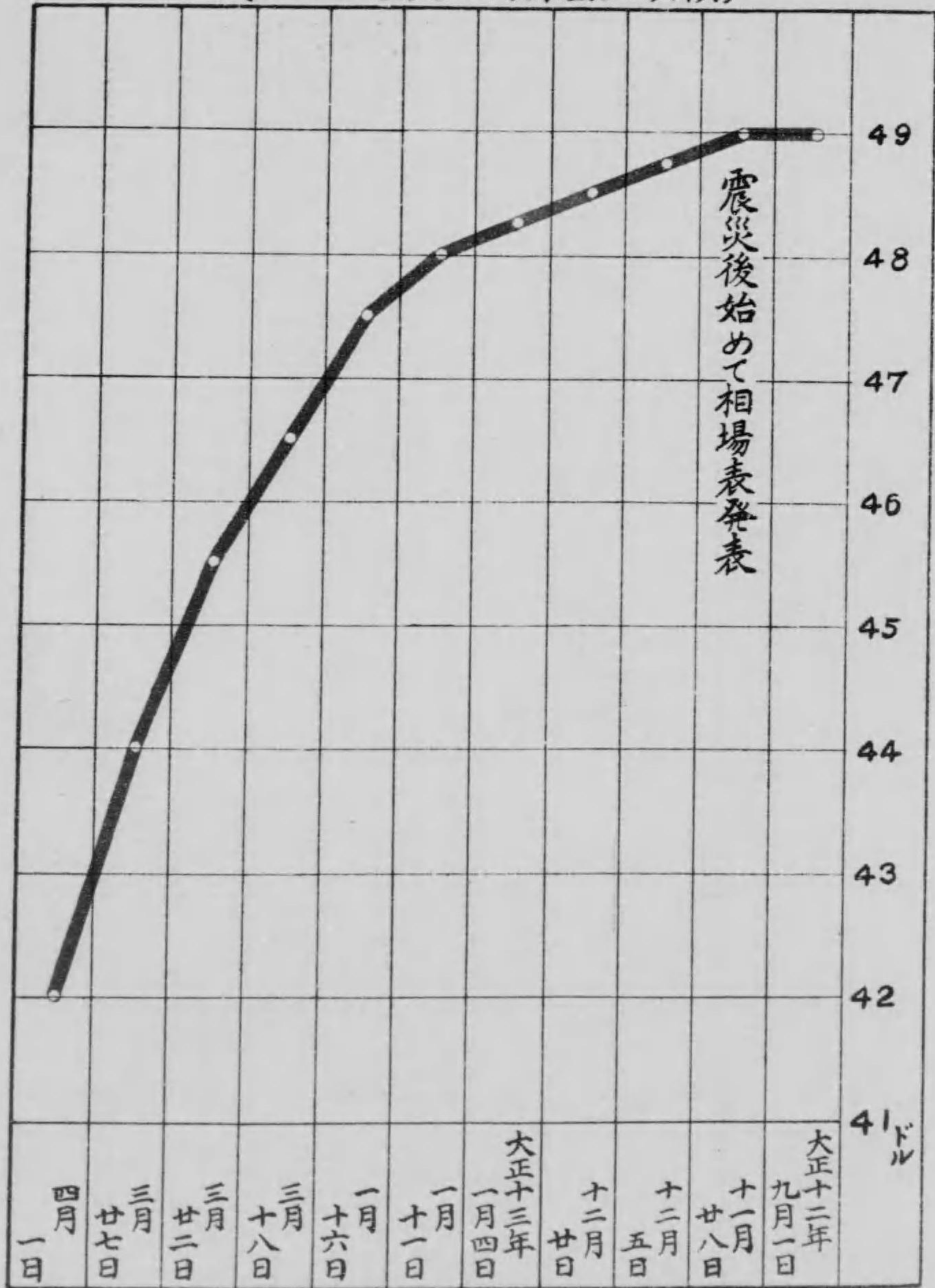
尙ほ最近の數年消費の平均高は一ヶ月一萬五千三百噸であるがこれを假りに震災地特別復舊需要月額三千噸を加へると一萬四千五百三十噸となる

大正十二年九月の復興と輸入品消費の概観



大正十二年九月の復興と輸入品消費の概観 (社報新業商外中)

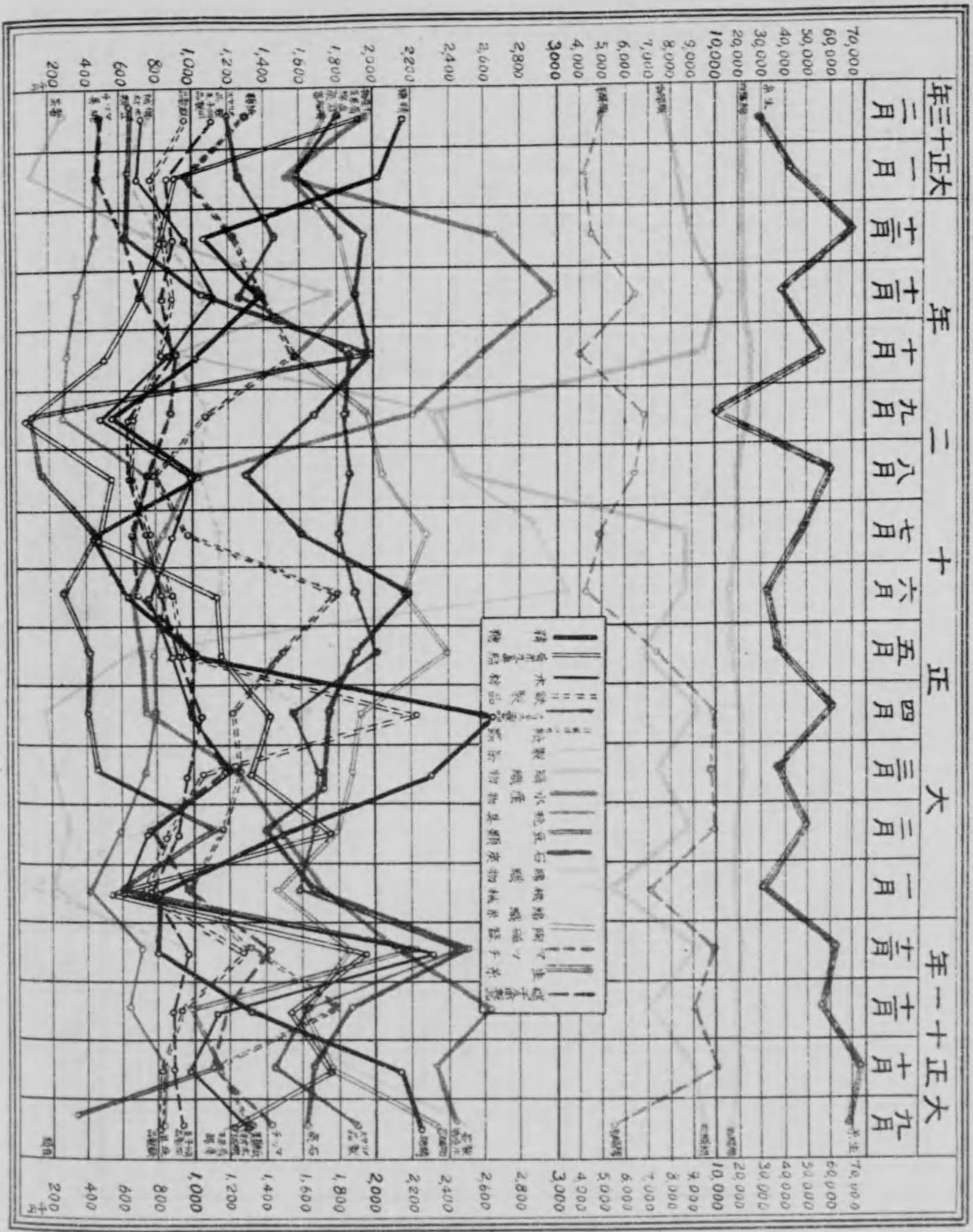
面及の興復都帝
 =落暴の常異替為米日=
 (るよに値建の行銀金正洪横)



第0860A

(社報新業商外中)

たしと心中を災火震大の月九年二十正大
 長消の品出輸要重がわ



(社報新業商外中)

第0860B

對米爲替の暴落の原因(日本「圓」の下落)

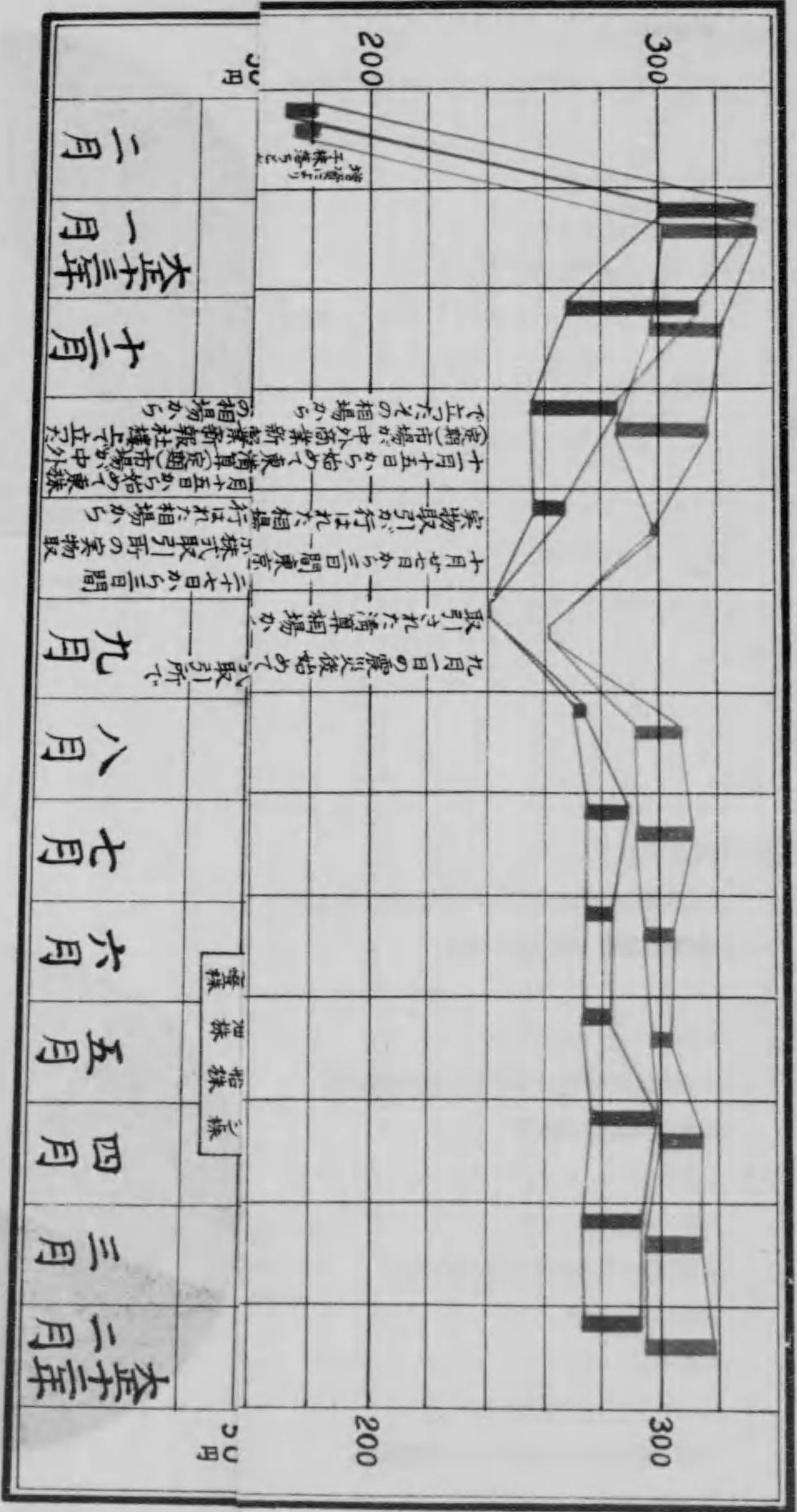
(おもて圖表の説明)

それだけでなく、歐米大戦後日本の貿易が毎年輸入超過を續けてゐた爲め日本の對外爲替は下落の傾向にあつたが、政府はそれを出来るだけ喰ひ止めて人爲的にいゝ／＼無理な値を保たしてゐたのであつた、が大震後の復興の爲めにはもうさうした無理を續ける譯には行かなくなつた、是が非でも一日を急ぐ復興の物資の事である、思ひ切つてその輸入に努めねばならなかつた、例へば木材にしてもトタン板にしても釘にしても内地のだけでは到底間に合はない、で復興院自身がそれらを大仕掛に輸入すれば他の多くの貿易業者も争つて盛んに輸入を企てた、尤もそれあつたが爲めに災後萬般の復興は云ひやうもなく早められたのであるが、その結果は今云つた日本の對外爲替相場——殊に對アメリカのそれに異常なる暴落の一面を描き出した、それこそ堰を切つた河の水の下へ就くやうに……、云ふ迄もなく日本の爲替が下るのはそれだけ日本の「圓」の價が下るのである、震災當日の日本の對アメリカ爲替は日本の百圓がアメリカの四十九ドルに當つてゐた、と翌年三月末には四十二ドルにも下つた、丁度四十九ドルの時からすれば二割近い大暴落で、アメリカに對してはそれだけ余計に日本の金を拂はねばならぬ事となつたのである、今一應云ひ換へれば日本の百圓がアメリカに對し八十二三圓にしか通用しない事となつたのである。最初の大震災の爲めにこの爲替相場は一時はまるで闇黒界に陥つて相場を立てやうにも立てる事が出来なかつた、九月十月と過ぎ日本の社會状態が漸く平靜になつた十一月の二十八日に始めて横濱正金銀行は兎も角も一定の相場を發表した、それが四十九ドルである、とそれから段々に下落しかけたのである、これはその時ごろから現れて來た大輸入超過が主因を爲してゐるのであるから先づその數字を一應點檢する要がある、即ち左の如くである

大正十二年九月	七百餘萬圓	同十月	七百餘萬圓
同十一月	三千五百餘萬圓	同十二月	三千餘萬圓
大正十三年一月	一億三百餘萬圓	同二月	一億八千八百餘萬圓
同三月	一億九千餘萬圓		

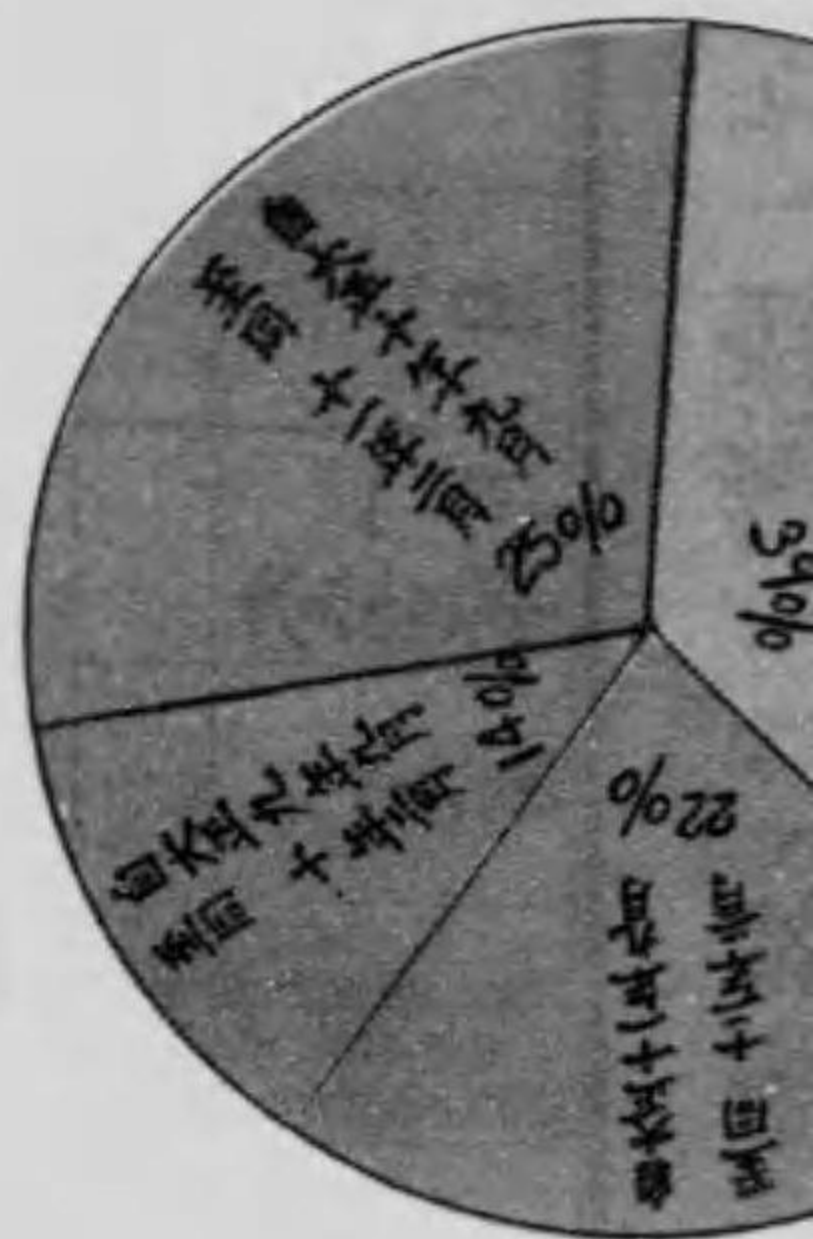
この二月三月の輸入超過が特に巨額になつたのは主として復興に要する物資の輸入に對して關稅を全免又は輕減したその期間が三月末を終りとしたその關係からである——對外爲替相場の暴落——わが國金貨本位實施以來未曾有のこの一大事象！こそ復興の途上に日本及び日本人が面した大きな痛みではなかつたらうか。

かたし興復うどはと株紡鐘と株東の後災震

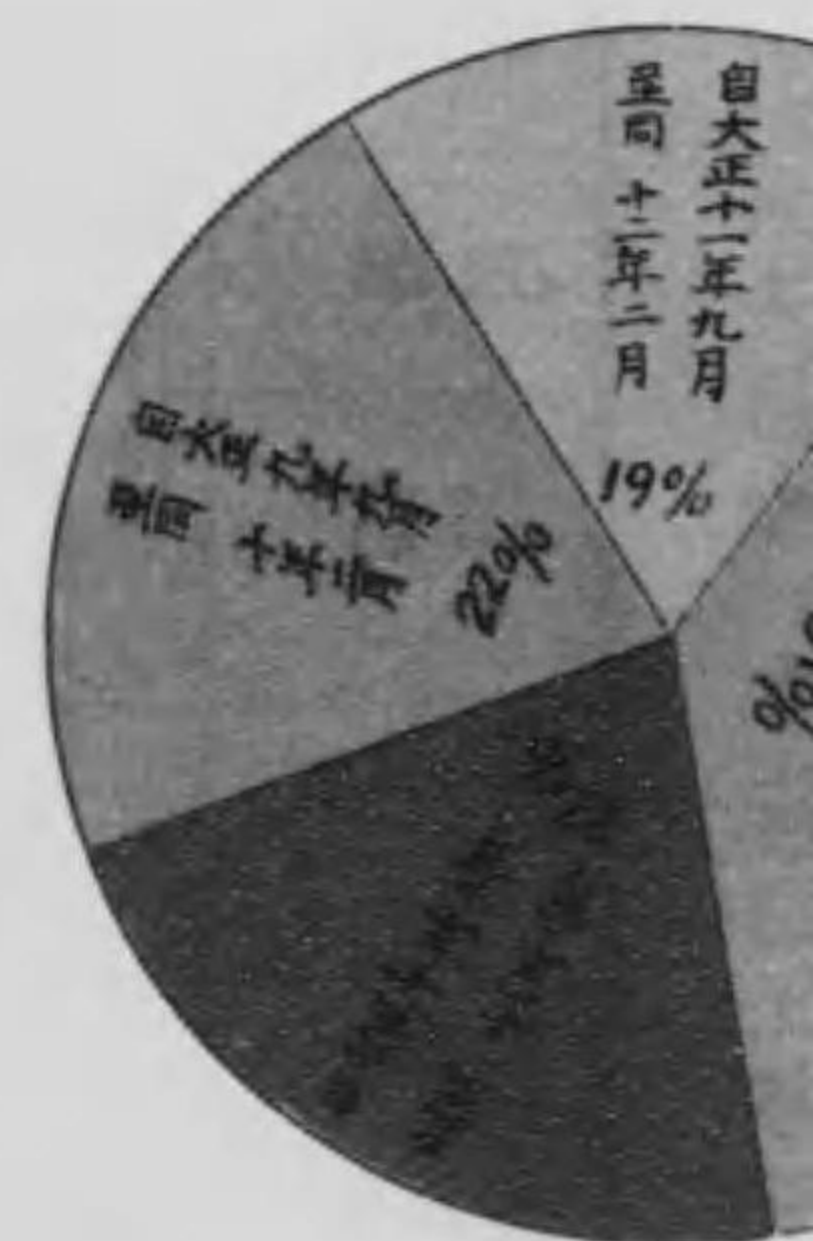


(注)五十圓の円で表示した各日各相場は東京株

かたし興復うどはと株礦炭海北と株紙製子王と株酒奏本日大と株糖日の後災震



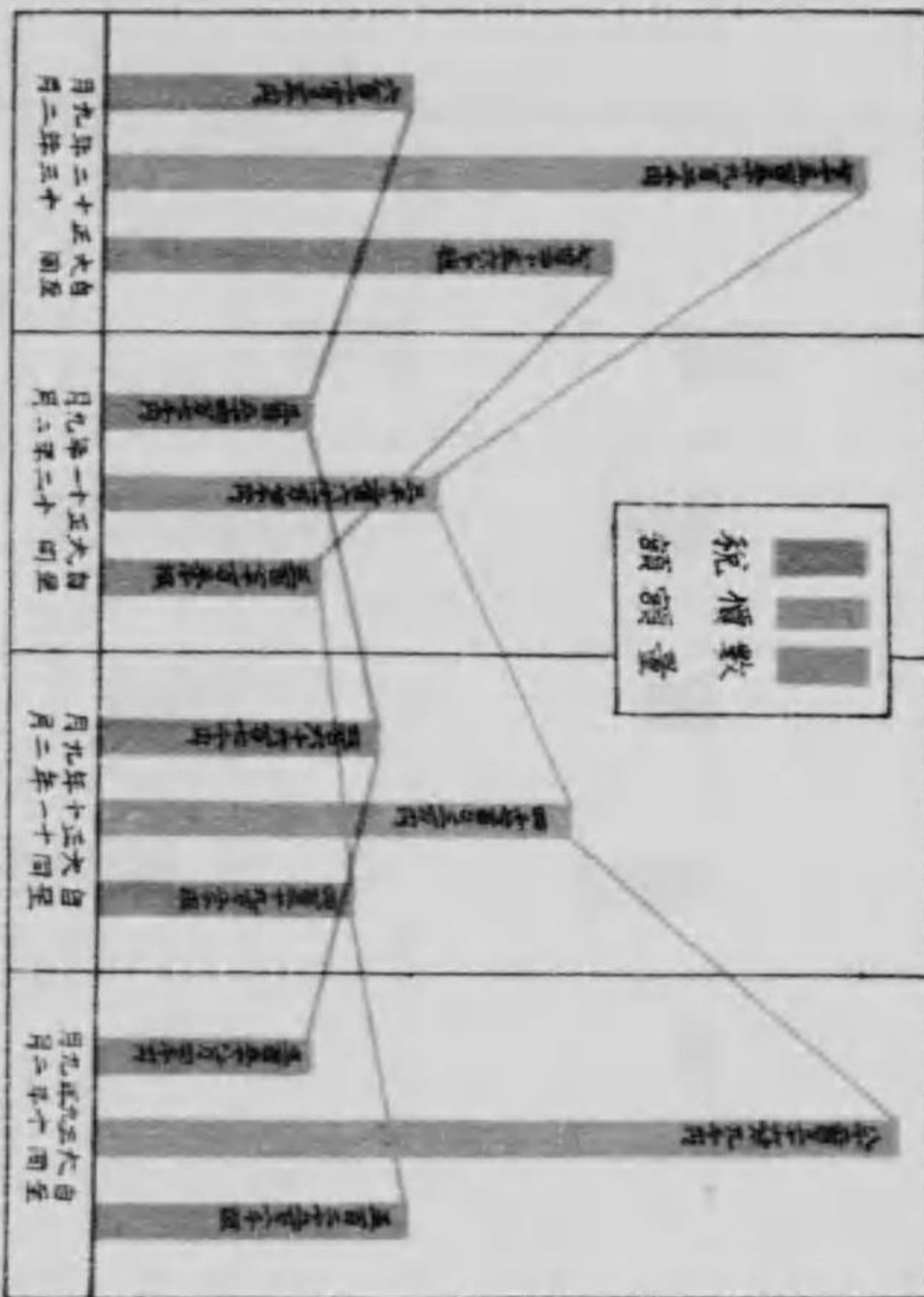
見た割合



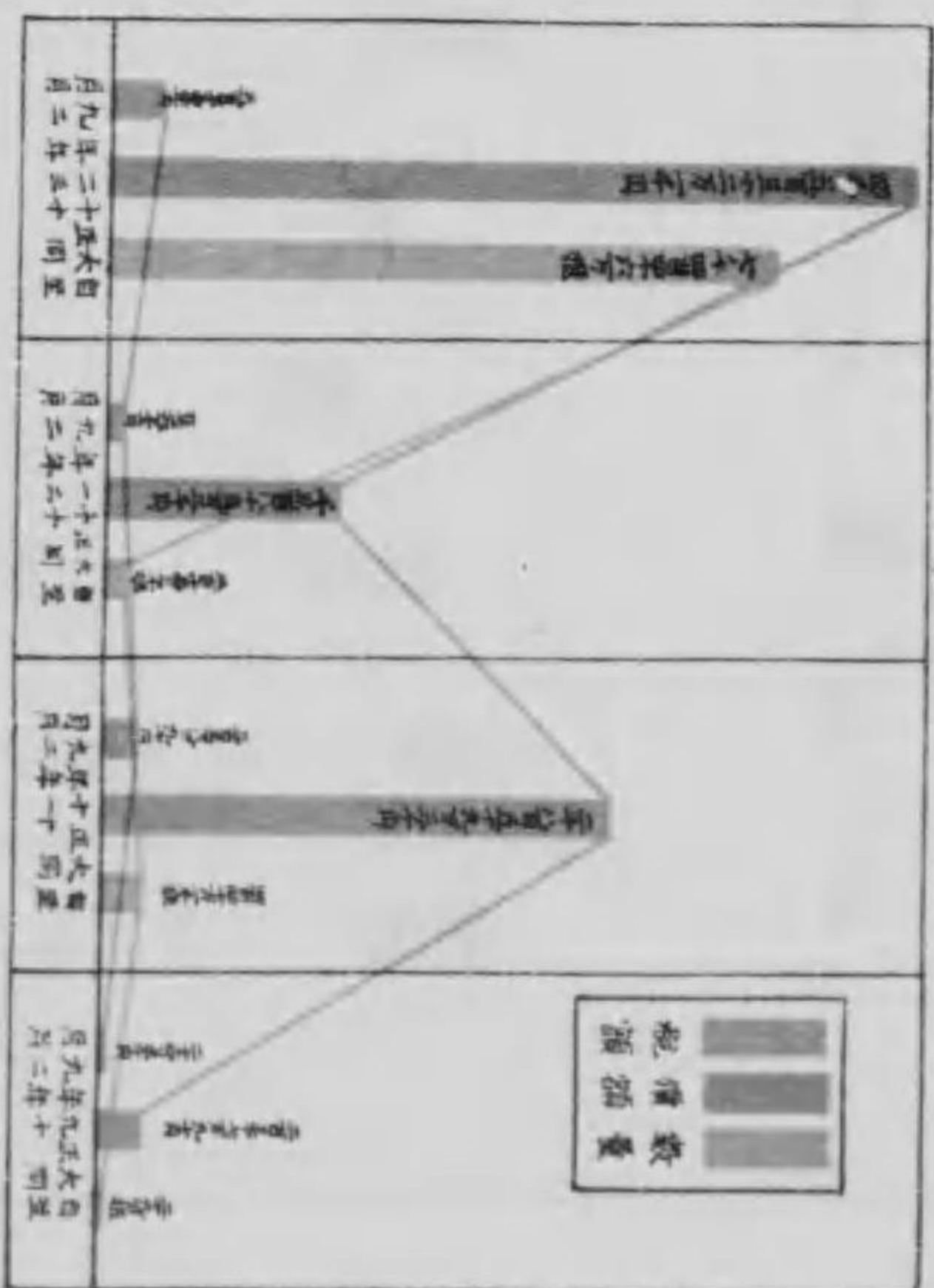
見た割合

等幅筒,線織,絨織,形ルゲンズ,丁,宋,條

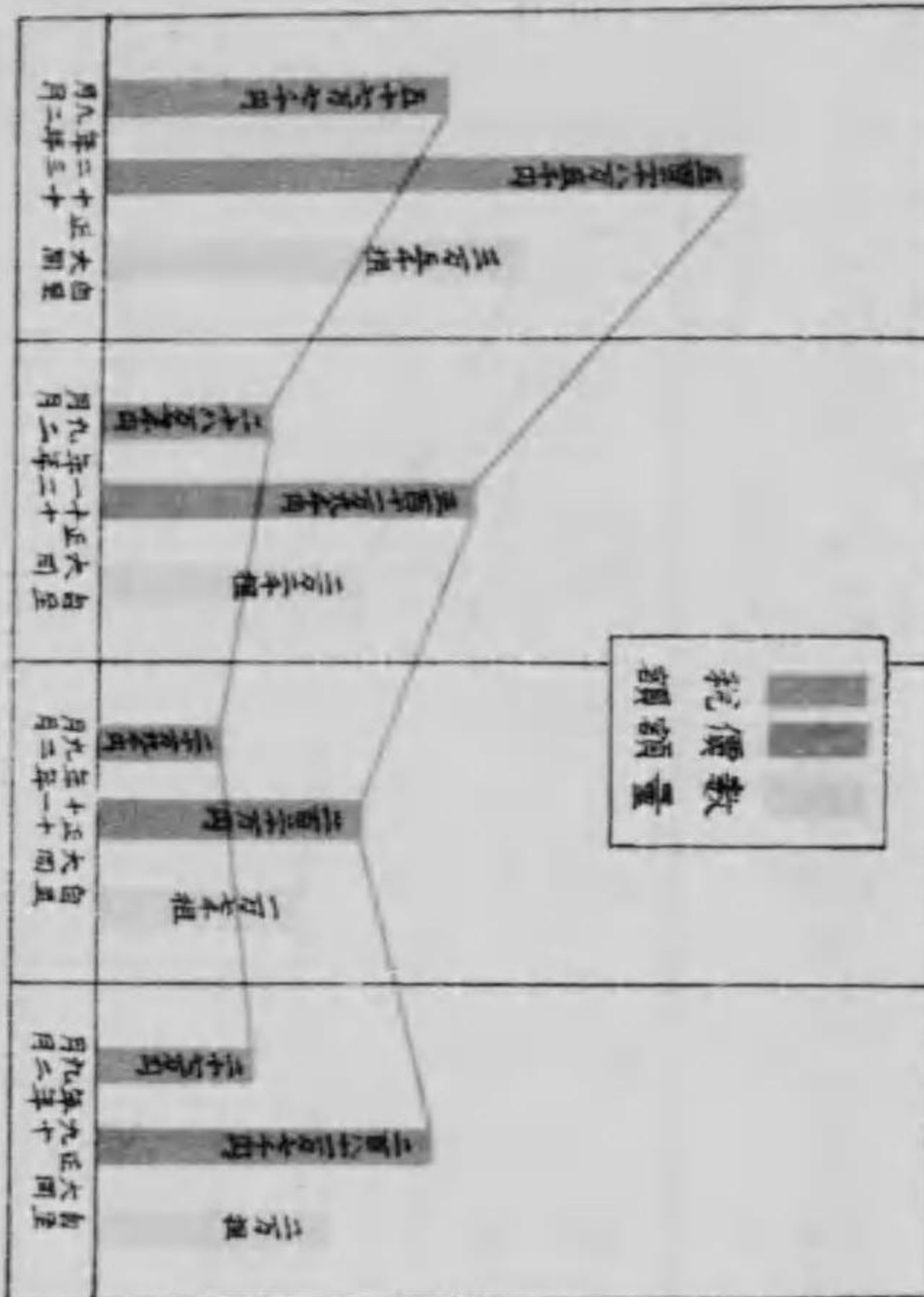
材鉄



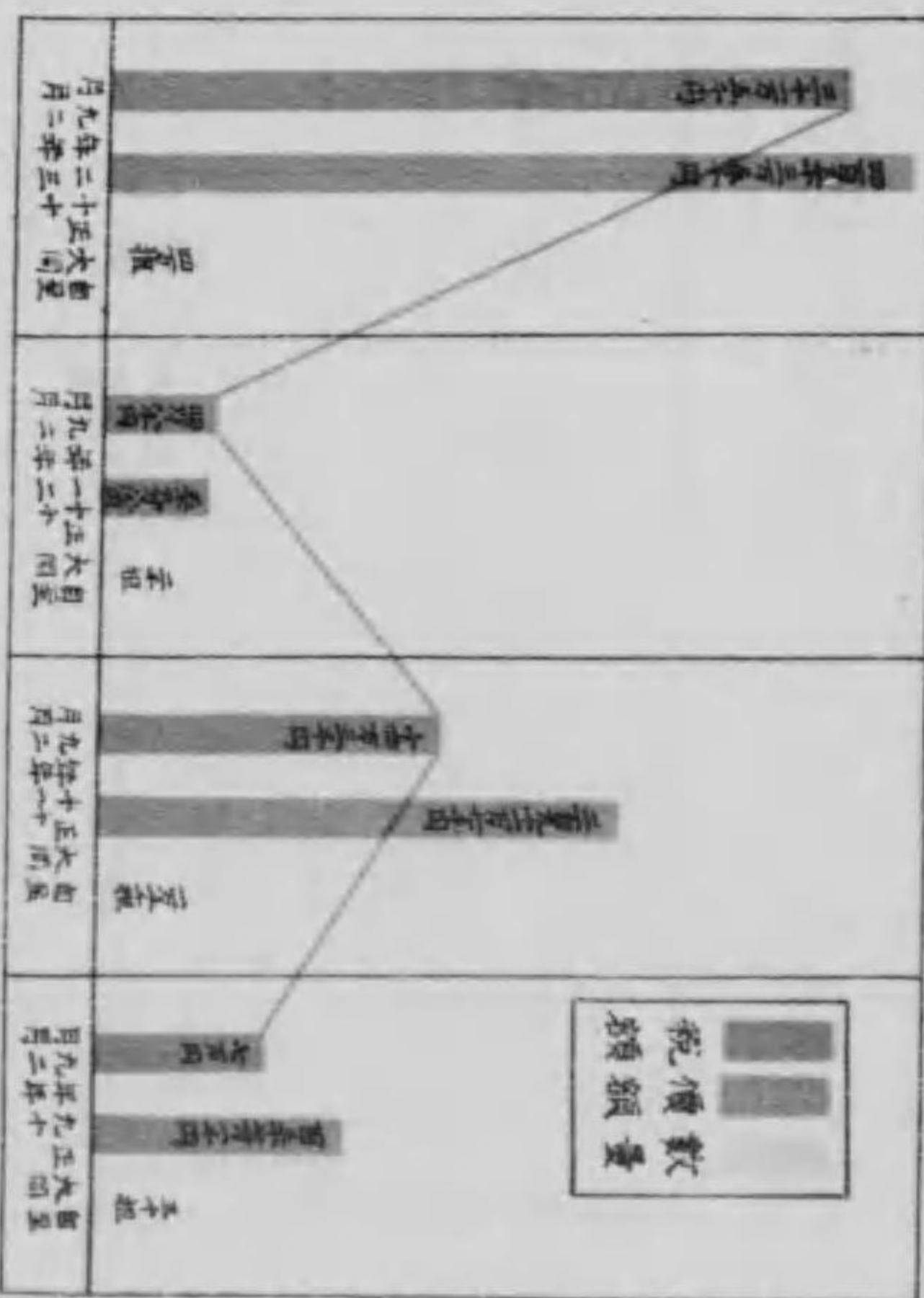
麥小



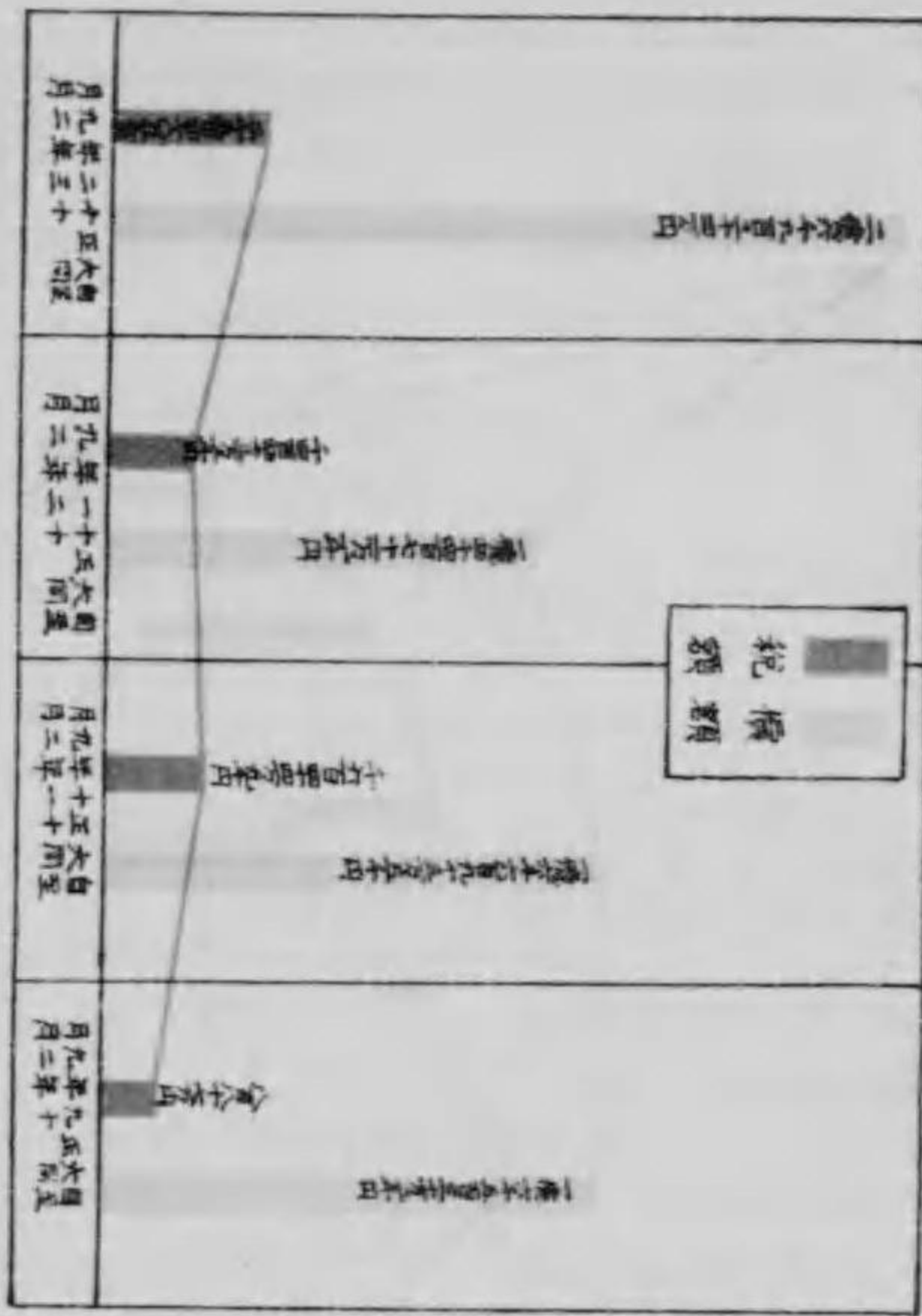
品属附及品部同並機交縫



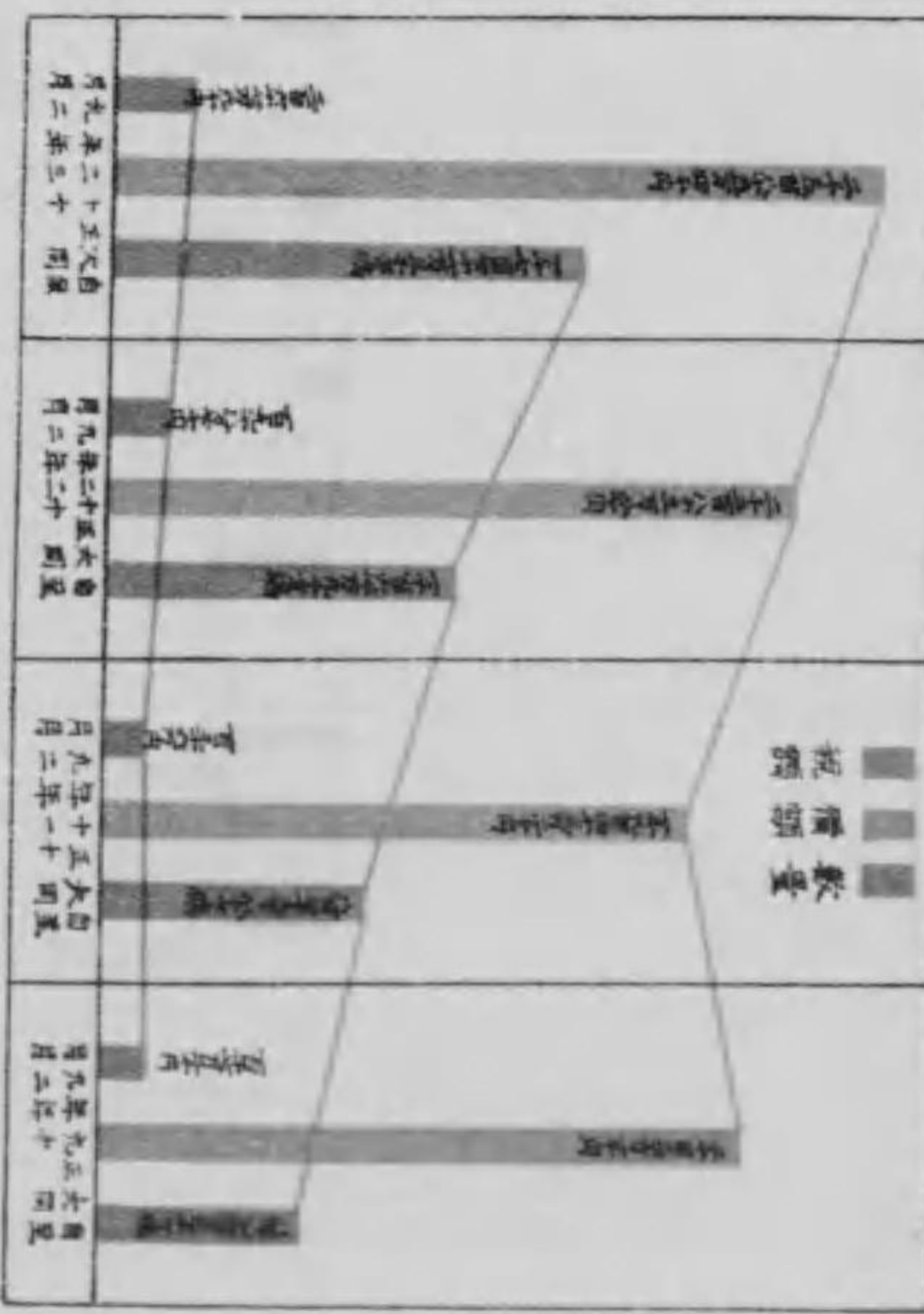
線縮及絨縮、絨織縮



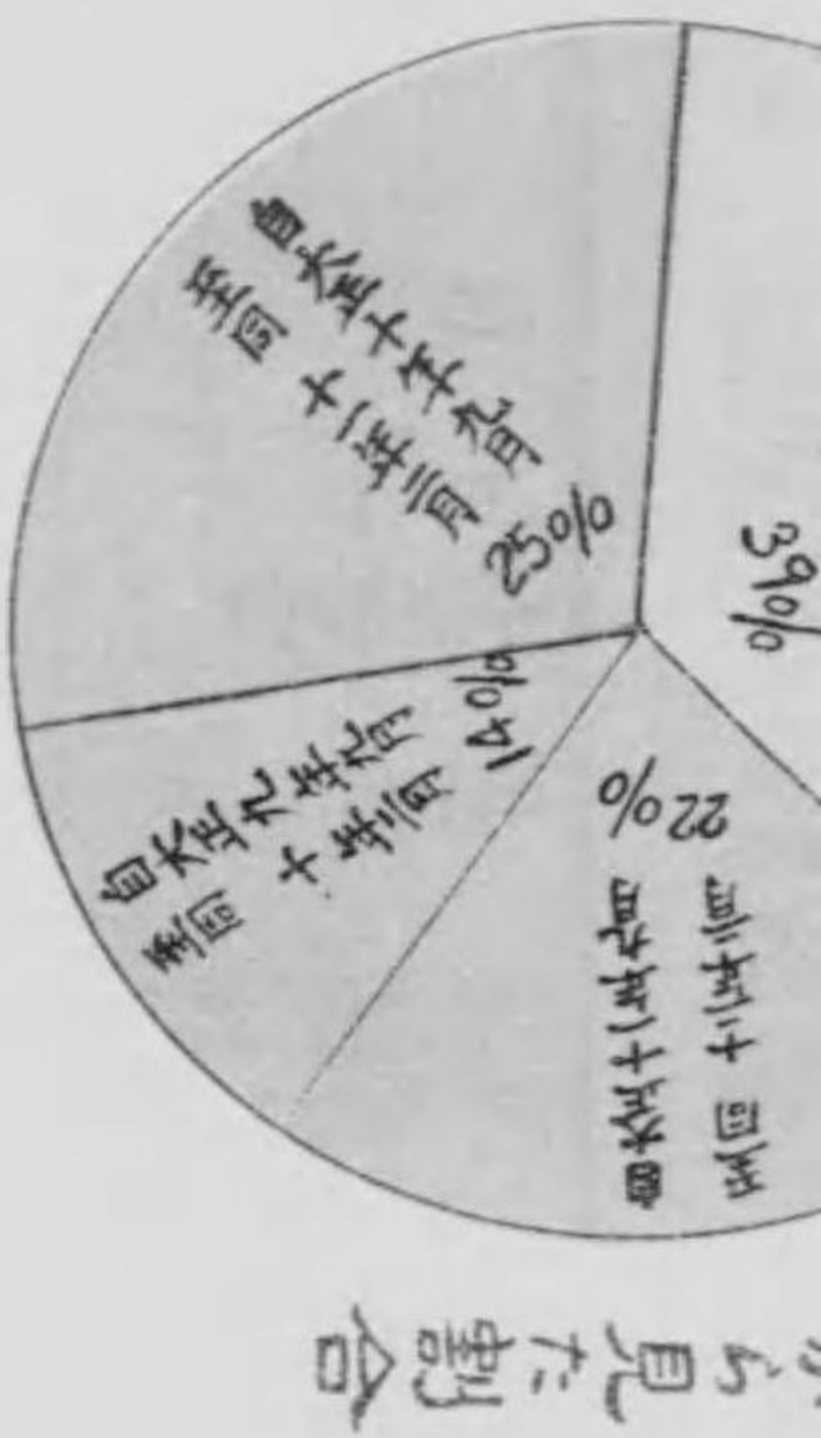
計合目品八十二品要夫



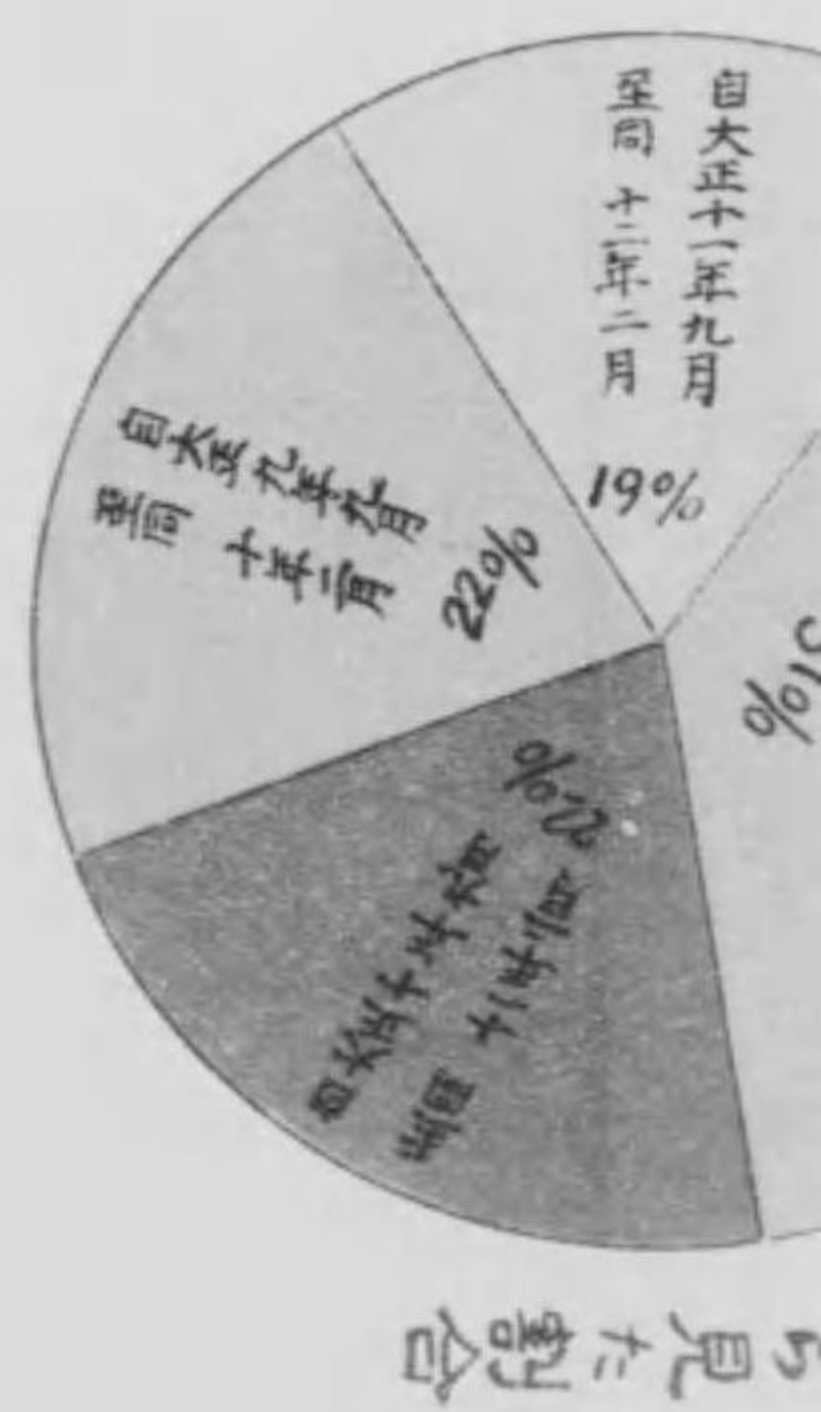
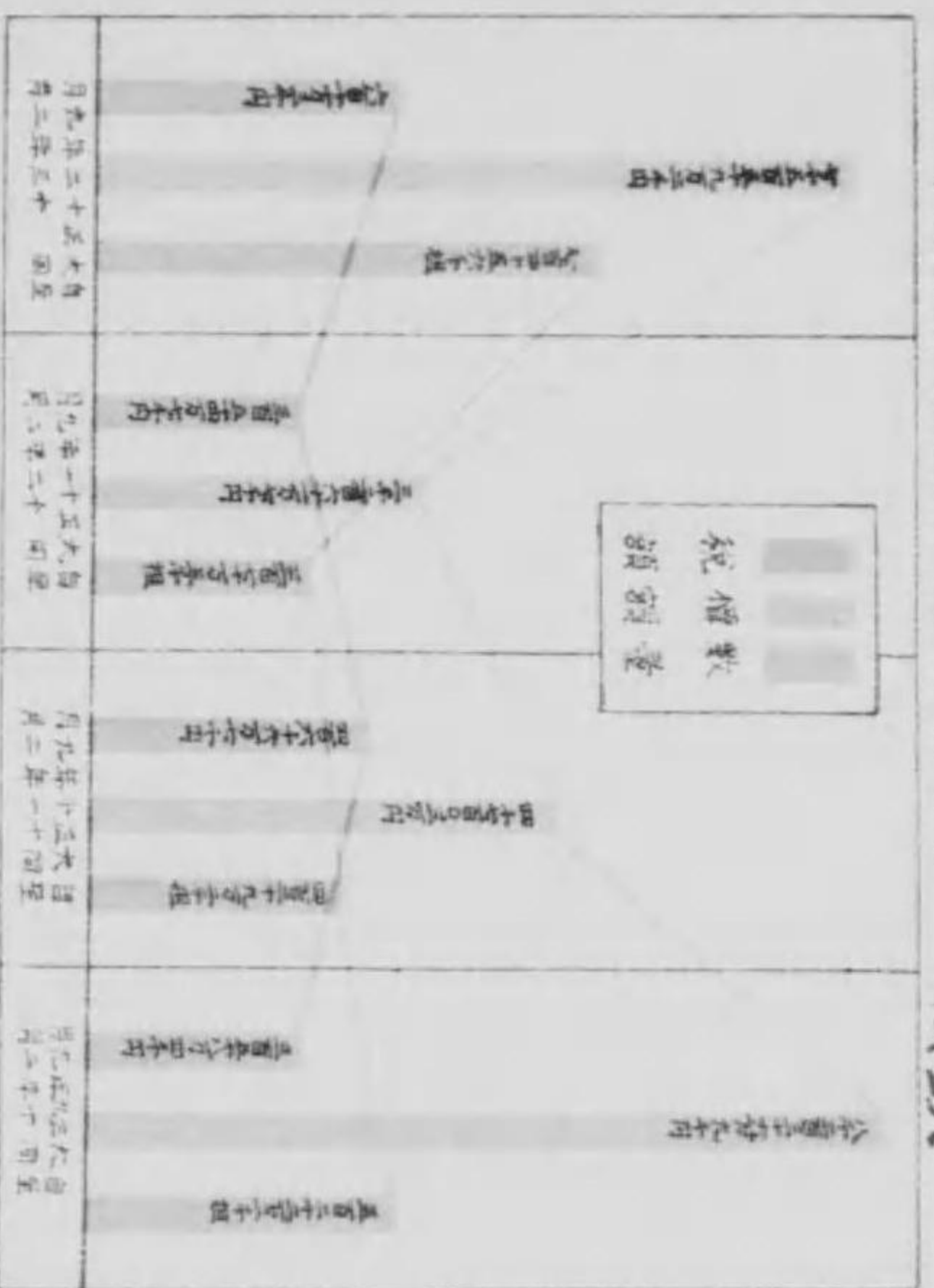
物織交線毛及物織毛



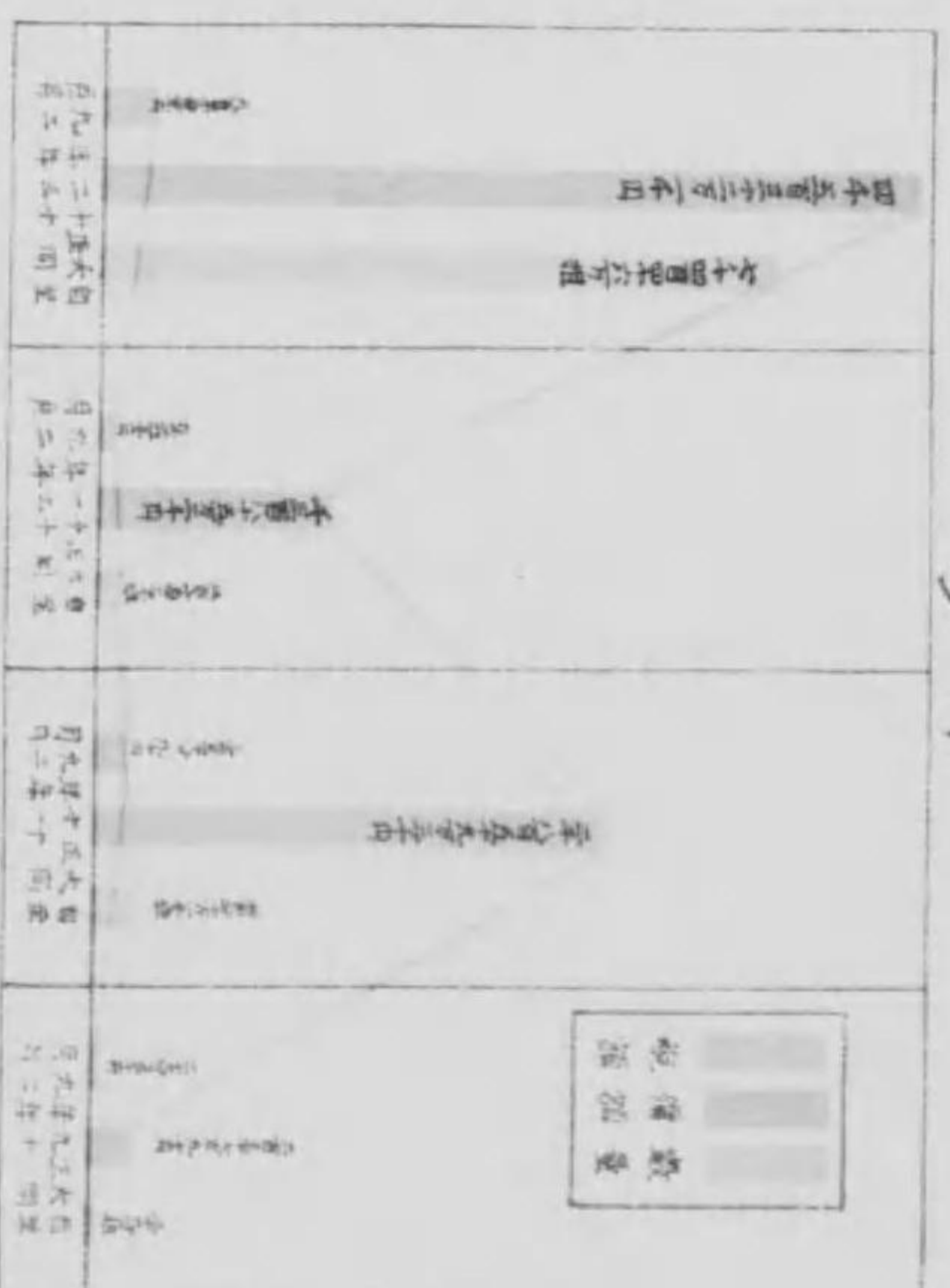
(社報新業商外中)



等普通鋼線、村線、形ルゲン丁、朱條 鋼鉄

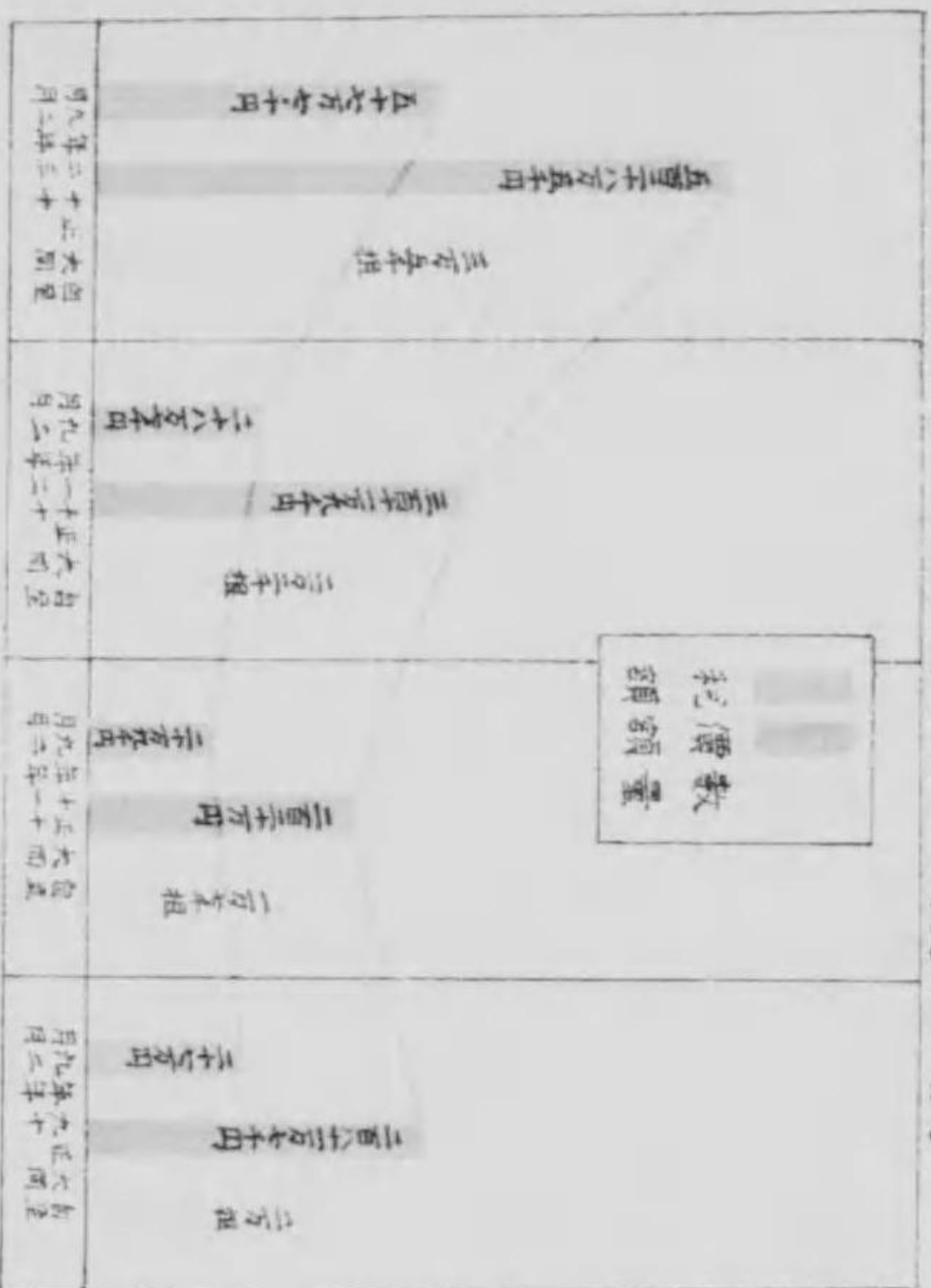


麥小

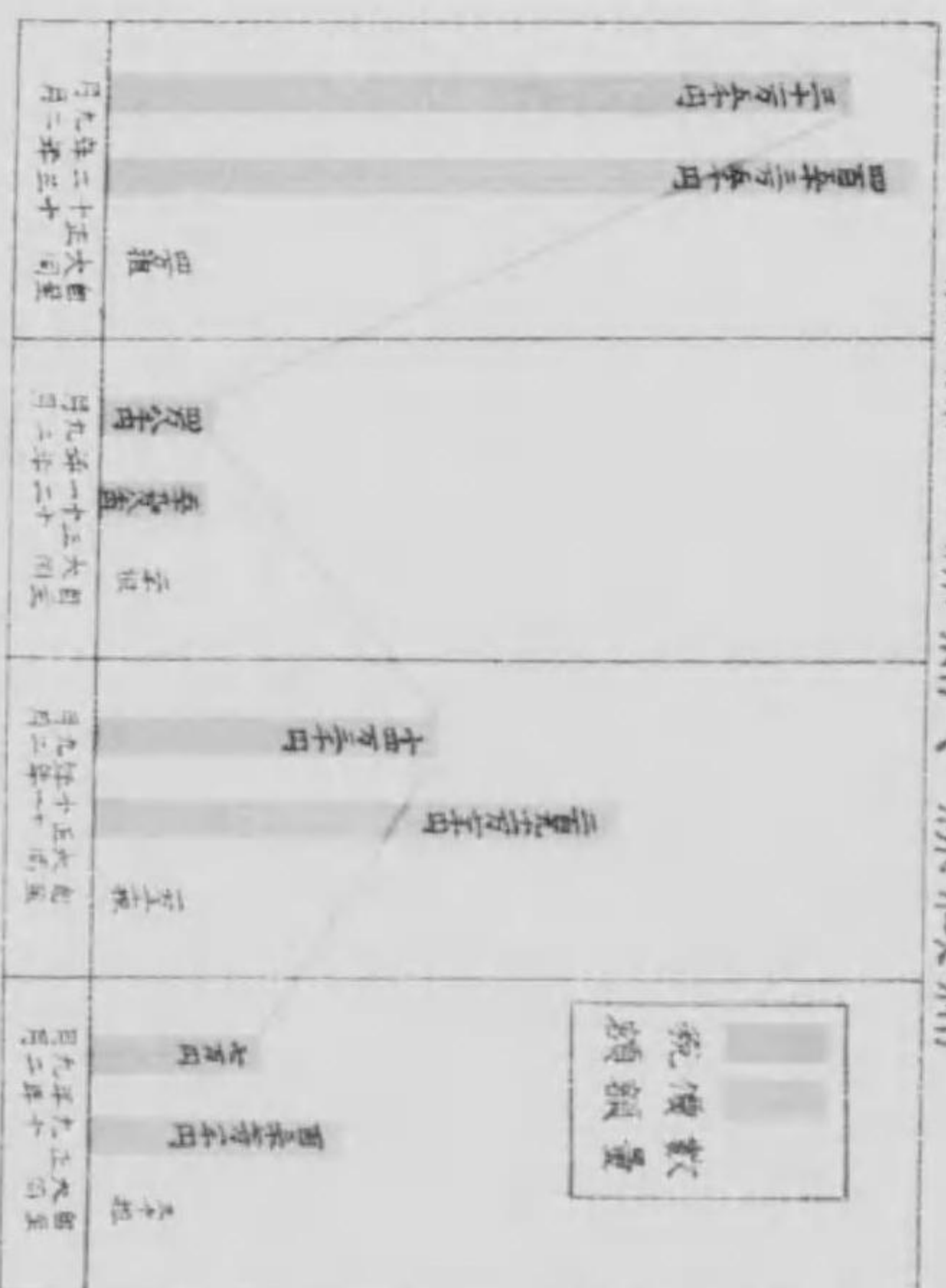


露光量違いの為重複撮影

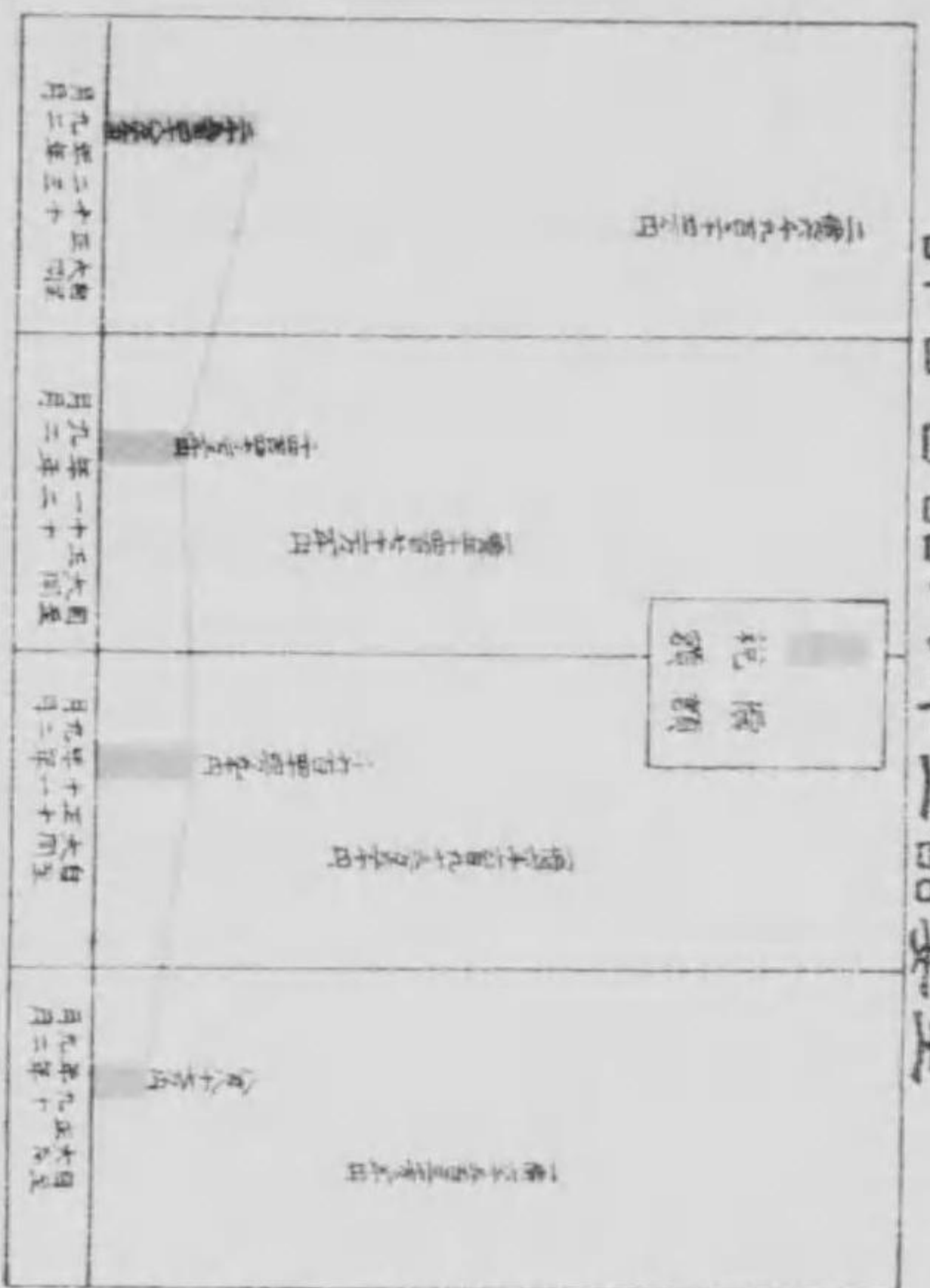
品属附加品部同並機衣縫



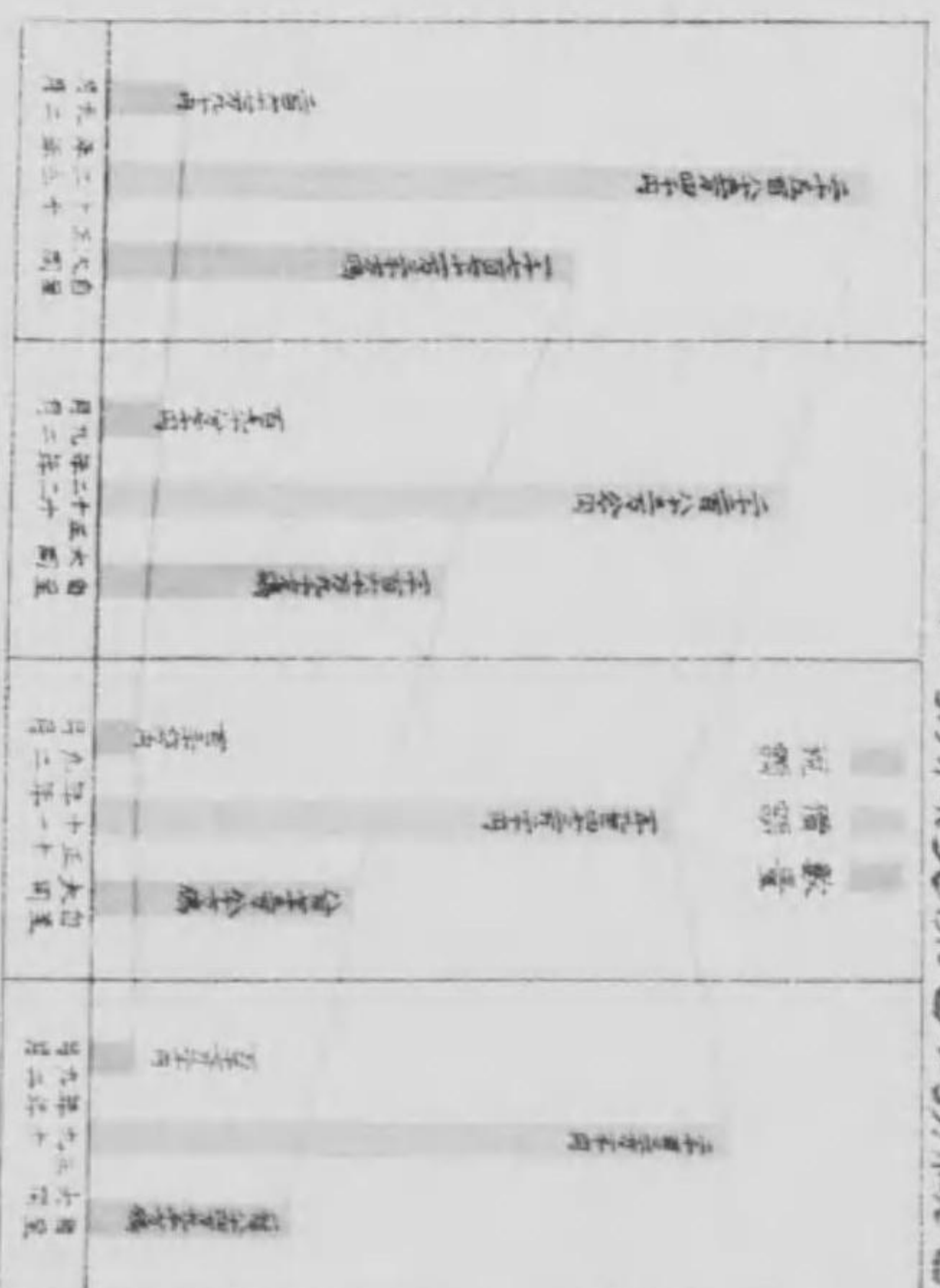
綿綿及綿綿、綿織綿



計合目品八十二品要主

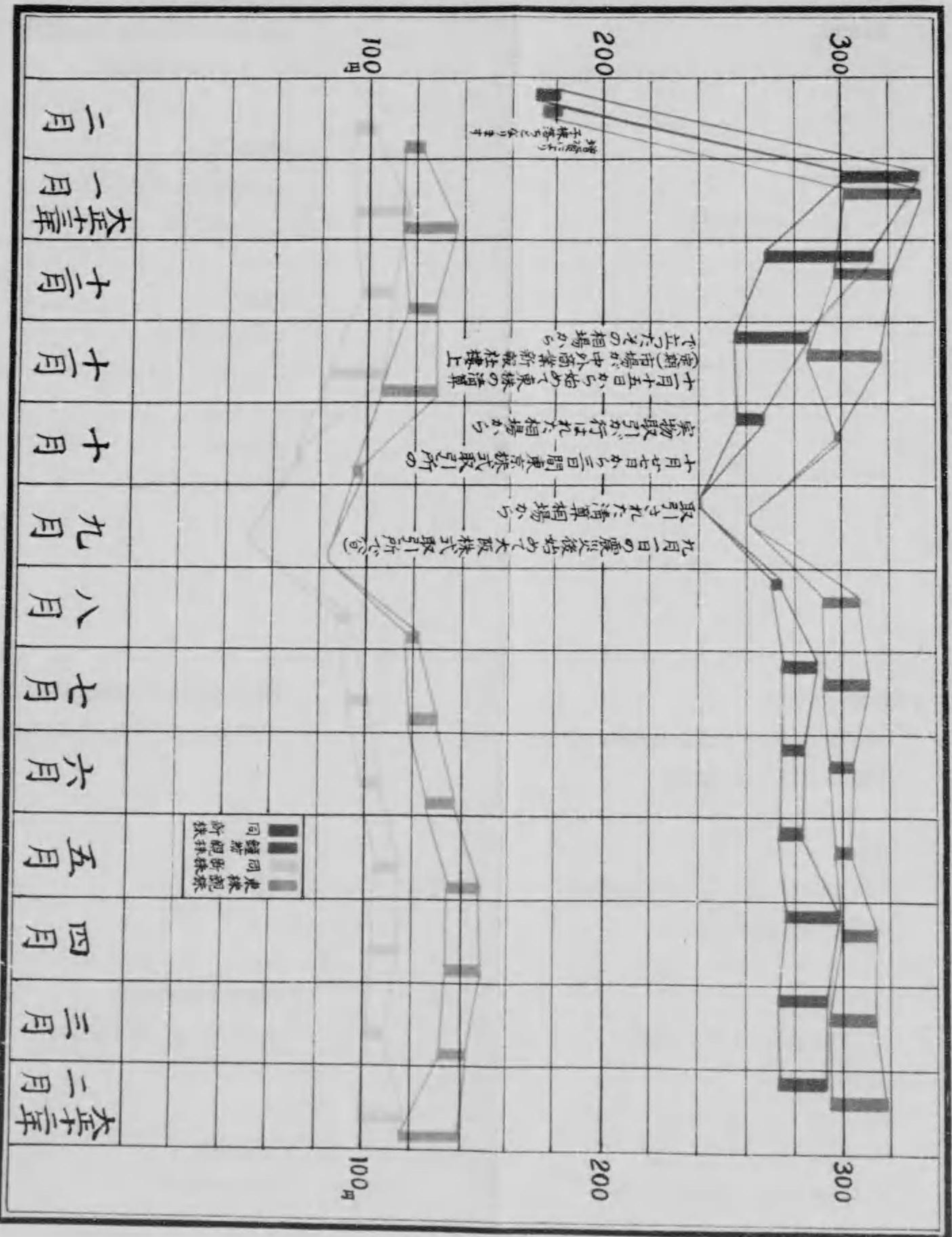


物織交線毛及物織毛



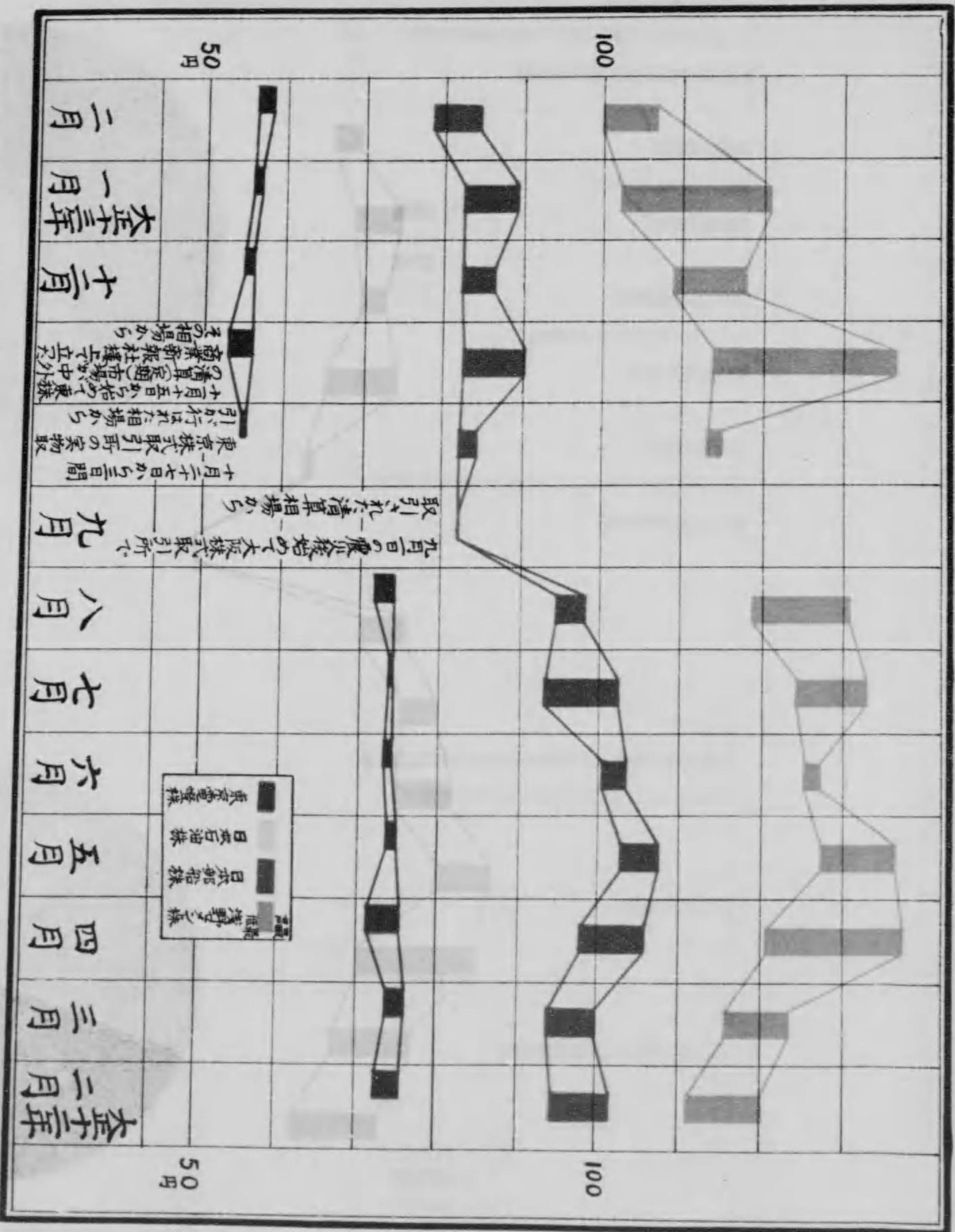
(社報新業商外中)

かたし興復うどはと株紡鐘と株東の後災震



(注) 五十一年九月と五十一年とを比べた各月の相場相場は東京株式取引所(清算定期)取引先物の異なりとてなっております

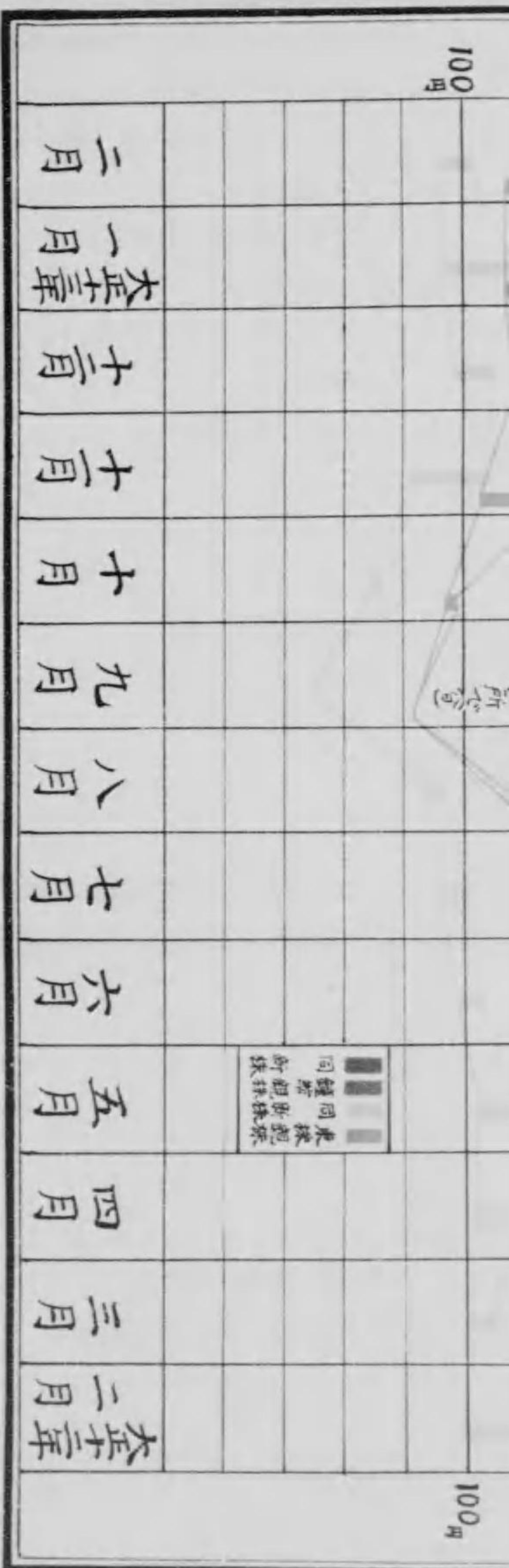
かたし興復うどはと株油石本日と株燈電京東と株船郵本日と株トシメセ野淺の後災震



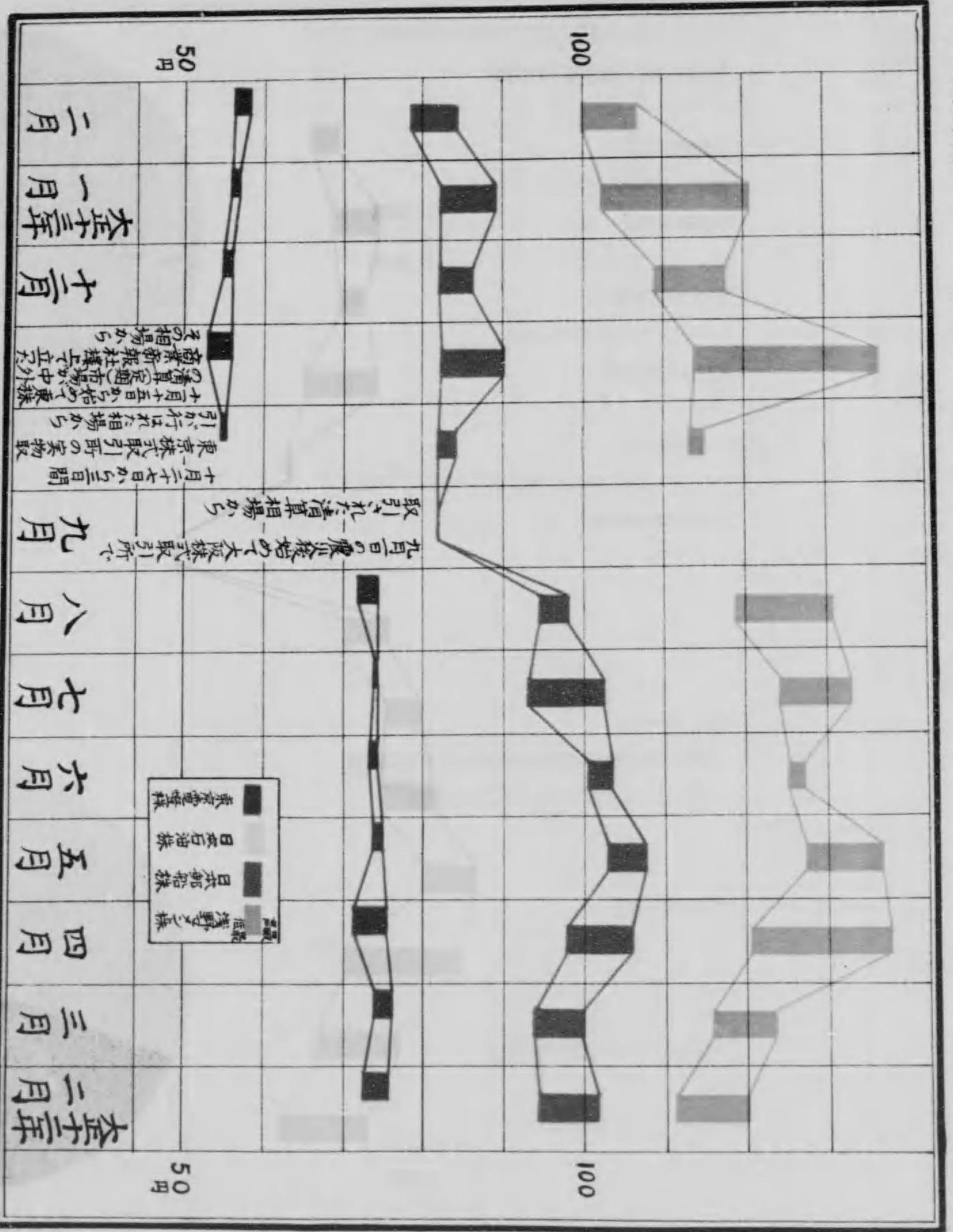
かたし興復うどはと株礦炭海北と株紙製子玉と株酒麦本日大と株糖日の後災震



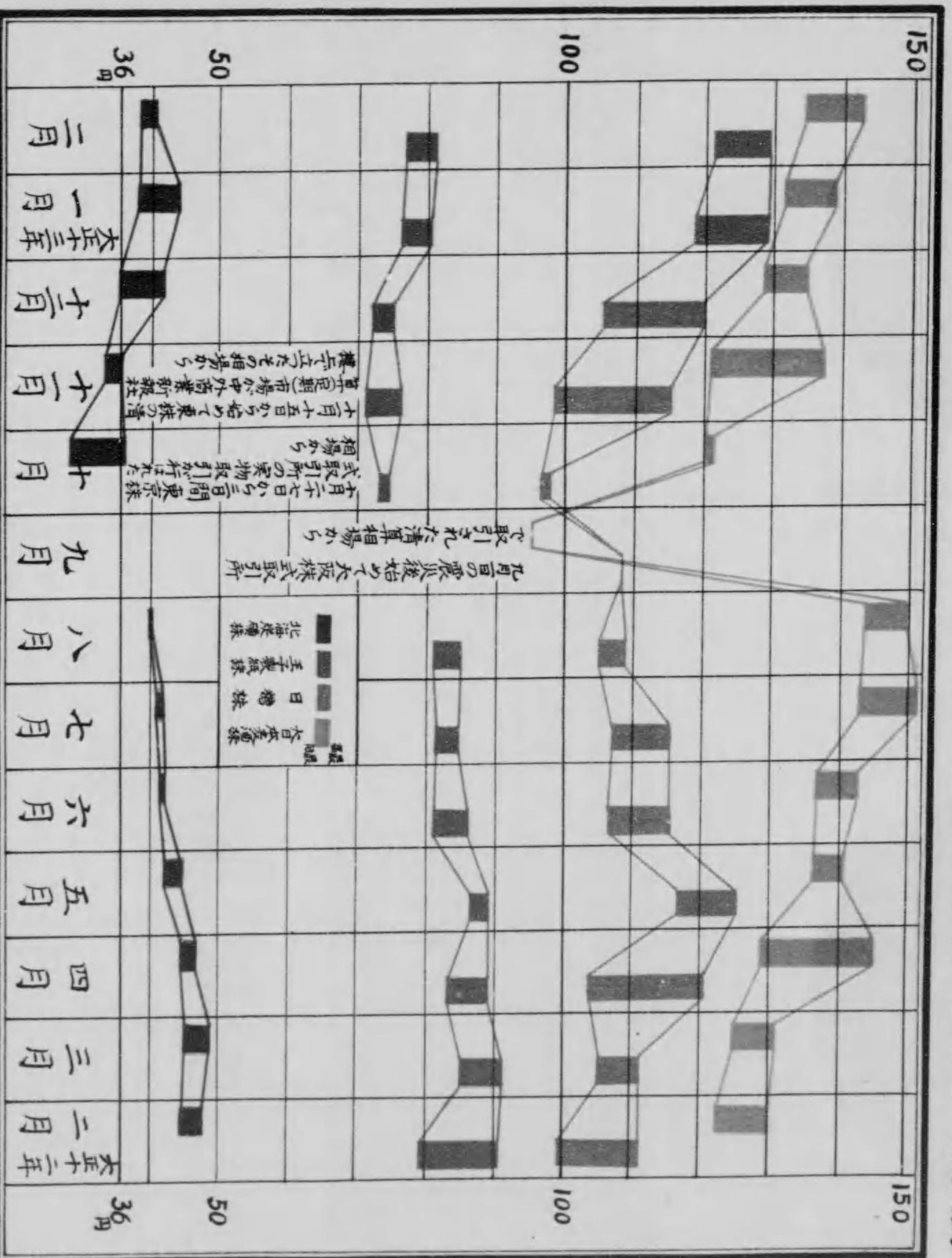
（逆）取引物の取引といたすは

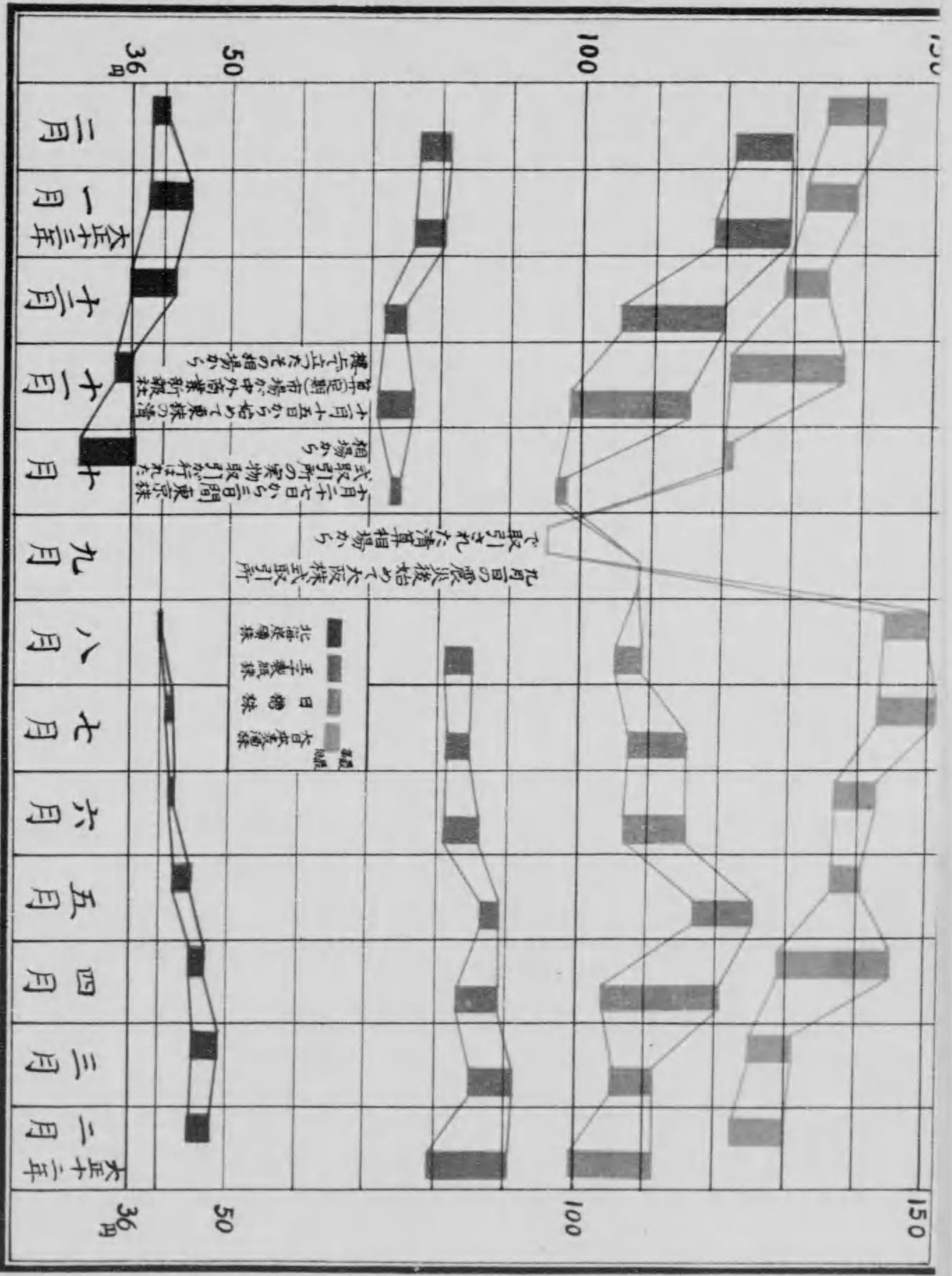


かたし興復うどはと株油石本日と株燈電京東と株船郵本日と株トシメセ野淺の後災震



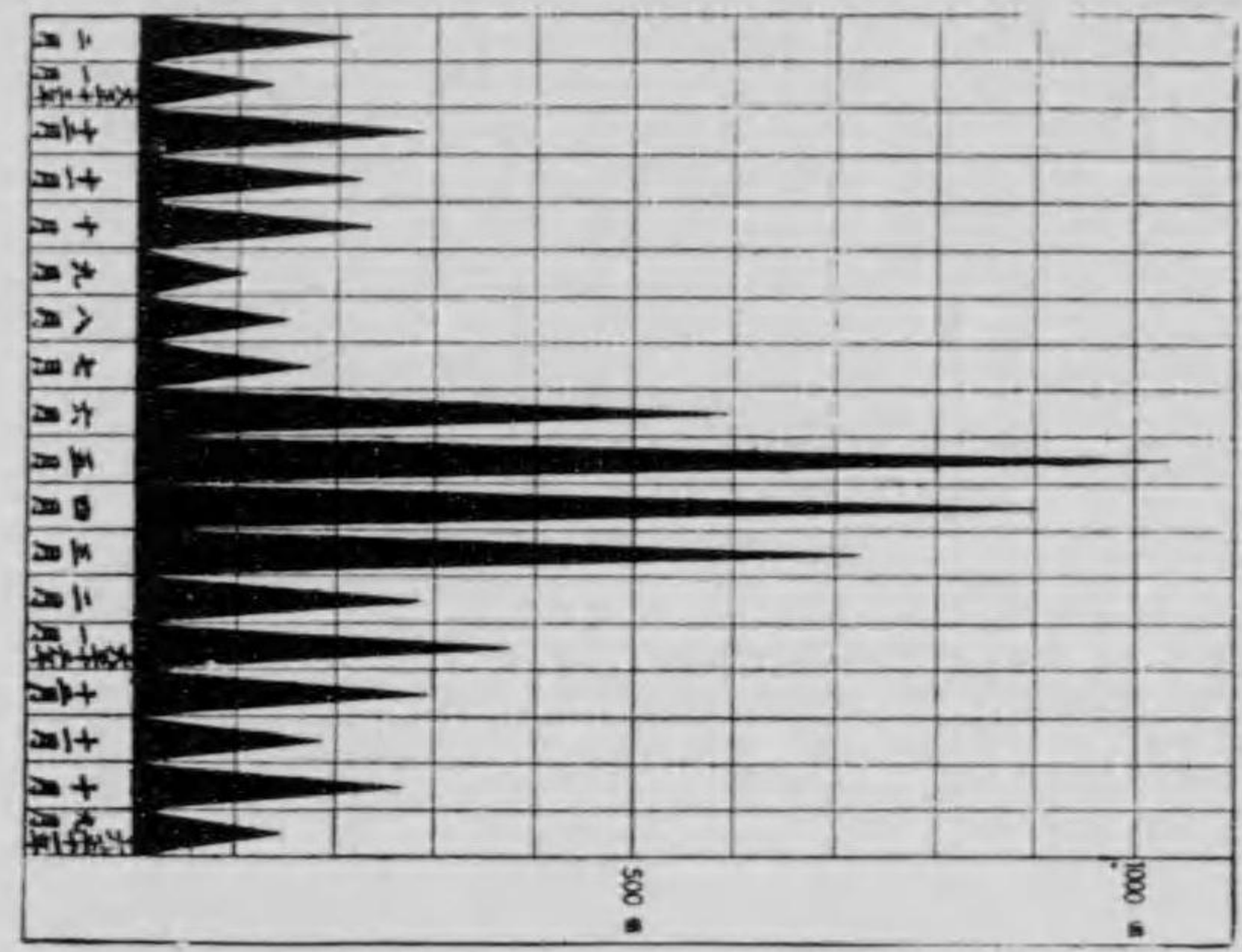
かたし興復うどはと株礦炭海北と株紙製子玉と株酒麦本日大と株糖日の後災震



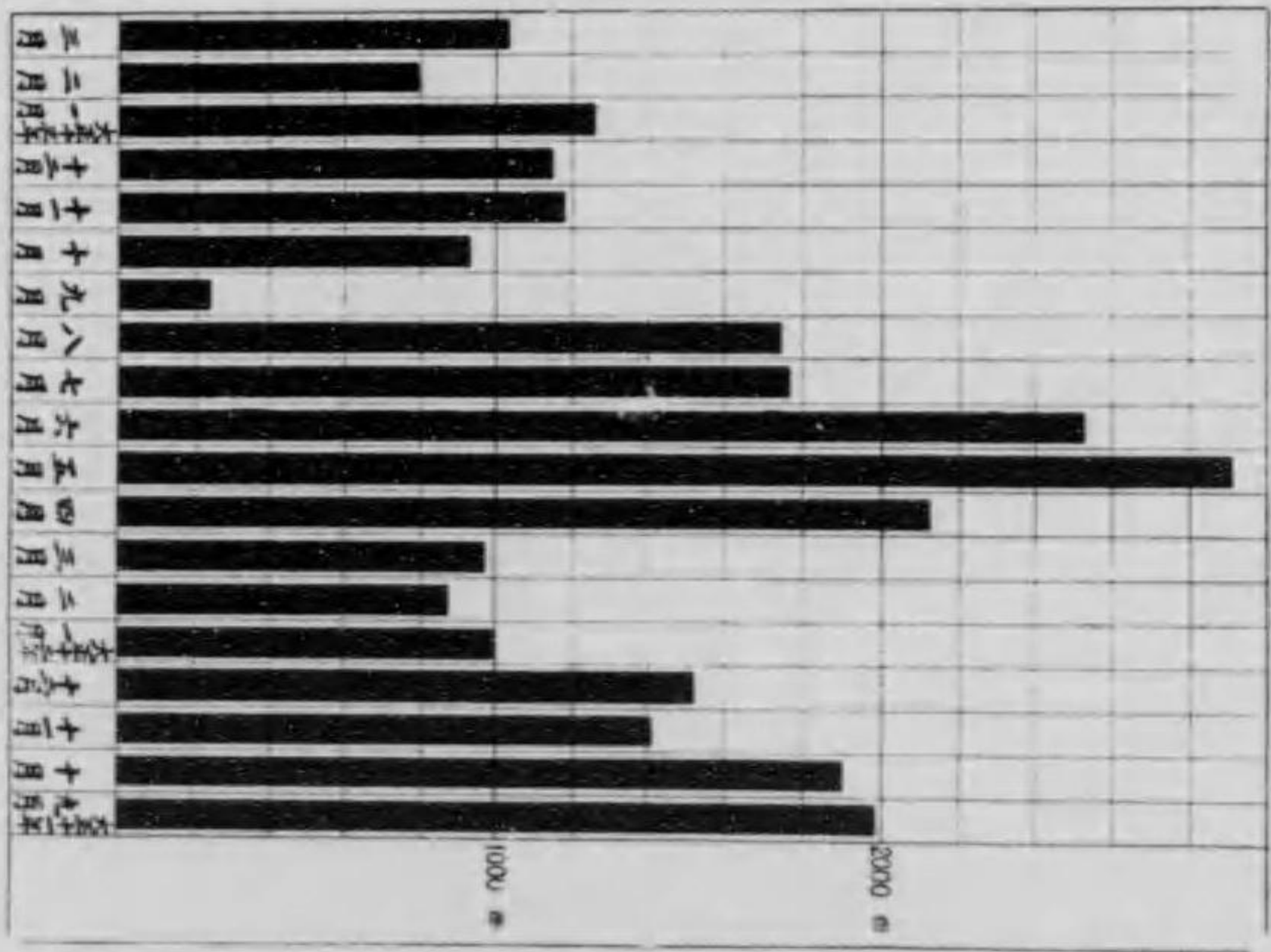


大震災の後生利足から林館へ入荷され
 て物大正十一年九月から比へて見

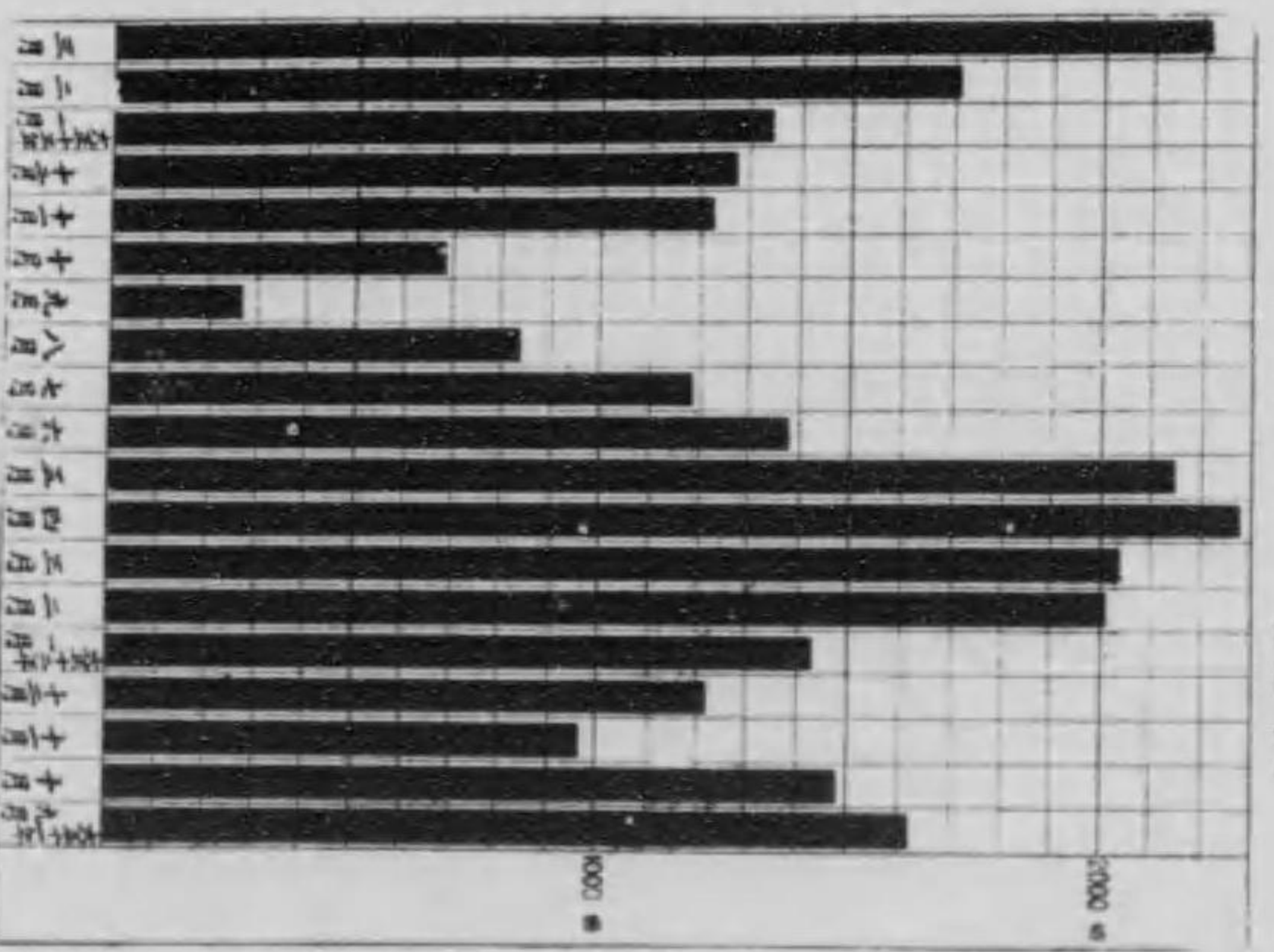
へ京東らか林館



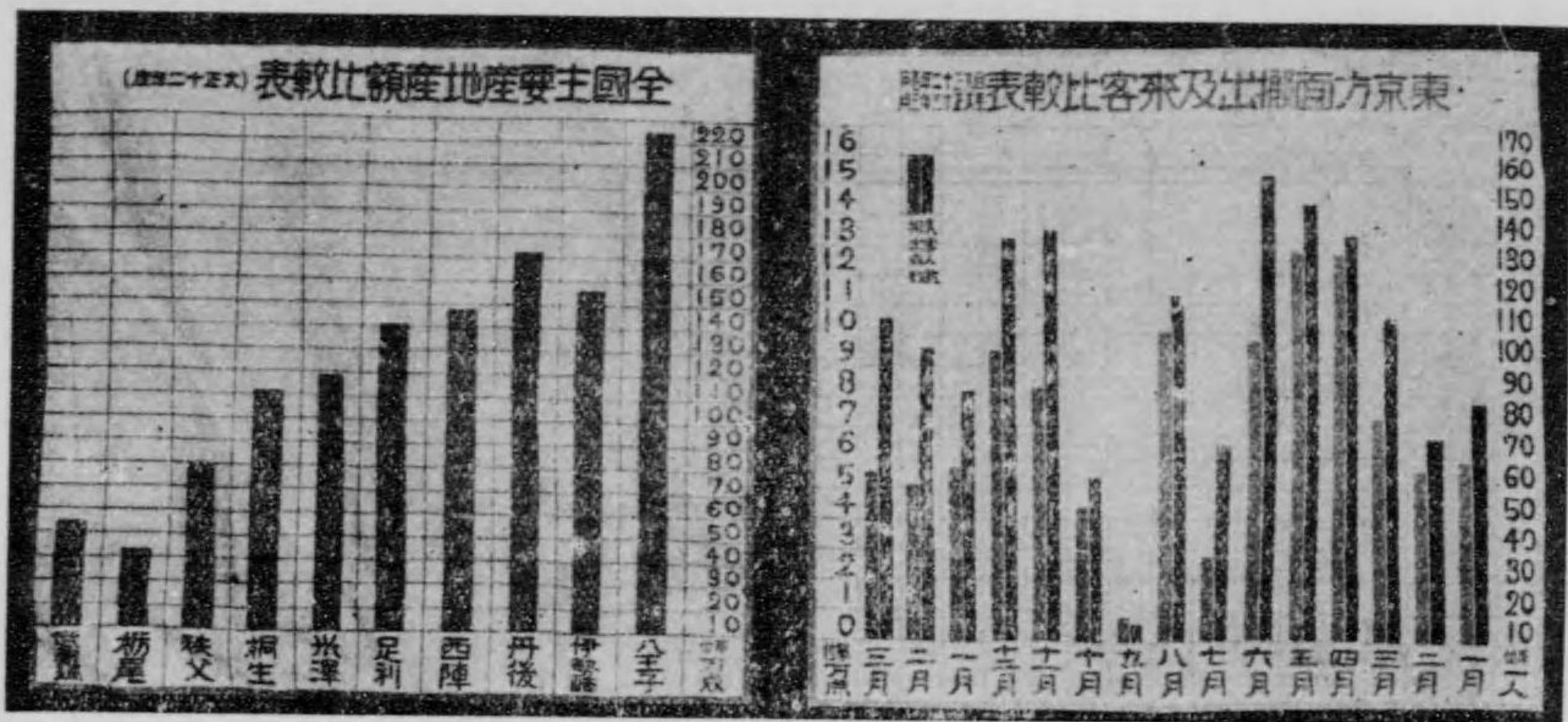
へ京東らか利益



へ京東らか生桐



—(久保田商店)—



—(春原直次郎商店)—

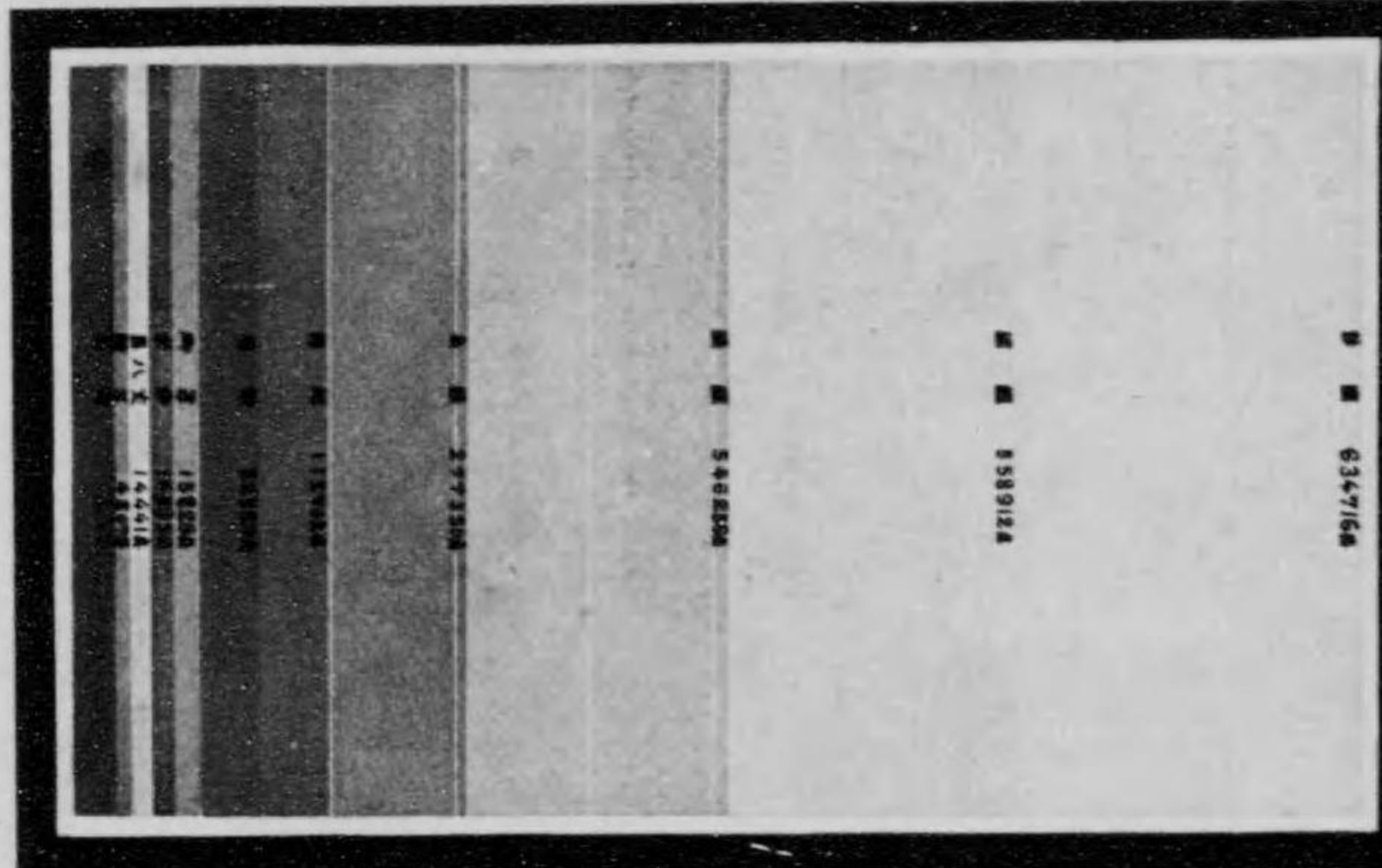
圖の…… 91



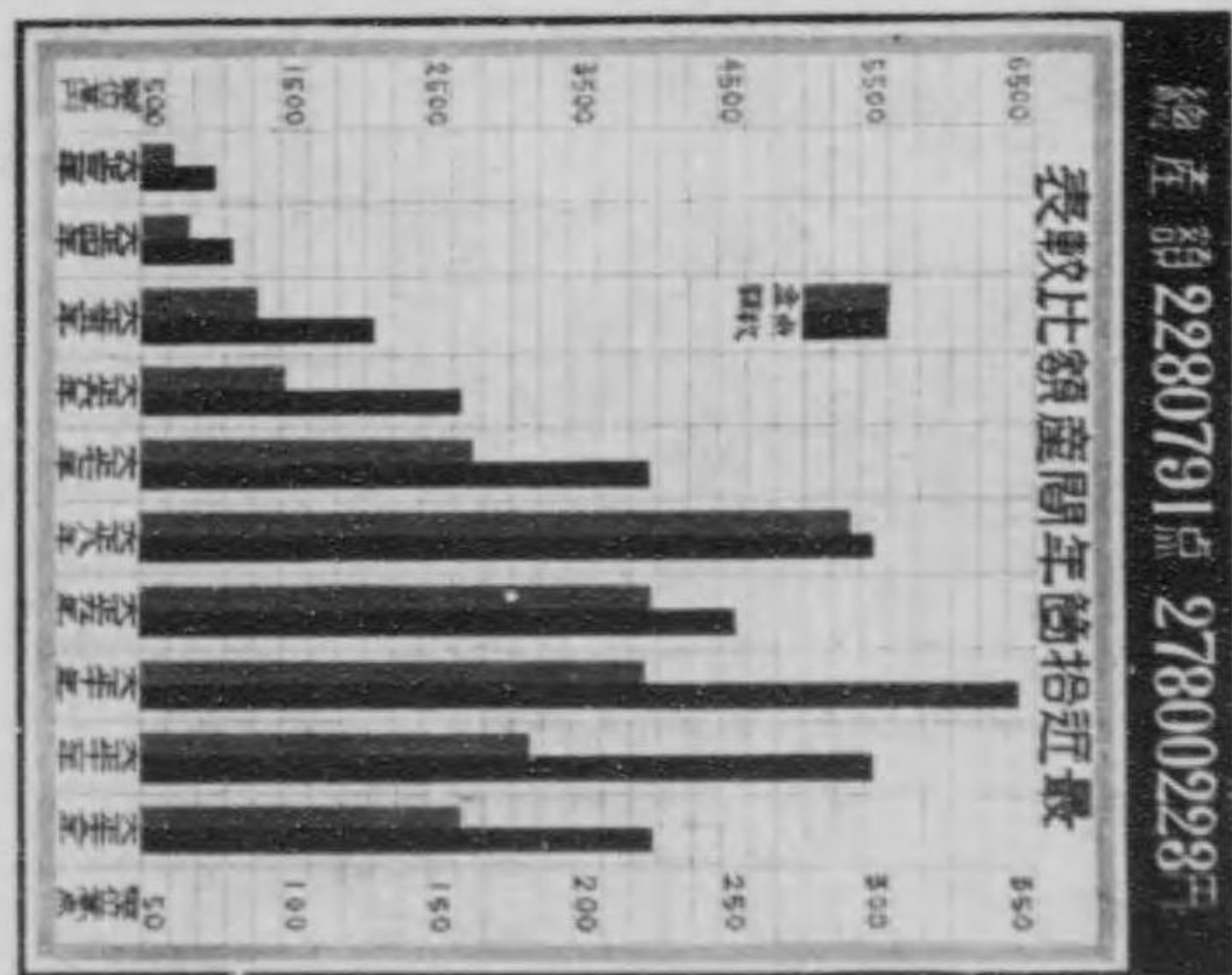
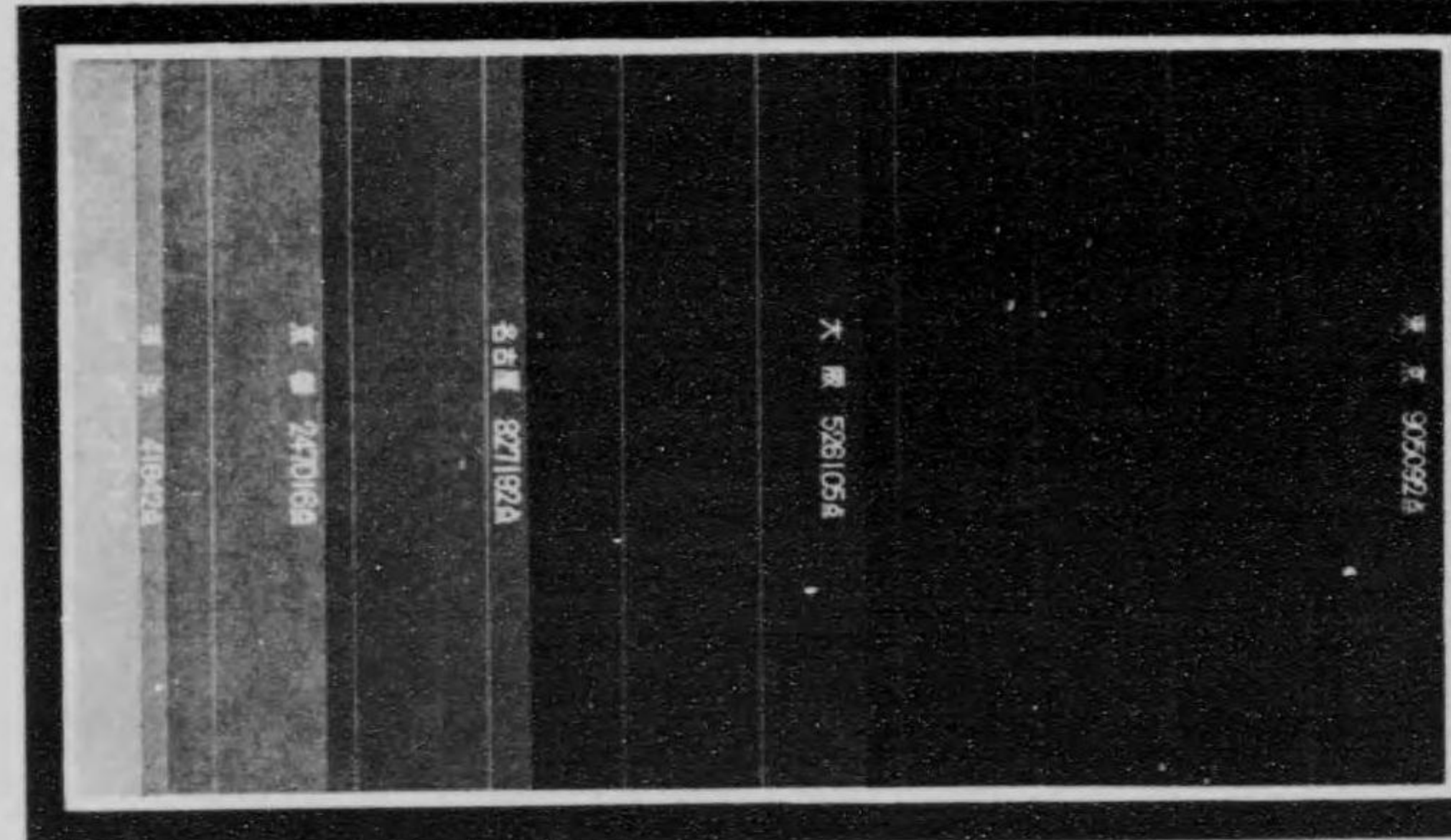
—(澤井藤助商店)—

表計統物織字玉八

較比産生別類種



較比出搬地散集



—(店商田保久)—

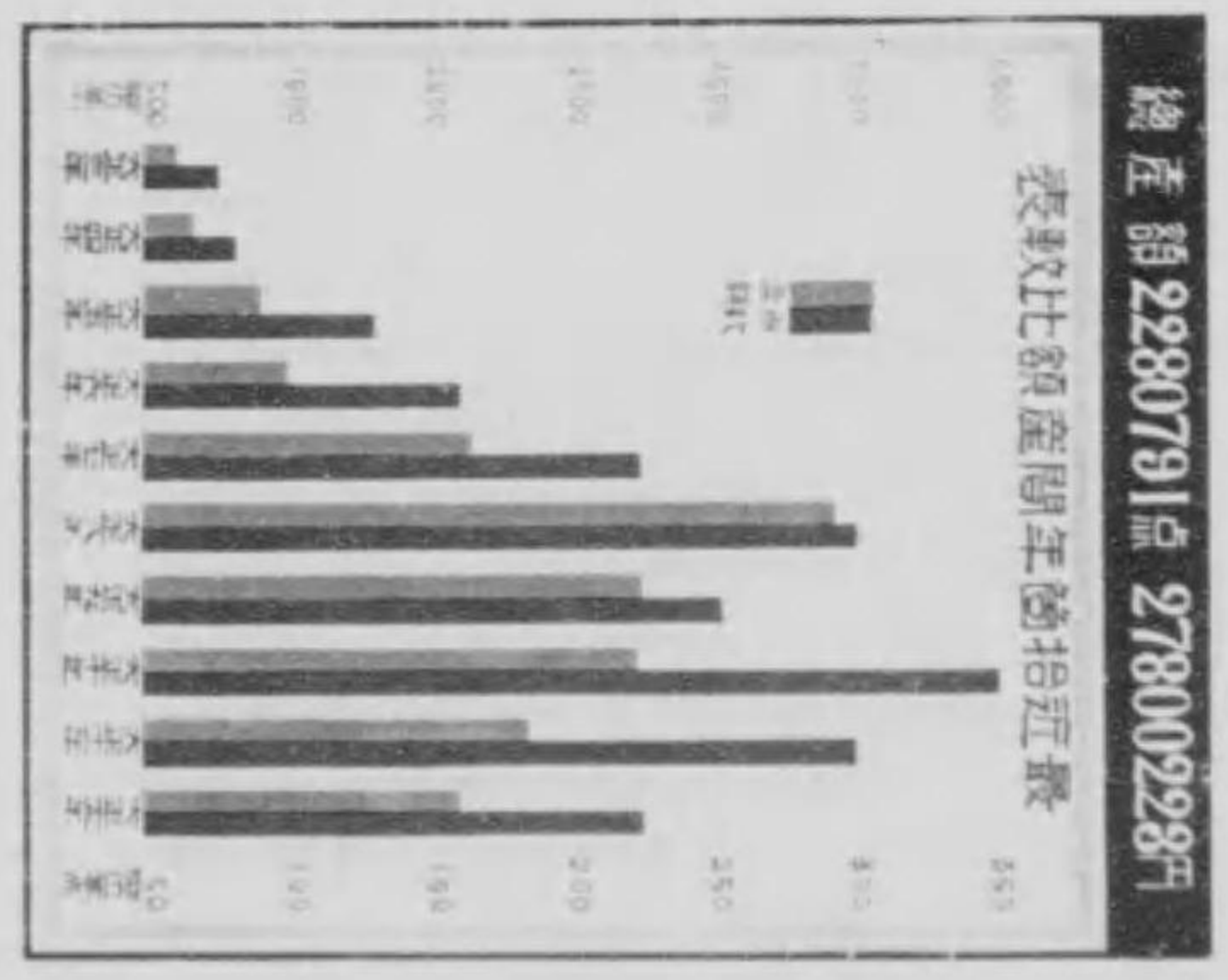
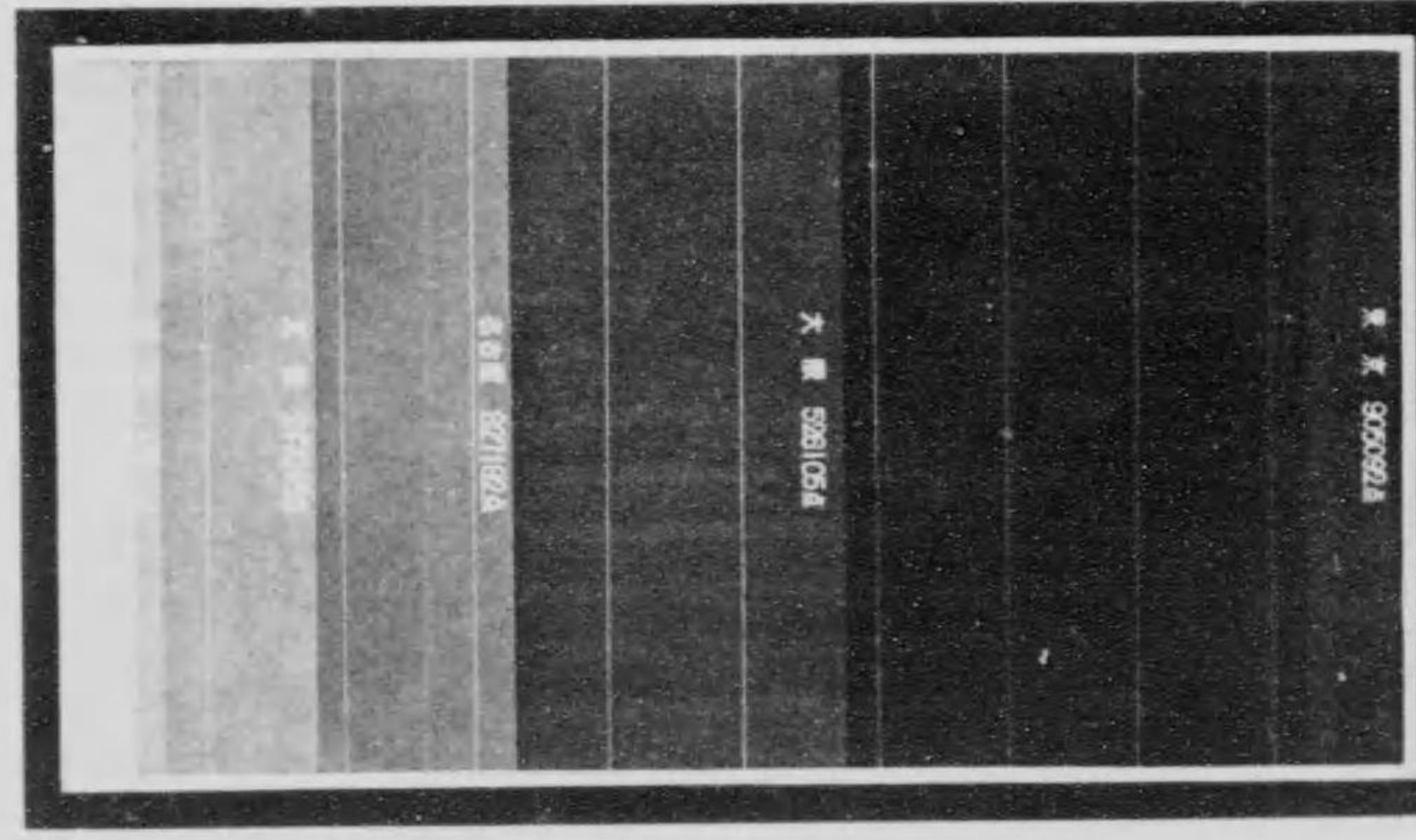
圖の…… 90

糸針統計物織子玉八

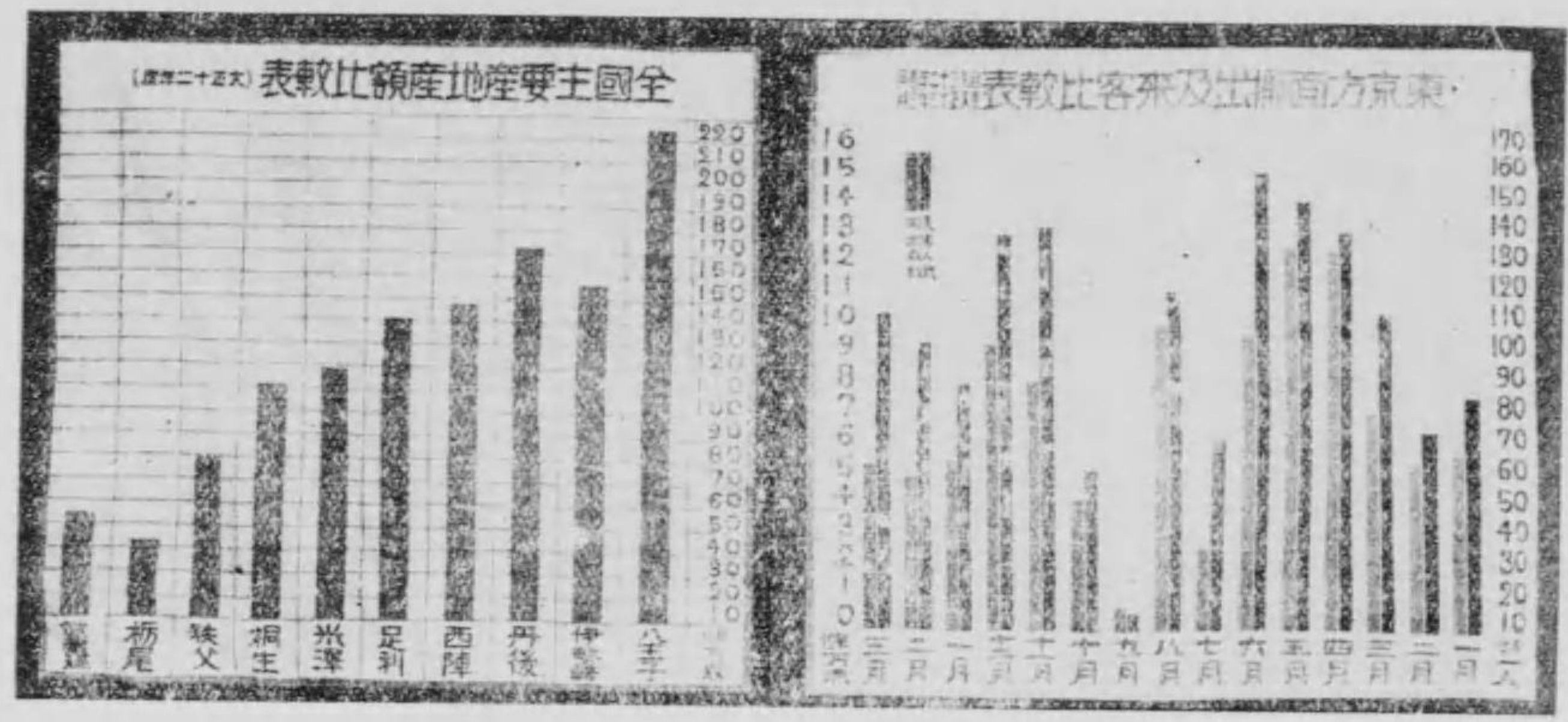
較比産生別類種



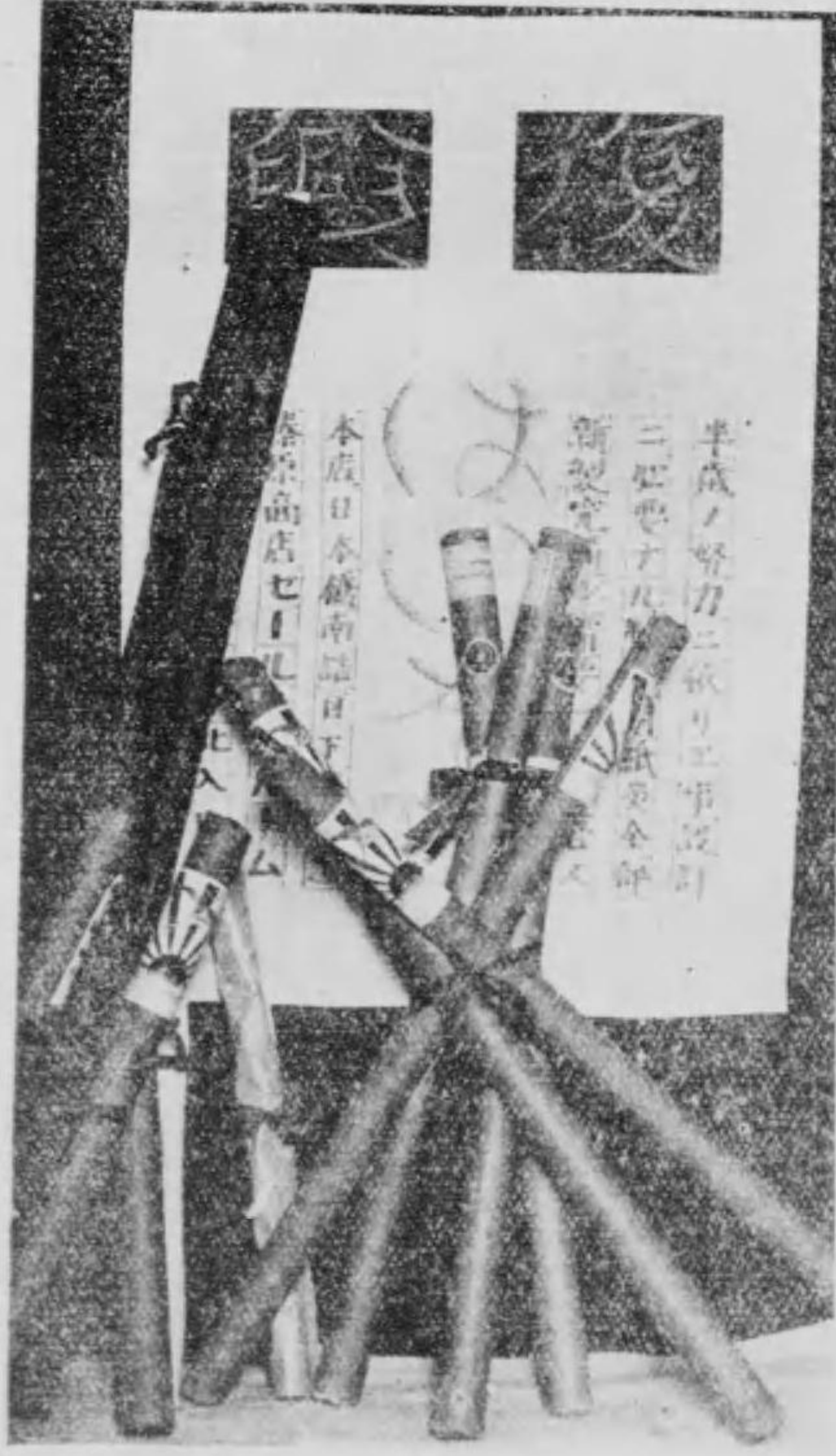
較比出搬地散集



—(店商田保久)—



—(久保田商店)—

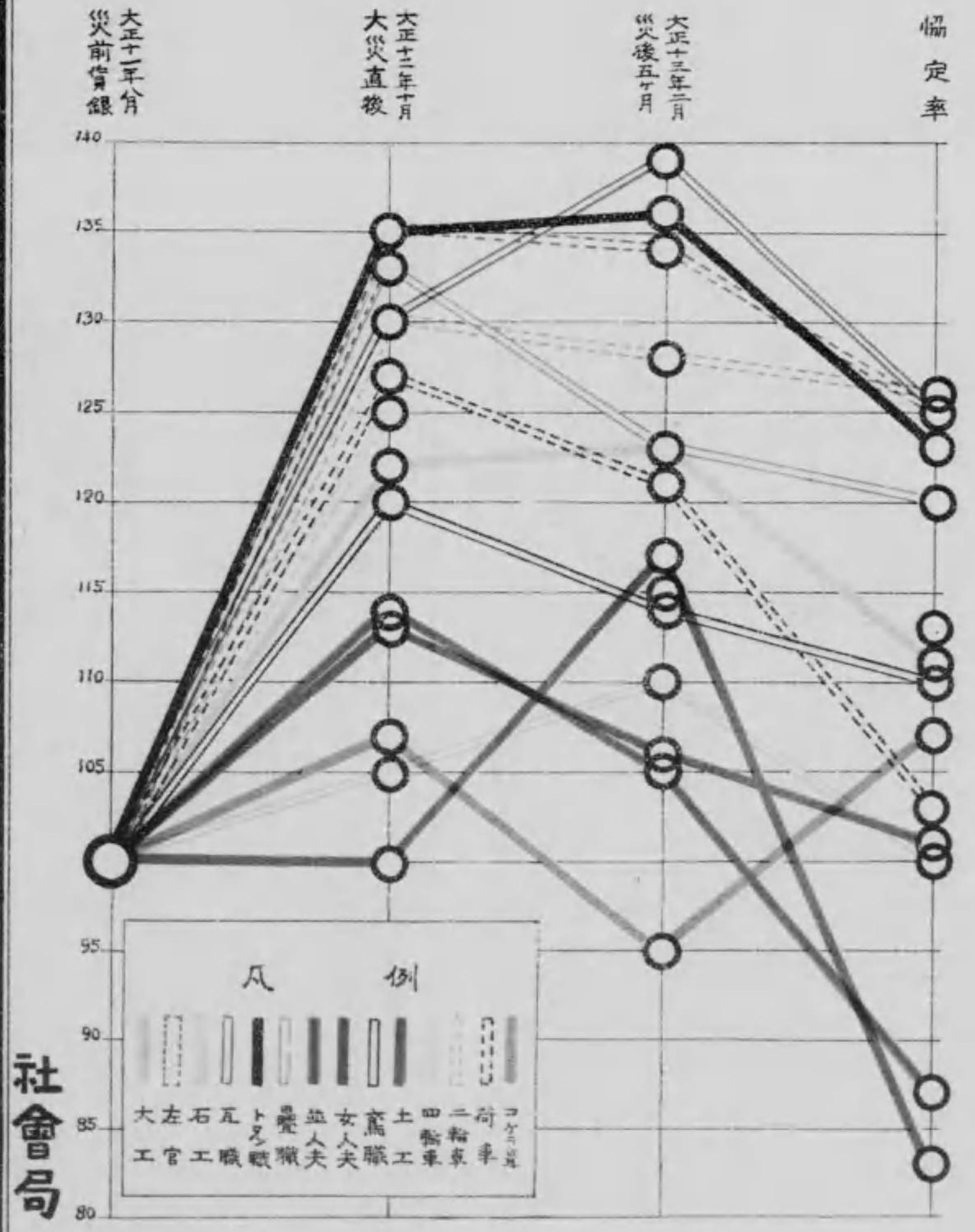


—(榎原直次郎商店)—



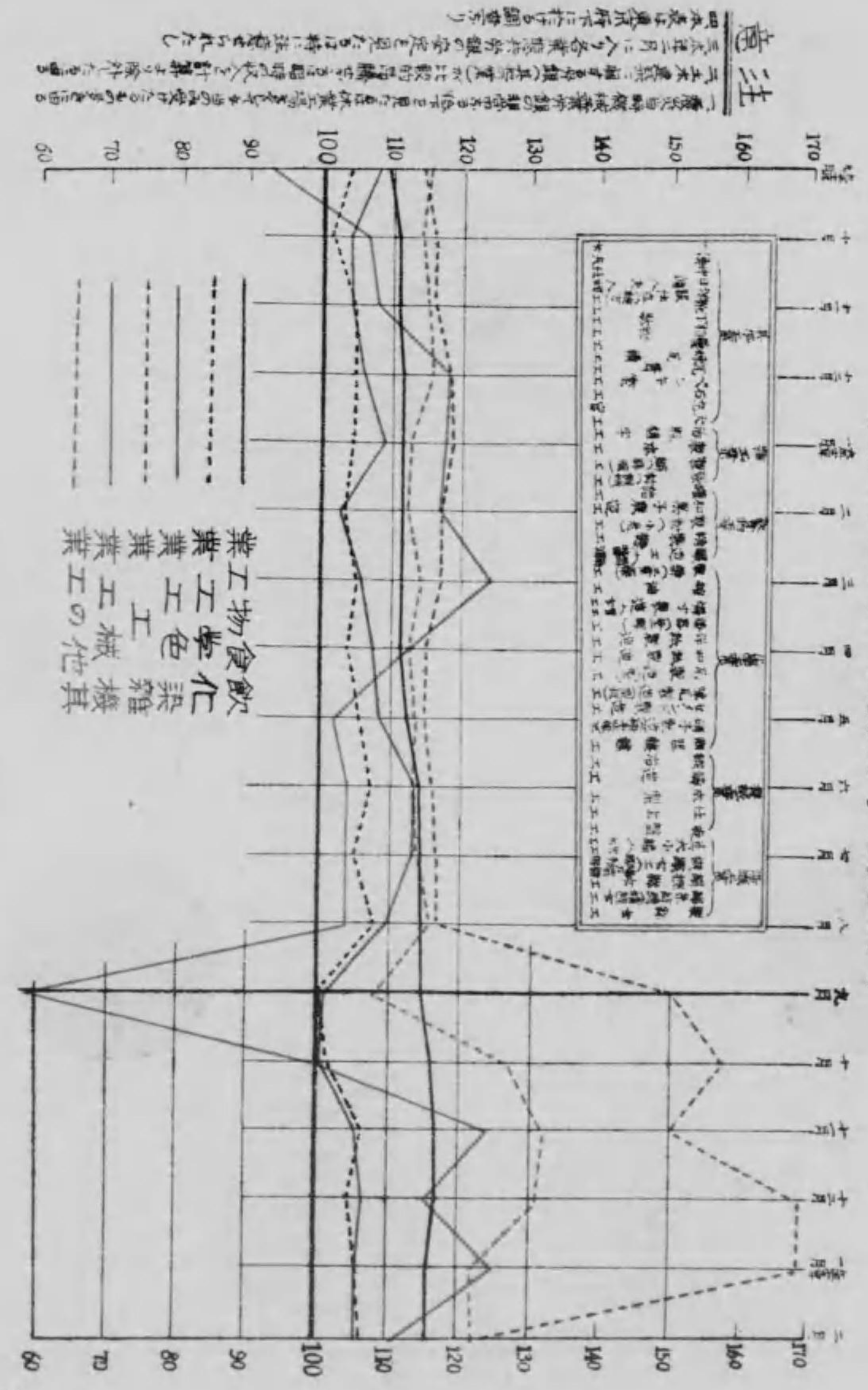
—(澤井藤助商店)—

大災ト東京市内労働賃銀指數



(内務省社会局)

震災前後の労働賃銀指數



東京商業調査所調査